

実務経験のある教員が担当する授業科目一覧

人間生活学科

生活総合コース

生活学的法律論	2	講義
生活学的経済論	2	講義
生活学的社会論	2	講義
日本国憲法	2	講義
運動健康論	2	演習
キャリアデザインⅡ	1	演習
人間発達学	2	講義
人間関係学	2	講義
生活経済学	2	講義
消費生活論	2	講義
社会調査法	2	講義
健康生活論	2	講義
衣生活概論	2	講義
テキスタイル材料学	2	講義
被服管理学	2	講義
被服学実験	1	実験/実習

30

福祉コース

生活学的法律論	2	講義
生活学的経済論	2	講義
生活学的社会論	2	講義
日本国憲法	2	講義
運動健康論	2	演習
キャリアデザインⅡ	1	演習
人間発達学	2	講義
社会調査法	2	講義
社会福祉援助技術論Ⅱ	2	講義
社会福祉援助技術論Ⅲ	2	講義
医学一般	2	講義
地域福祉論Ⅰ	2	講義
地域福祉論Ⅱ	2	講義
福祉行財政と福祉計画	2	講義
福祉サービスの組織と経営	2	講義
権利擁護と成年後見制度	2	講義
相談援助実習指導Ⅱ	1	演習
介護の基本Ⅰ	4	講義
介護の基本Ⅱ	4	講義
介護の基本Ⅲ	4	講義
コミュニケーション技術A	2	講義
生活支援技術A	2	演習
生活支援技術B	2	演習
生活支援技術C	2	演習
生活支援技術D	1	講義
介護実習Ⅰ-1	2	実験/実習
介護実習Ⅰ-2	4	実験/実習
介護実習Ⅱ	4	実験/実習
認知症の理解A	2	講義
認知症の理解B	2	講義
こころのしくみと機能	2	講義
医療的ケアⅠ	4	講義
医療的ケアⅡ	1	講義・演習
人体の構造と機能	2	講義
こころとからだのしくみA	2	講義
こころとからだのしくみB	2	講義
衣生活概論	2	講義
被服管理学	2	講義

84

建築デザインコース

生活学的法律論	2	講義
生活学的経済論	2	講義
生活学的社会論	2	講義
日本国憲法	2	講義
運動健康論	2	演習
キャリアデザインⅡ	1	演習
人間発達学	2	講義
消費生活論	2	講義
社会調査法	2	講義
衣生活概論	2	講義
被服管理学	2	講義
建築設備	2	講義
建築法規Ⅰ	2	講義
建築法規Ⅱ	2	講義
構造力学Ⅱ	2	講義
構造力学Ⅱ 演習	2	演習
建築施工	2	講義

33

実務経験のある教員が担当する授業科目一覧

食物栄養学科

生活学的法律論	2 講義
生活学的経済論	2 講義
生活学的社会論	2 講義
日本国憲法	2 講義
運動健康論	2 演習
情報処理演習	2 演習
キャリアデザインⅡ	1 演習
臨床医学Ⅰ	2 講義
臨床医学Ⅱ	2 講義
病理学	2 講義
微生物学	2 講義
臨床栄養学Ⅱ	2 講義
栄養管理学Ⅰ	2 講義
栄養管理学Ⅱ	2 講義
臨床栄養実習Ⅰ	1 実験/実習
臨床栄養実習Ⅱ	1 実験/実習
公衆栄養学Ⅰ	2 講義
公衆栄養学Ⅱ	2 講義
公衆栄養学実習	1 実験/実習

実務経験のある教員が担当する授業科目一覧

地域創成学科

情報処理Ⅰ	2 演習
キャリアデザインⅡ	1 演習
図書館概論	2 講義
情報処理Ⅱ	2 演習
情報処理Ⅲ	2 演習
考古学	2 講義
介護概論	2 講義
写真基礎	1 実技
考古学実習	2 実験/実習
図書館サービス概論	2 講義
図書館情報資源論	2 講義
情報資源組織論	2 講義
図書館情報技術論	2 講義
図書館制度・経営論	2 講義
情報サービス論	2 講義
情報サービス演習	2 演習
情報資源組織演習	2 演習
図書館基礎特論	1 講義
図書館情報資源特論	1 講義

34

健康栄養学科

日本国憲法	2 講義
社会科学(経済)	2 講義
健康スポーツ論	1 講義
スポーツ実技	1 実技
キャリアデザインⅡ	1 演習
病理学	2 講義
食品学Ⅰ	2 講義
食品学Ⅱ	2 講義
食品衛生学	2 講義
食品学実験	1 実験/実習
食品衛生学実験	1 実験/実習
公衆栄養学	2 講義
食商品学	2 講義

21

幼児教育学科

日本国憲法	2 講義
社会科学(経済)	2 講義
健康スポーツ論	1 講義
キャリアデザインⅡ	1 演習
教育・保育課程論	2 講義
子どもの保健	2 講義
社会福祉	2 講義
特別支援教育基礎論	2 演習

14

音楽科

日本国憲法	2 講義
社会科学(経済)	2 講義
健康スポーツ論	1 講義
スポーツ実技	1 実技
キャリアデザインⅡ	1 演習

7

実務経験のある教員が担当する授業科目一覧

専攻科 文化学専攻

考古学特論 4 演習
日本の考古学 4 講義
考古学演習 4 演習

12

科目名	生活学的法律論	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 選択
担当教員	鈴木 康元		
開講期	後期		
授業概要	[授業の目的・ねらい] 民法のうち「家族法」という分野につき基本的な知識を身につける [授業全体の内容の理解] 家族法の基本知識を教え、成年後見制度等についても理解してもらう [授業終了時の達成課題（到達目標）] 婚姻、離婚、親子等について民法上の理解を身につけ日常生活に生かせること 実務経験：弁護士として、法律事務所長として勤務する経験を活かし、授業を行う。 実務経歴：弁護士として、法律事務所長として勤務。		
達成目標	[授業の目的・ねらい] 民法のうち「家族法」という分野につき基本的な知識を身につける [授業全体の内容の理解] 家族法の基本知識を教え、成年後見制度等についても理解してもらう [授業終了時の達成課題（到達目標）] 婚姻、離婚、親子等について民法上の理解を身につけ日常生活に生かせること		
受講資格	家政学部 1年	成績評価 方法	ペーパー試験と出席の程度を考慮する
教科書	その都度指定する		
参考書	その都度指定する		
学生への要望	法律一般につき興味をもって欲しい		
オフィスタイム	授業開始前：創学館2階教務部非常勤講師室 授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容
1	家族法とは	民法における家族法位置づけと家族の意味	授業内容を整理し、ノートにまとめる。
2	婚姻（1）	婚姻の意味と婚約等	授業内容を整理し、ノートにまとめる。
3	婚姻（2）	婚姻の効力→婚姻をすると、夫婦はどのような義務を負うのか	授業内容を整理し、ノートにまとめる。
4	離婚（1）	離婚の意味と実態等について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。
5	離婚（2）	離婚の方法と実務から見た問題点について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。
6	内縁	内縁の意味とその法的意味	授業内容を整理し、ノートにまとめる。
7	親子（1）	親子の種別（実子・養子）と法的効果について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。
8	親子（2）	親権の意味と内容について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。
9	扶養	法律上の扶養義務者と現代的変遷について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。
10	相続の基礎	相続の意味と現代的特色	授業内容を整理し、ノートにまとめる。
11	相続人	誰が相続人になるのか、相続人に相続させたくない場合は	授業内容を整理し、ノートにまとめる。
12	相続の効力（1）	遺産承継について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。
13	相続の効力（2）	相続分と遺産分割について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。
14	遺言	遺言の意義・方式等	授業内容を整理し、ノートにまとめる。
15	成年後見	成年後見制度について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。

科目名	生活学的経済論		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択
担当教員	長谷川 貴弘			
開講期	前期			
授業概要	<p>本授業の目的は、生活と密接にかかわる経済の基礎知識の習得と経済学的視点の確立である。不景気・デフレーション・円高・円安・インフレーション・消費生活・生活経済等、普段からニュースや新聞で取り上げられるが、これらの経済的事象は私達の生活と密接にかわっている。これら経済的事象を経済学的視点で見る目を養うことを本授業の目的としたい。</p> <p>なお、在北京日本国大使館経済部での勤務経験を活かし、授業の中で経済統計の見方、マクロ経済の理論と実際について採り上げていく。</p> <p>○実務経歴 在北京日本国大使館経済部専門調査員として主に中国経済の分析に従事。</p>			
達成目標	経済的事象を経済学的視点で見る目を養うとともに、公務員試験の経済学の問題にも対応できる力を養うことを到達目標とする。			
受講資格	家政学部 人間生活学科 1年生 家政学部 食物栄養学科 1年生	成績評価 方法	①小テスト30点 (15点×2回) ②レポート70点	
教科書	プリントを配布する。			
参考書	伊藤元重「はじめての経済学(上)(下)」日経文庫、他必要に応じ授業の中で紹介する。			
学生への要望	普段からニュースや新聞で取り上げられる経済関連の問題について関心を持つようにすること。			
オフィスタイトム	火曜日 3コマ 水曜日4コマ 経営管理 学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	ガイダンス・経済学とは何か①	授業の進め方、評価方法について解説する。 経済学とは何かを説明する第一の例としてインフレーションとデフレーションを取り上げ、両者が私達の生活に与える影響について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
2	経済学とは何か②	第二の例として円安と円高を取り上げ、両者が私達の生活にどのような影響を与えるのかについて学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
3	経済学とは何か③	経済学をめぐる行われてきた政策論争(自由貿易vs保護貿易)について学修することを通じて経済学への理解を深める。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
4	消費生活と経済①	消費と消費者の概念について、消費者の権利と責任について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
5	消費生活と経済②	様々な消費者問題とクーリングオフについて学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
6	消費生活と経済③	グリーンコンシューマーとフェアトレードの概念について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
7	消費生活と経済④	消費生活と経済について総まとめ。 小テスト1回目	これまでの学修内容をノート・プリントを通じて復習し、小テストに備えること。	30
8	生活と経済-エンゲルの法則と家計調査①	世界と日本の家計研究の歴史について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
9	生活と経済-エンゲルの法則と家計調査②	エンゲルの法則とエンゲル係数の概念について学修する。	これまでの学修内容をノート・プリントを通じて復習しておくこと。	30
10	生活と経済-エンゲルの法則と家計調査③	近年のエンゲル係数の動向について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
11	マクロ経済学の基本と日本経済①	マクロ経済学(Macro Economics)が分析の対象とするGDP(国内総生産)の計算方法とその意味する点について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
12	マクロ経済学の基本と日本経済②	日本と世界のGDPのデータを通じて、それが意味するものについて学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。併せてレポートを作成すること。	60
13	地域経済~郡山市の経済について①	地域経済とは何かを解説した上で、私達が住んでいる郡山市の経済とその特徴について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。併せてレポートを作成すること。	60
14	地域経済~郡山市の経済について②	郡山市の経済とその特徴について学修する(前回の続き)。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。併せてレポートを作成すること。	60
15	まとめ	これまでの学修内容を確認する。 小テスト(2回目)	これまでの学修内容をノート・プリントを通じて復習し、小テストに備えること。	60

科目名	生活学的社会論		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択
担当教員	長谷川 貴弘			
開講期	前期			
授業概要	<p>私達は社会の中で生きており、生活と社会は切り離して考えることはできない。 本授業では、私達が生活している社会が、今現在どのような構造を持ち、どのような状態にあり、どのような課題を抱えているかについて、理解を深め、考察する力を養うことを目的としている。 まず「社会」という概念について学習し、社会の構造、状態、課題について理解を深めるため、少子高齢化、雇用問題、経済格差、グローバル化等、ニュースや新聞で取り上げられる事象を通じて解説する。 なお、本講義では、内閣府での勤務経験を活かし、授業の中で統計資料の見方、活用の仕方についても採り上げていく。 ○実務経歴 内閣府政策統括官（経済財政分析担当）付参事官（海外担当）付任期付職員として従事。</p>			
達成目標	私達が生活している社会が、今現在どのような構造を持ち、どのような状態にあり、どのような課題を抱えているかについて、理解を深め、考察する力を養うことを目的とする。			
受講資格	家政学部 人間生活学科 1年生 家政学部 食物栄養学科 1年生	成績評価 方法	①小テスト30点（15点×2回） ②レポート70点	
教科書	プリントを配布する。			
参考書	浅野智彦編著「社会学のことが面白いほどわかる本」、中経出版 他			
学生への要望	普段からニュースや新聞で取り上げられる社会の問題について関心を持つようにすること。			
オフィスタイム	火曜日 3コマ 水曜日4コマ 経営管理学習研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	ガイダンス	授業の進め方、評価方法について説明する。 『社会』とは何か、今の日本『社会』はどのような状態にあるか、その一例として少子高齢化社会について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
2	少子高齢化社会と日本と世界①	少子高齢化社会を計る様々な指標について学修し、日本の人口構造と高齢化について概観する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
3	少子高齢化社会と日本と世界②	少子高齢化社会を計る様々な指標について学修し、世界各国の人口構造と高齢化について概観する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
4	少子高齢化社会と日本と世界③	平均寿命、平均余命、健康寿命などの概念、それら指標の現状について概観する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
5	社会と仕事・家族①	家族とその役割について学修する。 家庭において起こる問題—DVと児童虐待について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
6	社会と仕事・家族②	フリーターとニート、日本の雇用慣行について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
7	社会と仕事・家族③	正規雇用と非正規雇用、働くことの意義について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
8	社会と文化①	癒しと宗教について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
9	社会と文化②	癒しと宗教、社会学から見た自殺問題について学修・考察する。小テスト（1回目予定）	これまでの学修内容をノート・プリントを通じて復習し、小テストに備えること。	60
10	社会と国家①	社会学から見た国家（ルールと権力）、平等な社会と格差について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
11	社会と国家②	厚生労働省とその取り組み（1）年金制度、社会保障制度、介護保険制度について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
12	社会と国家③	厚生労働省とその取り組み（2）医療保険制度とその仕組みについて学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。併せてこれまでの学修内容を踏まえ、レポートを作成すること。	60
13	社会と国家④	厚生労働省とその取り組み（3）「健康日本21」等について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。併せてこれまでの学修内容を踏まえ、レポートを作成すること。	60
14	社会と国家⑤	「地域保健法」と保健所の役割について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。併せてこれまでの学修内容を踏まえ、レポートを作成すること。	60
15	まとめ	これまでの学修内容の確認と小テストの内容について復習する。小テスト（2回目）	これまでの学修内容をノート・プリントを通じて復習し、小テストに備えること。	60

科目名	日本国憲法	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択
担当教員	鈴木 康元		
開講期	前期		
授業概要	憲法の基本理念と人権の重要性について理解してもらいたい。 履修カルテ評価項目 ①近代的意味の憲法の意義、歴史的背景が理解できたか。 ②日本国憲法の成立における問題点が理解できたか。 ③人権の重要性と制限根拠について理解できたか。 実務経験：弁護士として、法律事務所長として勤務する経験を活かし、授業を行う。 実務経歴：弁護士として、法律事務所長として勤務。		
達成目標	憲法の基本理念と人権の重要性について理解してもらいたい。 履修カルテ評価項目 ①近代的意味の憲法の意義、歴史的背景が理解できたか。 ②日本国憲法の成立における問題点が理解できたか。 ③人権の重要性と制限根拠について理解できたか。		
受講資格	家政学部1年生	成績評価 方法	ペーパー試験(80%)と出席状況(20%)
教科書	憲法【第二版】 弘文堂		
参考書	特に指定しない		
学生への要望	憲法および法律一般につき興味をもって欲しい。		
オフィスタイム	火曜日 授業開始前：創学館2階教務部非常勤講師室 授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	憲法総論①	憲法を学ぶことの意義、重要性、近代的意味の憲法について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	30
2	憲法総論②	近代的意味の憲法の特徴、日本国憲法の歴史	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
3	憲法総論③	国民主権の意義、平和主義（憲法9条の解釈）について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
4	基本的人権①	人権の概念、およびその重要性について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
5	基本的人権②	日本国憲法の人権の内容、人権の享有主体について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
6	基本的人権③	人権の限界、私人間における人権	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
7	基本的人権④	包括的基本権（特にプライバシーの権利を中心に）法の下での平等の意義	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
8	基本的人権⑤	内心の自由（特に信教の自由を中心に）につき判例をあげながら教える	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
9	基本的人権⑥	表現の自由の意義とその優越性について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
10	基本的人権⑦	経済的自由権	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
11	基本的人権⑧	財産権	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
12	基本的人権⑨	その他の人権について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
13	統治機構①	国会	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
14	統治機構②	内閣	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
15	統治機構③	裁判所	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

科目名	運動健康論	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択	
担当教員	佐藤 浩明			
開講期	通年			
授業概要	<p>生活の基盤となる『健康なからだづくり』に欠かすことのできない運動の重要性を理解し、生涯にわたり自分の健康や体力に配慮ができ、それらを保持増進していくために必要となる知識や方法について実技、講義を通じて学びます。また久光製薬スプリングス女子プロバレーボールチーム、オランダナショナル女子バレーボールチームの監督、コーチ実務経験を活かしコミュニケーションや協調性を指導します。</p> <p>①運動と健康の関連を理解し、健康の在り方について学びます。 ②スポーツの意義を理解し、人間力について学びます。 ③運動を通して、協調性、コミュニケーション能力、フェアプレーの精神について学びます。 ④運動を通して、基礎体力の維持、向上する方法について学びます。</p>			
達成目標	健康的な生活に欠かすことのできない運動の方法や効果、自ら健康について考え行動できる力を習得する。スポーツ種目に必要な技術を習得すると共にコミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知り人間力を身に付ける			
受講資格	家政学部 人間生活学科 生活総合コース 1年 2単位 選択 家政学部 人間生活学科 福祉コース 1年 2単位 選択 家政学部 人間生活学科 建築デザインコース 1年 2単位 選択 家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択 ※教職課程履修者は必修	成績評価 方法	平常点30点（取組姿勢） 試験・提出物70点（実技・レポート） ※本科目は実技を含むため、出席、積極的な取組みも重視します。	
教科書	特になし（必要に応じて資料等を配布します）			
参考書	「健康・フィットネスと生涯スポーツ：大修館書店」「公認スポーツ指導者テキストⅠ・Ⅱ・Ⅲ：（財）日本体育協会」「スポーツトレーニング理論：日本文芸社」「ストレッチメソッド：高橋書店」「メンタルトレーニング：ベースボールマガジン社」「教養としてのスポーツ科学：大修館書店」			
学生への要望	自分の生活習慣に興味、関心を持ち、運動する習慣をつけてほしい。 【授業中】積極的に取組み、運動を楽しむこと。タオル、水分は各自で必ず持参すること。（体調管理および熱中症対策）			
オフィスタイム	火・木の9:00～16:00まで創学館N04研究室 佐藤			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	ガイダンス	①授業目的、内容、進め方、評価方法の説明 ②服装、準備物の確認（注意事項含む） ③グループ分け	30
2	縄跳び①／からだづくりの運動	<p>【テーマ：運動習慣をつける第一歩として、コミュニケーションゲームやレクリエーションで楽しくからだを動かす】</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②コミュニケーションゲーム・体ほぐしの運動 ③レクリエーションゲーム ④からだづくりの運動 ⑤縄跳び（個人およびグループ） ⑥クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	30

回	項目	授業内容	
3	縄跳び②/からだづくりの運動	<p>【テーマ：楽しくからだを動かしながらコーディネーショントレーニングで、からだの調整力を養う】</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②コーディネーショントレーニング ③レクリエーションゲーム ④からだづくりの運動 ⑤縄跳び（個人およびグループ） ⑥クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	<p>ストレッチ、準備運動で体のケアをする。タオル、水分を準備してくる</p> <p>30</p>
4	縄跳び③/からだづくりの運動	<p>【テーマ：楽しくからだを動かしながらコーディネーショントレーニングで、からだの調整力を養う】</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②コーディネーショントレーニング ③レクリエーションゲーム ④からだづくりの運動 ⑤縄跳び（個人およびグループ） ⑥クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	<p>ストレッチ、準備運動で体のケアをする。タオル、水分を準備してくる</p> <p>30</p>
5	フライングディスク③/からだづくりの運動	<p>【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④フライングディスク（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	<p>ストレッチ、準備運動で体のケアをする。タオル、水分を準備してくる</p> <p>30</p>
6	フライングディスク③/からだづくりの運動	<p>【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④フライングディスク（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	<p>ストレッチ、準備運動で体のケアをする。タオル、水分を準備してくる</p> <p>30</p>

回	項目	授業内容	
7	フライングディスク③／からだづくりの運動	<p>【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④フライングディスク（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	<p>ストレッチ、準備運動で体のケアをする。タオル、水分を準備してくる</p> <p>30</p>
8	フライングディスク③／からだづくりの運動	<p>【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④フライングディスク（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	<p>ストレッチ、準備運動で体のケアをする。タオル、水分を準備してくる</p> <p>30</p>
9	フライングディスク③／からだづくりの運動	<p>【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④フライングディスク（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	<p>ストレッチ、準備運動で体のケアをする。タオル、水分を準備してくる</p> <p>30</p>
10	ソフトバレーボール③／からだづくりの運動	<p>【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーションを発揮し楽しみながらグループで行う】</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④ソフトバレーボール（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	<p>ストレッチ、準備運動で体のケアをする。タオル、水分を準備してくる</p> <p>0</p>

回	項目	授業内容	
11	ソフトバレーボール③／からだづくりの運動	<p>【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】</p> <p>【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④ソフトバレーボール（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	0
12	ソフトバレーボール③／からだづくりの運動	<p>【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】</p> <p>【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④ソフトバレーボール（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	30
13	ソフトバレーボール③／からだづくりの運動	<p>【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】</p> <p>【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④ソフトバレーボール（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	30
14	ソフトバレーボール③／からだづくりの運動	<p>【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】</p> <p>【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④ソフトバレーボール（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	30
15	実技のまとめ	<p>◀まとめとして実技試験を行う▶</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②レクリエーションゲーム ③実技試験 ④クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑤体育館清掃</p>	30

回	項目	授業内容	
16	第16回 オリンピックについて	オリンピックの歴史と現状 オリンピズム、オリンピック憲章について学び、スポーツの持つ魅力について学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う 30
17	第17回 生活と健康について①	《健康とは何か》 健康について考える導入として、「健康の定義」をWHO（世界保健機関）の憲章をふまえ、様々な角度から学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う 30
18	第18回 生活と健康について②	《生活習慣病の原因・対策・予防と運動》 ①生活習慣病の原因と予防、対策について理解し、運動との関係について学びます。 ②運動・休養と健康について学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う 30
19	第19回 生活と健康について③	《大学生の健康》 大学生の生活に潜む危険要因について理解し、セルフライフマネジメントについて学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う 30
20	第20回 生活とスポーツについて①	《スポーツとは何か》 スポーツの意味を理解し、スポーツの社会的価値とスポーツに期待されることについて学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う 30
21	第21回 生活とスポーツについて②	《生涯スポーツについて》 生涯スポーツに関わることが自分の健康や生涯の楽しみにどう影響するのか、①行う ②観る ③支える ④調べるの視点から学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う 30
22	第22回 生活とスポーツについて③	《大学生とスポーツ》 大学生になり高等学校まで必修で行われてきた体育の授業は著しく減少します。その中で自分の健康に興味を持ち、運動やスポーツにどう関わることができるかについて学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う 30
23	第23回 スポーツから学ぶ①	《フェアプレーについて》 スポーツは定められたルールの中で勝敗を競い合うものです。それは日常の生活や、普段の行動にも通じるものがあります。ここではスポーツの中からフェアプレーについて学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う 30
24	第24回 スポーツから学ぶ②	《メンタルトレーニング》 常に結果が求められるスポーツ選手（アスリート）のメンタルトレーニング、ポジティブシンキング、行動基準について学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う 0
25	第25回 スポーツから学ぶ③	《目標設定》 スポーツ選手（アスリート）の行動基準から自分の目標設定の方法について学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う 0
26	第26回 健康増進のための身体運動について①	《体力とは》 ①体力の概念と体力要素（身体的要素 精神的要素）について学びます。 ②運動の原理原則について理解し、効果的な運動の方法について学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う 30
27	第27回 健康増進のための身体運動について②	《エクササイズの方法について》 健康の保持増進やからだをつくるための方法（①有酸素運動 ②筋力トレーニング ③ストレッチ ④バランス 等）や実施する際のポイントについて学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う 30

回	項目	授業内容	
28	第28回 コンディショニングについて	<p>《からだの調子を良くする・怪我の予防・対処方法》</p> <p>①コンディショニングを崩す原因を理解し予防方法について学びます。 ②怪我の予防、応急処置の基本、熱中症対策について学びます。</p>	<p>脈拍130前後の運動を30分以上行う</p> <p>30</p>
29	第29回 健康的な生活について①	<p>《ライフスタイルについて》</p> <p>自分のライフスタイル（生活習慣・運動習慣）を客観的に理解し、健康的な生活を過ごすための方法について学びます。</p>	<p>脈拍130前後の運動を30分以上行う</p> <p>30</p>
30	第30回 健康的な生活について②	<p>《良い習慣について》</p> <p>行動を邪魔する要因を理解し、運動習慣をつける方法について学びます。 ※『健康なからだをつくる』をテーマに自分のライフスタイルについて考えます。</p>	<p>脈拍130前後の運動を30分以上行う</p> <p>30</p>

科目名	キャリアデザインⅡ	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 1単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 1単位 選択/家政学部 食物栄養学科 2年 1単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 1単位 選択
担当教員	森 みい		
開講期	前期		
授業概要	<p>【授業のねらい】 将来の社会生活や職業生活に向けて、自らの資質を向上させ、社会的職業的自立を図るために必要な能力を培い、幅広い人間形成を図ることを目的としています。社会人としての自覚と行動を視野に入れて、主体的にキャリア形成能力を育成します。働くことの実態、意義、面白みを体感していきます。インターンシップを推進して、学生の自己認識、社会・職業認識の深化を促し、就職意欲のある学生に対して、豊富かつ適切な就職情報を提供するとともに希望に添った就職活動が行えるよう支援します。</p> <p>【授業の概要】 インターンシップ（就業体験）を通じ、自らの専門や将来希望する職業の関連した職場での体験で、学んでいる内容と社会との関連性を認識し、今後の主体的な学修への動機付けを強め、職業を具体的に理解することで仕事の奥深さを実感していきます。働くことについて総合的に理解や仕事をする達成感、充実感、社会貢献を体得します。前期7回の講義、夏休み期間中のインターンシップ（5日間）、および、受け入れ企業のご担当者をお招きした報告会から構成されています。インターンシップ終了後報告書を作成することで成果と課題を理解します。担当者は、大学・短大の就職部長であり、キャリアコンサルタントの資格を有し、長く就職指導にあたっています。</p>		
達成目標	<p>【授業終了時の達成目標】 インターンシップを通して、社会人として必要な能力と知識を学び、今後の学生生活の中に活かしていくことで、新たな学習意欲の契機となることをことを目標とします。仕事の奥深さを実感し、働くことへの理解、充実感や社会への貢献を感じ取る事を目的とします。</p>		
受講資格	特になし	成績評価 方法	就業体験50%・授業参加30%・報告会10%・提出物10%「認」評価判定
教科書	なし		
参考書	なし		
学生への要望	インターンシップは自分の変化や成長を実感できる機会です。広い視野を持ち、各個人のキャリアを考えて、新たな挑戦で自らの可能性の枠を広げてみてはどうでしょうか。		
オフィスタイム	月曜日 9:00～12:30 水曜日 9:00～12:30 事前にご相談いただければそれ以外でも対応します。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	インターンシップの概要 4/18 (Vコマ)	インターンシップの概要説明で理解を深める、インターンシップの目的の明確化。各業界の今後の発展方向をみる。就業体験先の希望調査。「インターンシップ希望調査票」「志望理由」の提出をする。インターンシップの取り組みを動画を見て、ワークを実施しながらインターンシップの考えを深化させていく。(ムビケーションの実施)	0
2	インターンシップの心構え 5/16 (Vコマ)	身近な若き経営者の講演を実施する。社会と協働する中で、自立した個人として人生をどう生きるかを考えながら、人間力や就業観の醸成及び学習意欲を高めていく。	0
3	企業研究 (講演) 5/30 (Vコマ)	メールと封書でのお礼状の書き方を理解して実践する。また電話やメールのアポイントのとり方を学ぶ。また、就業体験先の決定をする。	0
4	事前指導 (ビジネス文書作成) 6/27 (Vコマ)	マナー講座を通して、言葉遣い、立ち居振る舞い、挨拶等、円滑な人間関係を築くための基礎を身に付ける。就業体験先の打合せをする。	0
5	事前指導 (マナー講座) 7/11 (Vコマ)	業界・企業知識やインターンシップ(就業体験)の基本知識を学び、企業研究を深める。先輩の体験からインターンシップ直前の留意点を確認する。	0
6	直前指導 (インターンシップ先の企業研究)7/25 (Vコマ)	各企業において、夏季休業中(8月中旬～下旬)に5日間のインターンシップ(就業体験)を行います。	0
7	インターンシップ I班 8/19～8/23・2班8/26～8/30	事後報告会として、グループで全員が報告会を実施する。実習日誌、その他の提出物を提出する。	0
8	インターンシップ報告会 9/5 (Iコマ)	事後報告会として、グループで全員が報告会を実施する。実習日誌、その他の提出物を提出する。	0
9	インターンシップ報告会 9/5 (Iコマ)		0

科目名	人間発達学		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 必修
担当教員	堀 琴美			
開講期	前期			
授業概要	人は生涯にわたって発達を続けます。成人後も老年期も、人間として成長し、円熟し、次の世代を育てて、いのちのバトンをつないでいきます。また、子どもの成長と発達は、様々な発見と驚きに満ちた、奥深い世界です。この授業では、発達心理学の基本的な知識を学ぶと同時に、最新の話題と情報を取り入れながら、人間の発達と成長について考えていきます。担当教員の医療・福祉分野における心理臨床の実務経験を活かし、訓練用構成事例や視聴覚教材を駆使して子どもや大人の姿が目に見え、活発な質問や意見を歓迎します。ディスカッションやグループワークも行いますので、学んだことや感じたことを多めに語り合ってください。 実務経験：臨床心理士として医療機関、福祉施設に勤務。			
達成目標	【達成目標】 ①エリクソン、ハヴィガースト、ピアジェなど、主要な発達理論を理解する。 ②子どもの成長の過程（身体、運動機能、認知、感情、知能、精神）を理解する。 ③愛着理論や母子関係の理論、子ども虐待、愛着障害など、重要な概念を理解する。			
受講資格	人間生活学科2年生 (生活総合コースは必修)	成績評価 方法	期末試験または期末レポート（80%） 発言内容・受講態度、普段のレポート（20%）	
教科書	授業でレジュメや資料を配布する。			
参考書	テーマ別に授業で紹介する。			
学生への要望	授業では、理解を深め、身近なものとして感じることできるよう、できるだけグループ討論や・ワークやディスカッションを多く取り入れたと思います。積極的に参加して、おおいに意見を交わしてください。			
オフィスタイム	水曜IV限、木曜I限、臨床心理学研究室。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	オリエンテーション	授業目標、授業計画、授業ポリシー、評価方法などについて。 発達心理学とは何か。	次回授業内容（発達理論）について、参考書等にあたり、キーワードを調べておく。	30
2	発達理論	代表的な理論家たち（フロイト、ハヴィガースト、エリクソン等）の発達理論を紹介します。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
3	子どもの発達 I	発達心理学のはじまり、昔の「子ども観」、発達の評価、遺伝か環境か。 赤ちゃんの力。生理的早産、視覚・聴覚・嗅覚、原始反射、新生児模倣、言葉の準備などについて。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
4	子どもの発達 I 乳児期（0～1歳）	はいはいから歩行へ。言葉の獲得。睡眠の変化。嘔吐力と離乳食など。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
5	子どもの発達 II 幼児期（2～3歳）の発達	自我のめざめと反抗期。言葉の発達。認識の広がり。「ごっこ」遊びなど。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
6	子どもの発達 III 幼児期（4～5歳）の発達	子どもの思考能力（ピアジェ）、自己中心性、子どもの描く絵、言葉と文法、ルールの学習など。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
7	子どもの発達 IV 児童期の発達	ギャングエイジ、兄弟の影響、知能検査、やる気を育てる、同調圧力、いじめなどについて	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
8	子どもの発達 IV 子どもの道徳性の発達	コールバーグ、ギリガン、バンデューラの理論、反抗期「恐怖の2歳児」、こころの理論などについて。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
9	青年期・成人期・高齢期の発達	アイデンティティの獲得、モラトリアム、青年期の心理的危機と精神疾患。 人生のパートナーを探す、次世代を育成する、人生を振り返る、などについて。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
10	愛着理論 I 愛着と基本的信頼	ボウルビイの愛着理論、エインスワースの安全基地、神経ネットワークの発達からみる愛着の形成など。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
11	愛着理論 II 愛着と共感する力	愛情ホルモンの機能と役割、物マネ神経細胞の発見、共感する力や想像力はどのように育まれるのか、など。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
12	愛着障害と虐待	反応性愛着障害、虐待された子ども、親の養育を支援する、などについて。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
13	ネグレクトの影響	ネグレクトの種類、感受期、言葉の獲得、「犬に育てられた少年」を取り上げます。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30

回	項目	授業内容		
14	発達のおまげ	発達障害とは、アスペルガー障害（事例）、支援の方法、サヴァン症候群などについて	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
15	まとめと補足	まとめ、補足説明、掘り下げ討論など。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30

科目名	人間関係学		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択
担当教員	堀 琴美			
開講期	前期			
授業概要	本講では“生活に役立つ臨床心理学”を基礎のスタンスとして、健康的な対人関係のあり方、アサーティブでスマートなコミュニケーション技術、問題解決の方法、支配と依存の問題、電子メディアとメンタルヘルスなどについて学習します。担当教員の臨床心理士（カウンセラー）としての実務経験を活かし、わかりやすい事例（オリジナルの訓練用構成事例）を使った解説や、コミュニケーションの実践的な訓練などを行います。授業は毎回、対話式双方向型で進めていきますので、活発な意見や質問を歓迎します。ディスカッションやグループワークも行いますので、学んだことや感じたことを大いに語り合い、理解を深めてください。 実務経験：臨床心理士として、医療機関・福祉施設に勤務。			
達成目標	【達成目標】 ①アサーションの基本理念や、相手に分かりやすい表現方法を習得する。 ②自分の性格特徴や、他者を理解するための広い視野の大切さを理解する。 ③対人関係における心の働きや、対等な関係における意思と選択の重要性を理解する。 ④暴力や支配、依存などの問題について理解し、問題発生の予防と対策を理解する。			
受講資格	人間生活学科生活総合コース3年生	成績評価 方法	期末試験または期末レポート（80%） 発言内容、発表内容、受講態度（20%）	
教科書	授業でレジュメや資料を配布。			
参考書	「アサーティブ・コミュニケーション」（PHP、1200円）、「よくわかるコミュニティ心理学」（ミネルヴァ書房、2520円）			
学生への要望	理論や知識だけでなく、体験的な学習を積み重ねていきたいと考えています。学生には、ひとりひとりの経験や感性、想像力、共感力を駆使し、積極的に参加、発言してもらいたいと思います。			
オフィスタイム	水曜日Ⅳ限、木曜日Ⅰ限 臨床心理学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	オリエンテーション	本講の目標、授業内容、授業のポリシー、学生自己紹介などを行います。	この授業で学ぶことについて概要を把握し、興味を持った内容について調べたり、文献に当たったりする。	30
2	アサーティブな自己表現Ⅰ	ポジティブな表現やニュートラルな表現方法、相手に責任を転嫁しないアイ・メッセージ、敢えて「言わない選択」をすることなど。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
3	アサーティブな自己表現Ⅱ	構成事例を使って、具体的な問題が起きたときの解決プロセスと、アサーティブな表現を使った伝達方法、相手に依存しない意思決定などについて考えます。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
4	アサーション・ステップアップ	大切だった人との関係解消や厳しい状況下の決断など、人生には逆境や孤立に耐えなければならないときもあります。そんな時に大切な選択と意思決定、自己肯定感などについて考えます。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
5	自己理解	円滑な人間関係形成のためには、自分をよく理解していること、そして相手を一生懸命に理解しようとする姿勢が大切です。まずは、自己理解のために心理テスト（性格検査）をやってみましょう。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
6	他者理解Ⅰ	視点が変われば解釈も変わる。自分の「思い込み」が問題を複雑化することもあります。ここではステレオタイプや偏見、差別の心理について学びます。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
7	他者理解Ⅱ	同じものを見て、聞いて、味わっていても、感じ方は人それぞれ。認知と表現の多様性や性の多様性について学びます。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
8	心の構造と適応する力	こころの構造、こころの要素、人間の持つ適応機制（防衛機制）について学びます。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
9	DV・デートDV・虐待	人はなぜ愛する人に暴力を振るうのか、サイクル・オブ・バイオレンス理論、支配の力学、依存的関係などを考えます。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
10	支配と依存	「支配」とは何か。人はなぜ支配と愛情を取り違えてしまうのか。対等な人間関係を形成するために何が重要なのかについて考えます。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
11	健康と安全のための選択Ⅰ	女性が自身の健康と安全を守り、他者の健康と安全を守って生きていくために、正しい性の知識と意識、性の自己決定、意思表示とコミュニケーションなどについて考えます。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
12	健康と安全のための選択Ⅱ	なぜ女の子に教育が必要なのか、女性を取り巻く社会の問題や複雑化・多様化する社会の中での情報収集や教育の大切さについて考えます。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30

回	項目	授業内容	
13	メディアとメンタルヘルスⅡ	電子メディアと健康について。スマホ依存やゲーム依存が何をもたらすのかを取り上げます。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。 30
14	メディアとメンタルヘルスⅢ	子どもの発達段階とメディアの影響、ゲームの進化、言葉の発達などについて考えます。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。 30
15	まとめ	まとめと補足。もう少し深めたいテーマ、最新の情報や課題についての質疑、討論、いくつかのキーワードと授業の感想など。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。 30

科目名	生活経済学		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 2単位 選択/短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 2単位 選択
担当教員	長谷川 貴弘			
開講期	前期			
授業概要	<p>本授業では、経済学においてより生活と密接につながっている分野について学習を深める。現代社会において、我々の生活は貨幣を媒介とした経済活動なしには維持していくことはできない。それ故に、経済に関する知識を高め、経済への理解を深めることは、今後社会人として生活をしていく上で必須のものとなると思われる。</p> <p>本授業では、一家庭の経済生活である「家計」の歴史、家計経済の最近の傾向・今後の動き、さらにはライフサイクルの変化と各ライフステージごとにかかる費用とそれに伴う貯蓄と負債、持続可能な社会等について採り上げる。</p> <p>なお、内閣府での勤務経験を活かし、授業の中で統計資料の見方、活用の仕方について採り上げていく。</p> <p>○実務経歴 内閣府政策統括官（経済財政分析担当）付参事官（海外担当）付任期付職員として従事。</p>			
達成目標	一家庭の経済生活である「家計」の歴史、家計経済の最近の傾向・今後の動き、さらにはライフサイクルの変化と各ライフステージごとにかかる費用とそれに伴う貯蓄と負債、持続可能な社会等について理解を深めることを目標とする。			
受講資格	家政学部 人間生活学科 3年生	成績評価 方法	①小テスト30点（15点×2回） ②レポート70点	
教科書	プリントを配布する。			
参考書	大藪千穂「生活経済学」放送大学教育振興会			
学生への要望	本授業の内容は、いずれも社会人として経済活動にかかわっていく上で必須のものとなると思われるのでしっかりと取り組んでもらいたい			
オフィスタイム	火曜日 3コマ 水曜日4コマ 経営管理学習研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	ガイダンス・生活経済の歴史	授業の進め方、評価方法について説明する。古代から現代までの生活経済を概観し、生活経済学の位置付けについて学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
2	戦後の経済変化と生活	1945年以降現在までの経済と生活の変化について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
3	家計研究史（世界と日本） ①	世界における家計研究・調査に関する歴史について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
4	家計研究史（世界と日本） ②	日本における家計研究・調査に関する歴史について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
5	家計収支と家計簿記帳	家計の収入・支出の種類と家計簿の記帳法について、実際の統計資料の見方・活用の仕方を交えて学修する。	家計の収入・支出の種類についてノートを見直しておくこと。	30
6	家計をめぐる法則	エンゲルの法則と必需品とぜいたく品の違い、消費者物価指数について学修する。	各種統計の原理についてノートを見直して復習すること。	30
7	ライフサイクルと貯金・負債①	ライフサイクルの変化と各ライフステージごとにかかる費用とそれに伴う貯蓄と負債の変化について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
8	ライフサイクルと貯金・負債②	各ライフステージごとにかかる費用とそれに伴う貯蓄と負債の変化について学修する。 小テスト（1回目）	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
9	単身世帯と二人以上世帯の家計①	単身世帯の家計の特徴について学修する。 小テスト（1回目）	これまでの学修内容をノート・プリントを通じて復習しておくこと。	60
10	単身世帯と二人以上世帯の家計②	二人以上の世帯の家計の特徴について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
11	子を持つ世帯の家計	子供にかかる費用とその特徴について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
12	離婚後と一人親世帯の家計①	離婚後における生活上、経済上の変化について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
13	離婚後と一人親世帯の家計②	一人親世帯の家計の特徴と変化について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
14	高齢者世帯の家計	高齢者世帯の家計とその特徴について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
15	まとめ	これまでの学修内容について確認と復習を行う。 小テスト（2回目）	これまでの学修内容をノート・プリントを通じて復習しておくこと。	60

科目名	消費生活論	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建 築デザインコース 3年 2単位 選択	
担当教員	長谷川 貴弘			
開講期	前期			
授業概要	大きく変化する社会情勢の中、消費者を取り巻く環境は変化し続けており、消費者問題の内容も時代とともに変貌している。現代における諸問題を把握し、日常生活の中の身近な問題として捉え、学生自らが安全・安心な生活を送ることができるようになることを目指す。 また、消費生活に関する法律、政策、行政や企業の取り組みを理解し消費者教育を実践できるようになることを目指す。 なお、内閣府での勤務経験を活かし、授業の中で統計資料の見方・活用の仕方、法律と行政組織について採り上げていく。 ○実務経歴 内閣府政策統括官（経済財政分析担当）付参事官（海外担当）付任期付職員として従事。			
達成目標	1. 消費者問題の実情を知り、課題を見出し、その解決策の方向性を見出すことができる。 2. 日常生活の中で実践することができる自立した消費者の育成のために学生自身の消費者力を高める。 3. 政策、法律、行政や企業の取り組み等を理解し、消費者力検定にチャレンジできるだけの能力を養う。			
受講資格	家政学部人間生活学科生活総合コース、建築デザインコース 3年生	成績評価 方法	①小テスト30点（15点×2回） ②課題（消費者問題に関するレポート）70点	
教科書	プリントを配布する。			
参考書	ハンドブック消費者2014（消費者庁企画課）他			
学生への要望	現代消費生活における課題を捉えるために、次のことを要望する。 ①新聞をよく読み、消費生活に関する記事を収集する。 ②消費者力検定に挑戦し、幅広い知識の習得を目指す。			
オフィスタイム	火曜日 3コマ 水曜日4コマ 経営管理学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	ガイダンス	授業の目的および授業計画について説明（内容、評価方法について等）し、消費者を取り巻く社会経済情勢と消費者行動・意識について学修する。	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
2	消費者問題の変遷	年代ごとにどのような消費者問題が発生したか概観し、様々な消費者問題の背景にある社会の情勢を読み取る。	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
3	消費者行政の変遷	消費者問題に対応してどのような政策が行われたか概観し、消費者問題に対処するための機関～消費者庁の誕生、国民生活センター、消費生活センターの役割～について学修する。	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
4	消費者の権利と責任	消費者基本法、消費者の権利と責任、消費者保護の概念について学修する。	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
5	自立した消費者を目指して ①契約とは	契約の意味、未成年者契約、契約に関するトラブルについて学修する。	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
6	自立した消費者を目指して ②経済	消費者契約法・特定商取引法について学修する。	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
7	自立した消費者を目指して ③食	食品の安全・安心、新しい食品表示制度について学修する。	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
8	自立した消費者を目指して ④生活用品	消費生活用製品安全法について学修する。 小テスト（1回目）	これまでの学修内容をプリントとノートを元に復習すること。	60
9	消費生活と環境～循環型社会のための法制度	持続可能な社会の構築と法律、グリーンコンシューマーの概念、持続可能な社会を形成するためのライフスタイルについて学修する。	これまでの学修内容を元に、消費者問題についてインターネット、文献、報道資料などを利用してまとめる。	30
10	企業による消費者問題への対応	お客様相談室の役割について、いくつかの実例をもとに学修する。	これまでの学修内容を元に、消費者問題についてインターネット、文献、報道資料などを利用してまとめる。	30
11	行政による消費者問題への対応	消費生活センターと消費者トラブルの現状と課題について学修する。	これまでの学修内容を元に、消費者問題についてインターネット、文献、報道資料などを利用してまとめる。	30
12	消費者教育・啓発活動①	一般消費者に向けてどのような消費者教育が行われているか学修する。	これまでの学修内容を元に、消費者問題についてインターネット、文献、報道資料などを利用してまとめる。	30

回	項目	授業内容	
13	消費者教育・啓発活動②	学校・地域においてどのような消費者教育が行われているか学修する。	消費者問題について、これまでの学修内容と自身で調べたことを元にレポートを作成する。
14	公平かつ自由な競争の促進	独占禁止法、不正競争防止法、その他各種制度について学修する。	消費者問題について、これまでの学修内容と自身で調べたことを元にレポートを作成する。
15	まとめ	消費者力検定とその内容について理解を深め、問題にチャレンジする。 小テスト（2回目）	これまでの学修内容をプリントとノートを元に復習すること。

科目名	社会調査法		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択/短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 2単位 選択
担当教員	長谷川 貴弘			
開講期	後期			
授業概要	<p>社会調査というもの何の目的として、どのように行われるのかという基礎知識の習得に努めた上で、データや数字に対する忌避感を和らげるため、身近な例を挙げて平易な解説に努め、社会調査への理解を深めることを目標とした。</p> <p>なお、内閣府での勤務経験を活かし、授業の中で統計データの見方、活用の仕方について採り上げていく。</p> <p>○実務経歴 内閣府政策統括官（経済財政分析担当）付参事官（海外担当）付任期付職員として従事。</p>			
達成目標	社会調査におけるデータの収集、分析・加工、報告について理解を深めることを目標とする。			
受講資格	家政学部 人間生活学科 3年生 短期大学部 専攻科 1年生	成績評価 方法	①小テスト30点（15点×2回） ②課題（レポート）70点	
教科書	プリントを配布する。			
参考書	轟亮・杉野勇編「入門・社会調査法」法律文化社			
学生への要望	授業中はしっかりとノートを取り、課題に取り組むこと。			
オフィスタイム	火曜日 2コマ 水曜日4コマ 経営管理学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	ガイダンス 社会調査とは何か	授業の進め方、評価方法について。 社会調査とは何か、何を目的として行われ、どのように分類されるか学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
2	社会調査の種類①	社会調査の分類、量的調査と質的調査について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
3	社会調査の種類②	社会調査における質的調査の特徴について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
4	社会調査のプロセス	社会調査の全体像の把握と、構想・計画・実査・データの入力と点検、報告、管理について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
5	社会調査のデザイン①	社会調査の調査内容とその検証について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
6	社会調査のデザイン②	仮説の検証とより良い調査研究について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
7	実査の方法①	データ収集法選択の基準について学修する。	これまでの学修内容を確認し、小テストに備えること。	60
8	実査の方法②	様々な調査方法のうち、適切なデータ収集法の選択について学修する。小テスト（1回目）	これまでの学修内容を確認し、小テストに備えること。	60
9	調査票の作成	調査票の作成、手順、構成、質問形式、質問を作成・配置する場合の留意点について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
10	サンプリング	調査対象の選び方について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
11	調査の実施	郵送法実査、個別面接法実査等の運営・手順について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
12	データファイルの作成	データ入力とその手順について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
13	データの集計方法	情報の集約、代表値（平均）から相関係数について学修する。	これまでの学修内容を元に、レポートを作成する。	60
14	調査報告とデータの管理	調査の報告と報告後のデータの管理について学修する。	これまでの学修内容を元に、レポートを作成する。	60
15	社会調査の倫理について学修の総まとめ	社会調査協会倫理規定に基づいて社会調査の倫理について学修する。小テスト（2回目）	これまでの学修内容を確認し、小テストに備えること。	60

科目名	健康生活論	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 選択	
担当教員	大西 弘太郎			
開講期	前期			
授業概要	個人あるいは集団レベルでの健康維持、疾病予防に有用な医学情報を概説する。 実務経歴：医療法人・南労会、社会医療法人・西陣健康会、医療法人・郡山病院などでの実務経験をもとに講義を行う。実務経歴：医師として医療機関に勤務している。			
達成目標	健康維持、疾病予防についての基礎的知識が習得されているか。			
受講資格	家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年	成績評価 方法	小テスト (20%) レポート (80%)	
教科書	人体の構造と機能及び疾病 新・社会福祉養成講座 中央法規			
参考書	なし			
学生への要望	教員が提示したテーマについて簡潔なレポートをまとめ、それを発表してもらいます。 発表のスキルを身に着けるのも授業の目標のひとつ。 学生の理解度あるいは関領域によりシラバスは適宜変更されることがある。			
オフィスタイム	臨床医学研究室 木曜日 08:30~12:00、15:00~17:00。 金曜日 08:30~12:00。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	健康寿命とライフスタイル	老化とは 日本人の寿命 健康寿命とは 人口統計から見た主な死因 非感染性疾患(NCD)の諸問題	老化、寿命、死因などについて予習・復習をしましょう。 120
2	生活習慣病とその予防 その1	糖尿病とは 糖尿病はいまや社会問題 糖尿病の病型	糖尿病の疫学・病態・病型などについて予習・復習をしましょう。 120
3	生活習慣病とその予防 その2	糖尿病の診断 糖尿病慢性合併症 妊娠糖尿病 糖尿病の治療 糖尿病の予防	糖尿病の合併症・診断・治療・予防などについて予習・復習をしましょう。 120
4	感染症とがん その1	ピロリ菌感染とは ピロリ菌感染と胃炎、胃潰瘍 ピロリ菌感染と胃がん	ヘリコバクター・ピロリ菌について予習・復習をしましょう。 120
5	感染症とがん その2	ウイルス性肝炎 肝炎と肝がん 肝炎の予防	(主にB型、C型)肝炎ウイルスについて予習・復習をしましょう。 120
6	感染症とがん その3	子宮頸がんとは 子宮頸がんの成因 子宮頸がんの予防	HPV(ヒトパピローマウイルス)について予習・復習をしましょう。 120
7	感染症 その1	再興感染症 新興感染症 狂牛病の諸問題	再興感染症、新興感染症、狂牛病について予習・復習をしましょう。 120
8	感染症 その2	後天性免疫不全症(AIDS)の現況 性感染症の特徴 性感染症の現況	HIV関連疾患、性感染症について予習・復習をしましょう。 120
9	感染症 その3	小児の主な感染症 ワクチン	小児感染症、ワクチンについて予習・復習をしましょう。 120
10	青年期と心の病気 その1	精神疾患とは 統合失調症	精神疾患、統合失調症について予習・復習をしましょう。 120

回	項目	授業内容	
11	青年期と心の病気 その2	双極性障害 うつ病 うつ病の諸問題	双極性障害、うつ病について予習・復習をしましょう。 120
12	青年期と心の病気 その3	心因性精神病の諸問題	不安障害、強迫障害などについて予習・復習をしましょう。 120
13	青年期と心の病気 その4	摂食障害 骨粗鬆症の諸問題	摂食障害、骨粗鬆症について予習・復習をしましょう。 120
14	青年期と心の病気 その5	アルコールと健康 薬物依存症	アルコール関連問題、薬物依存症について予習・復習をしましょう。 120
15	まとめ	総合討論	健康維持および健康増進について予習・復習をしましょう。 120

科目名	衣生活概論	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科 1年 2単位 選択
担当教員	武井 玲子		
開講期	前期		
授業概要	人間が生活していく上で必要不可欠な衣生活に関して、ヒトと被服、それを取り巻く環境との関連性を総合科学的な視点で幅広く学ぶことにより、衣生活に関わる諸問題への対処が可能となる。また、企業における企画開発や研究開発部門での勤務経験を活かして、被服の汚れや洗浄、家庭用品の安全性の考え方、などの講義を行う。実務経歴：衣食住生活関連の家庭用品製造販売企業において、企画開発や研究開発、安全性評価や技術広報活動を担当。		
達成目標	1. 被服の持つ機能・役割について理解できた。 2. 繊維の種類と特徴を理解できた。 3. 被服着用時における安全性上のリスクについて理解できた。		
受講資格	特になし	成績評価 方法	①課題レポート：30点 ②期末レポート：70点
教科書	配布資料		
参考書	「衣生活論」、小林茂雄他、(株)アイ・ケイ・コーポレーション(2008)他、(N02被服学研究室所蔵図書)		
学生への要望	自分および家族の衣生活実態と問題点を考えながら受講し、授業内容を実生活に反映させること。		
オフィスタイトム	火曜日(Ⅱ時限)：N02被服学研究室 水曜日(全日)：N02被服学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	ガイダンス	シラバスにそって授業の概要や達成目標、進め方や成績評価方法を説明する。授業を受けるにあたっては、身近な毎日の衣生活に関心を持つことが大切であること、そうすることで、講義内容の理解が深まること、などを解説する。	30
2	被服着用の目的と機能	主要な被服着用目的は、①生理的・物理的目的、②美的・心理的目的、③社会的目的、である。これらの被服着用品目的と具体的な被服の着用事例とを結び付けて理解を深める。	30
3	衣生活実態調査の実施	各自の衣生活実態調査の課題を課すにあたり、調査目的と実施方法の説明を行う。調査は、①所有被服枚数、②死蔵被服枚数(1年間着用しなかった被服)、③保管状況、④衣生活実態についての自己評価点とその理由、の各項目について実施する。実態調査をするにあたり、被服の保管の目的や方法を説明する。	120
4	実態調査結果の報告と問題点・課題の抽出	各自の衣生活実態調査結果を発表すると共に、他の学生の調査結果を聞き、各自の実態とを比較しながら、自分自身の問題点と課題を考える。	60
5	衣生活(被服)と環境(1)	死蔵被服を減少するという課題解決のために、被服と環境との関わりについて、ライフサイクルアセスメント(LCA)の考え方から考察する。繊維、布や被服の製造と流通、生活者の被服購入、着用、手入れ・洗濯、保管、廃棄・リサイクルという被服のライフサイクル全体における環境との関わり(資源、エネルギーの消費と炭酸ガス他廃棄物排出)について学び、現在の自分の衣生活について考察し、環境負荷低減に向けた衣生活のあり方をまとめる。	60
6	衣生活(被服)と環境(2)	前回の授業内容を更に実生活に即して学び、死蔵衣服や繊維原料の資源問題、廃棄とリサイクルなどの現状を考えながら、環境負荷低減を目指した衣生活行動を、5R(Reduce, Recycle, Reuse, Remake, Repair)の視点から考察し、具体的な実践行動を抽出する。	60

回	項目	授業内容	
7	被服の生理的・物理的機能	人体生理、被服内気候、被服圧などから被服の快適性の意味を理解する。恒温動物の人間がどのような生理機能で恒温を保つか、そこにおける被服の役割を認識する。さらに、人体の形状と運動変形における動き易い被服の条件、被服圧について理解する。また、高齢者や乳幼児、身障者の被服、スポーツ・労働用・農業・消防用、などの機能服の被服要件を学ぶ。	配布資料を参考にしながら、本日の講義内容についてまとめる。
8	被服着用と安全性	被服は第二の皮膚といわれるように皮膚と直接接触するために、皮膚刺激やアレルギー等の皮膚障害上の安全性問題が存在する。さらに、被服の人体に対する安全性としては、静電気障害・燃焼障害やヒモ等の付属品による事故発生リスクがあり、これらの発生原因とその対策を学ぶ。	本日の講義内容を配布資料にしたがって復習し、理解を深める。また、関心があったニュースについて自分の考えをまとめる。
9	被服の心理的・社会的機能	被服の心理的機能には、美しく装いたい、流行の服を着たいという装身の機能が考えられる。一方、社会的機能としては服装のシンボルとしての象徴性や風俗・習慣・道徳などの社会的規範による容儀の機能が存在する。それぞれについて意味を知り、被服着用目的を再確認する。	本日の講義内容を配布資料にしたがって復習し、理解を深める。また、関心があったニュースについて自分の考えをまとめる。
10	被服の素材の種類と特徴	被服を構成する素材（繊維、糸、布）の種類と機能や特徴を学ぶ。実際に映像を見たり、布サンプルを手にとりながら理解を深める。	本日の講義内容を配布資料にしたがって復習し、理解を深める。自分の所蔵衣服の素材について調査する。
11	被服の製造・流通・購入（市場調査）	被服・繊維の製造・流通の歴史を学び、現状を把握し問題点を考察する。特に、現在の様々な流通経路を通じての被服購入のメリットやデメリットを明らかにする。さらに、市場調査を実施し、被服に付けられている標示のわかりやすさや見やすさなどを生活者視点で評価し、問題点や課題を抽出する。	本日の講義内容を配布資料にしたがって復習し、理解を深める。市場調査結果についてまとめ、レポートを作成する。
12	被服の着用による汚れ付着	被服着用による被服に付着する汚れの種類や付着状態、汚れの身体や被服への影響を学ぶ。また、汚れたままにしておいた場合のニオイ発生メカニズムを学ぶ。	本日の講義内容を配布資料にしたがって復習し、理解を深める。また、関心があったニュースについて自分の考えをまとめる。
13	汚れ除去メカニズム	被服に付着した汚れの除去方法として、現在実施されている家庭洗濯とドライクリーニング洗濯の違いを学ぶ。より理解を深めるために実験、映像を用いる。期末レポートの課題を提示する。	本日の講義内容を配布資料にしたがって復習し、理解を深める。また、関心があったニュースについて自分の考えをまとめる。期末レポート対応。
14	汚れ除去と被服の快適性を付与する剤の種類と特徴（市場調査）	現在市販されている洗剤類、繊維・布・被服の機能を回復し快適性を付与する柔軟剤、糊剤、漂白剤などの種類と特徴、効果的な使い方を知る。また、市場調査で店頭に並べられている洗剤類を見ながら、理解を深める。	本日の講義内容を配布資料にしたがって復習し、理解を深める。また、自宅の洗濯機や使用洗剤・関連品について実態を把握する。期末レポート対応。
15	総括	ヒト（生活者）とモノ（被服）、それを取り巻く環境との関係から健康・快適、安全・安心、環境負荷低減型衣生活をデザインするための要点をまとめ、望ましい衣生活のあり方をまとめる。	本日の講義内容を配布資料にしたがって復習し、自分自身の望ましい衣生活のあり方を考え、実践していく。

科目名	テキスタイル材料学	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 選択
担当教員	武井 玲子		
開講期	前期		
授業概要	生活の基本である衣生活を安全かつ快適に営むために、テキスタイル材料（繊維・素材）を対象として、自然・社会・文化の総合科学的視点から幅広く学ぶ。講義では、より理解を深めるために映像や実物を活用する。また、企業における企画開発や研究開発部門での勤務経験を活かして、被服・繊維への汚れ付着や洗浄、染色と退色、などの講義を行う。実務経歴：衣食住生活関連の家庭用品製造販売企業において、企画開発や研究開発、安全性評価や技術広報活動を担当。		
達成目標	1. 主要繊維の種類とその特徴・特性を把握している。 2. 繊維・糸・布に対する染色方法の種類を理解している。 3. 被服着用目的の3つの目的とテキスタイル材料との関連性を把握している。		
受講資格	特になし	成績評価 方法	①課題レポート：30点 ②期末レポート：70点
教科書	プリント配布		
参考書	「衣服材料の科学」 島崎恒蔵編著、 園野哲也、 林正之、 森俊夫共著 （株）建帛社、N02被服学研究室（武井）保管		
学生への要望	自分が毎日着用する被服に関心を持ち、素材の種類や染色方法などに対して理解を深めること。		
オフィスタイム	火曜日（Ⅱ時限）：N02被服学研究室 水曜日（全日）：N02被服学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容
1	ガイダンス	シラバスにそって講義の概要、到達目標、進め方や評価方法などを説明する。被服学領域におけるテキスタイル材料学の位置付け、衣生活におけるテキスタイル材料の役割について理解を深める。からむし織り、フェアリーフェザーに関する映像を鑑賞し、地域の繊維産業の現状と今後を考える。	本日の講義内容について復習し、理解を深める。
2	被服着用目的と被服の消費性能とテキスタイル	人はなぜ被服を着用するのか、被服に求められる性能とは何か、テキスタイル材料と関連付けて解説する。映像により、繊維の種類や特徴を再確認する。	本日の講義内容について復習し、理解を深める。自分や友人の着用衣服の素材を確認する。
3	繊維について	テキスタイル材料としての繊維とは何か、被服用繊維の分類、繊維を構成している高分子化合物の構造上の特徴等について繊維の性質と関連付けて学ぶ。繊維の代表として、絹（蚕）と動物繊維であるビキューナの映像を鑑賞して理解を深める。	本日の講義内容について復習し、理解を深める。自分や友人の着用衣服の素材を確認する。
4	繊維・糸について	繊維の鑑別実験で用いられる燃焼実験を通じて、繊維別の特徴を把握する。紡績糸、フィラメント糸、複合糸等の糸の種類と分類、糸の製造工程や糸の構造、糸の太さの表示法について理解する。	本日の講義内容について復習し、理解を深める。自分や友人の着用衣服の素材を確認する。
5	布の種類と構造（1）	布として最も多く用いられている織物の製造原理と構造、分類、表示法、各種織物の名称と特徴等について実物サンプルを用いて解説する。繊維鑑別法の映像を見て理解を深める。	本日の講義内容について復習し、理解を深める。自分や友人の着用衣服の素材を確認する。
6	布の種類と構造（2）	織物の構造を理解するために、代表的な三原組織（平織、綾織、朱子織）について実際に紙（毛糸）を用いて布を作製しながら構造について理解を深める。	本日の講義内容について復習し、理解を深める。自分や友人の着用衣服の素材を確認する。
7	布の種類と構造（3）	（前回の継続）織物の構造を理解するために、代表的な三原組織（平織、綾織、朱子織）について実際に紙（毛糸）を用いて布を作製しながら構造について理解を深める。糸の段階を経ずに直接繊維から布を構成している不織布、接着布、レース、皮革等、織物や編物以外の被服材料の種類と製造法、構造と性質について学ぶ。	本日の講義内容について復習し、理解を深める。自分や友人の着用衣服の素材を確認する。
8	その他の被服材料（留め具）	被服を構成するテキスタイル副素材の種類・役割、機能について学ぶ。特に留め具（ボタン、フォック）については被服・布へのつけ方を練習する。	本日の講義内容について復習し、理解を深める。自宅で、実際に留め具のつけ方を実践する。

回	項目	授業内容	
9	テキスタイル材料の染色 (1)	被服の色彩の役割について学び、色彩を表現するための染色についてその方法とメカニズムについて学ぶ。 染色に関して理解を深めるために映像を見る。	本日の講義内容について復習し、理解を深める。自分や友人の着用衣服の染色方法について確認する。
10	テキスタイル材料の染色 (2)	(前回の継続) 染色に関して理解を深めるために映像を見る。	本日の講義内容について復習し、理解を深める。自分や友人の着用衣服の染色方法について確認する。
11	テキスタイル材料の染色 (3)	染色実験を経験し、布(被服)の染色原理を理解する。 染色は、絹のハンカチを用いた代表的な天然染料のコチニール、くちなしで絞り染めを行う。	本日の講義内容について復習し、理解を深める。自分や友人の着用衣服の染色方法について確認する。
12	テキスタイル材料の加工 (1)	布が被服に裁断・縫製、製造され販売されるまでに染色に加えて様々な方法で加工されている。その種類と特性について学ぶ。	本日の講義内容について復習し、理解を深める。自分や友人の着用衣服の素材を確認する。
13	テキスタイル材料の加工 (2) (市場調査)	郡山市内のファッション関連店舗にて市場調査を行う。目的は、様々な被服にどのような加工処理が施され、その内容がどのように商品に表示されているか実態調査を行い、理解を深める。 期末レポートの課題を発表する。	本日の講義内容について復習し、理解を深める。市場調査結果についてまとめる。期末レポートの課題に取り組む。
14	テキスタイル材料の今後の課題	会津木綿や富岡製糸などに関する映像を視聴し、生活者からみた繊維・糸・被服に対する今後の課題を考える。	本日の講義内容について復習し、理解を深める。期末レポートの課題に取り組み、レポートを完成させる。
15	まとめ	今までの講義のまとめを行う。学生のみ닛ツペーパーに書かれていた内容のフォローアップを行う。	本日の講義内容について復習し、理解を深める。

科目名	被服管理学	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 選択
担当教員	武井 玲子		
開講期	後期		
授業概要	被服の購入から廃棄までのライフサイクル全般において、安全・安心・快適、環境保全をめざした衣生活管理を自然・社会・人文科学の総合科学の視点から幅広く専門的に学び、家庭科教員としての指導力や個人の衣生活管理の向上をめざす。また、企業における企画・研究開発部門の勤務経験を活かし、被服管理の要件(汚れと洗浄や保管方法、など)や人体・環境安全性に関して講義する。実務経歴：衣食住生活関連の家庭用品製造販売企業において、企画開発や研究開発、安全性評価や技術広報活動を担当。		
達成目標	①被服の生産段階における日本と世界の現状を理解する。 ②被服の購入及び手入れ時などの管理時において注意すべき取扱い絵表示、組成表示、その他の表示について理解している。 ③被服の保管時の問題点を理解している。		
受講資格	特になし	成績評価 方法	①課題レポート：30点 ②期末レポート：70点
教科書	配布プリント		
参考書	「被服整理学」(社)日本衣料管理協会(平成20年)、「衣服管理の科学」片山倫子編(建帛社、平成14年)、N02被服学研究室の所蔵図書		
学生への要望	日常の衣生活を問題意識をもってみつめること。		
オフィスタイム	火曜日(Ⅱ時限)：N02被服学研究室 水曜日(全日)：N02被服学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	ガイダンス	シラバスにそって、授業の概要や到達目標、進め方や評価方法などを説明する。	本日の講義内容をまとめ、問題点をピックアップする。	30
2	繊維・被服の生産・流通	世界的にみた繊維の生産状況を知る。ファストファッションの生産、流通の現状を把握し、考察する。ファストファッションの製造国での状況を映像で確認する。	本日の講義内容をまとめ、理解を深める。	30
3	被服の選択と購入	被服に関する法規制である「家庭用品品質表示法」、JISや自主規制などについて理解する。前回のファストファッションに続き、ベトナムモン族の民族衣装や日本のゆかたの着装を映像で見ることにより、スローファッションのメリット・デメリットを考える。	本日の講義内容をまとめ、理解を深める。また、自分自身の被服購入方法と失敗経験などについてまとめ、次回の講義に備える。	30
4	購入方法に関する事例研究	各個人の被服購入経験の失敗事例を発表する。これらの失敗事例を問題点別にまとめ、購入時における課題をまとめる。衣料の計画的な購入、購入時のチェックポイント、消費者の義務と権利、消費者苦情の重要性を学ぶ。	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。	30
5	着用と汚れ	着用による被服に付着する汚れの種類と成分、付着のしかたを繊維の性質との関係から学ぶ。また、汚れの人体と繊維に及ぼす影響を考える。	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。	30
6	着用とニオイ	汚れがどのようにニオイに変化するかその発生原因を学ぶ。ニオイと香りの科学を学び、最近の香りブームやスメルハラスメント等の問題点と課題に関して議論し理解する。	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。さらに、自分や家庭の中のニオイについて考えてみる。	60
7	被服の色と変化、色の基本とカラーユニバーサルデザイン	染色の歴史と科学を学ぶ。被服の色は、着用や洗濯、保管時において色落ち、色移り、色泣きなどの変退色の変化が見られる。そのメカニズムを把握し、防止・予防方法を確認する。また、色の基本やカラーユニバーサルデザインについても理解を深める。	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。	30
8	日本の染織文化(映像)	前回の講義内容をより理解し深めるために、日本の染織文化に関する映像を鑑賞し、感想を発表する。	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。	30
9	被服の手入れ 家庭洗濯とドライクリーニング	家庭洗濯とドライクリーニングによる汚れ除去メカニズムの違いを知り、それぞれのメリット・デメリットを確認する。失敗事例から失敗しない洗濯手入れ方法を学ぶ。	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。自宅の被服の手入れ実態について調査する。	30
10	洗剤の科学	洗剤の種類と成分、界面活性剤の種類と機能、汚れ除去のメカニズム、洗剤の歴史的変遷を学ぶ。	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。自宅に保管されている洗剤など被服の手入れに関する家庭用品について調査する。	60

回	項目	授業内容		
11	仕上げ剤の種類と特徴	洗濯後、繊維をおろし立ての状態に保つために様々な商品が市販されている。代表的なものは漂白剤、柔軟剤、糊剤等である。これらの製品の成分、種類、使用方法を実物を手にしながら学ぶ。 ①漂白剤：種類と特徴、漂白のメカニズム、使用方法、蛍光増白との違い、しみぬきの原理と方法 ②柔軟剤：種類と特徴、効果・機能（柔軟効果、静電気防止、香りなど）の変化、使用方法 ③洗濯糊：種類と特徴、使用方法	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。	30
12	被服の保管 (市場調査)	保管の目的、保管中の衣料の性能変化の原因、防虫・防かび、抗菌のための保管用具、防虫剤、乾燥剤などの種類と性能などを学び効果的な保管方法について理解する。さらに、市場調査により理解を深める。	配布資料を参考としながら、本日の市場調査結果についてまとめ、次回発表用とする。	60
13		日常使用しているタオルの望ましい管理について学ぶ。 タオルの製造と種類、購入時の注意点、使用時の問題点、手入れと洗濯、保管の項目について各自が調査をして結果を発表する。タオルの望ましい管理についてまとめる。期末レポートの課題を提示する。	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。また、自宅に保管されているタオルについて調査し、その種類や問題点・課題や抽出する。期末レポート対応。	120
14	被服管理の事例研究(2)	市場調査結果について報告する。履物の望ましい管理について学ぶ。履物が足に合わないための外反母趾などの足の被害状況、履物の購入時の問題点や課題、着用時・手入れ・保管時の問題点を抽出し、望ましい履物管理についてまとめる。	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。自宅の履物をチェックし、問題点を抽出する。期末レポート対応。	120
15	総括・まとめ	本講義のまとめを行う。	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。	30

科目名	被服学実験	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 1単位 選択
担当教員	武井 玲子, 大泉 由美		
開講期	前期		
授業概要	衣生活概論, 被服管理学, テキスタイル材料学他衣生活関連教科で学び修得した衣生活に係わる理論や知識を実験・実習にて整理・確認することにより, 科学的に関連理論や知識の理解を深め, 安全・安心・快適な衣生活を営むことができる。また, 企業における企画・研究開発部門の勤務経験を活かし, 実験の進め方やレポートの書き方, などに関して適切に指導する。実務経歴: 衣食住生活関連の家庭用品製造販売企業において, 企画開発や研究開発, 安全性評価や技術広報活動を担当。		
達成目標	1. 被服の着用による汚れのメカニズムを理解する。 2. 洗濯時の実際上の配慮ポイント(洗剤の計量, 乾燥方法等)を理解する。 3. 洗濯の失敗事例(毛糸のフェルト化)や染み抜きの方法を理解する。 4. 漂白剤の種類と特徴を実験的に理解する。 5. 染色実験を経験することにより, 染色の消費性能を理解する。		
受講資格	特になし	成績評価 方法	①実技 : 30点 ②レポート : 50点 ③受講態度 : 20点
教科書	プリント配布		
参考書	衣生活概論(小林茂男他, 弘学出版), 衣服管理の科学(片山倫子編, 建帛社)他: N02被服学研究室(武井)保管		
学生への要望	レポート提出は, 次回授業前までに提出のこと。		
オフィスタイム	火曜日(Ⅱ時限): N02被服学研究室 水曜日(全日): N02被服学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	ガイダンス	①授業の進め方や評価方法などを理解する。 ②被服学実験授業で使用するガラス器具など実験器具・用具, 実験装置などの種類と使い方, 注意点を理解する。	本日の講義内容をまとめ, 問題点をピックアップする。 30
2	ガイダンス	①授業の進め方や評価方法などを理解する。 ②被服学実験授業で使用するガラス器具など実験器具・用具, 実験装置などの種類と使い方, 注意点を理解する。	本日の授業内容をまとめ, 問題点をピックアップする。 30
3	基礎実験 1	①ガラス器具など実験器具・用具, 実験装置などの種類, 洗浄・管理方法, 使い方など実験の基礎を理解する。 ②洗濯に及ぼす水質項目として, 洗濯水の硬度, pH, 残留塩素, CODをバックテストで確認する。検査対象の洗濯水として, 家庭の水道水, 井戸水に加え, 市販の飲料水を比較しながら理解を深める。	実験レポートの書き方の説明を参考として, 本日の水質検査実験結果をレポートにまとめる。 60
4	基礎実験 1	①ガラス器具など実験器具・用具, 実験装置などの種類, 洗浄・管理方法, 使い方など実験の基礎を理解する。 ②洗濯に及ぼす水質項目として, 洗濯水の硬度, pH, 残留塩素, CODをバックテストで確認する。検査対象の洗濯水として, 家庭の水道水, 井戸水に加え, 市販の飲料水を比較しながら理解を深める。	実験レポートの書き方の説明を参考として, 本日の水質検査実験結果をレポートにまとめる。 30
5	基礎実験 2	①試料の計量方法(重量と容積), 溶液の調製方法を②のシャボン玉液を調製しながら理解する。 ②割れにくいシャボン玉が作れる溶液の調製: 水, 界面活性剤(台所用洗剤), 洗濯のり, グリセリンなどを混合して, 軍手でシャボン玉のお手玉ができるような膜の丈夫なシャボン玉液を調製, 確認実験をする。	レポートの書き方の説明を参考として, 本日の実験結果をレポートにまとめ, 次回に提出する。 60
6	基礎実験 2	①試料の計量方法(重量と容積), 溶液の調製方法を②のシャボン玉液を調製しながら理解する。 ②割れにくいシャボン玉が作れる溶液の調製: 水, 界面活性剤(台所用洗剤), 洗濯のり, グリセリンなどを混合して, 軍手でシャボン玉のお手玉ができるような膜の丈夫なシャボン玉液を調製, 確認実験をする。	レポートの書き方の説明を参考として, 本日の実験結果をレポートにまとめ, 次回に提出する。 60
7	生理用ナプキンの構造と吸収メカニズムの検討	市販の生理用ナプキンと現在自分が使用しているナプキンを対象として, その構造と吸収メカニズムを実験的に確認し, 生理時におけるナプキンの効果的な選択とその使用方法について理解を深める。	生理用ナプキンの吸水性実験結果をレポートにまとめ, 次回に提出する。 60

回	項目	授業内容		
8	生理用ナプキンの構造と吸収メカニズムの検討	市販の生理用ナプキンと現在自分が使用しているナプキンを対象として、その構造と吸収メカニズムを実験的に確認し、生理時におけるナプキンの効果的な選択とその使用方法について理解を深める。	生理用ナプキンの吸水性実験結果をレポートにまとめ、次回に提出する。	60
9	洗浄力試験	水溶性汚れ、油性汚れ、無機物汚れ、などの汚れモデルを用いて、家庭洗濯（界面活性剤）とドライクリーニング（溶剤）の汚れ除去の違いを確認する。また、界面活性剤のローリングアップ、表面張力低下作用、プラトリーの法則実験を行い、界面活性剤の性質や汚れ除去メカニズムの理解を深める。	前回の提出されたレポートのチェック内容を参考として、本日のモデル汚れの種類と家庭洗濯、ドライクリーニング洗濯の汚れ除去結果をレポートにまとめ、次回提出する。	60
10	洗浄力試験	水溶性汚れ、油性汚れ、無機物汚れ、などの汚れモデルを用いて、家庭洗濯（界面活性剤）とドライクリーニング（溶剤）の汚れ除去の違いを確認する。また、界面活性剤のローリングアップ、表面張力低下作用、プラトリーの法則実験を行い、界面活性剤の性質や汚れ除去メカニズムの理解を深める。	前回の提出されたレポートのチェック内容を参考として、本日のモデル汚れの種類と家庭洗濯、ドライクリーニング洗濯の汚れ除去結果をレポートにまとめ、次回提出する。	60
11	羊毛繊維のフェルト化	羊毛繊維の縮絨性を利用してフェルト制作を行い、羊毛製品の洗濯失敗事例としてのフェルト化現象を理解する。	本日の羊毛繊維の縮絨化、フェルト制作実験結果をレポートにまとめ、次回提出する。	60
12	羊毛繊維のフェルト化	羊毛繊維の縮絨性を利用してフェルト制作を行い、羊毛製品の洗濯失敗事例としてのフェルト化現象を理解する。	本日の羊毛繊維の縮絨化、フェルト制作実験結果をレポートにまとめ、次回提出する。	60
13	漂白剤の性質確認実験	羊毛、絹、綿などの布および白、色柄布に市販の各種漂白剤を作用させて、その変化を観察し、漂白剤の種類と特徴、漂白メカニズム、使い方を理解する。	本日の漂白剤の種類による布への影響に関する実験結果をレポートにまとめ、次回提出する。	60
14	漂白剤の性質確認実験	羊毛、絹、綿などの布および白、色柄布に市販の各種漂白剤を作用させて、その変化を観察し、漂白剤の種類と特徴、漂白メカニズム、使い方を理解する。	本日の漂白剤の種類による布への影響に関する実験結果をレポートにまとめ、次回提出する。	60
15	しみ抜き実験	日常的につけやすいしみを実験的に布に付着させ、各種しみ抜き剤（市販漂白剤）や水、洗剤、溶剤（ドライクリーニング）によるしみ抜きを実験的に実施、効果的なしみ抜き方法を実践的に学ぶ。	本日の実験的なしみ抜き実験結果をレポートにまとめ、次回提出する。	60
16	しみ抜き実験	日常的につけやすいしみを実験的に布に付着させ、各種しみ抜き剤（市販漂白剤）や水、洗剤、溶剤（ドライクリーニング）によるしみ抜きを実験的に実施、効果的なしみ抜き方法を実践的に学ぶ。	本日の実験的なしみ抜き実験結果をレポートにまとめ、次回提出する。	60
17	天然染料による染色実験	絹と木綿のハンカチを試験布として、多種多様な染色方法のうち、天然染料による縫い絞り染を行い、染料、染色方法、染色堅牢度など染色に関する知識や技術を体験的に理解する。	染色に関する説明資料（染料の種類と歴史）を読んで理解する。	30
18	天然染料による染色実験	絹と木綿のハンカチを試験布として、多種多様な染色方法のうち、天然染料による縫い絞り染を行い、染料、染色方法、染色堅牢度など染色に関する知識や技術を体験的に理解する。	染色に関する説明資料（染料の種類と歴史）を読んで理解する。	30
19	天然染料による染色実験	絹と木綿のハンカチを試験布として、多種多様な染色方法のうち、天然染料による縫い絞り染を行い、染料、染色方法、染色堅牢度など染色に関する知識や技術を体験的に理解する。	染色実験に関するレポートを作成し、次回提出する。	30
20	天然染料による染色実験	絹と木綿のハンカチを試験布として、多種多様な染色方法のうち、天然染料による縫い絞り染を行い、染料、染色方法、染色堅牢度など染色に関する知識や技術を体験的に理解する。	染色実験に関するレポートを作成し、次回提出する。	30
21	環境を考えた衣生活	衣生活分野においても環境負荷低減を考える5R（Reuse, Recycle, Reduction, Repair, Remake）の実践が必要である。そこで、使用後の衣料から布地を調製し、①貝殻のストラップ、②お手玉を制作し、環境意識の醸成を図る。	衣生活と環境に関する配布資料を読み、理解を深める。	30

回	項目	授業内容	
22	環境を考えた衣生活	衣生活分野においても環境負荷低減を考える5R (Reuse, Recycle, Reduction, Repair, Remake) の実践が必要である。そこで、使用後の衣料から布地を調製し、①貝殻のストラップ、②お手玉を制作し、環境意識の醸成を図る。	衣生活と環境に関する配布資料を読み、理解を深める。
23	環境を考えた衣生活 (継続)	衣生活分野においても環境負荷低減を考える5R (Reuse, Recycle, Reduction, Repair, Remake) の実践が必要である。そこで、使用後の衣料から布地を調製し、①貝殻のストラップ、②お手玉を制作し、環境意識の醸成を図る。	環境を考えた衣生活 (ストラップ作り、4種類のお手玉) に関するレポートを作成し、次回提出する。
24	環境を考えた衣生活 (継続)	衣生活分野においても環境負荷低減を考える5R (Reuse, Recycle, Reduction, Repair, Remake) の実践が必要である。そこで、使用後の衣料から布地を調製し、①貝殻のストラップ、②お手玉を制作し、環境意識の醸成を図る。	環境を考えた衣生活 (ストラップ作り、4種類のお手玉) に関するレポートを作成し、次回提出する。
25	防虫剤の種類と使用方法 (市場調査)	市場調査にて各種防虫剤の成分、表示内容を確認し、その使い方を科学的に理解する。また、生活者視点から防虫剤の表示内容や表示方法 (文字の大きさ、見やすさ、など) を評価し、生活者の立場で商品の表示提案を考える。	衣料用防虫剤に関する配布資料と本日の市場調査の課題にしたがって、調査結果のレポートを作成し、次回提出する。
26	防虫剤の種類と使用方法 (市場調査)	市場調査にて各種防虫剤の成分、表示内容を確認し、その使い方を科学的に理解する。また、生活者視点から防虫剤の表示内容や表示方法 (文字の大きさ、見やすさ、など) を評価し、生活者の立場で商品の表示提案を考える。	衣料用防虫剤に関する配布資料と本日の市場調査の課題にしたがって、調査結果のレポートを作成し、次回提出する。
27	汗汚れの検出	肌シャツを1~2日間着用し、体内から排泄される汚れのうちタンパク質汚れを検出するニンヒドリンを噴霧し、汚れの付着状態を確認する。	人体からの汚れに関する配布資料と本日の実験結果をレポートにまとめ、次回提出する。
28	汗汚れの検出	肌シャツを1~2日間着用し、体内から排泄される汚れのうちタンパク質汚れを検出するニンヒドリンを噴霧し、汚れの付着状態を確認する。	人体からの汚れに関する配布資料と本日の実験結果をレポートにまとめ、次回提出する。
29	レポートのフィードバック	提出されたレポートの作成方法や実験内容の解釈に関するポイントを指導しながら、全体の総まとめを行う。	本日のレポート作成に関する講義説明を復習し、提出した自分のレポートの問題点や課題を明らかにする。
30	レポートのフィードバック	提出されたレポートの作成方法や実験内容の解釈に関するポイントを指導しながら、全体の総まとめを行う。	本日のレポート作成に関する講義説明を復習し、提出した自分のレポートの問題点や課題を明らかにする。

科目名	生活学的法律論	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 選択
担当教員	鈴木 康元		
開講期	後期		
授業概要	[授業の目的・ねらい] 民法のうち「家族法」という分野につき基本的な知識を身につける [授業全体の内容の理解] 家族法の基本知識を教え、成年後見制度等についても理解してもらう [授業終了時の達成課題（到達目標）] 婚姻、離婚、親子等について民法上の理解を身につけ日常生活に生かせること 実務経験：弁護士として、法律事務所長として勤務する経験を活かし、授業を行う。 実務経歴：弁護士として、法律事務所長として勤務。		
達成目標	[授業の目的・ねらい] 民法のうち「家族法」という分野につき基本的な知識を身につける [授業全体の内容の理解] 家族法の基本知識を教え、成年後見制度等についても理解してもらう [授業終了時の達成課題（到達目標）] 婚姻、離婚、親子等について民法上の理解を身につけ日常生活に生かせること		
受講資格	家政学部 1年	成績評価 方法	ペーパー試験と出席の程度を考慮する
教科書	その都度指定する		
参考書	その都度指定する		
学生への要望	法律一般につき興味をもって欲しい		
オフィスタイム	授業開始前：創学館2階教務部非常勤講師室 授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容
1	家族法とは	民法における家族法位置づけと家族の意味	授業内容を整理し、ノートにまとめる。
2	婚姻（1）	婚姻の意味と婚約等	授業内容を整理し、ノートにまとめる。
3	婚姻（2）	婚姻の効力→婚姻をすると、夫婦はどのような義務を負うのか	授業内容を整理し、ノートにまとめる。
4	離婚（1）	離婚の意味と実態等について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。
5	離婚（2）	離婚の方法と実務から見た問題点について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。
6	内縁	内縁の意味とその法的意味	授業内容を整理し、ノートにまとめる。
7	親子（1）	親子の種別（実子・養子）と法的効果について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。
8	親子（2）	親権の意味と内容について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。
9	扶養	法律上の扶養義務者と現代的変遷について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。
10	相続の基礎	相続の意味と現代的特色	授業内容を整理し、ノートにまとめる。
11	相続人	誰が相続人になるのか、相続人に相続させたくない場合は	授業内容を整理し、ノートにまとめる。
12	相続の効力（1）	遺産承継について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。
13	相続の効力（2）	相続分と遺産分割について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。
14	遺言	遺言の意義・方式等	授業内容を整理し、ノートにまとめる。
15	成年後見	成年後見制度について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。

科目名	生活学的経済論		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択
担当教員	長谷川 貴弘			
開講期	前期			
授業概要	<p>本授業の目的は、生活と密接にかかわる経済の基礎知識の習得と経済学的視点の確立である。不景気・デフレーション・円高・円安・インフレーション・消費生活・生活経済等、普段からニュースや新聞で取り上げられるが、これらの経済的事象は私達の生活と密接にかかわっている。これら経済的事象を経済学的視点で見る目を養うことを本授業の目的としたい。</p> <p>なお、在北京日本国大使館経済部での勤務経験を活かし、授業の中で経済統計の見方、マクロ経済の理論と実際について採り上げていく。</p> <p>○実務経歴 在北京日本国大使館経済部専門調査員として主に中国経済の分析に従事。</p>			
達成目標	経済的事象を経済学的視点で見る目を養うとともに、公務員試験の経済学の問題にも対応できる力を養うことを到達目標とする。			
受講資格	家政学部 人間生活学科 1年生 家政学部 食物栄養学科 1年生	成績評価 方法	①小テスト30点 (15点×2回) ②レポート70点	
教科書	プリントを配布する。			
参考書	伊藤元重「はじめての経済学(上)(下)」日経文庫、他必要に応じ授業の中で紹介する。			
学生への要望	普段からニュースや新聞で取り上げられる経済関連の問題について関心を持つようにすること。			
オフィスタイトム	火曜日 3コマ 水曜日4コマ 経営管理理学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	ガイダンス・経済学とは何か①	授業の進め方、評価方法について解説する。 経済学とは何かを説明する第一の例としてインフレーションとデフレーションを取り上げ、両者が私達の生活に与える影響について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
2	経済学とは何か②	第二の例として円安と円高を取り上げ、両者が私達の生活にどのような影響を与えるのかについて学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
3	経済学とは何か③	経済学をめぐる行われてきた政策論争(自由貿易vs保護貿易)について学修することを通じて経済学への理解を深める。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
4	消費生活と経済①	消費と消費者の概念について、消費者の権利と責任について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
5	消費生活と経済②	様々な消費者問題とクーリングオフについて学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
6	消費生活と経済③	グリーンコンシューマーとフェアトレードの概念について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
7	消費生活と経済④	消費生活と経済について総まとめ。 小テスト1回目	これまでの学修内容をノート・プリントを通じて復習し、小テストに備えること。	30
8	生活と経済-エンゲルの法則と家計調査①	世界と日本の家計研究の歴史について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
9	生活と経済-エンゲルの法則と家計調査②	エンゲルの法則とエンゲル係数の概念について学修する。	これまでの学修内容をノート・プリントを通じて復習しておくこと。	30
10	生活と経済-エンゲルの法則と家計調査③	近年のエンゲル係数の動向について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
11	マクロ経済学の基本と日本経済①	マクロ経済学(Macro Economics)が分析の対象とするGDP(国内総生産)の計算方法とその意味する点について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
12	マクロ経済学の基本と日本経済②	日本と世界のGDPのデータを通じて、それが意味するものについて学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。併せてレポートを作成すること。	60
13	地域経済~郡山市の経済について①	地域経済とは何かを解説した上で、私達が住んでいる郡山市の経済とその特徴について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。併せてレポートを作成すること。	60
14	地域経済~郡山市の経済について②	郡山市の経済とその特徴について学修する(前回の続き)。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。併せてレポートを作成すること。	60
15	まとめ	これまでの学修内容を確認する。 小テスト(2回目)	これまでの学修内容をノート・プリントを通じて復習し、小テストに備えること。	60

科目名	生活学的社会論		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択
担当教員	長谷川 貴弘			
開講期	前期			
授業概要	<p>私達は社会の中で生きており、生活と社会は切り離して考えることはできない。 本授業では、私達が生活している社会が、今現在どのような構造を持ち、どのような状態にあり、どのような課題を抱えているかについて、理解を深め、考察する力を養うことを目的としている。 まず「社会」という概念について学習し、社会の構造、状態、課題について理解を深めるため、少子高齢化、雇用問題、経済格差、グローバル化等、ニュースや新聞で取り上げられる事象を通じて解説する。 なお、本講義では、内閣府での勤務経験を活かし、授業の中で統計資料の見方、活用の仕方についても採り上げていく。 ○実務経歴 内閣府政策統括官（経済財政分析担当）付参事官（海外担当）付任期付職員として従事。</p>			
達成目標	私達が生活している社会が、今現在どのような構造を持ち、どのような状態にあり、どのような課題を抱えているかについて、理解を深め、考察する力を養うことを目的とする。			
受講資格	家政学部 人間生活学科 1年生 家政学部 食物栄養学科 1年生	成績評価 方法	①小テスト30点（15点×2回） ②レポート70点	
教科書	プリントを配布する。			
参考書	浅野智彦編著「社会学のことが面白いほどわかる本」、中経出版 他			
学生への要望	普段からニュースや新聞で取り上げられる社会の問題について関心を持つようにすること。			
オフィスタイム	火曜日 3コマ 水曜日4コマ 経営管理学習研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	ガイダンス	授業の進め方、評価方法について説明する。 『社会』とは何か、今の日本『社会』はどのような状態にあるか、その一例として少子高齢化社会について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
2	少子高齢化社会と日本と世界①	少子高齢化社会を計る様々な指標について学修し、日本の人口構造と高齢化について概観する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
3	少子高齢化社会と日本と世界②	少子高齢化社会を計る様々な指標について学修し、世界各国の人口構造と高齢化について概観する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
4	少子高齢化社会と日本と世界③	平均寿命、平均余命、健康寿命などの概念、それら指標の現状について概観する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
5	社会と仕事・家族①	家族とその役割について学修する。 家庭において起こる問題—DVと児童虐待について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
6	社会と仕事・家族②	フリーターとニート、日本の雇用慣行について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
7	社会と仕事・家族③	正規雇用と非正規雇用、働くことの意義について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
8	社会と文化①	癒しと宗教について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
9	社会と文化②	癒しと宗教、社会学から見た自殺問題について学修・考察する。小テスト（1回目予定）	これまでの学修内容をノート・プリントを通じて復習し、小テストに備えること。	60
10	社会と国家①	社会学から見た国家（ルールと権力）、平等な社会と格差について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
11	社会と国家②	厚生労働省とその取り組み（1）年金制度、社会保障制度、介護保険制度について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
12	社会と国家③	厚生労働省とその取り組み（2）医療保険制度とその仕組みについて学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。併せてこれまでの学修内容を踏まえ、レポートを作成すること。	60
13	社会と国家④	厚生労働省とその取り組み（3）「健康日本21」等について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。併せてこれまでの学修内容を踏まえ、レポートを作成すること。	60
14	社会と国家⑤	「地域保健法」と保健所の役割について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。併せてこれまでの学修内容を踏まえ、レポートを作成すること。	60
15	まとめ	これまでの学修内容の確認と小テストの内容について復習する。小テスト（2回目）	これまでの学修内容をノート・プリントを通じて復習し、小テストに備えること。	60

科目名	日本国憲法	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択
担当教員	鈴木 康元		
開講期	前期		
授業概要	憲法の基本理念と人権の重要性について理解してもらいたい。 履修カルテ評価項目 ①近代的意味の憲法の意義、歴史的背景が理解できたか。 ②日本国憲法の成立における問題点が理解できたか。 ③人権の重要性と制限根拠について理解できたか。 実務経験：弁護士として、法律事務所長として勤務する経験を活かし、授業を行う。 実務経歴：弁護士として、法律事務所長として勤務。		
達成目標	憲法の基本理念と人権の重要性について理解してもらいたい。 履修カルテ評価項目 ①近代的意味の憲法の意義、歴史的背景が理解できたか。 ②日本国憲法の成立における問題点が理解できたか。 ③人権の重要性と制限根拠について理解できたか。		
受講資格	家政学部1年生	成績評価 方法	ペーパー試験(80%)と出席状況(20%)
教科書	憲法【第二版】 弘文堂		
参考書	特に指定しない		
学生への要望	憲法および法律一般につき興味をもって欲しい。		
オフィスタイム	火曜日 授業開始前：創学館2階教務部非常勤講師室 授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	憲法総論①	憲法を学ぶことの意義、重要性、近代的意味の憲法について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	30
2	憲法総論②	近代的意味の憲法の特徴、日本国憲法の歴史	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
3	憲法総論③	国民主権の意義、平和主義（憲法9条の解釈）について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
4	基本的人権①	人権の概念、およびその重要性について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
5	基本的人権②	日本国憲法の人権の内容、人権の享有主体について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
6	基本的人権③	人権の限界、私人間における人権	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
7	基本的人権④	包括的基本権（特にプライバシーの権利を中心に）法の下での平等の意義	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
8	基本的人権⑤	内心の自由（特に信教の自由を中心に）につき判例をあげながら教える	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
9	基本的人権⑥	表現の自由の意義とその優越性について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
10	基本的人権⑦	経済的自由権	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
11	基本的人権⑧	財産権	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
12	基本的人権⑨	その他の人権について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
13	統治機構①	国会	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
14	統治機構②	内閣	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
15	統治機構③	裁判所	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

科目名	運動健康論	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択
担当教員	佐藤 浩明		
開講期	通年		
授業概要	生活の基盤となる『健康なからだづくり』に欠かすことのできない運動の重要性を理解し、生涯にわたり自分の健康や体力に配慮ができ、それらを保持増進していくために必要となる知識や方法について実技、講義を通じて学びます。また久光製薬スプリングス女子プロバレーボールチーム、オランダナショナル女子バレーボールチームの監督、コーチ実務経験を活かしコミュニケーションや協調性を指導します。 ①運動と健康の関連を理解し、健康の在り方について学びます。 ②スポーツの意義を理解し、人間力について学びます。 ③運動を通して、協調性、コミュニケーション能力、フェアプレーの精神について学びます。 ④運動を通して、基礎体力の維持、向上する方法について学びます。		
達成目標	健康的な生活に欠かすことのできない運動の方法や効果、自ら健康について考え行動できる力を習得する。スポーツ種目に必要な技術を習得すると共にコミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知り人間力を身に付ける		
受講資格	家政学部 人間生活学科 生活総合コース 1年 2単位 選択 家政学部 人間生活学科 福祉コース 1年 2単位 選択 家政学部 人間生活学科 建築デザインコース 1年 2単位 選択 家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択 ※教職課程履修者は必修	成績評価 方法	平常点30点（取組姿勢） 試験・提出物70点（実技・レポート） ※本科目は実技を含むため、出席、積極的な取組みも重視します。
教科書	特になし（必要に応じて資料等を配布します）		
参考書	「健康・フィットネスと生涯スポーツ：大修館書店」「公認スポーツ指導者テキストⅠ・Ⅱ・Ⅲ：（財）日本体育協会」「スポーツトレーニング理論：日本文芸社」「ストレッチメソッド：高橋書店」「メンタルトレーニング：ベースボールマガジン社」「教養としてのスポーツ科学：大修館書店」		
学生への要望	自分の生活習慣に興味、関心を持ち、運動する習慣をつけてほしい。 【授業中】積極的に取組み、運動を楽しむこと。タオル、水分は各自で必ず持参すること。（体調管理および熱中症対策）		
オフィスタイム	火・木の9:00～16:00まで創学館N04研究室 佐藤		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	ガイダンス	①授業目的、内容、進め方、評価方法の説明 ②服装、準備物の確認（注意事項含む） ③グループ分け	30
2	縄跳び①／からだづくりの運動	【テーマ：運動習慣をつける第一歩として、コミュニケーションゲームやレクリエーションで楽しくからだを動かす】 【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②コミュニケーションゲーム・体ほぐしの運動 ③レクリエーションゲーム ④からだづくりの運動 ⑤縄跳び（個人およびグループ） ⑥クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃	30

回	項目	授業内容	
3	縄跳び②/からだづくりの運動	<p>【テーマ：楽しくからだを動かしながらコーディネーショントレーニングで、からだの調整力を養う】</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②コーディネーショントレーニング ③レクリエーションゲーム ④からだづくりの運動 ⑤縄跳び（個人およびグループ） ⑥クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	<p>ストレッチ、準備運動で体のケアをする。タオル、水分を準備してくる</p> <p>30</p>
4	縄跳び③/からだづくりの運動	<p>【テーマ：楽しくからだを動かしながらコーディネーショントレーニングで、からだの調整力を養う】</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②コーディネーショントレーニング ③レクリエーションゲーム ④からだづくりの運動 ⑤縄跳び（個人およびグループ） ⑥クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	<p>ストレッチ、準備運動で体のケアをする。タオル、水分を準備してくる</p> <p>30</p>
5	フライングディスク③/からだづくりの運動	<p>【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④フライングディスク（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	<p>ストレッチ、準備運動で体のケアをする。タオル、水分を準備してくる</p> <p>30</p>
6	フライングディスク③/からだづくりの運動	<p>【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④フライングディスク（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	<p>ストレッチ、準備運動で体のケアをする。タオル、水分を準備してくる</p> <p>30</p>

回	項目	授業内容	
7	フライングディスク③／からだづくりの運動	<p>【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】</p> <p>【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④フライングディスク（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	30
8	フライングディスク③／からだづくりの運動	<p>【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】</p> <p>【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④フライングディスク（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	30
9	フライングディスク③／からだづくりの運動	<p>【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】</p> <p>【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④フライングディスク（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	30
10	ソフトバレーボール③／からだづくりの運動	<p>【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーションを発揮し楽しみながらグループで行う】</p> <p>【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④ソフトバレーボール（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	0

回	項目	授業内容	
11	ソフトバレーボール③／からだづくりの運動	<p>【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】</p> <p>【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④ソフトバレーボール（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	0
12	ソフトバレーボール③／からだづくりの運動	<p>【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】</p> <p>【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④ソフトバレーボール（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	30
13	ソフトバレーボール③／からだづくりの運動	<p>【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】</p> <p>【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④ソフトバレーボール（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	30
14	ソフトバレーボール③／からだづくりの運動	<p>【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】</p> <p>【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④ソフトバレーボール（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	30
15	実技のまとめ	<p>《まとめとして実技試験を行う》</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②レクリエーションゲーム ③実技試験 ④クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑤体育館清掃</p>	30

回	項目	授業内容	
16	第16回 オリンピックについて	オリンピックの歴史と現状 オリンピズム、オリンピック憲章について学び、スポーツの持つ魅力について学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う 30
17	第17回 生活と健康について①	《健康とは何か》 健康について考える導入として、「健康の定義」をWHO（世界保健機関）の憲章をふまえ、様々な角度から学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う 30
18	第18回 生活と健康について②	《生活習慣病の原因・対策・予防と運動》 ①生活習慣病の原因と予防、対策について理解し、運動との関係について学びます。 ②運動・休養と健康について学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う 30
19	第19回 生活と健康について③	《大学生の健康》 大学生の生活に潜む危険要因について理解し、セルフライフマネジメントについて学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う 30
20	第20回 生活とスポーツについて①	《スポーツとは何か》 スポーツの意味を理解し、スポーツの社会的価値とスポーツに期待されることについて学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う 30
21	第21回 生活とスポーツについて②	《生涯スポーツについて》 生涯スポーツに関わることが自分の健康や生涯の楽しみにどう影響するのか、①行う ②観る ③支える ④調べるの視点から学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う 30
22	第22回 生活とスポーツについて③	《大学生とスポーツ》 大学生になり高等学校まで必修で行われてきた体育の授業は著しく減少します。その中で自分の健康に興味を持ち、運動やスポーツにどう関わることができるかについて学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う 30
23	第23回 スポーツから学ぶ①	《フェアプレーについて》 スポーツは定められたルールの中で勝敗を競い合うものです。それは日常の生活や、普段の行動にも通じるものがあります。ここではスポーツの中からフェアプレーについて学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う 30
24	第24回 スポーツから学ぶ②	《メンタルトレーニング》 常に結果が求められるスポーツ選手（アスリート）のメンタルトレーニング、ポジティブシンキング、行動基準について学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う 0
25	第25回 スポーツから学ぶ③	《目標設定》 スポーツ選手（アスリート）の行動基準から自分の目標設定の方法について学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う 0
26	第26回 健康増進のための身体運動について①	《体力とは》 ①体力の概念と体力要素（身体的要素 精神的要素）について学びます。 ②運動の原理原則について理解し、効果的な運動の方法について学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う 30
27	第27回 健康増進のための身体運動について②	《エクササイズの方法について》 健康の保持増進やからだをつくるための方法（①有酸素運動 ②筋力トレーニング ③ストレッチ ④バランス 等）や実施する際のポイントについて学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う 30

科目名	キャリアデザインⅡ	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 1単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 1単位 選択/家政学部 食物栄養学科 2年 1単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 1単位 選択
担当教員	森 みい		
開講期	前期		
授業概要	<p>【授業のねらい】 将来の社会生活や職業生活に向けて、自らの資質を向上させ、社会的職業的自立を図るために必要な能力を培い、幅広い人間形成を図ることを目的としています。社会人としての自覚と行動を視野に入れて、主体的にキャリア形成能力を育成します。働くことの実態、意義、面白みを体感していきます。インターンシップを推進して、学生の自己認識、社会・職業認識の深化を促し、就職意欲のある学生に対して、豊富かつ適切な就職情報を提供するとともに希望に添った就職活動が行えるよう支援します。</p> <p>【授業の概要】 インターンシップ（就業体験）を通じ、自らの専門や将来希望する職業の関連した職場での体験で、学んでいる内容と社会との関連性を認識し、今後の主体的な学修への動機付けを強め、職業を具体的に理解することで仕事の奥深さを実感していきます。働くことについて総合的に理解や仕事をする達成感、充実感、社会貢献を体得します。前期7回の講義、夏休み期間中のインターンシップ（5日間）、および、受け入れ企業のご担当者をお招きした報告会から構成されています。インターンシップ終了後報告書を作成することで成果と課題を理解します。担当者は、大学・短大の就職部長であり、キャリアコンサルタントの資格を有し、長く就職指導にあたっています。</p>		
達成目標	<p>【授業終了時の達成目標】 インターンシップを通して、社会人として必要な能力と知識を学び、今後の学生生活の中に活かしていくことで、新たな学習意欲の契機となることをことを目標とします。仕事の奥深さを実感し、働くことへの理解、充実感や社会への貢献を感じ取る事を目的とします。</p>		
受講資格	特になし	成績評価 方法	就業体験50%・授業参加30%・報告会10%・提出物10%「認」評価判定
教科書	なし		
参考書	なし		
学生への要望	インターンシップは自分の変化や成長を実感できる機会です。広い視野を持ち、各個人のキャリアを考えて、新たな挑戦で自らの可能性の枠を広げてみてはどうでしょう。		
オフィスタイム	月曜日 9:00～12:30 水曜日 9:00～12:30 事前にご相談いただければそれ以外でも対応します。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	インターンシップの概要 4/18 (Vコマ)	インターンシップの概要説明で理解を深める、インターンシップの目的の明確化。各業界の今後の発展方向をみる。就業体験先の希望調査。「インターンシップ希望調査票」「志望理由」の提出をする。インターンシップの取り組みを動画を見て、ワークを実施しながらインターンシップの考えを深化させていく。(ムビケーションの実施)	0
2	インターンシップの心構え 5/16 (Vコマ)	身近な若き経営者の講演を実施する。社会と協働する中で、自立した個人として人生をどう生きるかを考えながら、人間力や就業観の醸成及び学習意欲を高めていく。	0
3	事前指導 (ビジネス文書作成) 6/27 (Vコマ)	メールと封書でのお礼状の書き方を理解して実践する。また電話やメールのアポイントのとり方を学ぶ。また、就業体験先の決定をする。	0
4	事前指導 (マナー講座) 7/11 (Vコマ)	マナー講座実施を通して、言葉遣い、立ち居振る舞い、挨拶等、円滑な人間関係を築くための基礎を身に付ける。就業体験先の打合せをする。	0
5	直前指導 (インターンシップ先の企業研究)7/25 (Vコマ)	業界・企業知識やインターンシップ(就業体験)の基本知識を学び、企業研究を深める。先輩の体験からインターンシップ直前の留意点を確認する。	0
6	インターンシップ I班 8/19～8/23・2班8/26～8/30	各企業において、夏季休業中(8月中旬～下旬)に5日間のインターンシップ(就業体験)を行います。	0
7	インターンシップ報告会 9/5 (Iコマ)	事後報告会として、グループで全員が報告会を実施する。実習日誌、その他の提出物を提出する。	0
8	インターンシップ報告会 9/5 (Iコマ)	事後報告会として、グループで全員が報告会を実施する。実習日誌、その他の提出物を提出する。	0

科目名	人間発達学		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 必修
担当教員	堀 琴美			
開講期	前期			
授業概要	人は生涯にわたって発達を続けます。成人後も老年期も、人間として成長し、円熟し、次の世代を育てて、いのちのバトンをつないでいきます。また、子どもの成長と発達には、様々な発見と驚きに満ちた、奥深い世界です。この授業では、発達心理学の基本的な知識を学ぶと同時に、最新の話題と情報を取り入れながら、人間の発達と成長について考えていきます。担当教員の医療・福祉分野における心理臨床の実務経験を活かし、訓練用構成事例や視聴覚教材を駆使して子どもや大人の姿が目に見えるように伝えます。授業は毎回、対話型双方向型で進めていきますので、活発な質問や意見を歓迎します。ディスカッションやグループワークも行いますので、学んだことや感じたことを多めに語り合ってください。 実務経験：臨床心理士として医療機関、福祉施設に勤務。			
達成目標	【達成目標】 ①エリクソン、ハヴィガースト、ピアジェなど、主要な発達理論を理解する。 ②子どもの成長の過程（身体、運動機能、認知、感情、知能、精神）を理解する。 ③愛着理論や母子関係の理論、子ども虐待、愛着障害など、重要な概念を理解する。			
受講資格	人間生活学科 2年生 (生活総合コースは必修)	成績評価 方法	期末試験または期末レポート（80%） 発言内容・受講態度、普段のレポート（20%）	
教科書	授業でレジュメや資料を配布する。			
参考書	テーマ別に授業で紹介する。			
学生への要望	授業では、理解を深め、身近なものとして感じることできるよう、できるだけグループ討論や・ワークやディスカッションを多く取り入れたいと思います。積極的に参加して、おおいに意見を交わしてください。			
オフィスタイム	水曜IV限、木曜I限、臨床心理学研究室。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	オリエンテーション	授業目標、授業計画、授業ポリシー、評価方法などについて。 発達心理学とは何か。	次回授業内容（発達理論）について、参考書等にあたり、キーワードを調べておく。	30
2	発達理論	代表的な理論家たち（フロイト、ハヴィガースト、エリクソン等）の発達理論を紹介します。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
3	子どもの発達 I	発達心理学のはじまり、昔の「子ども観」、発達の評価、遺伝か環境か。 赤ちゃんの力。生理的早産、視覚・聴覚・嗅覚、原始反射、新生児模倣、言葉の準備などについて。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
4	子どもの発達 I 乳児期（0～1歳）	はいはいから歩行へ。言葉の獲得。睡眠の変化。嘔吐力と離乳食など。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
5	子どもの発達 II 幼児期（2～3歳）の発達	自我のめざめと反抗期。言葉の発達。認識の広がり。「ごっこ」遊びなど。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
6	子どもの発達 III 幼児期（4～5歳）の発達	子どもの思考能力（ピアジェ）、自己中心性、子どもの描く絵、言葉と文法、ルールの学習など。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
7	子どもの発達 IV 児童期の発達	ギャングエイジ、兄弟の影響、知能検査、やる気を育てる、同調圧力、いじめなどについて	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
8	子どもの発達 IV 子どもの道徳性の発達	コールバーグ、ギリガン、バンデューラの理論、反抗期「恐怖の2歳児」、こころの理論などについて。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
9	青年期・成人期・高齢期の発達	アイデンティティの獲得、モラトリアム、青年期の心理的危機と精神疾患。 人生のパートナーを探す、次世代を育成する、人生を振り返る、などについて。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
10	愛着理論 I 愛着と基本的信頼	ボウルビイの愛着理論、エインスワースの安全基地、神経ネットワークの発達からみる愛着の形成など。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
11	愛着理論 II 愛着と共感する力	愛情ホルモンの機能と役割、物マネ神経細胞の発見、共感する力や想像力はどのように育まれるのか、など。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
12	愛着障害と虐待	反応性愛着障害、虐待された子ども、親の養育を支援する、などについて。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
13	ネグレクトの影響	ネグレクトの種類、感受期、言葉の獲得、「犬に育てられた少年」を取り上げます。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30

回	項目	授業内容	
14	発達のおまげ	発達障害とは、アスペルガー障害（事例）、支援の方法、サヴァン症候群などについて	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。30
15	まとめと補足	まとめ、補足説明、掘り下げ討論など。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。30

科目名	社会調査法		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択/短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 2単位 選択
担当教員	長谷川 貴弘			
開講期	後期			
授業概要	<p>社会調査というものが何を目的として、どのように行われるのかという基礎知識の習得に努めた上で、データや数字に対する忌避感を和らげるため、身近な例を挙げて平易な解説に努め、社会調査への理解を深めることを目標とした。</p> <p>なお、内閣府での勤務経験を活かし、授業の中で統計データの見方、活用の仕方について採り上げていく。</p> <p>○実務経歴 内閣府政策統括官（経済財政分析担当）付参事官（海外担当）付任期付職員として従事。</p>			
達成目標	社会調査におけるデータの収集、分析・加工、報告について理解を深めることを目標とする。			
受講資格	家政学部 人間生活学科 3年生 短期大学部 専攻科 1年生	成績評価 方法	①小テスト30点（15点×2回） ②課題（レポート）70点	
教科書	プリントを配布する。			
参考書	轟亮・杉野勇編「入門・社会調査法」法律文化社			
学生への要望	授業中はしっかりとノートを取り、課題に取り組むこと。			
オフィスタイム	火曜日 2コマ 水曜日4コマ 経営管理学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	ガイダンス 社会調査とは何か	授業の進め方、評価方法について。 社会調査とは何か、何を目的として行われ、どのように分類されるか学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
2	社会調査の種類①	社会調査の分類、量的調査と質的調査について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
3	社会調査の種類②	社会調査における質的調査の特徴について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
4	社会調査のプロセス	社会調査の全体像の把握と、構想・計画・実査・データの入力と点検、報告、管理について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
5	社会調査のデザイン①	社会調査の調査内容とその検証について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
6	社会調査のデザイン②	仮説の検証とより良い調査研究について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
7	実査の方法①	データ収集法選択の基準について学修する。	これまでの学修内容を確認し、小テストに備えること。	60
8	実査の方法②	様々な調査方法のうち、適切なデータ収集法の選択について学修する。小テスト（1回目）	これまでの学修内容を確認し、小テストに備えること。	60
9	調査票の作成	調査票の作成、手順、構成、質問形式、質問を作成・配置する場合の留意点について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
10	サンプリング	調査対象の選び方について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
11	調査の実施	郵送法実査、個別面接法実査等の運営・手順について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
12	データファイルの作成	データ入力とその手順について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
13	データの集計方法	情報の集約、代表値（平均）から相関係数について学修する。	これまでの学修内容を元に、レポートを作成する。	60
14	調査報告とデータの管理	調査の報告と報告後のデータの管理について学修する。	これまでの学修内容を元に、レポートを作成する。	60
15	社会調査の倫理について 学修の総まとめ	社会調査協会倫理規定に基づいて社会調査の倫理について学修する。小テスト（2回目）	これまでの学修内容を確認し、小テストに備えること。	60

科目名	社会福祉援助技術論Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 必修
担当教員	島野 光正		
開講期	前期		
授業概要	<p>1. 社会福祉援助技術を社会福祉実践につながるかたちで学ぶ。 2. 援助活動の基になる援助関係について知る。総合的・包括的な援助と多職種連携の意義と内容を理解する。 3. 福祉専門職について考える。専門職の概念と範囲及び専門職の倫理について理解する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 社会福祉における援助活動の意義を理解したうえで、専門的援助関係、社会福祉援助技術の体系・構成・内容、間接援助技術・関連援助技術、社会福祉援助技術の展開過程、多職種連携等を学ぶ。</p> <p>【授業修了時の達成課題（到達目標）】 対象別・分野別社会福祉援助技術の理解と、援助技術の具体的な展開過程を理解する。 1. 社会福祉援助技術について実践に繋がるかたちで理解を深める。 2. 援助関係について理解し、多職種連携の意義について理解を深める。 3. 福祉専門職の概念や専門職の倫理について理解を深める。</p> <p>実務経験：社会福祉法人での生活相談員、ソーシャルワーカー、社会福祉士兼主任介護支援専門員、介護支援センター管理者を経て、現在社団法人にて事務部次長等として勤務する経験を活かし、授業を行う。 実務経歴：社会福祉法人での生活相談員、ソーシャルワーカー、社会福祉士、主任介護支援専門員、介護支援センター管理者を経て、現在社団法人にて事務部次長等として勤務。</p>		
達成目標	<p>1. 社会福祉援助技術を社会福祉実践につながるかたちで学ぶ。 2. 援助活動の基になる援助関係について知る。総合的・包括的な援助と多職種連携の意義と内容を理解する。 3. 福祉専門職について考える。専門職の概念と範囲及び専門職の倫理について理解する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 社会福祉における援助活動の意義を理解したうえで、専門的援助関係、社会福祉援助技術の体系・構成・内容、間接援助技術・関連援助技術、社会福祉援助技術の展開過程、多職種連携等を学ぶ。</p> <p>【授業修了時の達成課題（到達目標）】 対象別・分野別社会福祉援助技術の理解と、援助技術の具体的な展開過程を理解する。 1. 社会福祉援助技術について実践に繋がるかたちで理解を深める。 2. 援助関係について理解し、多職種連携の意義について理解を深める。 3. 福祉専門職の概念や専門職の倫理について理解を深める。</p>		
受講資格	社会福祉援助技術論Ⅰの終了を原則とする	成績評価 方法	出席状況(20%)及びレポート(80%)により評価する
教科書	新・社会福祉士養成講座8 相談援助の理論と方法Ⅱ（中央法規出版）		
参考書	適宜紹介します。		
学生への要望	事前にテキストを読んでくるのを前提にすすめます。		
オフィスタイム	授業開始前：創学館2階教務部非常勤講師室 授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	・オリエンテーション ・相談援助とは	<p>・講義の概要と到達目標について ・講義の進め方について ・予習復習について</p> <p>◎社会福祉士と社会福祉援助技術 1. ソーシャルワーカーの具体的な事例 2. 仕事からとらえたソーシャルワーカーの定義と枠組み 3. ソーシャルワークを構成する要素 4. ソーシャルワークの職場 5. ソーシャルワーカーが所属する組織</p>	<p>テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。</p> <p>60</p>
2	・社会福祉における援助活動の意義 ・相談援助の構造と機能	<p>◎社会福祉援助技術の意義 1. ソーシャルワークの構造 2. ソーシャルワークにおけるニーズ 3. ソーシャルワークの機能</p>	<p>テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。</p> <p>60</p>
3	・社会福祉士における援助活動の意義 ・人と環境の相互作用	<p>◎社会福祉士における援助活動の意義 1. 人と環境 2. 環境の意味 3. 人と環境の全体性 4. システムの作動とサイバネティクス 5. システム理論によるひとつのソーシャルワーク論</p>	<p>テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。</p> <p>60</p>

回	項目	授業内容		
4	・社会福祉専門職と社会福祉援助技術 ・相談援助における援助関係	◎ソーシャルワーカーとは ◎専門援助活動、国際ソーシャルワーカー連盟（IFSW）の定義 1. 援助関係の意義 2. 援助関係の形成プロセスに影響する要因 3. 援助構造と援助関係 4. 援助関係の質と自己覚知 5. 援助関係とマイクロからマクロ実践領域	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
5	・専門援助技術と倫理 ・相談援助の展開過程Ⅰ	◎倫理的ジレンマ、専門性の構造と三つの要素、倫理・哲学、専門知識、専門技術とエンパワメント 1. 相談援助の展開過程の流れ 2. ケース発見 3. 受理面接（インテーク） 4. 問題把握からニーズ確定まで 5. ニーズ確定から事前評価（アセスメント）まで 6. 事前評価から支援目標・目標設定まで 7. 支援目標から支援の計画（プランニング）まで 8. 支援の計画（プランニング）から支援の実施まで	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
6	・専門的援助関係とコミュニケーション ・相談援助の展開過程Ⅱ	◎援助関係、コミュニケーション、共感、信頼関係 1. 経過観察（モニタリング） 2. 再アセスメントと支援の強化 3. 支援の終結と効果測定、評価、アフターケア 4. 予防的対応とサービス開発	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
7	・ソーシャルワーカーの専門性 ・相談援助のためのアウトリーチ技術	◎倫理綱領、自己覚知と他者理解 1. アウトリーチの意義と目的 2. アウトリーチの方法と留意点	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
8	・専門援助技術をめぐるわが国及び諸外国の動向 ・相談援助のための契約の技術	◎社会福祉援助技術の理解と動向、諸外国の動向、日本の動向、歴史 1. 契約の意義と目的 2. 契約の方法と留意点	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
9	・社会福祉援助活動の共通課題 ・相談援助のためのアセスメント技術	◎契約、面談、記録、評価など 1. ソーシャルワークにおけるアセスメントの特性、援助関係、面接 2. アセスメントで得るべき情報 3. アセスメント面接で得た情報の使い方	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
10	・社会福祉援助技術の体系と内容 ・相談援助のための介入の技術	◎援助概念、体系、総合化 1. 介入の意義と目的 2. 介入の方法と留意点	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
11	・社会福祉援助技術の構成 ・相談援助のための経過観察（モニタリング）、再アセスメント、効果測定、評価の技術	◎直接援助技術（個別援助技術、集団援助技術） 1. 経過観察（モニタリング） 2. 再アセスメント 3. 効果測定 4. 評価とサービス開発	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
12	・間接援助技術 ・相談援助のための面接の技術	◎地域援助技術、社会調査法、運営管理、社会福祉活動法、社会福祉計画法 1. 相談援助における面接の目的 2. 相談援助における面接の展開 3. 面接において用いられる技術とコミュニケーション 4. 面接援助における面接の形態	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
13	・その他の関連技術 ・相談援助のための記録の技術	◎ネットワーク、ケアマネジメント、カウンセリング、コンサルテーション ◎介護保険法における居宅サービス計画と施設サービス計画 1. 記録の意義とその活用目的 2. 記録の種類と活用 3. 記録の活用目的と種類との関係 4. 記録の方法とIT化（倫理的配慮について） 5. 記録の技術の実際例と今後の課題	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
14	・専門職種の多職種連携（チームアプローチ） ・相談援助のための交渉の技術	◎意義と内容、統合化とチームによる対応、社会福祉援助技術の展開過程 1. 交渉の意義と目的 2. 交渉の方法 3. プレゼンテーションの技術	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
15	・記録と計画	◎記録と計画 まとめ	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

科目名	社会福祉援助技術論Ⅲ	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 選択
担当教員	島野 光正		
開講期	後期		
授業概要	<p>【履修カルテの評価項目】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉援助技術論Ⅰ・Ⅱをさらに深める。 2. 援助技術における人と環境との相互作用に関する理論について理解する。 3. 援助技術の詳説として事例分析や意義について理解する。 <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>社会福祉援助技術の対象分野を理解した上で、個別援助技術、集団援助技術、地域援助技術等の展開過程を学ぶ。 また、社会福祉調査法、社会福祉計画、社会活動の理論と技術、さらに介護保健下におけるケアマネジメントについて学ぶ。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</p> <p>対象別・分野別社会福祉援助技術の理解と、援助技術の具体的な展開過程を理解する。</p> <p>実務経験：社会福祉法人での生活相談員、ソーシャルワーカー、社会福祉士兼主任介護支援専門員、介護支援センター管理者を経て、現在社団法人にて事務部次長等として勤務する経験を活かし、授業を行う。 実務経歴：社会福祉法人での生活相談員、ソーシャルワーカー、社会福祉士、主任介護支援専門員、介護支援センター管理者を経て、現在社団法人にて事務部次長等として勤務。</p>		
達成目標	<p>【履修カルテの評価項目】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉援助技術論Ⅰ・Ⅱをさらに深める。 2. 援助技術における人と環境との相互作用に関する理論について理解する。 3. 援助技術の詳説として事例分析や意義について理解する。 <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>社会福祉援助技術の対象分野を理解した上で、個別援助技術、集団援助技術、地域援助技術等の展開過程を学ぶ。 また、社会福祉調査法、社会福祉計画、社会活動の理論と技術、さらに介護保健下におけるケアマネジメントについて学ぶ。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</p> <p>対象別・分野別社会福祉援助技術の理解と、援助技術の具体的な展開過程を理解する。</p>		
受講資格	社会福祉援助技術論Ⅱの終了を原則とする	成績評価 方法	出席状況(20%)および定期試験(80%)により評価する
教科書	新・社会福祉士養成講座8 相談援助の理論と方法Ⅱ（中央法規出版）		
参考書	適宜紹介します。		
学生への要望	事前にテキストを読んでくるのを前提に進めます。		
オフィスタイム	月曜日授業開始前（創学館2階教務部内非常勤講師室）、授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	オリエンテーション、人と環境の相互作用、相談援助における対象の理解	<p>◎講義の概要の説明 ◎社会福祉援助技術の適用領域と対象分野</p> <p>1. 社会福祉援助活動の概念と定義 2. 相談援助の対象を動とらえるか。</p>	60
2	相談援助の対象、ケアマネジメント	<p>◎過程、援助関係、面接技術、アウトリーチ、社会資源の活用・調整・開発を理解する</p> <p>1. ケアマネジメントの基本 2. ケアマネジメントの過程 3. ケアマネジメントにおけるアセスメントの特徴 4. ケアプランの作成・実施の特徴 5. ケアマネジメントの特徴 6. ケアマネジメントとソーシャルワークの関係</p>	60
3	分野別社会福祉援助技術、グループを活用した相談援助	<p>◎分野別社会福祉援助技術、対象別社会福祉援助技術</p> <p>1. グループを活用した相談援助 2. 自助グループを活用した相談援助</p>	60

回	項目	授業内容	
4	個別援助技術の展開過程、コーディネーションとネットワークワーキング	◎インテーク、アセスメントとプランニング、援助の展開期（援助実施、モニタリング）、援助の終結期を具体的に学習する。 1. コーディネーションの目的と意義 2. コーディネーションの方法、留意点 3. ネットワーキングの意義と目的 4. ネットワーキングの方法 5. 地域福祉を推進するための総合的なネットワークの形成とシステム化	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。
5	集団を活用した集団援助技術の展開過程、相談援助における社会資源の活用・調整・開発	◎援助の準備期（グループの計画、形成計画、波長合わせ、援助チームとの合意、他） 援助の開始期（グループの特徴、援助者の役割、援助者の援助技術）援助の作業期（評価） 援助の終結期（終結の評価、終結期の計画の確認、記録まとめ） 1. 社会資源の活用・調整・開発の意義と目的 2. 治療モデル、生活モデル、ストレングスモデル 3. ジェネラリスト・ソーシャルワークの展開と実践モデル	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。
6	地域援助技術の理論と技術、さまざまな実践モデルとアプローチ I	◎展開過程を学ぶ 1. 実践モデルとその意味 2. 治療モデル、生活モデル、ストレングスモデル 3. ジェネラリスト・ソーシャルワークの展開と実践モデル	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。
7	地域援助技術の理論と技術、さまざまな実践モデルとアプローチ	◎社会福祉調査法の理論と技術を学ぶ 1. 心理社会的アプローチ 2. 機能的アプローチ 3. 問題解決アプローチ 4. 課題中心アプローチ 5. 危機介入アプローチ 6. 行動変容アプローチ	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。
8	地域援助技術の理論と技術、さまざまな実践モデルとアプローチ	◎社会福祉計画法の理論と技術を学ぶ 1. エンパワメントアプローチ 2. ナラティブアプローチ 3. その他の実践アプローチ 4. 実践アプローチをめぐる課題	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。
9	社会福祉の運営管理、スーパービジョンとコンサルテーションの技術	◎社会福祉の運営管理を学ぶ 1. スーパービジョンの意義と目的 2. スーパービジョンの方法と留意点 3. コンサルテーション	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。
10	社会活動の倫理と技術、ケースカンファレンスの技術	◎社会活動の倫理と技術、ネットワーク（多職種、他機関との連携を含む） 1. ケースカンファレンスの意義と目的 2. ケースカンファレンスの運営と展開過程 3. ケースカンファレンスの実際 4. ケースカンファレンスの評価と普遍化	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。
11	ケアマネジメントとによる直接援助、相談援助における個人情報の保護	◎ケアマネジメントの目的と概念、構成要素、展開過程を学ぶ 1. 相談援助と個人情報保護 2. 個人情報とは 3. 個人情報保護の考え方 4. 個人情報保護制度の展開 5. 個人情報保護の制度 6. 相談援助における個人情報保護の課題	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。
12	介護保険法下でのケアマネジメント、相談援助における情報通信技術（ICT）の活用	◎介護保険法下でのケアマネジメント、ケアマネジャー養成と四角などを学ぶ 1. 情報通信技術（ICT）と福祉情報 2. 相談援助における情報通信技術の活用 3. 事例分析の目的と意義 4. 事例分析の方法と留意点	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。
13	記録とスーパービジョン、事例研究・事例分析	◎記録とスーパービジョン、個人情報の保護と留意点を学ぶ 1. 事例研究の方法 2. 事例研究の方法と留意点 3. 事例分析の目的と意義 4. 事例分析の方法と留意点	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。

回	項目		授業内容	
14	効果測定と評価	◎効果測定と評価を学ぶ ◎事例1～5を学ぶ	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
15	まとめ	◎授業のまとめ	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

科目名	医学一般	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 必修	
担当教員	大西 弘太郎			
開講期	前期			
授業概要	高齢者の健康管理に必要な医学知識を概説する。 実務経歴：医療法人・南労会、社会医療法人・西陣健康会、医療法人・郡山病院などでの実務経験をもとに講義を行う。実務経歴：医師として医療機関に勤務している。			
達成目標	高齢者の健康にかんする基礎的知識が習得されているか。			
受講資格	家政学部 人間生活学科福祉コース 3年	成績評価 方法	小テスト (20%) レポート (80%)	
教科書	人体の構造と機能及び疾病 中央法規出版株式会社			
参考書	なし			
学生への要望	双方向の授業を期待します。			
オフィスタイト	臨床医学研究室 水曜日 08:30~12:00、15:00~17:00。 木曜日 08:30~12:00。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	120
1	健康寿命と平均寿命	主な死因と人口動態	寿命・死因・人口動態などについて予習・復習をしましょう。
2	高齢者の健康管理	高齢者の健康と死因	高齢者の疾患・死因などについて予習・復習をしましょう。
3	高齢者の感染症	日和見感染症 院内感染症	日和見感染症・院内感染症などについて復習をしましょう。
4	認知症の諸問題	認知症とは 認知症の疫学 生理的健忘と認知症の健忘の異同 認知症の中核症状とBPSD(行動・心理症状) アルツハイマー病の概要 脳血管性認知症の概要 認知症の経過と予後	認知症について予習・復習をしましょう。
5	認知症とライフスタイル	認知症のリスクファクター 認知症とライフスタイル 認知症の予防	認知症について予習・復習をしましょう。
6	脳血管疾患 その1	脳卒中の疫学 脳卒中の分類 脳卒中のリスクファクター	脳血管障害について予習・復習をしましょう。
7	脳血管疾患 その2	脳梗塞の症状と治療 脳出血の症状と治療	脳血管障害について予習・復習をしましょう。
8	呼吸器 その1	慢性閉塞性肺疾患(COPD)	慢性閉塞性肺疾患(COPD)について予習・復習をしましょう。
9	呼吸器 その2	肺結核	結核について予習・復習をしましょう。
10	呼吸器 その3	高齢者と肺炎 嚥下性肺炎 予防とワクチン	肺炎について予習・復習をしましょう。
11	運動器 その1	ロコモティブシンドロームとは 疫学 治療と予防	ロコモティブシンドロームについて予習・復習をしましょう。
12	運動器 その2	高齢者と骨代謝	骨代謝、骨粗鬆症などについて予習・復習をしましょう。
13	運動器 その3	高齢者と骨折 高齢者と易転倒性	骨折・転倒などについて予習・復習をしましょう。
14	褥瘡	褥瘡とは 褥瘡はなぜ危険か 褥瘡の予防と治療	褥瘡について予習・復習をしましょう。
15	まとめ	要介護のリスク要因 健康寿命とライフスタイル	(主として高齢者の)健康管理について予習・復習をしましょう。

科目名	地域福祉論 I	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 必修
担当教員	菊地 達美		
開講期	前期		
授業概要	地域福祉における理論や体系について深め地域福祉の理念と内容について理解する。また、地域福祉の実践や政策的展開についても学ぶとともに、地域福祉計画や地域推進の意義やシステムについても理解を進める。 実務経験：社会福祉法人勤務を経て、現在社会福祉法人施設長として勤務する経験を活かし、授業を行う。 実務経歴：社会福祉法人勤務を経て、現在社会福祉法人施設長として勤務。		
達成目標	地域福祉における理論や体系について深め地域福祉の理念と内容について理解する。また、地域福祉の実践や政策的展開についても学ぶとともに、地域福祉計画や地域推進の意義やシステムについても理解を進める。		
受講資格	人間生活学科福祉コース 2年	成績評価 方法	レポート提出50点、国家模擬試験50点
教科書	「地域福祉の理論と方法」		
参考書	新・社会福祉士養成講座 地域福祉の理論と方法 中央法規		
学生への要望	国家試験の過去問を行っておくこと		
オフィスタイム	月曜Ⅱ orⅣ限の教務部非常勤控室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	講義	地域福祉の発展過程	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
2	講義	福祉サービスシステムとしての地域福祉	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
3	講義	地域福祉の概念と体系化	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
4	講義	地域自立支援と福祉圏域	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
5	講義	地域コミュニティと社協・自治体の役割	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
6	講義	地域福祉推進と福祉教育	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
7	講義	福祉教育の内容と目標	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
8	講義	地方分権と地域福祉計画	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
9	講義	社会福祉協議会と社会福祉法人の役割	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
10	講義	市民活動とコミュニティビジネス	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
11	講義	コミュニティソーシャルワーク概念とシステム	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
12	講義	チームアプローチとコミュニティソーシャルワーク	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
13	講義	専門職の役割と地域住民の関係	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
14	講義	地域福祉推進と住民参加	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
15	講義	市町村自治体と住民参加	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60

科目名	地域福祉論Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 選択	
担当教員	菊地 達美			
開講期	後期			
授業概要	地域福祉における理論や体系について深め地域福祉の理念と内容について理解する。また、地域福祉の実践や政策的展開についても学ぶとともに、地域福祉計画や地域推進の意義やシステムについても理解を進める。 実務経験：社会福祉法人勤務を経て、現在社会福祉法人施設長として勤務する経験を活かし、授業を行う。 実務経歴：社会福祉法人勤務を経て、現在社会福祉法人施設長として勤務。			
達成目標	地域福祉における理論や体系について深め地域福祉の理念と内容について理解する。また、地域福祉の実践や政策的展開についても学ぶとともに、地域福祉計画や地域推進の意義やシステムについても理解を進める。			
受講資格	人間生活学科 2年	成績評価 方法	レポート提出50点、国家模擬試験50点	
教科書	新・社会福祉士養成講座 地域福祉の理論と方法 中央法規			
参考書	特に指定しない			
学生への要望	国家試験の過去問を行っておくこと			
オフィスタイム	月曜Ⅱ orⅣ限の教務部非常勤控室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	講義	ソーシャルサポートネットワーク	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
2	講義	ソーシャルサポートとコミュニティソーシャルワーク	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
3	講義	社会資源の活用	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
4	講義	福祉サービスの開発	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
5	講義	まち作りとソーシャルアクション	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
6	講義	地域生活における福祉ニーズ	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
7	講義	福祉ニーズの把握	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
8	演習	地域トータルケアシステムの展開	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
9	演習	地域トータルケアシステムの展開	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
10	講義	福祉サービスの評価と背景	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
11	講義	福祉サービス評価の方法	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
12	講義	プログラム評価と展開	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
13	講義	イギリスの地域福祉	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
14	講義	アメリカの地域福祉	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
15	講義	地域福祉論のまとめ	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60

科目名	福祉行財政と福祉計画	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 4年 2単位 選択
担当教員	近内 直美		
開講期	後期		
授業概要	国や地方自治体における行財政や各種福祉計画の体系及び策定手順を理解し、財政の仕組みと福祉計画の視点を学ぶ。 地域包括支援センターでの勤務経験を活かして、福祉計画が住民の生活にどのように結び付いているのか理解が進むように授業を進める。 実務経験：所長兼社会福祉士、主任介護支援専門員などの職種として地域包括支援センターに勤務		
達成目標	①社会福祉の専門職としてふさわしい福祉行財政および福祉計画の基本的知識を習得できる。 ②福祉行財政および福祉計画を理解し、住民や関係機関の参画による計画策定から評価など運営などの技法について理解する。		
受講資格	人間生活学科福祉コース	成績評価 方法	定期試験50%、課題50%。
教科書	新・社会福祉士養成講座10 「福祉行財政と福祉計画」中央法規		
参考書	適宜指示する。		
学生への要望	・専門用語など難解な単語を事前に学習し、授業内容の理解に努めてほしい。 ・主体的・積極的に学ぼうとする姿勢を期待する。		
オフィスタイム	月曜日Ⅱ時限・Ⅲ時限（10：30～12：00、12：50～14：20） 創学館4F、No. 6研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	福祉行財政と福祉計画1	オリエンテーション 福祉行財政の概要 2回目以降、学生自身の考えや発想を発表し、ディスカッションやグループワークを取り入れた双方向型の授業を行う。	45
2	福祉行財政と福祉計画2	社会福祉の法制度の展開について	45
3	福祉行財政と福祉計画3	福祉計画の概要	45
4	福祉行政1	行政の骨格、法制度	45
5	福祉行政2	国及び地方自治体の役割と組織	45
6	福祉行政3	社会福祉基礎構造	45
7	福祉財政	財政と社会保障費	90
8	福祉行政の組織・団体と専門職の役割	地域の相談システムとその機関及び専門職の役割	45
9	福祉計画の目的と意義	福祉計画の概要目的、福祉現場での援助との連動性	90
10	福祉計画の理論と技法1	福祉計画策定の視点と策定方法	45
11	福祉計画の理論と技法2	福祉計画における住民参加とニーズの把握	45
12	福祉計画の実際1	福祉計画の実際（高齢者分野）について理解する。	45
13	福祉計画の実際2	福祉計画の実際（障がい者分野）	45
14	福祉計画の実際3	福祉計画の実際（児童分野）について理解する。	45
15	福祉計画の実際4	福祉計画の実際（地域福祉分野）について。	45

科目名	福祉サービスの組織と経営		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 4年 2単位 選択
担当教員	近内 直美			
開講期	前期			
授業概要	社会福祉施設を運営していくうえで必要な制度や管理運営について学び、地域の中で活動を展開するために必要なを学ぶ。 社会福祉法人での勤務経験を活かし、福祉理念に基づく「福祉経営及び運営」の在り方を考える授業を行う。 実務経歴：社会福祉法人に事業部長として勤務			
達成目標	①福祉サービスに係る組織や団体について知る。 ②福祉サービスの組織や団体における経営に関して知る。 ③福祉サービスの管理・運営について知る。			
受講資格	人間生活学科福祉コース	成績評価 方法	定期試験50%、課題50%	
教科書	新・社会福祉士要講講座1 「福祉サービスの組織と経営」 (中央法規)			
参考書	適宜指示する			
学生への要望	社会福祉施設や団体の概要とその運営について必要な理念や理論を理解してください。 また、人事管理、運営管理を行う上で、参考となるアプローチについて学んでください。			
オフィスタイム	月曜日Ⅱ・Ⅲ時限 (10:30~12:00、12:50~14:20) 創学館4F、NO. 6研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	オリエンテーション	福祉サービスの組織と経営について理解する。授業の進め方について 不明な単語などの自主学習を行った発表や福祉・医療に関する組織の運営や経営について意見交換を行うなど、双方向型の授業を2回目以降も行う。	・授業の内容を復習する	30
2	福祉サービスにおける経営	福祉サービスにおける組織と経営について理解する	・テキストで予習を行う ・授業内容のポイントをまとめる	60
3	福祉サービスにかかわる組織や団体とは (1)	法人とは何かを知り、その特徴を理解する (「社会福祉法人」について)	・不明な単語の意味を調べる ・課題を行う (社会福祉法人について)	90
4	福祉サービスにかかわる組織や団体とは (2)	法人とは何かを知り、その特徴を理解する (「特定非営利活動法人」および「その他の組織や団体」について)	・テキストにて予習する ・授業のポイントをまとめる	60
5	福祉サービスの組織と経営の基礎理論 (1)	福祉サービスの組織や団体における経営について理解する	・テキストにて予習する ・授業のポイントをまとめる	60
6	福祉サービスの組織と経営の基礎理論 (2)	福祉サービスの組織や団体における事業計画について理解する	・テキストにて予習する ・授業のポイントをまとめる	60
7	福祉サービスの組織と経営の基礎理論 (3)	福祉サービスの組織や団体における管理運営とリーダーシップについて理解する	・テキストにて予習する ・課題を行う (リーダーシップ論について)	90
8	福祉サービスにおけるマネジメント (1)	福祉サービスにおけるサービス管理と質について	・テキストにて予習する ・授業のポイントをまとめる	60
9	福祉サービスにおけるマネジメント (2)	リスク管理と福祉サービス提供上の課題	・テキストにて予習する ・授業のポイントをまとめる	60
10	福祉サービスの管理運営 (1)	人事管理について	・テキストにて予習する ・授業のポイントをまとめる	60
11	福祉サービスの管理運営 (2)	労務管理について	・テキストにて予習する ・授業のポイントをまとめる	60
12	福祉サービスの管理運営 (3)	会計管理と財務管理①	・テキストにて予習する ・授業のポイントをまとめる	60
13	福祉サービスの管理運営 (4)	会計管理と財務管理②	・テキストにて予習する ・課題を行う (社会福祉法人の財務諸表について)	60
14	福祉サービスの管理運営 (5)	情報管理と戦略的広報	・テキストにて予習する ・授業のポイントをまとめる	60
15	まとめ	福祉サービスの組織や団体の特徴を各組織ごとに全体のまとめを行う	・復習を行い、不足している部分をまとめる	60

科目名	権利擁護と成年後見制度	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 必修
担当教員	鈴木 康元		
開講期	後期		
授業概要	[授業の目的・ねらい] 権利擁護の重要性と成年後見制度の実際及び更生保護制度について理解する [授業全体の内容の概要] 人権や民法の基本知識を教え、成年後見制度等の実態も理解してもらう [授業終了時の達成課題（到達目標）] 成年後見制度、更生保護制度の概要の理解 実務経験：弁護士として、法律事務所長として勤務する経験を活かし、授業を行う。 実務経歴：弁護士として、法律事務所長として勤務。		
達成目標	[授業の目的・ねらい] 権利擁護の重要性と成年後見制度の実際及び更生保護制度について理解する [授業全体の内容の概要] 人権や民法の基本知識を教え、成年後見制度等の実態も理解してもらう [授業終了時の達成課題（到達目標）] 成年後見制度、更生保護制度の概要の理解		
受講資格	人間生活学科福祉コース3年	成績評価 方法	ペーパーテスト(80%)と出席状況(20%)
教科書	その都度指定する 配付資料		
参考書	その都度指定する 配付資料		
学生への要望	積極的に授業に臨むこと		
オフィスタイト	授業開始前：創学館2階教務部非常勤講師室 授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	1 高齢者・障害者の人権と権利擁護	高齢者・障害者の人権と権利擁護	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	30
2	2 意思能力とは何か（民法の理解を含む）	意思能力とは何か（民法の理解を含む）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
3	3 相談援助活動と法（日本国憲法、民法の理解を含む）	相談援助活動と法（日本国憲法、民法の理解を含む）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
4	4 相談援助活動と法（行政法の理解を含む）	相談援助活動と法（行政法の理解を含む）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
5	5 成年後見制度とは何か（基本理解）	成年後見制度とは何か（基本理解）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
6	6 成年後見制度の運用実態（問題点も含む）	成年後見制度の運用実態（問題点も含む）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
7	7 日常生活自立支援及び成年後見制度利用支援事業について	日常生活自立支援及び成年後見制度利用支援事業について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
8	8 権利擁護に係る組織、団体の役割と実際（地方公共団体、社会福祉協議会、弁護士会等の役割）	権利擁護に係る組織、団体の役割と実際（地方公共団体、社会福祉協議会、弁護士会等の役割）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
9	9 権利擁護活動の実際	権利擁護活動の実際	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
10	10 刑事司法、少年法の基本理解	刑事司法、少年法の基本理解	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
11	11 更生保護制度の概要（その必要性）	更生保護制度の概要（その必要性）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
12	12 更生保護制度の担い手	更生保護制度の担い手	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
13	13 更生保護制度における関連機関・団体との連携	更生保護制度における関連機関・団体との連携	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
14	14 医療観察制度の概要	医療観察制度の概要	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
15	15 更生保護における近年の動向と課題	更生保護における近年の動向と課題	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

科目名	相談援助実習指導Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 1単位 選択
担当教員	島野 光正		
開講期	後期		
授業概要	<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談援助実習の意義や目的を理解することができ、養成校で学ぶ知識、技術等を具体的かつ実際に理解できるよう、また、実践的な技術等を体得できるようにする。 ・実習体験を通して、大学の講義で学んだソーシャルワークの価値・知識・技術がどのように現場実践で活かされているのかを振り返る。 <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験した相談援助実習からソーシャルワーカーに必要な価値・知識・技術がどのように現場実践で展開されているか抽出を行いながら振り返ります。 ・他の学生の実習体験も学びながら、それぞれ違う施設であっても共通の価値や技術を元に社会福祉士が業務を行っていることを学びます。 ・また実習体験を振り返りながら、あらためて実習計画を立て直し、職場・職種・ソーシャルワーク実習の三段階実習の形に組み立て直します。 ・上記を通じて社会福祉士としての必要な価値・知識・技術について体験的に理解することを目標にします。 <p>〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉に求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力が習得できるようにする。 <p>実務経験：社会福祉法人での生活相談員、ソーシャルワーカー、社会福祉士兼主任介護支援専門員、介護支援センター管理者を経て、現在社団法人にて事務部次長等として勤務する経験を活かし、授業を行う。 実務経歴：社会福祉法人での生活相談員、ソーシャルワーカー、社会福祉士、主任介護支援専門員、介護支援センター管理者を経て、現在社団法人にて事務部次長等として勤務する。</p>		
達成目標	<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談援助実習の意義や目的を理解することができ、養成校で学ぶ知識、技術等を具体的かつ実際に理解できるよう、また、実践的な技術等を体得できるようにする。 ・実習体験を通して、大学の講義で学んだソーシャルワークの価値・知識・技術がどのように現場実践で活かされているのかを振り返る。 <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験した相談援助実習からソーシャルワーカーに必要な価値・知識・技術がどのように現場実践で展開されているか抽出を行いながら振り返ります。 ・他の学生の実習体験も学びながら、それぞれ違う施設であっても共通の価値や技術を元に社会福祉士が業務を行っていることを学びます。 ・また実習体験を振り返りながら、あらためて実習計画を立て直し、職場・職種・ソーシャルワーク実習の三段階実習の形に組み立て直します。 ・上記を通じて社会福祉士としての必要な価値・知識・技術について体験的に理解することを目標にします。 <p>〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉に求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力が習得できるようにする。 		
受講資格	人間生活学科福祉コース 3年	成績評価 方法	出席状況(20点)とレポート(80点)による100点
教科書	「社会福祉士相談援助実習」 中央法規出版		
参考書	特に指定しない		
学生への要望	自己の相談援助実習の振り返りがしっかりとできていること。		
オフィスタイム	月曜日 授業開始前 創学館2階教務部非常勤講師室、授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	オリエンテーション	・社会福祉を学ぶにあたっての基本的な理解。 ・相談援助実習をめぐる諸課題 ・授業の進め方について	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
2	実習体験の振り返り	・学生による実習先の施設のプレゼンテーション ・職場・職種・ソーシャルワーク実習について	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
3	実習体験の再確認1（職場実習）	・実習先分野毎に職場実習についての振り返りと発表 ・ワークシートの作成 〔キーワード〕 根拠法、施設基準、職員配置な、利用者理解、法人の理念等	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
4	実習体験の再確認2（職場実習）	・実習先分野毎に職場実習についての振り返りと発表 ・ワークシートの作成 〔キーワード〕 根拠法、施設基準、職員配置な、利用者理解、法人の理念等	発表の準備をする。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60

回	項目	授業内容	
5	実習体験の再確認3（職場実習）	・実習先分野毎に職種実習についての振り返りと発表 ・ワークシートの作成 〔キーワード〕生活相談員、支援相談員等の業務について	発表の準備をする。授業内容を整理し、ノートにまとめる
6	実習体験の再確認4（職場実習）	・実習先分野毎に職種実習についての振り返りと発表 ・ワークシートの作成と意見交換 〔キーワード〕生活相談員、支援相談員等の業務について	発表の準備をする。授業内容を整理し、ノートにまとめる。
7	実習体験の再確認5（ソーシャルワーク実習）	・実習先分野毎にソーシャルワーク実習についての振り返りと発表 ・ワークシートの作成 〔キーワード〕生活相談員、支援相談員等の業務とソーシャルワークについて	発表の準備をする。授業内容を整理し、ノートにまとめる。
8	実習体験の再確認6（ソーシャルワーク実習）	・実習先分野毎にソーシャルワーク実習についての振り返りと発表 ・ワークシートの作成と意見交換 〔キーワード〕生活相談員、支援相談員等の業務とソーシャルワークについて	発表の準備をする。授業内容を整理し、ノートにまとめる。
9	施設虐待について1	・虐待について ・施設における虐待の予防と取り組みについて	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。
10	施設虐待について2	・実習先施設における虐待の予防と取り組みについて ・事例から考える	授業内容を整理し、ノートにまとめる。
11	実習計画の再構築 1	・社会福祉士に求められる価値・知識・技術から再度実習計画を組み直す ・学ぶべき内容とどのような体験を通じて学ぶことができるのかを組み立てる ・ワークシート	授業内容を整理し、ノートにまとめる。
12	実習計画の再構築 2	・社会福祉士に求められる価値・知識・技術から再度実習計画を組み直す ・学ぶべき内容とどのような体験を通じて学ぶことができるのかを組み立てる ・ソーシャルワークを意識した実習プログラムの作成 ・ワークシート	授業内容を整理し、ノートにまとめる。
13	実習計画の再構築 3	・社会福祉士に求められる価値・知識・技術から再度実習計画を組み直す ・学ぶべき内容とどのような体験を通じて学ぶことができるのかを組み立てる ・ソーシャルワークを意識した実習プログラムの作成 ・ワークシート	授業内容を整理し、ノートにまとめる。
14	実習計画の再構築 4	・実習計画の発表と意見交換 ・発表を通じて様々な実習施設での実習体験の再確認を行う	発表の準備をする。授業内容を整理し、ノートにまとめる。
15	・まとめ について ・レポート課題	・講義のまとめと振り返り ・レポート課題について説明	授業内容を整理し、ノートにまとめる。

科目名	介護の基本 I	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 4単位 必修
担当教員	廣野 正子		
開講期	通年		
授業概要	介護の歴史や介護問題の背景を理解し、介護を必要とする人の理解を深めるとともに、尊厳ある生活を支援する専門職として基本となる考え方を学ぶ 実務経験：社会福祉法人での介護職と相談援助の実務経験をもとに介護の基本について授業を行う。 実務経歴：社会福祉法人において介護福祉士として介護職員と生活相談員として勤務。		
達成目標	介護を必要とする方々の生活環境、身体状況の把握から、自立に向けた介護について理解し、介護を提供する際の基本的視点を学ぶ ①介護の専門職として、介護福祉士が果たすべき役割として尊厳のある生活支援を理解できたか。 ②介護を必要としている人（高齢者・障害者）を理解できたか。 ③自立支援の意味を理解し、具体的な支援方法について学ぶ。		
受講資格	人間生活学科 福祉コース	成績評価 方法	筆記試験 70% 課題30%
教科書	中央法規出版 介護福祉士養成講座テキスト 「介護の基本 I」		
参考書	授業の中で随時紹介		
学生への要望	介護を展開する際の基本となる理論であることを理解し、積極的に身に着けられるように自学・自習に励むこと。		
オフィスタイトム	・水曜日 Ⅱ時限 ・木曜日 Ⅱ時限 創学館 4 階 No.1 研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	60
1	オリエンテーション 介護を取り巻く状況	介護の基本 I の学び方 介護とは何か_介護について	「介護」と聞いてどのようなイメージがあるかまとめてくる
2	介護を取り巻く状況	介護のイメージとは（課題） 介護とは何か_介護の目的	家族間等での会話に「介護」をキーワードにどのような会話があったか記録する
3	介護を取り巻く状況	身近な介護とは 介護とは何か_介護の基本的な考え方	住まいの周辺にある介護のつく施設、事業所を調べてくる
4	介護を取り巻く状況	介護とは何か_介護の社会化 ①介護の歴史の変遷 施設介護の変遷、在宅介護の変遷 ・地域にある介護施設（課題）	介護・福祉の専門職を調べてくる
5	介護を取り巻く状況	介護とは何か_介護の社会化 ②介護の歴史の変遷 介護問題の背景と介護福祉士の誕生	ケアにはどのような意味があるか調べる
6	介護とケア	「介護」とケアの意義	福祉の意味を調べる
7	介護とケア	介護福祉の意味するもの	授業の中で指示されたことを調べてくる
8	介護とケア	ケアにおけるパターンリズム	福祉関係の事件で、疑問、不条理と思われる事件（1件）をまとめてくる
9	介護とケア	介護福祉士に求められる職業倫理_専門職と職業倫理、介護福祉士の倫理条項 ・福祉関係事件から倫理について考察する。	授業のなかで支持されたことをまとめてくる
10	介護とケア	介護福祉士に求められる職業倫理_事例で学ぶ介護の専門性と職業倫理	学生自身の生活の質を上げるためにどのような方法があるか発表できるようにしてくる
11	介護の理念：尊厳を支える介護	QOL（生活の質）の向上と自立支援_尊厳を支える介護とQOLの概念	学生自身の自立とは具体的にどのようなことになるのか、まとめてくる
12	介護の理念：尊厳を支える介護	QOL（生活の質）の向上と自立支援_自立と自立支援、人間関係を築く	認知症とはどのような状態になるのか、調べてくる
13	介護の理念：尊厳を支える介護	事例から自立支援を考える【ハルさんの物語】	学生自身がいま認知症になったら、どのような気持ちになるか想像してまとめる
14	介護の理念：尊厳を支える介護	事例から自立支援を本人、家族の視点から考える【ハルさんの物語】	自立支援とはどのようなことか、具体的な事例をあげてまとめる
15	中間まとめ	介護の意義と自立支援に向けた介護の総括	授業のなかで支持されたことをまとめてくる
16	介護の理念：尊厳を支える介護	リハビリテーションの活用 リハビリテーションの概念、リハビリテーションと障害のとらえ方の歴史の変遷	ノーマライゼーションの意味について調べてくる

回	項目	授業内容		
17	介護の理念：尊厳を支える 介護	ノーマライゼーションの実現__ノーマライゼーションの理念と発展	ノーマライゼーションの事例を身近なところで探してくる	60
18	介護の理念：尊厳を支える 介護	ノーマライゼーションの実現__日本におけるノーマライゼーションの実践、ノーマライゼーションの実現	授業のなかで指示されたことをまとめる	60
19	介護を取り巻く状況必要とする人の理解：介護は人生と生活の質を決める	生活とは何か__「生活」への視点、ふつうの生活とは	「ふつうの生活」という言葉から連想されることをまとめる	60
20	介護を取り巻く状況必要とする人の理解：介護は人生と生活の質を決める	生活とは何か__生活時間、見直される生活	学生がいままでの人生で一番印象に残っている年代は？また印象深い経験とは	30
21	介護を取り巻く状況必要とする人の理解：介護は人生と生活の質を決める	ライフサイクル__人生で一番輝くときが戦争の時代、激変する生活	家族で年長の方に、人生で一番印象に残っていること（年代）を聞いてくる	90
22	介護を取り巻く状況必要とする人の理解：介護は人生と生活の質を決める	ライフサイクル__福祉元年から低成長時代へ、そして高齢社会	学生が過去のことでいつも思い出すことと、思い出した時に気持ちについてまとめる	30
23	介護を取り巻く状況必要とする人の理解：介護は人生と生活の質を決める	ライフサイクル__回想法からの検証	授業のなかで指示されたことをまとめる。	60
24	介護を取り巻く状況必要とする人の理解：介護は人生と生活の質を決める	ライフサイクル__生活史の変遷（演習）①	授業のなかで指示されたことをまとめる。	60
25	介護を取り巻く状況必要とする人の理解：介護は人生と生活の質を決める	ライフサイクル__生活史の変遷（演習）②	授業のなかで指示されたことをまとめる。	60
26	介護を取り巻く状況必要とする人の理解：介護は人生と生活の質を決める	ライフサイクル__生活史の変遷（演習）③	授業のなかで指示されたことをまとめる。	60
27	介護を取り巻く状況必要とする人の理解：介護は人生と生活の質を決める	生活福祉の視点__老人観と障害観	健康について、どのように考えているかまとめる	60
28	介護を取り巻く状況必要とする人の理解：介護は人生と生活の質を決める	ICFの視点で「生活」をとらえる__ICFの障害観・健康観	身近な医療についてどのようなサービスがあるか調べてくる	60
29	介護を取り巻く状況必要とする人の理解：介護は人生と生活の質を決める	ICFの視点で「生活」をとらえる__医学モデルから統合モデルへ、ICFの視点	授業のなかで支持されたことをまとめる	60
30	介護の基本 I（まとめ）	介護を必要とする人の生活を支えることについて総括	授業のなかで支持されたことをまとめる	60

科目名	介護の基本Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 4単位 選択
担当教員	廣野 正子		
開講期	通年		
授業概要	<p>介護を必要とする人への理解を深め、介護福祉士としての役割と機能を理解しさらに他職種との協働やケアマネジメントの流れやしくみを学ぶ。また、介護におけるリスクマネジメント理解を深め安全確保の実践が出来得る知識を修得する。介護従事者の健康管理の必要性を理解して実践できるようにする。</p> <p>実務経験：社会福祉法人での介護職と相談援助の実務経験をもとに介護の基本について授業を行う。 実務経歴：社会福祉法人において介護福祉士として介護職員と生活相談員として勤務。</p>		
達成目標	<p>介護を取り巻く状況を把握し求められる介護福祉士の役割と機能を理解し、専門職としての態度を身につける。さらに介護福祉士の働く場と介護実践におけるリスクマネジメントを学ぶ。</p> <p>①介護福祉士を取り巻く状況や背景を通して、介護福祉士の担う社会的役割が理解できる。 ②介護におけるリスクマネジメントの必要性を理解するとともに、安全の確保のための知識や事故への対応を理解できる。 ③介護従事者自身が心身ともに健康に、介護を実践するための健康管理や労働環境の管理について理解できる。</p>		
受講資格	人間生活学科 福祉コース	成績評価 方法	試験70% 課題レポート30%
教科書	中央法規出版介護福祉士養成講座テキスト「介護の基本Ⅰ・Ⅱ」		
参考書	授業の中で随時紹介		
学生への要望	介護の一つひとつの行為には、根拠があります。行為が行われる意義を常に認識してください。		
オフィスタイム	・水曜日 Ⅱ時限 ・木曜日 Ⅱ時限 創学館4階 No.1 研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	60
1	オリエンテーション 介護福祉士の役割	介護の基本Ⅱ概略説明（評価方法） 介護福祉士の現状と養成	介護福祉士の役割について調べてくる
2	介護福祉士の役割と機能	求められる介護福祉士像、介護福祉士の定義と義務規定	自宅周辺の介護サービスが提供されている事業所を5件調べてくる
3	介護福祉士の役割と機能	介護サービスの提供の場と介護福祉士の役割	多職種について介護実習等でどのような連携がなされていたかまとめてくる
4	協働する多職種の機能と役割	介護実践における多職種連携	介護技術、生活支援技術について調べてくる
5	要介護者を支える生活支援技術	介護技術と生活支援技術	介護過程について、展開と方法についてまとめてくる
6	要介護者を支える生活支援技術	生活支援技術と介護過程	生活評価とはどのような意味か調べてくる
7	要介護者を支える生活支援技術	生活評価の考え方	身体拘束について事例をまとめてくる
8	身体拘束と虐待	身体拘束はなぜ問題なのか__身体拘束について考える	身体拘束がもたらす弊害について調べてくる
9	身体拘束と虐待	身体拘束はなぜ問題なのか__身体拘束がもたらす弊害	高齢者虐待の新聞記事を1件調べてくる
10	身体拘束と虐待	高齢者虐待の現状と課題__虐待について考える	授業の中で指示されたことを調べてくる
11	身体拘束と虐待	高齢者虐待の現状と課題__虐待の現状	虐待の予防はできるのか?考えをまとめてくる
12	身体拘束と虐待	虐待を起こさないために①	授業の中で指示されたことを調べてくる
13	身体拘束と虐待	虐待を起こさないために②	授業の中で指示されたことを調べてくる
14	身体拘束と虐待	虐待を起こさないために③	授業の中で指示されたことを調べてくる
15	前期まとめ	前期授業の補足と総括	授業の中で指示されたことを調べてくる
16	リスクマネジメントと介護従事者の安全	リスクマネジメントの基本	介護事故について1件新聞等から調べてくる
17	リスクマネジメントと介護従事者の安全	介護事故とリスク__リスクが事故につながる要因	リスクの意味について調べてくる
18	リスクマネジメントと介護従事者の安全	介護事故とリスク__福祉サービス事故とは	リスクマネジメントについて具体的に調べてくる

回	項目	授業内容		
19	リスクマネジメントと介護従事者の安全	介護事故とリスク__介護事故事例の検証①	授業の中で指示されたことを調べてくる	60
20	リスクマネジメントと介護従事者の安全	介護事故とリスク__介護事故事例の検証②	授業の中で指示されたことを調べてくる	60
21	リスクマネジメントと介護従事者の安全	事故を防ぐために__事故原因の究明と介護技術	授業の中で指示されたことを調べてくる	60
22	リスクマネジメントと介護従事者の安全	質の高い安全な介護	感染症の意味と授業の中で指示された感染症についてしらべてくる。	60
23	介護における安全の確保	感染症対策__感染予防の基礎知識①	授業の中で指示された感染症対策について調べてくる	60
24	介護における安全の確保	感染症対策__感染予防の基礎知識②	日常生活で感じる香りについて記録しまとめてくる	60
25	介護従事者の心身の健康管理	アロマセラピーの活用__定義と香育	通学経路で感じた香りについて記録し、その香りから気分の変化をまとめる	60
26	介護従事者の心身の健康管理	アロマセラピーの活用__アロマセラピーのメカニズム	授業の中で指示されたことを調べてくる	60
27	介護従事者の心身の健康管理	アロマセラピーの活用__精油の基礎知識	授業の中で指示されたことを調べてくる	60
28	介護従事者の心身の健康管理	アロマセラピーの活用__安全な精油の使い方	学生自身の1か月間もからだのリズムをまとめてくる	60
29	介護従事者の心身の健康管理	アロマセラピーの活用__アロマセラピーと健康	作成したアロマグッズを使用し、その前後での変化をまとめる	60
30	介護の基本Ⅱ（まとめ）	後期授業の補足と介護の基本Ⅱの総括	授業の中で指示されたことを調べてくる	60

科目名	介護の基本Ⅲ	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 選択
担当教員	廣野 正子		
開講期	通年		
授業概要	社会で生活する要介護者の理解を基盤として、介護を実践する介護福祉士として基本的な知識・技術の理論を総合的に学ぶ。 実務経験：社会福祉法人での介護職と相談援助の実務経験をもとに介護の基本について授業を行う。 実務経歴：社会福祉法人において介護福祉士として介護職員と生活相談員として勤務。		
達成目標	介護の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を総合的に修得する。 ①対象者の生活を地域の中で支えていく観点から、社会保障の制度、施策について基礎的な知識を理解する。 ②介護の基本として、介護を実践する様々な場面に必要とされる介護の知識・技術を修得する。 ③介護の実践に必要な根拠となる、心身の構造や機能及び発達段階とその課題について理解する。		
受講資格	人間生活学科 福祉コース	成績評価 方法	課題30% 定期試験70%
教科書	中央法規出版介護福祉士養成講座テキスト「介護の基本Ⅰ・Ⅱ」		
参考書	授業の中で随時紹介		
学生への要望	授業での学びをもとに、学生自身の「介護観」を構築できるようにする。		
オフィスタイム	・水曜日 Ⅱ時限 ・木曜日 Ⅱ時限 創学館4階 No.1 研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容
1	オリエンテーション	「介護の基本Ⅲ」の学び方（評価方法）	人間の尊厳と介護について授業の中で指示されたことを調べてくる
2	人間の尊厳と介護	人間の尊厳と自立、介護における尊厳の保持・自立支援	次回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。
3	人間関係とコミュニケーション	人間関係の形成、介護におけるコミュニケーションの基本	次回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。
4	社会に必要な介護	生活と福祉、社会保障制度における介護	次回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。
5	社会に必要な介護	介護保険制度と障害者自立支援制度における介護 介護実践に関連する諸制度	次回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。
6	介護とコミュニケーション	介護場面における利用者・家族・チームのコミュニケーション	次回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。
7	生活支援技術における介護の基本	自立支援における居住環境の整備、身支度の介護	次回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。
8	生活支援技術における介護の基本	自立支援における移動・食事・入浴・清潔保持の介護	次回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。
9	生活支援技術における介護の基本	自立支援における排泄・家事・睡眠の介護	次回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。
10	生活支援技術における介護の基本	終末期の介護の基本	次回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。
11	介護実践における介護過程	介護過程の意義と展開	次回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。
12	介護実践における介護過程	介護過程の意義と展開実践とチームアプローチ	次回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。
13	発達と老化の理解	人間の成長と発達の基礎的理解 老年期の発達と成熟	次回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。
14	発達と老化の理解	老化に伴うこころとからだの変化と日常生活 高齢者と健康	次回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。

回	項目	授業内容	
15	前期のまとめ	前期授業の補足と確認	90
16	認知症の介護	認知症を取り巻く状況 認知症に伴うこととからだの変化と日常生活	60
17	認知症の介護	認知症介護への多職種連携と協働 家族への支援	60
18	障害の理解	障害の基礎的理解	60
19	障害の理解	障害者介護への多職種連携と協働 家族への支援	60
20	こととからだのしくみ	こととからだのしくみの理解 身支度に関連したこととからだのしくみ	60
21	こととからだのしくみ	移動・食事に関連したこととからだのしくみ 入浴、清潔保持に関連したこととからだのしくみ	60
22	こととからだのしくみ	排泄・睡眠に関連したこととからだのしくみ 終末期のこととからだのしくみ	120
23	介護と医療的ケア	喀痰吸引、経管栄養の基礎知識と介護実践	120
24	介護の基本Ⅲ（まとめ）	介護福祉士を取り巻く状況 介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ	120
25	介護の基本Ⅲ（まとめ）	尊厳を支える介護 自立に向けた介護	120
26	介護の基本Ⅲ（まとめ）	介護を必要とする人の理解 介護サービス	90
27	介護の基本Ⅲ（まとめ）	介護実践における連携 介護従事者の倫理	90
28	介護の基本Ⅲ（まとめ）	介護における安全の確保とリスクマネジメント 介護従事者の安全	90
29	介護観の構築	介護の基本をもとに、学生それぞれの介護観を構築し 発表する	90
30	介護の基本Ⅲ（まとめ）	後期授業の補足と介護の基本Ⅲの総括	90

科目名	コミュニケーション技術A	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 必修
担当教員	堀 琴美		
開講期	後期		
授業概要	介護や福祉の現場で必要とされるより良い人間関係形成のためのコミュニケーションの大切さや基本的な理念を理解し、専門職に求められる実践的技術の修得を目指します。担当教員の臨床心理士としての実務経験を活かし、医療・福祉分野におけるリアルな人間の姿や心の動きを解説し、実践的なコミュニケーション技術を指導します。 実務経験：臨床心理士として、医療機関、福祉施設に勤務。 授業や対話式双方向型で進めていきますので、自発的で活発な意見や質問を歓迎します。ロールプレイやグループディスカッションも行いますので、そこで感じたことや気づいたことなどを大いに語り合い、理解を深めてください。		
達成目標	介護職は、利用者を理解して信頼関係を形成し、利用者家族や他職種との協働・連携をおこなって行きます。それらをのスムーズな遂行のために、3つの目標を掲げます。 ①他者に共感でき、相手の立場に立って考えられる姿勢を身につける。 ②円滑なコミュニケーションの取り方の基本を身につける。 ③的確な記録・記述の方法を身につける。		
受講資格	特になし	成績評価 方法	期末試験または期末レポート（80%） 受講態度、発表内容、レポート（20%）
教科書	「コミュニケーション技術」中央法規		
参考書	「介護スタッフのための声かけ表現集」凡人社 「介護応対事例集」日総研など		
学生への要望	この授業では、理論や知識だけでなく、体験的な学習を積み重ねていきます。学生は、ひとりひとりの経験や感性、想像力、共感力を駆使して、グループワークやディスカッションに積極的に参加・発言してください。		
オフィスタイム	火曜日Ⅲ限、水曜日Ⅱ限、臨床心理学研究室。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	オリエンテーション	授業の目標、授業計画、授業ポリシー、評価方法、国家試験および教員採用試験（科目）における授業の位置づけ等について。	この授業で学ぶことについて概要をつかみ、興味をもった内容について調べたり文献に当たったりする。	30
2	介護現場におけるコミュニケーションの意義と役割	利用者を人として尊重し、より良い人間関係を築くために、介護におけるコミュニケーションの意義と役割を考えます。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉や調べてノートする。	30
3	コミュニケーションの基本	「かわかりを示す5つの基本動作」や敬語の使い方、相手に伝わりやすい表現方法、非言語表現（表情、声、しぐさ、ジェスチャー、沈黙）などについて学びます。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉や調べてノートする。	30
4	話を聞くテクニック（1）	傾聴とは。共感とは。話しやすい&安全な聞き手になること、質問法（Open&Closed Quesution）、感情に触れるアプローチ等について。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉や調べてノートする。	30
5	話を聞くテクニック（2）	肯定的な言い換え、リフレーミング、焦点化、明確化、要約などの言語的テクニックの使い方について学びます。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉や調べてノートする。	30
6	相談・助言・指導の方法	バイステックの原則、利用者の意欲を引き出す技法などについて学びます。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉や調べてノートする。	30
7	障害をもつ利用者への理解（1）	コミュニケーション障害を引き起こす主な疾患、脳疾患によるコミュニケーション障害、観察・理解・アセスメントの方法などを学びます。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉や調べてノートする。	30
8	障害をもつ利用者への理解（2）	失語症、視力・聴力障害、発話・構音障害などについて、障害部位や疾患名、コミュニケーション障害の状態などを学びます。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉や調べてノートする。	30
9	利用者の特性に応じたコミュニケーション（1）	高次脳機能障害、失語症（運動性失語症・機能的失語症）、発話・構音障害の特性と、利用者の状況に応じたコミュニケーションの在り方や支援における工夫などについて考えます。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉や調べてノートする。	30
10	利用者の特性に応じたコミュニケーション（2）	認知症、自閉症、知的障害、精神障害の特性と、利用者の状況に応じたコミュニケーションの在り方、支援の際の工夫などについて考えます。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉や調べてノートする。	30
11	チーム・コミュニケーション（1）	専門家チーム（多職種連携）、個別援助計画、報告・連絡・相談・会議、ケアカンファレンス、ミーティングなどについて。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉や調べてノートする。	30
12	チーム・コミュニケーション（2）	記録の書き方：要約体と説明体の使い分け、フェイスシート・アセスメントシート、客観的事実と主観的事実などについて学びます。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉や調べてノートする。	30
13	チーム・コミュニケーション（3）	事故報告書、ヒヤリハット報告書、ハインリッヒの法則などについて。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉や調べてノートする。	30

回	項目	授業内容	
14	チーム・コミュニケーション(4)	守秘義務とチーム内の情報共有、個人情報保護法、情報公表制度などについて。 授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉や調べてノートする。	30
15	まとめと補足	ケース・スタディの掘り下げや、総合問題の練習、補足説明、まとめを行います。 授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉や調べてノートする。	30

科目名	生活支援技術A	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 選択
担当教員	廣野 正子, 茂木 光代		
開講期	前期		
授業概要	<p>生活支援とはなにかを理解し、生活での「動く」ことは生きることの基本であり、暮らしを支えるために不可欠な移動や移乗の動きを支援する技術を具体的に学ぶ。また、身じたくの意義・目的を理解するとともに、利用者の状態や状況に応じて安全で自立・自律を尊重した、満足の得られる身じたくの介護について学ぶ。</p> <p><授業担当者> 第1回～第16回：廣野担当 実務経験：社会福祉法人での介護職と相談援助の実務経験をもとに生活支援技術について授業を行う。 実務経歴：社会福祉法人において介護福祉士として介護職員と生活相談員として勤務。 第17回～第30回：茂木担当 実務経験：看護職としての実務経験をもとに生活支援技術について授業を行う。 実務経歴：福島県立医科大学附属病院において、看護師として看護業務に従事。</p> <p>【履修カルテの評価項目】 ①対象者の機能など状態に合わせ能力を活用・発揮し自立支援するための方法が実践できたか ②移動の介護は日常生活を送るうえで基本となる動作を支える介護であることが理解できたか ③身じたくに関する生活習慣と装う楽しみのための知識と技術を理解できたか</p>		
達成目標	<p>「移動」「身じたく」における生活支援技術の根拠と、知識・技術の基礎から応用まで学び、現場での実践で活用できる能力を身につける。また、利用者の心身状態を理解し、どのような状態であっても尊厳と自律・自立を考慮した、個別に対応できる能力を修得する。</p> <p>①「移動」の意義と目的について理解し、基本的な「移動」支援技術を修得し実践できる。 ②「身じたく」の意義と目的について理解し、基本的な「身じたく」支援技術を修得し実践できる。 ③身体機能、こころの状態に合わせたコミュニケーションを活用して支援することができる。</p>		
受講資格	人間生活学科福祉コース	成績評価 方法	実技50% 定期試験50%
教科書	中央法規出版 介護福祉士養成講座テキスト 「生活支援技術」Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ		
参考書	授業の中で、随時紹介		
学生への要望	自学・自習に励み技術については確実に身につけ、介護実習で実践できるようにしておくこと。		
オフィスタイム	・水曜日 1時限 ・木曜日 1時限 創学館4階No.1研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	ガイダンス・生活の理解と生活支援の考え方	①授業概要の説明及び留意点 ②生活支援の考え方 ③生活文化、ライフヒストリーなど生活様式の違い	60
2	ガイダンス・生活の理解と生活支援の考え方	④「生活支援技術」を学ぶことの意義について ⑤自己決定の支援、楽しみや生きがいの支援の理解 ⑥生活支援に活かすICF ⑦ボディメカニクスを理解した介助	120
3	移動の意義と目的、自立支援を支える移動の介護（体位変換）	移動の意義と目的、自立支援を支える移動の介護について学ぶ。 ①本人への説明・同意、準備、実施・評価 ②体位変換を状態（自立度が高い、一部介助が必要、全介助が必要）に合わせた介助方法 ③介護支援ロボットを着用しての介助	90
4	移動の意義と目的、自立支援を支える移動の介護（安楽な体位）	①本人への説明・同意、準備、実施・評価 ②安楽な体位と保持 ③褥瘡の予防について ④自立に向けた「移動」に関する道具・用具等の福祉機器（リフターなど）について ⑤介護支援ロボットを着用しての介助	60
5	移動・移乗の介護の基本（起居動作）	①本人への説明・同意、準備、実施・評価 ②起居動作の介助 ③姿勢の保持（ポジショニング） ④介護支援ロボットを着用しての介助	60
6	移動・移乗の介護の基本（起居動作）	①本人への説明・同意、準備、実施・評価 ②起居動作の介助 ③姿勢の保持（ポジショニング） ④介護支援ロボットを着用しての介助	60

回	項目	授業内容	
7	移動・移乗の介護の基本 (車いす介助)	①車いすの基本構造 ②車いす介助におけるアセスメントの視点 ③ベッドから車いすへの介助法 ④車いすからベッドへの介助法 ⑤車いす介助法(段差越え、階段の昇降、エレベーター) ⑥スライディングボード、リフターなど、車いす移動に関する福祉機器について学ぶ。⑦介護支援ロボットを着用しての介助	車いすの支援方法について、説明、動作を確認して実行できるように練習する。
8	移動・移乗の介護の基本 (車いす介助)	①車いすの基本構造 ②車いす介助におけるアセスメントの視点 ③ベッドから車いすへの介助法 ④車いすからベッドへの介助法 ⑤車いす介助法(段差越え、階段の昇降、エレベーター) ⑥スライディングボード、リフターなど、車いす移動に関する福祉機器について学ぶ。⑦介護支援ロボットを着用しての介助	次回の授業での歩行介助についてテキストを熟読し、質問・疑問についてまとめる。
9	移動・移乗の介護の基本 (歩行介助)	①本人への説明・同意、準備、実施・評価 ②平地歩行介助、段差越え、階段の昇降、などについて自立度の高い人、一部介助の必要な人、全介助の必要な人について ③歩行器、四点杖など、歩行に関する福祉機器について学ぶ。 ④介護支援ロボットを着用しての介助	歩行介助の一連の介助方法について、説明、動作を確認して実行できるように練習する。
10	移動・移乗の介護の基本 (歩行介助)	①本人への説明・同意、準備、実施・評価 ②平地歩行介助、段差越え、階段の昇降、などについて自立度の高い人、一部介助の必要な人、全介助の必要な人について ③歩行器、四点杖など、歩行に関する福祉機器について学ぶ。 ④介護支援ロボットを着用しての介助	次回の授業でのベッドから車いすへの介助についてテキストを熟読し、質問・疑問についてまとめる。
11	移動・移乗の介護の基本 (ベッドから車いすへの介助)	①本人への説明・同意、準備、実施・評価 ②ベッド上にて、起居動作 ③ベッドから車いすへ介助 ④安全にな車いす介助 ⑤介護支援ロボットを着用しての介助	ベッドから車いす介助の一連の介助方法について、説明、動作を確認して実行できるように練習する。
12	移動・移乗の介護の基本 (ベッドから車いすへの介助)	①本人への説明・同意、準備、実施・評価 ②ベッド上にて、起居動作 ③ベッドから車いすへ介助 ④安全にな車いす介助 ⑤介護支援ロボットを着用しての介助	次回の授業での感覚機能低下に配慮した介助についてテキストを熟読し、質問・疑問についてまとめる。
13	状態に応じた移動の介護	①本人への説明・同意、準備、実施・評価 ②感覚機能低下(視覚、聴覚、等)に配慮した移動の介護について学ぶ。	感覚機能低下に配慮した一連の介助方法について、説明、動作を確認して実行できるように練習する。
14	状態に応じた移動の介護	①本人への説明・同意、準備、実施・評価 ②運動機能低下(肢体不自由者、等)に配慮した移動の介護について学ぶ。	運動機能低下に配慮した一連の介助方法について、説明、動作を確認して実行できるように練習する。
15	移動の介護(まとめ)	移動の支援技術に関する実技試験と解説。移動の介護について授業の補足	一連の移動の支援技術について、学生自身が指摘されたことを踏まえ十二分に実行できるように練習する。
16	移動の介護(まとめ)	移動の支援技術に関する実技試験と解説。移動の介護について授業の補足	一連の移動の支援技術について、学生自身が指摘されたことを踏まえ十二分に実行できるように練習する。
17	自立に向けた身じたくの介護	身じたく(整容、口腔ケアを含む)を整えることの意味と目的について学ぶ。 衣類・寝具の管理について学ぶ。	本日の授業での重要なところをまとめ覚える。また、実技内容については練習を重ね実行できるようにする。
18	自立に向けた身じたくの介護	衣類・寝具の管理について学ぶ。	次回の授業内容について、テキストを熟読し質問・疑問についてまとめる
19	自立に向けた身じたくの介護	10Fの視点に基づく身じたくに関する利用者のアセスメントの仕方について学ぶ。	本日の授業での重要なところをまとめ覚える。また、実技内容については練習を重ね実行できるようにする。
20	自立に向けた身じたくの介護	整容の介助におけるアセスメントの視点について学ぶ。(洗面・整髪・髪の手入れ・爪の手入れ・点眼・軟膏塗布)	次回の授業内容について、テキストを熟読し質問・疑問についてまとめる

回	項目	授業内容		
21	自立に向けた身じたくの介護	口腔ケアの意義及び目的について学ぶ。	本日の授業での重要なところをまとめ覚える。また、実技内容については練習を重ね実行できるようにする。	60
22	自立に向けた身じたくの介護	口腔ケアにおけるアセスメントの視点について学ぶ。	次回の授業内容について、テキストを熟読し質問・疑問についてまとめる	60
23	自立に向けた身じたくの介護	口腔ケアの意義及び目的について学ぶ。基本について学ぶ。 ①ブラッシング法 ②口腔清拭法 ③含嗽法 ④義歯の清掃法	本日の授業での重要なところをまとめ覚える。また、実技内容については練習を重ね実行できるようにする。	60
24	自立に向けた身じたくの介護	口腔ケアの介助の実際について学ぶ。	次回の授業内容について、テキストを熟読し質問・疑問についてまとめる	60
25	自立に向けた身じたくの介護	障がいのある人の口腔ケアの実際について学ぶ。(片麻痺・認知症) 口腔リハビリテーションについて学ぶ。 口腔ケアに用いる福祉用具について学ぶ。	本日の授業での重要なところをまとめ覚える。また、実技内容については練習を重ね実行できるようにする。	60
26	自立に向けた身じたくの介護	障がいのある人の口腔ケアの実際について学ぶ。(片麻痺・認知症) 口腔リハビリテーションについて学ぶ。 口腔ケアに用いる福祉用具について学ぶ。	次回の授業内容について、テキストを熟読し質問・疑問についてまとめる	60
27	自立に向けた身じたくの介護	衣服着脱の意義・目的について学ぶ。 衣服の種類と選択について学ぶ。	本日の授業での重要なところをまとめ覚える。また、実技内容については練習を重ね実行できるようにする。	60
28	自立に向けた身じたくの介護	衣類の着脱介助の実際(和式、前あき二部式、かぶり式)	次回の授業内容について、テキストを熟読し質問・疑問についてまとめる	60
29	自立に向けた身じたくの介護	実技テスト(和式、前あき二部式、かぶり式) 身じたくに関して、国家試験過去問を中心に、身じたくの要点について復習する。	実技テストで指摘されたことを踏まえて、復習する。	60
30	自立に向けた身じたくの介護	身じたくに関する多職種との連携について学ぶ。 身じたくに関して、国家試験過去問を中心に、身じたくの要点について復習する。	国家試験過去問について復習する。	60

科目名	生活支援技術B		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 選択
担当教員	藤田 京子, 茂木 光代			
開講期	後期			
授業概要	<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>①食事は生活の満足度に大きな影響を与えることを理解し、利用者の健康維持、楽しみを支える支援に関する技術を身につける。 ②排泄に関する知識と技術を身につけ、利用者個人の状況に適した方法で援助できる能力を身につける。また、個人のプライバシーを守り、利用者の尊厳を守る援助方法について身につける。 ③介護福祉士国家試験に必要な知識の習得</p> <p>＜授業担当＞ 第1回～第14回 : 茂木担当 実務経歴：看護職としての実務経歴をもとに生活支援技術について授業を行う。 実務経歴：福島県立医科大学付属病院において、看護師として看護業務に従事。 第15回～第30回 : 藤田担当担当：藤田 実務経歴：看護師として総合病院に勤務した経験を活かし、授業を行う。 実務経歴：看護師として総合病院に勤務。</p>			
達成目標	<p>【到達目標】</p> <p>①「食事」や「排泄」に関する知識と技術を身につけ、利用者個人の状況に適した方法で援助できる能力を身につける。また、個人のプライバシーを守り、利用者の尊厳を守る援助方法が理解できる。 ②介護福祉士国家試験に必要な知識の習得。</p>			
受講資格	人間生活学科 福祉コース	成績評価 方法	試験(筆記・実技) 90%、レポート10%	
教科書	介護福祉士養成講座テキスト 「生活支援技術Ⅰ・Ⅱ」 プリント配布			
参考書	授業の中で随時紹介			
学生への要望	主体的、積極的な姿勢で授業に取り組むこと 授業を欠席しないこと			
オフィスタイム	藤田：月・水曜日 14時30分～16時 本館1階保健室 茂木：授業終了後			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	ガイダンス・食事に関する介護の役割	授業概要の説明および留意点 介護を必要とする人の食事の意義と介護者の役割について学ぶ	シラバスの内容を再度確認する。今回の内容について復習する。	30
2	食事に関する介護の役割	介護を必要とする人の食事の意義と介護者の役割について学ぶ	今回の内容について復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
3	自立に向けた介護	食事のアセスメント：ICFの視点から利用者の全体像をアセスメントし、適切な食事介助の技法を考え、実践できる。	今回の内容について復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
4	自立に向けた食事の介護	食事のアセスメント：ICFの視点から利用者の全体像をアセスメントし、適切な食事介助の技法を考え、実践できる。	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
5	自立に向けた食事の介護	食事摂取の基本的な知識：①栄養状態 ②食行為のメカニズム ③美味しく食べるとは口腔ケアの意義及び目的について学ぶ。	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
6	自立に向けた食事の介護	食事摂取の基本的な知識：①栄養状態 ②食行為のメカニズム ③美味しく食べるとは口腔ケアの意義及び目的について学ぶ。	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
7	自立に向けた食事の介護	安全な食事介助の技法	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
8	自立に向けた食事の介護	誤嚥の予防と対応	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
9	自立に向けた食事の介護	①運動機能が低下している人の食事介助	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
10	自立に向けた食事の介護	②視覚障害者の食事介助	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
11	自立に向けた食事の介護	③認知症高齢者の食事介助	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
12	自立に向けた食事の介護	口腔ケア	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
13	自立に向けた食事の介護	食事、介護技術に関する補足及び総括	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
14	自立に向けた食事の介護	食事、介護技術に関する補足及び総括	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30

回	項目	授業内容	
15	排泄の意義と目的	①授業内容に関する説明。 ②排泄の意義・目的 ③排泄のメカニズム	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。
16	排泄の意義と目的	①自立に向けた排泄介助について学ぶ。	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。
17	自立に向けた排泄の介護	IQFの視点から、排泄介助が必要な利用者のアセスメントの視点について学ぶ。	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。
18	自立に向けた排泄の介護	IQFの視点から、排泄介助が必要な利用者のアセスメントの視点について学び、アセスメントシートを作成する。	アセスメントシートを完成させる。
19	自立に向けた排泄の介護	安全・安楽・基本的な排泄介助の技法として、①トイレ介助、②ポータブルトイレ介助の仕方について学ぶ。	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。
20	自立に向けた排泄の介護	安全・安楽・基本的な排泄介助の技法として、①トイレ介助、②ポータブルトイレ介助の仕方について学ぶ。実技テスト	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。実技については自分で時間を確保して練習する。
21	自立に向けた排泄の介護	安全・安楽・基本的な排泄介助の技法として、③尿器・便器の介助の仕方について学ぶ。	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。
22	自立に向けた排泄の介護	安全・安楽・基本的な排泄介助の技法として、③尿器・便器の介助の仕方について学ぶ。実技テスト	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。実技については自分で時間を確保して練習する。
23	自立に向けた排泄の介護	安全・安楽・基本的な排泄介助の技法として、オムツの介助について学ぶ。	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。
24	自立に向けた排泄の介護	安全・安楽・基本的な排泄介助の技法として、オムツの介助について学ぶ。実技テスト	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。実技については自分で時間を確保して練習する。
25	自立に向けた排泄の介護	安全・安楽・基本的な排泄介助の技法として、オムツや便器を使った陰部洗浄に仕方について学ぶ。その他の排泄に関するさまざまな介助方法について学ぶ。	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。
26	自立に向けた排泄の介護	介助を必要とする人の状況に応じた介助の留意点として、感覚機能、運動機能、認知機能が低下している人への介助の技法と留意点について学ぶ。	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。
27	自立に向けた排泄の介護	尿失禁について学ぶとともに、尿失禁時の適切な援助法について学ぶ。	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。
28	自立に向けた排泄の介護	尿失禁について学ぶとともに、尿失禁時の適切な援助法について学ぶ。	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。
29	補足及び確認	「排泄」に関する授業の補足及び国家試験対策	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。
30	補足及び確認	「排泄」に関する授業の補足及び国家試験対策	今回の内容を復習し、定期テストに向けた学習を行う。

科目名	生活支援技術C	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 選択
担当教員	藤田 京子, 廣野 正子		
開講期	前期		
授業概要	<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>①対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための「入浴・清潔保持」「人生の最終段階」に関する生活支援技術の基礎を習得する。また、実践の根拠について、説明できる能力を身につける。</p> <p>②人生の最終段階にある人と家族をケアするために、終末期の経過に沿った支援や、チームケアの実践について理解する。</p> <p>③緊急時の対応を理解する</p> <p>④介護福祉士国家試験に必要な知識の習得</p> <p>〈授業担当〉</p> <p>第1回～第14回 : 廣野担当 実務経験: 社会福祉法人での介護職と相談援助の実務経験をもとに生活技術について授業を行う。 実務経歴: 社会福祉法人に介護福祉士として介護業務と生活相談員として勤務。</p> <p>第17回～第30回 : 藤田担当 実務経験: 総合病院で看護師として勤務した臨床経験を活かし授業を行う。 実務経歴: 総合病院に看護師として勤務。</p>		
達成目標	<p>〔授業終了時の到達目標〕</p> <p>①「入浴・清潔保持」「人生の最終段階」に関する知識と技術を身につけ、利用者個人の状況に適した方法で援助できる能力を身につける。</p> <p>②個人のプライバシー保持と利用者の尊厳を守る援助法について学ぶ。</p> <p>③終末期におけるチームケアの実践について理解する。</p> <p>④緊急時の対応を理解する</p> <p>⑤介護福祉士国家試験に必要な知識を習得する。</p> <p>【履修カルテの評価項目】</p> <p>①対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための「入浴・清潔保持」「人生の最終段階」に関する生活支援技術の基礎を習得する。また、実践の根拠について、説明できる能力を身につける。</p> <p>②人生の最終段階にある人と家族をケアするために、終末期の経過に沿った支援や、チームケアの実践について理解する。</p>		
受講資格	人間生活学科 福祉コース	成績評価 方法	試験(筆記・実技) 100%
教科書	中央法規出版 介護福祉士養成講座テキスト 「生活支援技術」I・II		
参考書	授業の中で随時紹介		
学生への要望	自主的、積極的な姿勢で取り組むこと 授業を欠席しないこと。		
オフィスタイム	廣野: 創学館No.1 研究室 水曜日 I・II限 藤田: 本館1階保健室 月・水曜日 IV限		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	ガイダンス 清潔保持の意義と目的	①授業内容に関する説明。 ②清潔保持の意義と目的に関して、生理的、心理的、社会的な側面から理解する。	今回実施した内容を復習する。 30
2	清潔保持の意義と目的	①清潔保持の意義と目的に関して、生理的、心理的、社会的な側面から理解する。 ②ICFの視点から、入浴介助が必要な利用者のアセスメントの視点について学ぶ。	今回実施した内容を復習する。 30
3	自立に向けた入浴・清潔保持の介助	「入浴・清潔保持」を行う上で、爽快感・安楽を実感できる介護を提供するための環境づくりと介護上の工夫について学ぶ。	今回実施した内容を復習する。 30
4	自立に向けた入浴・清潔保持の介助	「入浴・清潔保持」を行う上で、爽快感・安楽を実感できる介護を提供するための環境づくりと介護上の工夫について学ぶ。	今回実施した内容を復習する。 30
5	自立に向けた入浴・清潔保持の介助	介護を必要とする人の状況に応じた介助の留意点として、感覚機能、運動機能、認知機能が低下している人への介助の技法と留意点について学ぶ。	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。 30
6	自立に向けた入浴・清潔保持の介助	介護を必要とする人の状況に応じた介助の留意点として、感覚機能、運動機能、認知機能が低下している人への介助の技法と留意点について学ぶ。	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。 30
7	自立に向けた入浴・清潔保持の介助	安全・安楽な入浴・清潔保持の介助方法として①一般浴、②シャワー浴、③機械浴について学ぶ。	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。 30
8	自立に向けた入浴・清潔保持の介助	安全・安楽な入浴・清潔保持の介助方法として①一般浴、②シャワー浴、③機械浴について学ぶ。	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。 30
9	自立に向けた入浴・清潔保持の介助	安全・安楽な入浴・清潔保持の介助方法として①全身清拭、②陰部洗浄について学ぶ。	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。 30

回	項目	授業内容	
10	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	安全・安楽な入浴・清潔保持の介助方法として①全身清拭、②陰部洗浄について学ぶ。	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。
11	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	安全・安楽な入浴・清潔保持の介助方法として部分浴（手浴・足浴）について学ぶ。	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。
12	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	安全・安楽な入浴・清潔保持の介助方法として部分浴（手浴・足浴）について学ぶ。	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。
13	自立に向けた入浴・清潔保持の介助	全体的な授業の補足及び「清潔」に関する確認。	「入浴・清潔保持」について教科書等で振り返る。
14	自立に向けた入浴・清潔保持の介助	全体的な授業の補足及び「清潔」に関する確認。	「入浴・清潔保持」について教科書等で振り返る。
15	人生の最終段階における介護	人生の最終段階の意義と介護の役割	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。
16	人生の最終段階における介護	人生の最終段階におけるケアの意味	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。
17	人生の最終段階における介護	人生の最終段階におけるケアの意味	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。
18	人生の最終段階における介護	人生の最終段階におけるアセスメントの視点	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。
19	人生の最終段階における介護	人生の最終段階における介護技術 ①死を迎える人の介護 ②死を迎えた人の介護 ③亡くなった後の介護	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。
20	人生の最終段階における介護	人生の最終段階における介護技術 ①死を迎える人の介護 ②死を迎えた人の介護 ③亡くなった後の介護	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。
21	人生の最終段階における介護	人生の最終段階における介護技術 ①死を迎える人の介護 ②死を迎えた人の介護 ③亡くなった後の介護	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。
22	人生の採段階における介護	人生の最終段階における介護技術 ①死を迎える人の介護 ②死を迎えた人の介護 ③亡くなった後の介護	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。
23	人生の最終段階における介護	人生の最終段階における介護技術 ①死を迎える人の介護 ②死を迎えた人の介護 ③亡くなった後の介護	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。
24	人生の最終段階における介護	人生の最終段階における介護技術 ①死を迎える人の介護 ②死を迎えた人の介護 ③亡くなった後の介護	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。
25	人生の最終段階における介護	人生の最終段階の介護における多職種の役割と協働	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。
26	人生の最終段階における介護	①人生の最終段階における多職種の必要性 ②他の職種の役割（かかわり方）	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。
27	緊急時の介護	①想定される事故と予防の視点 ②応急手当とは	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。
28	緊急時の介護	応急処置・緊急時の対応の実際	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。
29	総括	全体的な授業の補足及び確認	これまでの内容を見直し、定期手テストに向け学習する。
30	総括	全体的な授業の補足及び確認	これまでの内容を見直し、定期手テストに向け学習する。

科目名	生活支援技術D	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 1単位 選択
担当教員	藤田 京子		
開講期	後期		
授業概要	<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>①健康を保持するための休息や睡眠の重要性を理解し、安眠を促す環境を整える支援について学ぶ。 ②住まいの役割と機能や高齢者・障害者の住まいについて理解する。 ③「睡眠・休息」「居住環境の整備」における多職種の役割と協働について理解する。 ④介護福祉士国家試験に必要な知識の習得</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>①健康を保持するための休息や睡眠の重要性を理解し、安眠を促す環境を整える支援について学ぶ。 ②住まいの多様性を理解するとともに、生活の豊かさや自立支援のための居住環境の整備について基礎的な知識を理解する。</p> <p>実務経験：看護師として総合病院に勤務した経験を活かし、授業を行う。 実務経歴：看護師として総合病院に勤務。</p>		
達成目標	<p>[授業終了時の到達目標]</p> <p>①健康を保持するための休息や睡眠の重要性を理解し、安眠を促す環境を整える支援について理解する。 ②住まいの役割と機能や高齢者・障害者の住まいについて理解する。 ③「睡眠・休息」「居住環境の整備」における多職種の役割と協働について理解する。 ④介護福祉士国家試験に必要な知識の習得</p> <p>[履修カルテの評価項目]</p> <p>①健康を保持するための休息や睡眠の重要性を理解し、安眠を促す環境を整える支援について理解する。 ②住まいの多様性を理解するとともに、生活の豊かさや自立支援のための居住環境の整備について基礎的な知識を理解する。</p>		
受講資格	人間生活学科 福祉コース	成績評価 方法	試験80%、レポート20%
教科書	中央法規出版 「生活支援技術」		
参考書	授業の中で随時、紹介		
学生への要望	自主的、積極的な姿勢で授業に取り組むこと。 授業を欠席しないこと。		
オフィスタイム	水・木曜日 IV時限 本館1階 保健室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	休息・睡眠時の介護	①ガイダンス・授業内容の説明 ②休息・睡眠における介護の意義と目的	シラバスを確認する。今回の内容を確認し、次回の内容を教科書で確認する。
2	休息・睡眠時の介護	睡眠の介護—不眠の原因と対応のし方について学ぶ。	今回の内容を確認し、次回の内容を教科書で確認する。
3	休息・睡眠時の介護	睡眠におけるアセスメントの視点について学ぶ。	今回の内容を確認し、次回の内容を教科書で確認する。
4	休息・睡眠時の介護	睡眠と薬の関連について学ぶ。	今回の内容を確認し、次回の内容を教科書で確認する。
5	休息・睡眠時の介護	安眠が得られるための環境づくりと、ベッドメイキングについて学ぶ	今回の内容を確認し、次回の内容を教科書で確認する。
6	休息・睡眠時の介護	睡眠の介護に関して、安楽な姿勢について学ぶ。	演習を実施しての感想をまとめる。次回の内容を教科書で確認する。
7	休息・睡眠時の介護	①多職種連携 ②これまでの授業内容に関する補足と確認。	今回の内容を確認し、次回の内容を教科書で確認する。
8	自立に向けた居住環境の整備	住まいの役割と機能 生活空間の構成	今回の内容を確認し、次回の内容を教科書で確認する。
9	自立に向けた居住環境の整備	快適な室内環境	今回の内容を確認し、次回の内容を教科書で確認する。
10	自立に向けた居住環境の整備	住まいの維持管理	今回の内容を確認し、次回の内容を教科書で確認する。
11	自立に向けた居住環境の整備	高齢者・障害者の住まいと取り巻く環境	今回の内容を確認し、次回の内容を教科書で確認する。
12	自立に向けた居住環境の整備	自立支援のための生活環境 福祉社環境整備	今回の内容を確認し、次回の内容を教科書で確認する。
13	自立に向けた居住環境の整備	暮らしやすい生活環境作り	今回の内容を確認し、次回の内容を教科書で確認する。
14	自立に向けた居住環境の整備	居住環境の整備における他職種の役割と協働	今回の内容を確認し、次回の内容を教科書で確認する。
15	総括	これまでの授業内容に関する補足と確認。	定期テストに向けた学習を行う。

科目名	介護実習Ⅰ-1		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 必修
担当教員	廣野 正子, 藤田 京子			
開講期	前期			
授業概要	<p>介護を必要とする対象者の生活と地域との関わりや、地域での生活を支える施設・機関の役割を理解し、地域における生活支援を実践的に学ぶ。さらに、介護を必要とする個人を理解するため、対象者や家族とのコミュニケーションを実践し、対象者の状況に応じた適切な生活支援技術を学ぶ。</p> <p>介護実習Ⅰ-1は通所施設での実習となる。</p> <p>実習時間の構成は、1日8時間で10日間、計80時間となる。</p> <p>廣野 実務経験：社会福祉法人での介護職と相談援助の実務経験をもとにスーパービジョンを行う。 実務経歴：社会福祉法人において介護福祉士として介護職員と生活相談員として勤務。</p> <p>藤田 実務経験：看護師として総合病院勤務していた臨床経験を活かし実習担当する。 実務経歴：看護師として総合病院に勤務。</p>			
達成目標	<p>①学内で学んだ講義、演習からのコミュニケーション技術の実践にて対象者との関わりを深める。</p> <p>②介護福祉士に求められる役割と機能を理解し、専門職としての態度を養う。</p> <p>③対象者、家族等との関係性の構築やチームケアを実践するための、コミュニケーションの基礎的な知識・技術を習得する。</p>			
受講資格	人間生活学科 福祉コース	成績評価 方法	実習施設の評価80%、巡回時の面談・実習日誌20%	
教科書	新・介護福祉士養成講座 介護総合演習・介護実習			
参考書	実習施設からの提示される資料			
学生への要望	各自の目標を明確にして、実習の臨んでほしい			
オフィスタイム	・水曜日 1時限 ・木曜日 1時限 創学館4階 No.1研修室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	学外介護事業所実習	オリエンテーション①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
2	学外介護事業所実習	オリエンテーション②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
3	学外介護事業所実習	オリエンテーション③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
4	学外介護事業所実習	利用者の生活の場である多様な介護現場を理解する①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
5	学外介護事業所実習	利用者の生活の場である多様な介護現場を理解する②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
6	学外介護事業所実習	利用者の生活の場である多様な介護現場を理解する③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
7	学外介護事業所実習	利用者の生活の場である多様な介護現場を理解する④	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
8	学外介護事業所実習	利用者・家族とのかかわりを通じたコミュニケーションの実践①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
9	学外介護事業所実習	利用者・家族とのかかわりを通じたコミュニケーションの実践②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
10	学外介護事業所実習	利用者・家族とのかかわりを通じたコミュニケーションの実践③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
11	学外介護事業所実習	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
12	学外介護事業所実習	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
13	学外介護事業所実習	利用者・家族とのかかわりを通じたコミュニケーションの考察①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
14	学外介護事業所実習	利用者・家族とのかかわりを通じたコミュニケーションの考察②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
15	学外介護事業所実習	利用者・家族とのかかわりを通じたコミュニケーションの考察③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
16	学外介護事業所実習	生活支援技術の確認①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
17	学外介護事業所実習	生活支援技術の確認②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。

回	項目	授業内容		
18	学外介護事業所実習	生活支援技術の確認③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
19	学外介護事業所実習	生活支援技術の実践①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
20	学外介護事業所実習	生活支援技術の実践②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
21	学外介護事業所実習	生活支援技術の実践③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
22	学外介護事業所実習	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
23	学外介護事業所実習	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン④	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
24	学外介護事業所実習	多職種協働の実践①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
25	学外介護事業所実習	多職種協働の実践②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
26	学外介護事業所実習	多職種協働の実践③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
27	学外介護事業所実習	多職種協働の実践④	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
28	学外介護事業所実習	実習反省会および振り返り①	介護実習日誌を記録する。実習指導者からアドバイスを伺い実習の振り返りを行う。	120
29	学外介護事業所実習	実習反省会および振り返り②	介護実習日誌を記録する。実習指導者からアドバイスを伺い実習の振り返りを行う。	120
30	学外介護事業所実習	実習反省会および振り返り③	介護実習日誌を記録する。実習指導者からアドバイスを伺い実習の振り返りを行う。	120

科目名	介護実習Ⅰ-2		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 4単位 選択
担当教員	廣野 正子, 藤田 京子			
開講期	後期			
授業概要	<p>多職種との協働の中で、介護福祉士としての役割を理解するとともに、サービス担当者会議やケースカンファレンス等を通じて、多職種連携やチームケアを体験的に学ぶ。</p> <p>介護実習Ⅰ-2は福祉施設での実習となる 実習時間の構成は、1日8時間で23日間、計184時間となる</p> <p>廣野 実務経歴：社会福祉法人での介護職と相談援助の実務経歴をもとに介護実習を担当する。 実務経歴：社会福祉法人において介護福祉士として介護職員と生活相談員として勤務。</p> <p>藤田 実務経歴：看護師として総合病院に勤務していた臨床経験を活かし実習を担当する。 実務経歴：看護師として総合病院に勤務。</p>			
達成目標	<p>①介護を実践する対象、場によらず、様々な場面に必要とされる介護の基礎的な知識・技術を習得する。 ②介護実践における安全を管理するための基礎的な知識・技術を習得する。 ③介護を必要とする対象者の理解のためアセスメント能力を身につける。</p>			
受講資格	人間生活学科 福祉コース	成績評価 方法	実習施設の評価80%、巡回時の面談・日誌の記録20%	
教科書	新・介護福祉士養成講座 介護総合演習・介護実習			
参考書	実習施設で配布される資料			
学生への要望	大学で学んだ専門的知識や技術を福祉の現場で実践できるよう、その能力を養ってほしい			
オフィスタイム	・水曜日 II時限 ・木曜日 II時限 創学館4階 No.1研修室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
1	学外介護施設実習	オリエンテーション①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
2	学外介護施設実習	オリエンテーション②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
3	学外介護施設実習	オリエンテーション③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
4	学外介護施設実習	生活支援技術の実践① 介護の実践のための、基本的な生活支援技術を学ぶ	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
5	学外介護施設実習	生活支援技術の実践② 介護の実践のための、基本的な生活支援技術を学ぶ	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
6	学外介護施設実習	生活支援技術の実践③ 介護の実践のための、基本的な生活支援技術を学ぶ	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
7	学外介護施設実習	生活支援技術の実践④ 介護の実践のための、基本的な生活支援技術を学ぶ	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
8	学外介護施設実習	生活支援技術の実践⑤ 介護の実践のための、基本的な生活支援技術を学ぶ	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
9	学外介護施設実習	生活支援技術の実践⑥ 介護の実践のための、基本的な生活支援技術を学ぶ	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
10	学外介護施設実習	多職種との連携を学ぶ① 生活相談員、介護援専門員、介護職との連携の実際	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60

回	項目	授業内容		
11	学外介護施設実習	多職種との連携を学ぶ② 医師、看護師、介護職との連携の実際	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
12	学外介護施設実習	多職種との連携を学ぶ③ 栄養士、調理師、介護職との連携の実際	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
13	学外介護施設実習	多職種との連携を学ぶ④ 理学療法士、作業療法士、介護職との連携の実際	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
14	学外介護施設実習	多職種との連携を学ぶ⑤ 生活相談員、医師、看護師、栄養士、調理師、理学療法士、作業療法士、介護支援専門員、介護職との連携の考察	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
15	学外介護施設実習	多職種との連携を学ぶ⑥ 生活相談員、医師、看護師、栄養士、調理師、理学療法士、作業療法士、介護支援専門員、介護職との連携の考察	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
16	学外介護施設実習	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
17	学外介護施設実習	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
18	学外介護施設実習	生活支援技術の実践⑦ 基本的な生活支援技術を実践	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
19	学外介護施設実習	生活支援技術の実践⑧ 基本的な生活支援技術を実践	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
20	学外介護施設実習	生活支援技術の実践⑨ 基本的な生活支援技術を実践	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
21	学外介護施設実習	生活支援技術の実践⑩ 基本的な生活支援技術を実践	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
22	学外介護施設実習	生活支援技術の実践⑪ 基本的な生活支援技術を実践	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
23	学外介護施設実習	生活支援技術の実践⑫ 基本的な生活支援技術を実践	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
24	学外介護施設実習	介護過程の実践① フェースシート関係の情報収集	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
25	学外介護施設実習	介護過程の実践② フェースシート関係の情報収集	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
26	学外介護施設実習	介護過程の実践③ フェースシート関係の情報収集	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
27	学外介護施設実習	介護過程の実践④ フェースシート関係の情報整理	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
28	学外介護施設実習	介護過程の実践⑤ フェースシート関係の情報整理	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
29	学外介護施設実習	介護過程の実践⑥ アセスメント表1関係の情報収集	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
30	学外介護施設実習	介護過程の実践⑦ アセスメント表1関係の情報収集	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
31	学外介護施設実習	介護過程の実践⑧ アセスメント表1関係の情報収集	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
32	学外介護施設実習	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
33	学外介護施設実習	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン④	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
34	学外介護施設実習	介護過程の実践⑨ アセスメント表1関係の情報収集	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
35	学外介護施設実習	介護過程の実践⑩ アセスメント表1関係の情報収集	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
36	学外介護施設実習	介護過程の実践⑪ アセスメント表1関係の情報収集	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120

回	項目	授業内容	
37	学外介護施設実習	介護過程の実践⑫ アセスメント表1 関係の情報収集	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
38	学外介護施設実習	介護過程の実践⑬ アセスメント表1 関係の情報収集	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
39	学外介護施設実習	介護過程の実践⑭ アセスメント表1 関係の情報整理	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
40	学外介護施設実習	介護過程の実践⑮ アセスメント表1 関係の情報整理	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
41	学外介護施設実習	介護過程の実践⑯ アセスメント表1 関係の情報整理	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
42	学外介護施設実習	生活支援技術の実践 利用者の状況を理解し、必要に応じた介護のあり方を学ぶ	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
43	学外介護施設実習	生活支援技術の実践 利用者の状況を理解し、必要に応じた介護のあり方を学ぶ	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
44	学外介護施設実習	生活支援技術の実践 利用者の状況を理解し、必要に応じた介護のあり方を学ぶ	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
45	学外介護施設実習	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン⑤	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
46	学外介護施設実習	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン⑥	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
47	学外介護施設実習	生活支援技術の実践 利用者の状況を理解し、必要に応じた介護のあり方を学ぶ	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
48	学外介護施設実習	生活支援技術の実践 利用者の状況を理解し、必要に応じた介護のあり方を学ぶ	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
49	学外介護施設実習	生活支援技術の実践 利用者の状況を理解し、必要に応じた介護のあり方を学ぶ	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
50	学外介護施設実習	介護過程の実践⑰ アセスメント表2の情報整理	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
51	学外介護施設実習	介護過程の実践⑱ アセスメント表2の情報整理	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
52	学外介護施設実習	介護過程の実践⑲ アセスメント表2の情報整理	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
53	学外介護施設実習	介護過程の実践⑳ アセスメント表2の情報整理	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
54	学外介護施設実習	介護過程の実践 個別援助計画書の作成	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
55	学外介護施設実習	介護過程の実践 個別援助計画書の作成	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
56	学外介護施設実習	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン⑦	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
57	学外介護施設実習	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン⑧	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
58	学外介護施設実習	行事、レクリエーションに参加し、企画・実施・評価の過程を学ぶ。可能であれば、企画し、実施する	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
59	学外介護施設実習	生活支援技術の実践 施設のカンファレンス等に参加し、介護をする上で必要な多職種の役割を学ぶことで、生活支援のチームの一員としての介護福祉士の役割を学ぶ	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
60	学外介護施設実習	実習反省会および振り返り	介護実習日誌を記録する。実習指導者からアドバイスを伺い実習の振り返りを行う。

科目名	介護実習Ⅱ		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 4単位 選択
担当教員	廣野 正子, 藤田 京子			
開講期	前期			
授業概要	<p>介護過程の展開を通して対象者の生活を理解し、本人主体の生活と自立を支援するための介護過程を実践的に学ぶ。また、専門職としての基本的技術を身につける。 介護実習Ⅱは福祉施設（入所）での実習となる。 実習時間の構成は、1日8時間で24日間、計192時間となる。</p> <p>廣野 実務経験：社会福祉法人での介護職と相談援助の実務経験をもとに介護実習を担当する。 実務経歴：社会福祉法人において介護福祉士として介護職員と生活相談員として勤務。</p> <p>藤田 実務経験：看護師として総合病院勤務していた臨床経験を活かし実習担当する。 実務経歴：看護師として総合病院に勤務。</p>			
達成目標	<p>①対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を地域で継続するための介護過程を展開できる能力を養う。 ②各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養う。</p>			
受講資格	人間生活学科 福祉コース	成績評価 方法	実習施設の評価80%、巡回時の面談・日誌の記録20%	
教科書	新・介護福祉士養成講座 介護総合演習・介護実習			
参考書	実習施設で配布される資料			
学生への要望	大学で学んだ専門的知識や技術を福祉の現場で実践できるよう、その能力を養ってほしい			
オフィスタイム	・水曜日 I 時限 ・木曜日 I 時限 創学館4階 No.1研修室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	学外介護施設実習	オリエンテーション①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
2	学外介護施設実習	オリエンテーション②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
3	学外介護施設実習	オリエンテーション③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
4	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める 指導者の助言と協力を得て対象利用者を決め、利用者の情報収集をする①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
5	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める 指導者の助言と協力を得て対象利用者を決め、利用者の情報収集をする②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
6	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める 指導者の助言と協力を得て対象利用者を決め、利用者の情報収集をする③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
7	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める 対象利用者の生活・介護上の問題を把握する①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
8	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める 対象利用者の生活・介護上の問題を把握する②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
9	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める 対象利用者の生活・介護上の問題を把握する③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
10	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める ニーズを明確化し、介護計画を作成する①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
11	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める ニーズを明確化し、介護計画を作成する②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
12	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める ニーズを明確化し、介護計画を作成する③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
13	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める 介護計画に基づき、適切な介護が実践できるようにする①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
14	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める 介護計画に基づき、適切な介護が実践できるようにする②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。

回	項目	授業内容	
15	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める 介護計画に基づき、適切な介護が実践できるようにする③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
16	学外介護施設実習	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
17	学外介護施設実習	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
18	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める 実践の記録をする①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
19	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める 実践の記録をする②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
20	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める 実践の記録をする③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
21	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める 自ら行った介護の評価や計画の修正をすることができるようにする①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
22	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める 自ら行った介護の評価や計画の修正をすることができるようにする②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
23	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める 自ら行った介護の評価や計画の修正をすることができるようにする③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
24	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める 自ら行った介護の評価や計画の修正をすることができるようにする④	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
25	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める ケース会議等に参加し、介護計画の作成と評価される過程を学ぶ①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
26	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める ケース会議等に参加し、介護計画の作成と評価される過程を学ぶ②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
27	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める ケース会議等に参加し、介護計画の作成と評価される過程を学ぶ③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
28	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める ケース会議等に参加し、介護計画の作成と評価される過程を学ぶ④	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
29	学外介護施設実習	利用者の24時間の生活援助を経験する 業務の流れを把握し実践する①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
30	学外介護施設実習	利用者の24時間の生活援助を経験する 業務の流れを把握し実践する②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
31	学外介護施設実習	利用者の24時間の生活援助を経験する 業務の流れを把握し実践する③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
32	学外介護施設実習	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
33	学外介護施設実習	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン④	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
34	学外介護施設実習	利用者の24時間の生活援助を経験する 業務の流れを把握し実践する④	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
35	学外介護施設実習	利用者の24時間の生活援助を経験する 24時間の利用者状況の把握①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
36	学外介護施設実習	利用者の24時間の生活援助を経験する 24時間の利用者状況の把握②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
37	学外介護施設実習	利用者の24時間の生活援助を経験する 24時間の利用者状況の把握③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
38	学外介護施設実習	利用者の24時間の生活援助を経験する 24時間の利用者状況の把握④	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
39	学外介護施設実習	利用者の24時間の生活援助を経験する 緊急時の対応①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
40	学外介護施設実習	利用者の24時間の生活援助を経験する 緊急時の対応②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
41	学外介護施設実習	利用者の24時間の生活援助を経験する 緊急時の対応③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。

回	項目	授業内容	
42	学外介護施設実習	利用者の24時間の生活援助を経験する緊急時の対応④	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
43	学外介護施設実習	喀痰吸引及び経管栄養の現場を見学する介護福祉士の業務として喀痰吸引及び経管栄養等を学び、医療的ケアの実践に役立てる①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
44	学外介護施設実習	喀痰吸引及び経管栄養の現場を見学する介護福祉士の業務として喀痰吸引及び経管栄養等を学び、医療的ケアの実践に役立てる②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
45	学外介護施設実習	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン⑤	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
46	学外介護施設実習	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン⑥	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
47	学外介護施設実習	喀痰吸引及び経管栄養の現場を見学する介護福祉士の業務として喀痰吸引及び経管栄養等を学び、医療的ケアの実践に役立てる③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
48	学外介護施設実習	喀痰吸引及び経管栄養の現場を見学する介護福祉士の業務として喀痰吸引及び経管栄養等を学び、医療的ケアの実践に役立てる④	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
49	学外介護施設実習	介護福祉士としての資質・適性を養う実習を通して援助場面を振り返り、介護者としてのあり方、援助の内容を分析し、介護福祉士としての自己覚知をはかる①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
50	学外介護施設実習	介護福祉士としての資質・適性を養う実習を通して援助場面を振り返り、介護者としてのあり方、援助の内容を分析し、介護福祉士としての自己覚知をはかる②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
51	学外介護施設実習	介護福祉士としての資質・適性を養う実習を通して援助場面を振り返り、介護者としてのあり方、援助の内容を分析し、介護福祉士としての自己覚知をはかる③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
52	学外介護施設実習	介護福祉士としての資質・適性を養う実習を通して援助場面を振り返り、介護者としてのあり方、援助の内容を分析し、介護福祉士としての自己覚知をはかる④	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
53	学外介護施設実習	介護福祉士としての資質・適性を養う自己の介護観を明確にする①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
54	学外介護施設実習	介護福祉士としての資質・適性を養う自己の介護観を明確にする②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
55	学外介護施設実習	介護福祉士としての資質・適性を養う自己の介護観を明確にする③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
56	学外介護施設実習	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン⑦	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
57	学外介護施設実習	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン⑧	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
58	学外介護施設実習	介護福祉士としての資質・適性を養う自己の介護観を明確にする④	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
59	学外介護施設実習	実習反省会および振り返り	介護実習日誌を記録する。実習指導者からアドバイスを伺い実習の振り返りを行う。
60	学外介護施設実習	実習反省会および振り返り	介護実習日誌を記録する。実習指導者からアドバイスを伺い実習の振り返りを行う。

科目名	認知症の理解A	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 必修
担当教員	藤田 京子		
開講期	前期		
授業概要	【授業の目的・ねらい】 ①認知症を取り巻く歴史的背景や施策、認知症の人を取り巻く状況について理解する。 ②認知症の原因となる主な疾患や症状の特徴を学び、それらにより引き起こされる日常生活への影響について理解する ③認知症の人を正しく理解し、適切な支援のあり方について学ぶ ④介護福祉士国家試験に必要な知識の習得 【授業全体の内容の概要】 認知症を取り巻く社会的な問題について理解する。また、認知症を引き起こす代表的な疾患を理解する。認知症の症状と生活面への影響を理解し、適切な支援のあり方を考察できる知識と技術を学ぶ 実務経験：看護師として総合病院に勤務していた臨床経験を活かし、授業を行う。 実務経歴：看護師として総合病院に勤務。		
達成目標	授業終了時の到達目標 ①認知症の原因疾患と生活上の影響を理解する ②認知症が引き起こす症状とその背景について理解する ③認知症の人に対するより良い対応のし方を理解する ④介護福祉士国家試験に必要な知識を習得する 【履修カルテの評価項目】 ①認知症の原因疾患をどの程度理解できたか ②認知症が引き起こす症状（中核症状とBPSD）をどの程度理解できたか ③認知症の人に対する適切な支援のあり方をどの程度理解できたか		
受講資格	福祉コースの学生	成績評価 方法	期末試験70%、小テスト10% レポート20%
教科書	中央法規出版「認知症の理解」		
参考書	授業の中で随時紹介		
学生への要望	主体的、積極的な姿勢で取り組んでほしい。 授業を欠席しないこと。		
オフィスタイム	月・水曜日 14時30分～16時 本館1階保健室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	認知症の人の生きる世界	①ガイダンス・授業内容の説明 ②認知症の人の生きる世界について理解を深める（ビデオ使用）	シラバスを把握する。ビデオの感想を書き次回提出する。 30
2	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解	認知症とは 認知症の主な原因となる疾患の理解（アルツハイマー型認知症）	今回の内容について見直しを行う。 30
3	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解	認知症の主な原因となる疾患の理解（脳血管性認知症・レビー小体型認知症等）	今回の内容について見直しを行う。 30
4	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解	認知症の症状（中核症状・BPSD）の特徴	今回の内容について見直しを行う。次回の授業内容について教科書で確認する。 30
5	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解	認知症の人の特徴的な心理・行動障害について理解する	今回の内容について見直しを行う。次回の授業内容について教科書で確認する。 30
6	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解	認知症の人の特徴的な心理・行動障害について理解する	今回の内容について見直しを行う。次回の授業内容について教科書で確認する。 30
7	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解	認知症の検査・診断と治療	今回の内容について見直しを行う。次回の授業内容について教科書で確認する。 30
8	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解	最新薬の種類と特徴 認知症の原因疾患についてのまとめ	今回の内容について見直しを行い、確認テストに向けて学習する。次回の授業内容について教科書で確認する。 60
9	認知症を取り巻く状況	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解についての確認テスト 認知症を取り巻く状況 ①認知症ケアの歴史について学ぶ	今回の内容について見直しを行う。次回の授業内容について教科書で確認する。 30
10	認知症を取り巻く状況	認知症ケアの理念と視点	今回の内容について見直しを行う。次回の授業内容について教科書で確認する。 30

回	項目	授業内容		
11	認知症を取り巻く状況	認知症当事者の視点から見てくるもの	今回の内容について見直しを行う。今回の授業内容について教科書で確認する。	30
12	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア	認知症を取り巻く状況についての確認テスト 認知症ケアの実際 ①パーソン・センタード・ケア	今回の内容について見直しを行う。今回の授業内容について教科書で確認する。	30
13	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア	認知症ケアの実際 ②認知症の人の理解と認知症の人の特性を踏まえたアセスメント・ツール	今回の内容について見直しを行う。今回の授業内容について教科書で確認する。	30
14	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア	認知症の予防法について学ぶ	今回の内容について見直しを行う。今回の授業内容について教科書で確認する。	30
15	総括	これまでの授業内容の補足及び確認	定期テストに向け学習する。	60

科目名	認知症の理解B	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 選択
担当教員	藤田 京子		
開講期	後期		
授業概要	[授業の目的・ねらい] ①認知症の人の生活及び家族や社会との関わりへの影響を理解する ②認知症のその人の特性を踏まえたアセスメントを行い本人主体の理念に基づいた認知症ケアの実践につなげる ③認知症を取り巻く社会資源について学ぶ ④介護福祉士国家試験に必要な知識の習得 [授業全体の内容の概要] 認知機能障害が及ぼす日常生活への影響や、認知症の人・家族の心の変化や生活面への影響を理解し、その支援のあり方を思考できる知識を身につける 実務経験：看護師として総合病院で勤務した経験を活かし、授業を行う 実務経歴：看護師として総合病院に勤務		
達成目標	[授業修了時の到達目標] ①認知症の人の生活及び家族や社会との関わりへの影響が理解できる ②認知症のその人の特性を踏まえたアセスメントを行い本人主体の理念に基づいた認知症ケアの実践につなげる ③地域のサポート体制、チームアプローチについて理解できる ④介護福祉士国家試験に必要な知識の習得		
受講資格	人間生活学科福祉コースの学生	成績評価 方法	期末試験80% 小テスト20%
教科書	中央法規出版「認知症の理解」 プリント配布		
参考書	授業の中で随時紹介		
学生への要望	主体的、積極的な姿勢で授業に取り組むこと 授業を欠席しないこと		
オフィスタイム	水・木曜日 14時30分～16時 本館1階保健室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア	①ガイダンス・授業内容の説明 ②前期の内容を振り返る	30
2	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア	認知症ケアの実際 ①認知症の人へのコミュニケーションについて学ぶ	30
3	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア	認知症ケアの実際 ②認知症の人へのケア	30
4	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア	認知症ケアの実際 ③-1認知症の人へのさまざまなアプローチ	30
5	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア	認知症ケアの実際 ③-2認知症の人へのさまざまなアプローチ	30
6	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア	認知症ケアの実際 ④認知症の人の終末期医療とケア	30
7	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア	認知症ケアの実際 ⑤-1環境づくり	30
8	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア	認知症ケアの実際 ⑤-2環境づくり	30
9	家族への支援	介護者支援 ①家族への支援	30
10	家族への支援	介護者支援 ②ケアラーへの支援	30
11	連携と協働	認知症の人の地域生活支援 ①制度・サービス・地域づくり ②若年性認知症についての理解とサポート体制について学ぶ	30
12	連携と協働	認知症の人の地域生活支援 ③多職種連携と協働	30
13	認知症の人への対応	事例検討1	60

回	項目	授業内容		
14	認知症の人への対応	事例検討2	今回の内容を復習する。	60
15	総括	これまでの授業内容の補足及び確認	今回の内容を復習し、定期テストに向けた学習を行う。	60

科目名	こころのしくみと機能		対象 単位数 必修	家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 必修
担当教員	堀 琴美			
開講期	前期			
授業概要	人は皆、人間らしく生きたいという欲求を持っています。そして様々な環境で刺激を受け、感情や記憶や知能を働かせ、適応し、あるいは葛藤を抱えて生きていきます。行動の理由、不安の原因、言葉の背景など、こころの働きを理解することにより、介護や福祉で質の高い支援を行っていくことができるでしょう。この授業は、介護福祉士および教職（高等学校福祉科）の資格必修科目に位置づけられ、こころに関する基礎知識を習得します。担当教員の臨床心理士としての実務経験を活かし、医療・福祉分野におけるリアルな人間の姿や複雑なこころの在り様を実践的に指導します。授業は毎回、対話式双方向型で進めていきますので、活発な意見や質問を歓迎します。ロールプレイやグループディスカッションも行いますので、そこで感じたことや気づいたこと等を大いに語り合い理解を深めてください。 実務経験：臨床心理士として医療機関、福祉施設に勤務。			
達成目標	【履修カルテの評価項目】 ①心の働きに関する用語を正しく言える。 ②学習理論や記憶のしくみなど、学んだ理論が日常でどう活用され、福祉や教育の場でどのように役立っているかを理解している。 ③加齢による人格や健康への影響と、高齢者の権利、自立と尊厳、欲求と自己実現などについて、理解している。			
受講資格	介護福祉士の資格取得を目指す者（必修） 教職（高等学校1種福祉）を目指す者（必修）	成績評価 方法	期末試験または期末レポート（80%） 授業態度・発言内容・レポート（20%）	
教科書	授業中にプリントを配布。			
参考書	テーマごとに授業で紹介する。			
学生への要望	理解を深めるために、体験的・実践的ワークを取り入れていきます。積極的に参加して、ディスカッションで多めに発言をしてください。			
オフィスタイム	水曜日Ⅳ、木曜日Ⅰ・Ⅲ 臨床心理学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	オリエンテーション	授業の目標、授業計画、授業ポリシー、評価方法、国家試験および教員採用試験（科目）における授業の位置づけ等。	この授業で学ぶことについて概要をつかみ、興味をもった内容について調べたり文献に当たったりする。	30
2	自己概念と尊厳・人間の欲求とは	マズローの欲求階層、自己実現、社会的欲求、心理的欲求、高齢者の権利、自立と尊厳などを学びます。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
3	心の構造	心の層構造（フロイト、ユング等）、脳の構造、こころの要素（知能、記憶、人格、感覚）などについて。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
4	適応のしくみ	フロイトの防衛機制を中心とした適応のしくみについて、やさしい例題を使って覚えていきます。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
5	人格理論	人格のタイプ論、家族や環境と人格形成、人生劇場、人格特性と自己一致などについて考えます。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
6	心理検査	色々な心理検査（人格検査・知能検査・発達検査・認知症検査、質問紙法・絵画法・投影法）など。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
7	発達理論	主要な理論家による生涯発達理論（エリクソン、ハヴィガースト）や認知発達理論（ピアジェ）、愛着理論（ボウルビィ）等を学びます。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
8	記憶のしくみ	記憶の貯蔵モデル、短期記憶、長期記憶、長期記憶の種類、作動記憶などについて。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
9	感情のしくみ	感情理論、情動の抑制と行動化、気分障害、動機づけ等について。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
10	心理療法	いろいろな心理療法（遊戯療法、芸術療法、精神分析療法、家族療法、SST）などについて。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
11	学習理論と行動療法	行動療法の原理、学習理論（レスポナント条件づけ、オペラント条件づけ）と認知行動療法。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
12	死の受容・障害の受容	キューブラ・ロスの「死」の受容プロセス、コーンの障害受容のステージ理論、介護する家族などについて考えます。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
13	カウンセリングの理念と方法	ロジャーズの人間中心療法の基本理念、カウンセリングのプロセスと行動変容、カウンセラーの言葉など。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
14	ストレスと対処	ストレスとストレスor、ストレス症状とストレス・コーピングについて学び、日常生活と心の健康について考えます。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30

回	項目	授業内容	
15	まとめ補足	補足解説、掘り下げ討論、練習問題、まとめを行います。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。 30

科目名	医療的ケア I	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 選択
担当教員	藤田 京子		
開講期	通年		
授業概要	<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>①医療的ケアの実施に関する制度の概要を理解する ②医療的ケアと関連付けた「個人の尊厳と自立」「医療的ケアの倫理上の留意点」「医療的ケアを実施するための感染予防」「安全管理体制」についての基礎的知識を理解する ③「喀痰吸引」「経管栄養」について根拠に基づく手技が実施できるよう、基本的知識、実施手順方法を理解する。 ④介護福祉士国家試験に必要な知識の習得</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>①医療的ケアに関する制度②安全な療養生活 ③清潔保持と感染予防 ④健康状態の把握 ⑤高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」概論 ⑥「たん吸引」実施手順 ⑦高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論⑧「経管栄養」実施手順を理解する 実務経験：看護師として総合病院に勤務していた経験を活かし、喀痰吸引や経管栄養等について授業を行う。 実務経歴：看護師として総合病院に勤務。</p>		
達成目標	<p>①医療的ケアの実施に関する制度の概要を理解する ②医療的ケアと関連付けた「個人の尊厳と自立」「医療的ケアの倫理上の留意点」「医療的ケアを実施するための感染予防」「安全管理体制」についての基礎的知識を理解する ③「喀痰吸引」「経管栄養」について根拠に基づく手技が実施できるよう、基本的知識、実施手順方法を理解する。 ④介護福祉士国家試験に必要な知識の習得する</p>		
受講資格	人間生活学科福祉コース	成績評価 方法	期末試験80%、小テスト20%
教科書	中央法規出版「医療的ケア」		
参考書	授業の中で随時紹介		
学生への要望	自主的、積極的な姿勢で授業に取り組むこと 国家試験にかかわる復讐を行う（小テストで確認） 授業を欠席しないこと。		
オフィスタイム	月・水曜日14時30分～16時 本館1階保健室（藤田）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	医療的ケア実施の基礎	①ガイダンス ②医療的ケアとは	シラバスの内容を確認し、今回の内容について見直しを行う。 20
2	医療的ケア実施の基礎	①医行為について ②喀痰吸引制度	今回の内容について見直しを行う。 30
3	医療的ケア実施の基礎	①医療的ケアと喀痰吸引等の背景 ②その他の制度	今回の内容について見直しを行う。 30
4	安全な療養生活	①たんの吸引や経管栄養の安全な実施 ②救急蘇生法	今回の内容について見直しを行う。 30
5	清潔保持と感染予防	①感染予防 ②介護職の感染予防	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。 30
6	清潔保持と感染予防	①療養環境の清潔、消毒法 ②消毒と滅菌	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。 30
7	健康状態の把握	①身体・精神の健康 ②健康状態を知る視点	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。 30
8	健康状態の把握	①急変状態について ②呼吸のしくみとはたらき	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。 30
9	医療的ケアの基礎知識	前回までのまとめと確認テスト	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。 30
10	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」概論	①呼吸のしくみとはたらき ②いつもと違う呼吸状態	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。 30
11	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」概論	①喀痰吸引とは ②人工呼吸器と吸引	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。 30

回	項目	授業内容	
12	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」概論	①子どもの吸引について ②吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。
13	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」概論	①呼吸器系の感染と予防 ②たん吸引により生じる危険、事後の安全確認	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。
14	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」概論	①急変・事故発生時の対応と事前対策 ②呼吸器系についてのまとめ	今回までの内容を見直すとともに、次回の確認テストに向け、教科書や配布プリントを見直し試験に向けた学習を行う。
15	前期総括	1～13講義までの確認テスト及び解説	試験の内容を見直す。
16	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」実施手順	①喀痰吸引で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持 ②喀痰吸引の技術と留意点	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。
17	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」実施手順	喀痰吸引の技術と留意点	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。
18	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」実施手順	喀痰吸引の技術と留意点	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。
19	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」実施手順	喀痰吸引の技術と留意点	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。
20	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」実施手順	①喀痰吸引に伴うケア ②報告及び記録 ③口腔ケア	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。
21	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」実施手順	喀痰吸引の実施手順の流れ、ポイントと留意点のまとめ	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。
22	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論	消化器系のしくみとはたらき	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。
23	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論	①消化・吸収と、よくある消化器の症状 ②経管栄養法とは	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。
24	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論	①注入する内容に関する知識 ②経管栄養実施上の留意点	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。
25	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論	①子どもの経管栄養について ②経管栄養に関する感染と予防 ③経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。
26	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論	①経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認 ②急変・事故発生時の対応と事前対策	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。
27	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論	経管栄養の種類としくみまとめと確認テスト	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。
28	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」実施手順	①経管形容で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔保持 ②経管栄養の技術と留意点	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。
29	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」実施手順	経管栄養の技術と留意点	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。
30	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」実施手順	①経管栄養の技術と留意点 ②経管栄養に必要なケア ③経管栄養のまとめ	今回の内容を見直すとともに、定期テストに向けて教科書や配布プリントで学習する。

科目名	医療的ケアⅡ		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 4年 1単位 選択
担当教員	藤田 京子			
開講期	前期			
授業概要	【授業の目的・ねらい】 ①介護職員が「喀痰吸引」「経管栄養」を行うに当たり、適切かつ安全に行うことができるよう、対象者の健康状態及び生活を総合的に把握する ②「喀痰吸引」「経管栄養」実施のため、確実な手技を習得する 【授業全体の内容の概要】 ①「喀痰吸引」「経管栄養」について、根拠に基づく手技が実施できるよう、基礎的知識、実施手順方法を理解する ②救急蘇生法についての手技を学ぶ 第1回：講義形式 第2回～11回：講義30分・演習形式60分 第12回～14回：演習評価 第15回：講義30分・演習形式60分 実務経験：看護師として総合病院に勤務していた臨床経験を活かし、授業を行う。 実務経歴：看護師として総合病院に勤務。			
達成目標	【授業終了時の到達目標】 ①介護職員が「喀痰吸引」「経管栄養」を行うに当たり、適切かつ安全に行うことができるよう、対象者の健康状態及び生活を総合的に把握する ②「喀痰吸引」「経管栄養」実施のため、確実な手技を習得する			
受講資格	人間生活学科福祉コース	成績評価 方法	実技試験80%、レポート20%	
教科書	中央法規出版「医療的ケア」			
参考書	授業の中で随時紹介			
学生への要望	主体的、積極的な姿勢で授業に取り組むこと。 授業を欠席しないこと。			
オフィスタイム	月・水曜日 14時30分～16時 本館1階保健室（藤田）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」「経管栄養」実施手順	①ガイダンス・授業内容の説明 ②たんの吸引・経管栄養の技術と留意点	30
2	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」演習	①口腔内吸引の技術と留意点 ②喀痰吸引演習	30
3	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」演習	①口腔内吸引の技術と留意点 ②喀痰吸引演習	30
4	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」演習	①鼻腔内吸引の技術と留意点 ②喀痰吸引演習	30
5	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」演習	①鼻腔内吸引の技術と留意点 ②喀痰吸引演習	30
6	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」演習	①気管カニューレ内吸引の技術と留意点 ②喀痰吸引演習	30
7	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」演習	①気管カニューレ内吸引の技術と留意点 ②喀痰吸引演習	30
8	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」演習	①経鼻経管栄養の技術と留意点 ②経鼻経管栄養演習	30
9	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」演習	①経鼻経管栄養の技術と留意点 ②経鼻経管栄養演習	30
10	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」演習	①胃ろう・腸ろうによる経管栄養の技術と留意点 ②胃ろう・腸ろう経管栄養演習	30
11	基高齢者及び障害児・者の「経管栄養」演習	①胃ろう・腸ろうによる経管栄養の技術と留意点 ②胃ろう・腸ろう経管栄養演習	30
12	演習評価	①たんの吸引 ②経管栄養	30
13	演習評価	①たんの吸引 ②経管栄養	30
14	演習評価	①たんの吸引 ②経管栄養	30
15	基本演習	救急蘇生法	90

科目名	人体の構造と機能	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 4年 2単位 選択
担当教員	大西 弘太郎		
開講期	前期		
授業概要	解剖学についての基本的な知識を学ぶ。 生理学についての基本的な知識を学ぶ。 主な疾患の成り立ちについて学ぶ。 実務経歴：医療法人・南労会、社会医療法人・西陣健康会、医療法人・郡山病院などでの実務経験をもとに講義を行う。実務経歴：医師として医療機関に勤務している。		
達成目標	解剖・生理学の基本をどの程度理解できたか。 主な生活習慣病の成り立ちをどの程度理解できたか。		
受講資格	家政学部 人間生活学科福祉コース 4年	成績評価 方法	小テスト (20%) レポート (80%)
教科書	人体の構造と機能及び疾病 新・社会福祉養成講座 中央法規		
参考書	なし		
学生への要望	双方向の授業を期待しています。		
オフィスタイム	臨床医学研究室 木曜日 08:30~12:00。 金曜日 08:30~12:00。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	120
1	栄養と代謝 糖尿病の諸問題	栄養と代謝 糖尿病はいまや社会問題 糖尿病はなぜ危険か 糖尿病とは 糖尿病の分類	糖尿病について予習・復習をしましょう。
2	栄養と代謝 糖尿病の諸問題	糖代謝の動態とインスリンの働き 糖尿病慢性合併症 糖尿病にならないライフスタイル	糖尿病について予習・復習をしましょう。
3	消化管	食道の構造と機能 胃の構造と機能 ピロリ菌感染と消化器疾患 ピロリ菌感染の臨床的意義 予防と治療	消化管の主な疾患について予習・復習をしましょう。
4	肝臓	肝臓の構造と機能 主なウイルス性肝炎 慢性肝炎と肝臓がん 脂肪肝 予防と治療	肝臓の主な疾患について予習・復習をしましょう。
5	虚血性心疾患、不整脈	心臓の働きと急性冠症候群 突然死とは 不整脈	虚血性心疾患、不整脈について予習・復習をしましょう。
6	神経	神経系の構造と機能 脳卒中とは 脳卒中の分類	神経の主な疾患について予習・復習をしましょう。
7	高血圧	高血圧はなぜ危険か 高血圧の現状 高血圧と減塩	高血圧について予習・復習をしましょう。
8	動脈硬化 その1	動脈硬化とは 動脈硬化の種類 動脈硬化はなぜ危険か	動脈硬化について予習・復習をしましょう。
9	動脈硬化 その2	動脈硬化とライフスタイル	動脈硬化について予習・復習をしましょう。

回	項目	授業内容	
10	認知症	認知症は社会問題 認知症の症状 認知症の分類 認知症とケア	認知症について予習・復習をしましょう。 120
11	運動器	運動器の構造と機能 サルコペニア ロコモティブシンドローム 廃用症候群の概要と予防	運動器の主な疾患について予習・復習をしましょう。 120
12	感染症	主な感染症	主な感染症について予習・復習をしましょう。 120
13	血液	白血病とは 白血病の分類 白血病の治療 分子標的薬の登場と寛解率の向上 成人T細胞性白血病型リンパ腫	血液の悪性腫瘍について予習・復習をしましょう。 120
14	腎臓の構造と機能 糸球体腎炎	糸球体の構造と機能 尿細管の構造と機能 急性糸球体腎炎 慢性糸球体腎炎	腎臓の構造・機能、糸球体腎炎について予習・復習をしましょう。 120
15	慢性腎臓病	慢性腎臓病の概念 慢性腎臓病の病理 慢性腎臓病の臨床 慢性腎臓病の予防	慢性腎臓病について予習・復習をしましょう。 120

科目名	こころとからだのしくみA	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 選択
担当教員	藤田 京子		
開講期	前期		
授業概要	<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>①生活支援技術の根拠となる人体の構造や機能について理解する ②生活支援における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する ③「移動」「身じたく」「食事」について、老化・疾患の特徴を踏まえた適切な援助法について理解する ④介護福祉士国家試験に必要な知識の習得</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>生活支援（移動・身じたく・食事）に必要な基礎的な知識として、生活支援の場面に応じた、こころとからだのしくみ及び機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解する。</p> <p>実務経験：看護師として総合病院に勤務していた臨床経験を活かし、授業を行う。 実務経歴：看護師として総合病院に勤務。</p>		
達成目標	<p>〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕</p> <p>①人体の構造と働きを理解する ②「移動」「身じたく」「食事」について、老化や疾患による影響について理解する ③「移動」「身じたく」「食事」について、観察力と判断力を身につけ、安全に介助できるための根拠を理解する ④介護福祉士国家試験に必要な知識の習得</p> <p>〔履修カルテの評価項目〕</p> <p>①人体の構造と働きを理解できたか ②「移動」「身じたく」「食事」について、老化・疾患による影響を理解できたか ③「移動」「身じたく」「食事」について、観察力と判断力を身につけ、安全に介助できるための根拠を理解する</p>		
受講資格	福祉コースの学生	成績評価 方法	期末試験80%、小テスト20%
教科書	中央法規出版「こころとからだのしくみ」		
参考書	授業の中で随時紹介		
学生への要望	主体的、積極的な姿勢で授業に取り組むこと 授業を欠席しないこと。		
オフィスタイム	月・水曜日 14時30分～16時 本館1階保健室（藤田）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	こころのしくみの理解	①ガイダンス・授業内容の説明 ②健康の定義 ③人間がもつ（1）基本的欲求（2）社会的欲求について学ぶ	30
2	こころのしくみの理解	自己概念と尊厳について学ぶ ①自己概念に影響を与える要因について理解する ②自立への意欲と自己概念の関係について理解する ③自己実現、生きがいについて理解する	30
3	こころのしくみの理解	こころとからだの関係について理解する ①こころとは何か ②脳のしくみ ・学習・記憶・思考のしくみ ・認知・適応のしくみ	30
4	からだのしくみの理解	からだのしくみ ①脳・心臓などの基本的な解剖、生理、生命維持のしくみを理解する	30
5	からだのしくみの理解	からだのしくみ ②骨・関節など、からだの動きのメカニズムを理解する ボディメカニクス、関節可動域等	60

回	項目	授業内容	
6	移動に関連したところとからだのしくみ	「こころ」と「からだ」のしくみについて、確認テスト 移動を理解する上で必要な基本的内容として ①良肢位や安全な移動 ②歩行のしくみについて学ぶ 人が移動する必要性や移動の効果について学ぶ ①移動に関連したところのしくみ ②移動に関連したからだのしくみ	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。 30
7	移動に関連したところとからだのしくみ	心身の機能低下が移動に及ぼす影響として ①老化による機能低下 ②疾患による機能低下 ③障害による機能低下、これらが移動にどのような影響を及ぼすのか、 ④移動における多職種との連携等について学ぶ	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。 30
8	移動に関連したところとからだのしくみ	心身の機能低下や障害が及ぼす移動への影響について学ぶ (骨折や廃用症候群等)	移動に関しての内容を復習し、確認テストに向けた学習を行う。また次回の項目を教科書で確認する。 60
9	身じたくに関連したところとからだのしくみ	移動に関連したところとからだの確認テスト 身じたくのしくみ ①身じたくを整えることの意義・目的 ②身じたくに関連したところとからだのしくみ	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。 30
10	身じたくに関連したところとからだのしくみ	①老化による機能低下 ②病気による機能低下 ③障害による機能低下 が身じたくにどのような影響を及ぼすのか ところとからだの面から学び、よりよい支援について考える	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。 30
11	身じたくに関連したところとからだのしくみ	①老化による機能低下 ②病気による機能低下 ③障害による機能低下 が身じたくにどのような影響を及ぼすのか ところとからだの面から学び、よりよい支援について考える また、機能低下や障害が及ぼす整容行為への影響を学ぶ	身じたくに関しての内容を復習し、確認テストに向けた学習を行う。また次回の項目を教科書で確認する。 30
12	食事に関連したところとからだのしくみ	身じたくに関連したところとからだのしくみの確認テスト 食事は、活動や生命を維持するために必要な最も基本的な日常生活行為である。 食事に関連したところのしくみ ①なぜ食事をするのか ②食事に関連したところのしくみ	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。 30
13	食事に関連したところとからだのしくみ	食事に関連したからだのしくみ ①摂食のメカニズム、等について学ぶ 心身の機能低下・障害が及ぼす食事への影響について学ぶ ①老化による機能低下	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。 30

回	項目	授業内容	
14	食事に関連したところとか からだのしくみ	心身の機能低下が食事に及ぼす影響について、 ①病気による機能低下 ②障害による機能低下 ③食事における他職種との連携、等について学ぶ。 ④食事制限が必要な人の食行為、嚥下障害に気づく観察のポイント、 誤嚥を予防するための日常生活での留意点、等について学ぶ	食事に関する内容を復習し、確認テストに向けた学習を行う。また次回の項目を教科書で確認する。
15	総括	食事に関連したところとかからだのしくみの確認テスト これまでの授業内容の補足及び確認	今回の復習を行い、定期テストに向けた学習を行う。

科目名	こころとからだのしくみB	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 選択
担当教員	藤田 京子		
開講期	後期		
授業概要	<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>①生活支援技術の根拠となる人体の構造や機能について理解する ②生活支援における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する ③「入浴・清潔保持」「排泄」「睡眠」について、老化・疾患の特徴を踏まえた適切な援助法について理解する ④人生の最終段階にある人と家族を支援するため、終末期の心身の変化が生活に及ぼす影響を学び生活支援を行うために必要となる基礎的な知識を理解する ⑤介護福祉士国家試験に必要な知識の習得</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>生活支援技術（入浴・清潔保持、排泄、睡眠、終末期）を安全に、適切に行う上での根拠となる人体の構造や機能について学ぶ</p> <p>〔履修カルテの評価項目〕</p> <p>①入浴・清潔保持、排泄、睡眠、等における利用者の生活・自立支援に必要な基礎的知識について理解できたか ②入浴・清潔保持、排泄、睡眠、等が、老化や疾患により及ぼされる影響について理解できたか ③入浴・清潔保持、排泄、睡眠、等について、安全に介助できるための根拠を理解できたか ④人生の最終段階のケアにおける介護職の役割について理解できたか</p> <p>実務経験：看護師として総合病院に勤務した経験を活かし、授業を行う。 実務経歴：看護師として総合病院に勤務。</p>		
達成目標	<p>〔授業修了時に到達目標〕</p> <p>①入浴・清潔保持、排泄、睡眠、等における利用者の生活・自立支援に必要な基礎的知識について理解する ②入浴・清潔保持、排泄、睡眠、等が、老化や疾患により及ぼされる影響について理解する ③入浴・清潔保持、排泄、睡眠、等について、安全に介助できるための根拠を理解する ④人生の最終段階のケアにおける介護職の役割について理解する ⑤介護福祉士国家試験に必要な知識の習得</p>		
受講資格	福祉コースの学生	成績評価 方法	期末試験80% 小テスト20%
教科書	中央法規出版「こころとからだのしくみ」		
参考書	授業の中で随時紹介		
学生への要望	主体的、積極的な姿勢で授業に取り組むこと 授業を欠席しないこと。		
オフィスタイム	水・木曜日 14時30分～16時 本館1階保健室（藤田）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	入浴・清潔保持	①ガイダンス・授業内容の説明 ②なぜ入浴・清潔保持を行うのか ③清潔がもたらす効果 ④高齢者や障害者にとっての清潔保持の意義と楽しみ方について	30
2	入浴・清潔保持	入浴・清潔保持に関連したからだのしくみについて理解する ①皮膚の構造としくみ ②発汗のしくみ ③皮膚の汚れのしくみ	30
3	入浴・清潔保持	心身機能の低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響 ①老化による皮膚機能の変化と影響 ②疾患による機能低下：褥瘡・高血圧・心疾患・呼吸器疾患 ③障害による機能低下：視覚機能低下と影響、運動機能低下と影響	30
4	入浴・清潔保持	入浴・清潔保持における観察のポイント ①変化の気づきと対応 ②心身の状態に応じた入浴・清潔の方法 ③入浴・清潔保持における医療職との連携	60
5	入浴・清潔保持	入浴・清潔保持に関する演習問題 入浴・清潔保持に関する確認テストおよび要点を復習	30
6	排泄	排泄に関連したこころとからだのしくみ：なぜ排泄を行うのか、排泄の意義	30
7	排泄	排泄に関連した「こころ」のしくみ 排泄に関連した「からだ」のしくみ 演習課題	30

回	項目	授業内容		
8	排泄	心身の機能低下が排泄に及ぼす影響として、 ①老化による機能低下 ②疾患による機能低下 ③障害による機能低下 演習課題	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。	30
9	排泄	生活場面におけることとからだの変化の気づきと医療職との連携 ①排泄における観察のポイント ②排泄における医療職との連携 演習課題	排泄の内容を復習し確認テストに向けた学習を行う。次回の項目を教科書で確認する。	60
10	排泄	排泄に関する演習課題 排泄に関する確認テストと要点の復習	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。	30
11	休息・睡眠	睡眠に関連したところとからだのしくみ ①睡眠のしくみ ②睡眠に関連したところのしくみ・からだのしくみ	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。	30
12	休息・睡眠	心身機能の低下・障害が睡眠に及ぼす影響 ①睡眠に影響を及ぼす心身の機能低下 ②睡眠障害 こととからだの変化の気づきと医療職との連携 ①睡眠での観察ポイントと連携のポイント 演習課題	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。	30
13	人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ	人生の最終段階のケアに関連したしくみ ①死を理解する ②終末期から「死」までの変化と特徴 ③死に対するところの変化	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。	30
14	人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ	医療職との連携のポイントについて学ぶ 演習課題	休息・睡眠と人生の最終段階に関連した内容を復習し確認テストに向けた学習を行う。	60
15	総括	休息・睡眠と人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみについての確認テストと復習 これまでの授業内容の補足及び確認	これまでの内容を確認し、定期テストに向けた学習を行う。	60

科目名	衣生活概論	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科 1年 2単位 選択
担当教員	武井 玲子		
開講期	前期		
授業概要	人間が生活していく上で必要不可欠な衣生活に関して、ヒトと被服、それを取り巻く環境との関連性を総合科学的な視点で幅広く学ぶことにより、衣生活に関わる諸問題への対処が可能となる。また、企業における企画開発や研究開発部門での勤務経験を活かして、被服の汚れや洗浄、家庭用品の安全性の考え方、などの講義を行う。実務経歴：衣食住生活関連の家庭用品製造販売企業において、企画開発や研究開発、安全性評価や技術広報活動を担当。		
達成目標	1. 被服の持つ機能・役割について理解できた。 2. 繊維の種類と特徴を理解できた。 3. 被服着用時における安全性上のリスクについて理解できた。		
受講資格	特になし	成績評価 方法	①課題レポート：30点 ②期末レポート：70点
教科書	配布資料		
参考書	「衣生活論」、小林茂雄他、(株)アイ・ケイ・コーポレーション(2008)他、(N02被服学研究室所蔵図書)		
学生への要望	自分および家族の衣生活実態と問題点を考えながら受講し、授業内容を実生活に反映させること。		
オフィスタイム	火曜日(Ⅱ時限)：N02被服学研究室 水曜日(全日)：N02被服学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	ガイダンス	シラバスにそって授業の概要や達成目標、進め方や成績評価方法を説明する。授業を受けるにあたっては、身近な毎日の衣生活に関心を持つことが大切であること、そうすることで、講義内容の理解が深まること、などを解説する。	30
2	被服着用の目的と機能	主要な被服着用目的は、①生理的・物理的目的、②美的・心理的目的、③社会的目的、である。これらの被服着用品目的と具体的な被服の着用事例とを結び付けて理解を深める。	30
3	衣生活実態調査の実施	各自の衣生活実態調査の課題を課すにあたり、調査目的と実施方法の説明を行う。調査は、①所有被服枚数、②死蔵被服枚数(1年間着用しなかった被服)、③保管状況、④衣生活実態についての自己評価点とその理由、の各項目について実施する。実態調査をするにあたり、被服の保管の目的や方法を説明する。	120
4	実態調査結果の報告と問題点・課題の抽出	各自の衣生活実態調査結果を発表すると共に、他の学生の調査結果を聞き、各自の実態とを比較しながら、自分自身の問題点と課題を考える。	60
5	衣生活(被服)と環境(1)	死蔵被服を減少するという課題解決のために、被服と環境との関わりについて、ライフサイクルアセスメント(LCA)の考え方から考察する。繊維、布や被服の製造と流通、生活者の被服購入、着用、手入れ・洗濯、保管、廃棄・リサイクルという被服のライフサイクル全体における環境との関わり(資源、エネルギーの消費と炭酸ガス他廃棄物排出)について学び、現在の自分の衣生活について考察し、環境負荷低減に向けた衣生活のあり方をまとめる。	60
6	衣生活(被服)と環境(2)	前回の授業内容を更に実生活に即して学び、死蔵衣服や繊維原料の資源問題、廃棄とリサイクルなどの現状を考えながら、環境負荷低減を目指した衣生活行動を、5R(Reduce, Recycle, Reuse, Remake, Repair)の視点から考察し、具体的な実践行動を抽出する。	60

回	項目	授業内容	
7	被服の生理的・物理的機能	人体生理、被服内気候、被服圧などから被服の快適性の意味を理解する。恒温動物の人間がどのような生理機能で恒温を保つか、そこにおける被服の役割を認識する。さらに、人体の形状と運動変形における動き易い被服の条件、被服圧について理解する。また、高齢者や乳幼児、身障者の被服、スポーツ・労働用・農業・消防用、などの機能服の被服要件を学ぶ。	配布資料を参考にしながら、本日の講義内容についてまとめる。
8	被服着用と安全性	被服は第二の皮膚といわれるように皮膚と直接接触するために、皮膚刺激やアレルギー等の皮膚障害上の安全性問題が存在する。さらに、被服の人体に対する安全性としては、静電気障害・燃焼障害やヒモ等の付属品による事故発生リスクがあり、これらの発生原因とその対策を学ぶ。	本日の講義内容を配布資料にしたがって復習し、理解を深める。また、関心があったニュースについて自分の考えをまとめる。
9	被服の心理的・社会的機能	被服の心理的機能には、美しく装いたい、流行の服を着たいという装身の機能が考えられる。一方、社会的機能としては服装のシンボルとしての象徴性や風俗・習慣・道徳などの社会的規範による容儀の機能が存在する。それぞれについて意味を知り、被服着用目的を再確認する。	本日の講義内容を配布資料にしたがって復習し、理解を深める。また、関心があったニュースについて自分の考えをまとめる。
10	被服の素材の種類と特徴	被服を構成する素材（繊維、糸、布）の種類と機能や特徴を学ぶ。実際に映像を見たり、布サンプルを手にとりながら理解を深める。	本日の講義内容を配布資料にしたがって復習し、理解を深める。自分の所蔵衣服の素材について調査する。
11	被服の製造・流通・購入（市場調査）	被服・繊維の製造・流通の歴史を学び、現状を把握し問題点を考察する。特に、現在の様々な流通経路を通じての被服購入のメリットやデメリットを明らかにする。さらに、市場調査を実施し、被服に付けられている標示のわかりやすさや見やすさなどを生活者視点で評価し、問題点や課題を抽出する。	本日の講義内容を配布資料にしたがって復習し、理解を深める。市場調査結果についてまとめ、レポートを作成する。
12	被服の着用による汚れ付着	被服着用による被服に付着する汚れの種類や付着状態、汚れの身体や被服への影響を学ぶ。また、汚れたままにしておいた場合のニオイ発生メカニズムを学ぶ。	本日の講義内容を配布資料にしたがって復習し、理解を深める。また、関心があったニュースについて自分の考えをまとめる。
13	汚れ除去メカニズム	被服に付着した汚れの除去方法として、現在実施されている家庭洗濯とドライクリーニング洗濯の違いを学ぶ。より理解を深めるために実験、映像を用いる。期末レポートの課題を提示する。	本日の講義内容を配布資料にしたがって復習し、理解を深める。また、関心があったニュースについて自分の考えをまとめる。期末レポート対応。
14	汚れ除去と被服の快適性を付与する剤の種類と特徴（市場調査）	現在市販されている洗剤類、繊維・布・被服の機能を回復し快適性を付与する柔軟剤、糊剤、漂白剤などの種類と特徴、効果的な使い方を知る。また、市場調査で店頭に並べられている洗剤類を見ながら、理解を深める。	本日の講義内容を配布資料にしたがって復習し、理解を深める。また、自宅の洗濯機や使用洗剤・関連品について実態を把握する。期末レポート対応。
15	総括	ヒト（生活者）とモノ（被服）、それを取り巻く環境との関係から健康・快適、安全・安心、環境負荷低減型衣生活をデザインするための要点をまとめ、望ましい衣生活のあり方をまとめる。	本日の講義内容を配布資料にしたがって復習し、自分自身の望ましい衣生活のあり方を考え、実践していく。

科目名	被服管理学		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 選択
担当教員	武井 玲子			
開講期	後期			
授業概要	被服の購入から廃棄までのライフサイクル全般において、安全・安心・快適、環境保全をめざした衣生活管理を自然・社会・人文科学の総合科学の視点から幅広く専門的に学び、家庭科教員としての指導力や個人の衣生活管理の向上をめざす。また、企業における企画・研究開発部門の勤務経験を活かし、被服管理の要件(汚れと洗浄や保管方法、など)や人体・環境安全性に関して講義する。実務経歴：衣食住生活関連の家庭用品製造販売企業において、企画開発や研究開発、安全性評価や技術広報活動を担当。			
達成目標	①被服の生産段階における日本と世界の現状を理解する。 ②被服の購入及び手入れ時などの管理時において注意すべき取扱い絵表示、組成表示、その他の表示について理解している。 ③被服の保管時の問題点を理解している。			
受講資格	特になし		成績評価 方法	①課題レポート：30点 ②期末レポート：70点
教科書	配布プリント			
参考書	「被服整理学」(社)日本衣料管理協会(平成20年)、「衣服管理の科学」片山倫子編(建帛社、平成14年)、N02被服学研究室の所蔵図書			
学生への要望	日常の衣生活を問題意識をもってみつめること。			
オフィスタイム	火曜日(Ⅱ時限)：N02被服学研究室 水曜日(全日)：N02被服学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目		授業内容	
1	ガイダンス	シラバスにそって、授業の概要や到達目標、進め方や評価方法などを説明する。	本日の講義内容をまとめ、問題点をピックアップする。	30
2	繊維・被服の生産・流通	世界的にみた繊維の生産状況を知る。ファストファッションの生産、流通の現状を把握し、考察する。ファストファッションの製造国での状況を映像で確認する。	本日の講義内容をまとめ、理解を深める。	30
3	被服の選択と購入	被服に関する法規制である「家庭用品品質表示法」、JISや自主規制などについて理解する。前回のファストファッションに続き、ベトナムモン族の民族衣装や日本のゆかたの着装を映像で見ることにより、スローファッションのメリット・デメリットを考える。	本日の講義内容をまとめ、理解を深める。また、自分自身の被服購入方法と失敗経験などについてまとめ、次回の講義に備える。	30
4	購入方法に関する事例研究	各個人の被服購入経験の失敗事例を発表する。これらの失敗事例を問題点別にまとめ、購入時における課題をまとめる。衣料の計画的な購入、購入時のチェックポイント、消費者の義務と権利、消費者苦情の重要性を学ぶ。	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。	30
5	着用と汚れ	着用による被服に付着する汚れの種類と成分、付着のしかたを繊維の性質との関係から学ぶ。また、汚れの人体と繊維に及ぼす影響を考える。	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。	30
6	着用とニオイ	汚れがどのようにニオイに変化するかその発生原因を学ぶ。ニオイと香りの科学を学び、最近の香りブームやスメルハラスメント等の問題点と課題に関して議論し理解する。	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。さらに、自分や家庭の中のニオイについて考えてみる。	60
7	被服の色と変化、色の基本とカラーユニバーサルデザイン	染色の歴史と科学を学ぶ。被服の色は、着用や洗濯、保管時において色落ち、色移り、色泣きなどの変退色の変化が見られる。そのメカニズムを把握し、防止・予防方法を確認する。また、色の基本やカラーユニバーサルデザインについても理解を深める。	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。	30
8	日本の染織文化(映像)	前回の講義内容をより理解し深めるために、日本の染織文化に関する映像を鑑賞し、感想を発表する。	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。	30
9	被服の手入れ 家庭洗濯とドライクリーニング	家庭洗濯とドライクリーニングによる汚れ除去メカニズムの違いを知り、それぞれのメリット・デメリットを確認する。失敗事例から失敗しない洗濯手入れ方法を学ぶ。	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。自宅の被服の手入れ実態について調査する。	30
10	洗剤の科学	洗剤の種類と成分、界面活性剤の種類と機能、汚れ除去のメカニズム、洗剤の歴史の変遷を学ぶ。	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。自宅に保管されている洗剤など被服の手入れに関する家庭用品について調査する。	60

回	項目	授業内容		
11	仕上げ剤の種類と特徴	洗濯後、繊維をおろし立ての状態に保つために様々な商品が市販されている。代表的なものは漂白剤、柔軟剤、糊剤等である。これらの製品の成分、種類、使用方法を実物を手にしながら学ぶ。 ①漂白剤：種類と特徴、漂白のメカニズム、使用方法、蛍光増白との違い、しみぬきの原理と方法 ②柔軟剤：種類と特徴、効果・機能（柔軟効果、静電気防止、香りなど）の変化、使用方法 ③洗濯糊：種類と特徴、使用方法	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。	30
12	被服の保管 (市場調査)	保管の目的、保管中の衣料の性能変化の原因、防虫・防かび、抗菌のための保管用具、防虫剤、乾燥剤などの種類と性能などを学び効果的な保管方法について理解する。さらに、市場調査により理解を深める。	配布資料を参考としながら、本日の市場調査結果についてまとめ、次回発表用とする。	60
13		日常使用しているタオルの望ましい管理について学ぶ。 タオルの製造と種類、購入時の注意点、使用時の問題点、手入れと洗濯、保管の項目について各自が調査をして結果を発表する。タオルの望ましい管理についてまとめる。期末レポートの課題を提示する。	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。また、自宅に保管されているタオルについて調査し、その種類や問題点・課題や抽出する。期末レポート対応。	120
14	被服管理の事例研究(2)	市場調査結果について報告する。履物の望ましい管理について学ぶ。履物が足に合わないための外反母趾などの足の被害状況、履物の購入時の問題点や課題、着用時・手入れ・保管時の問題点を抽出し、望ましい履物管理についてまとめる。	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。自宅の履物をチェックし、問題点を抽出する。期末レポート対応。	120
15	総括・まとめ	本講義のまとめを行う。	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。	30

科目名	生活学的法律論	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 選択
担当教員	鈴木 康元		
開講期	後期		
授業概要	[授業の目的・ねらい] 民法のうち「家族法」という分野につき基本的な知識を身につける [授業全体の内容の理解] 家族法の基本知識を教え、成年後見制度等についても理解してもらう [授業終了時の達成課題（到達目標）] 婚姻、離婚、親子等について民法上の理解を身につけ日常生活に生かせること 実務経験：弁護士として、法律事務所長として勤務する経験を活かし、授業を行う。 実務経歴：弁護士として、法律事務所長として勤務。		
達成目標	[授業の目的・ねらい] 民法のうち「家族法」という分野につき基本的な知識を身につける [授業全体の内容の理解] 家族法の基本知識を教え、成年後見制度等についても理解してもらう [授業終了時の達成課題（到達目標）] 婚姻、離婚、親子等について民法上の理解を身につけ日常生活に生かせること		
受講資格	家政学部 1年	成績評価 方法	ペーパー試験と出席の程度を考慮する
教科書	その都度指定する		
参考書	その都度指定する		
学生への要望	法律一般につき興味をもって欲しい		
オフィスタイム	授業開始前：創学館2階教務部非常勤講師室 授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	家族法とは	民法における家族法位置づけと家族の意味	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 30
2	婚姻（1）	婚姻の意味と婚約等	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
3	婚姻（2）	婚姻の効力→婚姻をすると、夫婦はどのような義務を負うのか	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
4	離婚（1）	離婚の意味と実態等について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
5	離婚（2）	離婚の方法と実務から見た問題点について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
6	内縁	内縁の意味とその法的意味	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
7	親子（1）	親子の種別（実子・養子）と法的効果について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
8	親子（2）	親権の意味と内容について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
9	扶養	法律上の扶養義務者と現代的変遷について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
10	相続の基礎	相続の意味と現代的特色	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
11	相続人	誰が相続人になるのか、相続人に相続させたくない場合は	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
12	相続の効力（1）	遺産承継について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
13	相続の効力（2）	相続分と遺産分割について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
14	遺言	遺言の意義・方式等	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
15	成年後見	成年後見制度について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60

科目名	生活学的経済論		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択
担当教員	長谷川 貴弘			
開講期	前期			
授業概要	<p>本授業の目的は、生活と密接にかかわる経済の基礎知識の習得と経済学的視点の確立である。不景気・デフレーション・円高・円安・インフレーション・消費生活・生活経済等、普段からニュースや新聞で取り上げられるが、これらの経済的事象は私達の生活と密接にかかわっている。これら経済的事象を経済学的視点で見る目を養うことを本授業の目的としたい。</p> <p>なお、在北京日本国大使館経済部での勤務経験を活かし、授業の中で経済統計の見方、マクロ経済の理論と実際について採り上げていく。</p> <p>○実務経歴 在北京日本国大使館経済部専門調査員として主に中国経済の分析に従事。</p>			
達成目標	経済的事象を経済学的視点で見る目を養うとともに、公務員試験の経済学の問題にも対応できる力を養うことを到達目標とする。			
受講資格	家政学部 人間生活学科 1年生 家政学部 食物栄養学科 1年生	成績評価 方法	①小テスト30点 (15点×2回) ②レポート70点	
教科書	プリントを配布する。			
参考書	伊藤元重「はじめての経済学(上)(下)」日経文庫、他必要に応じ授業の中で紹介する。			
学生への要望	普段からニュースや新聞で取り上げられる経済関連の問題について関心を持つようにすること。			
オフィスタイト	火曜日 3コマ 水曜日4コマ 経営管理學研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	ガイダンス・経済学とは何か①	授業の進め方、評価方法について解説する。 経済学とは何かを説明する第一の例としてインフレーションとデフレーションを取り上げ、両者が私達の生活に与える影響について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
2	経済学とは何か②	第二の例として円安と円高を取り上げ、両者が私達の生活にどのような影響を与えるのかについて学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
3	経済学とは何か③	経済学をめぐる行われてきた政策論争(自由貿易vs保護貿易)について学修することを通じて経済学への理解を深める。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
4	消費生活と経済①	消費と消費者の概念について、消費者の権利と責任について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
5	消費生活と経済②	様々な消費者問題とクーリングオフについて学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
6	消費生活と経済③	グリーンコンシューマーとフェアトレードの概念について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
7	消費生活と経済④	消費生活と経済について総まとめ。 小テスト1回目	これまでの学修内容をノート・プリントを通じて復習し、小テストに備えること。	30
8	生活と経済-エンゲルの法則と家計調査①	世界と日本の家計研究の歴史について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
9	生活と経済-エンゲルの法則と家計調査②	エンゲルの法則とエンゲル係数の概念について学修する。	これまでの学修内容をノート・プリントを通じて復習しておくこと。	30
10	生活と経済-エンゲルの法則と家計調査③	近年のエンゲル係数の動向について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
11	マクロ経済学の基本と日本経済①	マクロ経済学(Macro Economics)が分析の対象とするGDP(国内総生産)の計算方法とその意味する点について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
12	マクロ経済学の基本と日本経済②	日本と世界のGDPのデータを通じて、それが意味するものについて学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。併せてレポートを作成すること。	60
13	地域経済~郡山市の経済について①	地域経済とは何かを解説した上で、私達が住んでいる郡山市の経済とその特徴について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。併せてレポートを作成すること。	60
14	地域経済~郡山市の経済について②	郡山市の経済とその特徴について学修する(前回の続き)。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。併せてレポートを作成すること。	60
15	まとめ	これまでの学修内容を確認する。 小テスト(2回目)	これまでの学修内容をノート・プリントを通じて復習し、小テストに備えること。	60

科目名	生活学的社会論		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択
担当教員	長谷川 貴弘			
開講期	前期			
授業概要	<p>私達は社会の中で生きており、生活と社会は切り離して考えることはできない。 本授業では、私達が生活している社会が、今現在どのような構造を持ち、どのような状態にあり、どのような課題を抱えているかについて、理解を深め、考察する力を養うことを目的としている。 まず「社会」という概念について学習し、社会の構造、状態、課題について理解を深めるため、少子高齢化、雇用問題、経済格差、グローバル化等、ニュースや新聞で取り上げられる事象を通じて解説する。 なお、本講義では、内閣府での勤務経験を活かし、授業の中で統計資料の見方、活用の仕方についても採り上げていく。 ○実務経歴 内閣府政策統括官（経済財政分析担当）付参事官（海外担当）付任期付職員として従事。</p>			
達成目標	私達が生活している社会が、今現在どのような構造を持ち、どのような状態にあり、どのような課題を抱えているかについて、理解を深め、考察する力を養うことを目的とする。			
受講資格	家政学部 人間生活学科 1年生 家政学部 食物栄養学科 1年生	成績評価 方法	①小テスト30点（15点×2回） ②レポート70点	
教科書	プリントを配布する。			
参考書	浅野智彦編著「社会学のことが面白いほどわかる本」、中経出版 他			
学生への要望	普段からニュースや新聞で取り上げられる社会の問題について関心を持つようにすること。			
オフィスタイム	火曜日 3コマ 水曜日4コマ 経営管理学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	ガイダンス	授業の進め方、評価方法について説明する。 『社会』とは何か、今の日本『社会』はどのような状態にあるか、その一例として少子高齢化社会について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
2	少子高齢化社会と日本と世界①	少子高齢化社会を計る様々な指標について学修し、日本の人口構造と高齢化について概観する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
3	少子高齢化社会と日本と世界②	少子高齢化社会を計る様々な指標について学修し、世界各国の人口構造と高齢化について概観する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
4	少子高齢化社会と日本と世界③	平均寿命、平均余命、健康寿命などの概念、それら指標の現状について概観する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
5	社会と仕事・家族①	家族とその役割について学修する。 家庭において起こる問題—DVと児童虐待について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
6	社会と仕事・家族②	フリーターとニート、日本の雇用慣行について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
7	社会と仕事・家族③	正規雇用と非正規雇用、働くことの意義について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
8	社会と文化①	癒しと宗教について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
9	社会と文化②	癒しと宗教、社会学から見た自殺問題について学修・考察する。小テスト（1回目予定）	これまでの学修内容をノート・プリントを通じて復習し、小テストに備えること。	60
10	社会と国家①	社会学から見た国家（ルールと権力）、平等な社会と格差について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
11	社会と国家②	厚生労働省とその取り組み（1）年金制度、社会保障制度、介護保険制度について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
12	社会と国家③	厚生労働省とその取り組み（2）医療保険制度とその仕組みについて学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。併せてこれまでの学修内容を踏まえ、レポートを作成すること。	60
13	社会と国家④	厚生労働省とその取り組み（3）「健康日本21」等について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。併せてこれまでの学修内容を踏まえ、レポートを作成すること。	60
14	社会と国家⑤	「地域保健法」と保健所の役割について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。併せてこれまでの学修内容を踏まえ、レポートを作成すること。	60
15	まとめ	これまでの学修内容の確認と小テストの内容について復習する。小テスト（2回目）	これまでの学修内容をノート・プリントを通じて復習し、小テストに備えること。	60

科目名	日本国憲法	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択
担当教員	鈴木 康元		
開講期	前期		
授業概要	憲法の基本理念と人権の重要性について理解してもらいたい。 履修カルテ評価項目 ①近代的意味の憲法の意義、歴史的背景が理解できたか。 ②日本国憲法の成立における問題点が理解できたか。 ③人権の重要性と制限根拠について理解できたか。 実務経験：弁護士として、法律事務所長として勤務する経験を活かし、授業を行う。 実務経歴：弁護士として、法律事務所長として勤務。		
達成目標	憲法の基本理念と人権の重要性について理解してもらいたい。 履修カルテ評価項目 ①近代的意味の憲法の意義、歴史的背景が理解できたか。 ②日本国憲法の成立における問題点が理解できたか。 ③人権の重要性と制限根拠について理解できたか。		
受講資格	家政学部1年生	成績評価 方法	ペーパー試験(80%)と出席状況(20%)
教科書	憲法【第二版】 弘文堂		
参考書	特に指定しない		
学生への要望	憲法および法律一般につき興味をもって欲しい。		
オフィスタイム	火曜日 授業開始前：創学館2階教務部非常勤講師室 授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	憲法総論①	憲法を学ぶことの意義、重要性、近代的意味の憲法について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	30
2	憲法総論②	近代的意味の憲法の特徴、日本国憲法の歴史	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
3	憲法総論③	国民主権の意義、平和主義（憲法9条の解釈）について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
4	基本的人権①	人権の概念、およびその重要性について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
5	基本的人権②	日本国憲法の人権の内容、人権の享有主体について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
6	基本的人権③	人権の限界、私人間における人権	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
7	基本的人権④	包括的基本権（特にプライバシーの権利を中心に）法の下での平等の意義	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
8	基本的人権⑤	内心の自由（特に信教の自由を中心に）につき判例をあげながら教える	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
9	基本的人権⑥	表現の自由の意義とその優越性について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
10	基本的人権⑦	経済的自由権	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
11	基本的人権⑧	財産権	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
12	基本的人権⑨	その他の人権について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
13	統治機構①	国会	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
14	統治機構②	内閣	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
15	統治機構③	裁判所	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

科目名	運動健康論	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択
担当教員	佐藤 浩明		
開講期	通年		
授業概要	生活の基盤となる『健康なからだづくり』に欠かすことのできない運動の重要性を理解し、生涯にわたり自分の健康や体力に配慮ができ、それらを保持増進していくために必要となる知識や方法について実技、講義を通じて学びます。また久光製薬スプリングス女子プロバレーボールチーム、オランダナショナル女子バレーボールチームの監督、コーチ実務経験を活かしコミュニケーションや協調性を指導します。 ①運動と健康の関連を理解し、健康の在り方について学びます。 ②スポーツの意義を理解し、人間力について学びます。 ③運動を通して、協調性、コミュニケーション能力、フェアプレーの精神について学びます。 ④運動を通して、基礎体力の維持、向上する方法について学びます。		
達成目標	健康的な生活に欠かすことのできない運動の方法や効果、自ら健康について考え行動できる力を習得する。スポーツ種目に必要な技術を習得すると共にコミュニケーションを發揮しスポーツ種目の楽しさを知り人間力を身に付ける		
受講資格	家政学部 人間生活学科 生活総合コース 1年 2単位 選択 家政学部 人間生活学科 福祉コース 1年 2単位 選択 家政学部 人間生活学科 建築デザインコース 1年 2単位 選択 家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択 ※教職課程履修者は必修	成績評価 方法	平常点30点（取組姿勢） 試験・提出物70点（実技・レポート） ※本科目は実技を含むため、出席、積極的な取組みも重視します。
教科書	特になし（必要に応じて資料等を配布します）		
参考書	「健康・フィットネスと生涯スポーツ：大修館書店」「公認スポーツ指導者テキストⅠ・Ⅱ・Ⅲ：（財）日本体育協会」「スポーツトレーニング理論：日本文芸社」「ストレッチメソッド：高橋書店」「メンタルトレーニング：ベースボールマガジン社」「教養としてのスポーツ科学：大修館書店」		
学生への要望	自分の生活習慣に興味、関心を持ち、運動する習慣をつけてほしい。 【授業中】積極的に取組み、運動を楽しむこと。タオル、水分は各自で必ず持参すること。（体調管理および熱中症対策）		
オフィスタイム	火・木の9:00～16:00まで創学館N04研究室 佐藤		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	ガイダンス	①授業目的、内容、進め方、評価方法の説明 ②服装、準備物の確認（注意事項含む） ③グループ分け	30
2	縄跳び①／からだづくりの運動	【テーマ：運動習慣をつける第一歩として、コミュニケーションゲームやレクリエーションで楽しくからだを動かす】 【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを發揮しスポーツ種目の楽しさを知る ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②コミュニケーションゲーム・体ほぐしの運動 ③レクリエーションゲーム ④からだづくりの運動 ⑤縄跳び（個人およびグループ） ⑥クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃	30

回	項目	授業内容	
3	縄跳び②/からだづくりの運動	<p>【テーマ：楽しくからだを動かしながらコーディネーショントレーニングで、からだの調整力を養う】</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②コーディネーショントレーニング ③レクリエーションゲーム ④からだづくりの運動 ⑤縄跳び（個人およびグループ） ⑥クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	<p>ストレッチ、準備運動で体のケアをする。タオル、水分を準備してくる</p> <p>30</p>
4	縄跳び③/からだづくりの運動	<p>【テーマ：楽しくからだを動かしながらコーディネーショントレーニングで、からだの調整力を養う】</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②コーディネーショントレーニング ③レクリエーションゲーム ④からだづくりの運動 ⑤縄跳び（個人およびグループ） ⑥クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	<p>ストレッチ、準備運動で体のケアをする。タオル、水分を準備してくる</p> <p>30</p>
5	フライングディスク③/からだづくりの運動	<p>【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④フライングディスク（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	<p>ストレッチ、準備運動で体のケアをする。タオル、水分を準備してくる</p> <p>30</p>
6	フライングディスク③/からだづくりの運動	<p>【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④フライングディスク（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	<p>ストレッチ、準備運動で体のケアをする。タオル、水分を準備してくる</p> <p>30</p>

回	項目	授業内容	
7	フライングディスク③／からだづくりの運動	<p>【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】</p> <p>【到達目標】 ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④フライングディスク（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	<p>ストレッチ、準備運動で体のケアをする。タオル、水分を準備してくる</p> <p>30</p>
8	フライングディスク③／からだづくりの運動	<p>【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】</p> <p>【到達目標】 ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④フライングディスク（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	<p>ストレッチ、準備運動で体のケアをする。タオル、水分を準備してくる</p> <p>30</p>
9	フライングディスク③／からだづくりの運動	<p>【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】</p> <p>【到達目標】 ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④フライングディスク（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	<p>ストレッチ、準備運動で体のケアをする。タオル、水分を準備してくる</p> <p>30</p>
10	ソフトバレーボール③／からだづくりの運動	<p>【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーションを発揮し楽しみながらグループで行う】</p> <p>【到達目標】 ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④ソフトバレーボール（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	<p>ストレッチ、準備運動で体のケアをする。タオル、水分を準備してくる</p> <p>0</p>

回	項目	授業内容	
11	ソフトバレーボール③／からだづくりの運動	<p>【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④ソフトバレーボール（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	0
12	ソフトバレーボール③／からだづくりの運動	<p>【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④ソフトバレーボール（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	30
13	ソフトバレーボール③／からだづくりの運動	<p>【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④ソフトバレーボール（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	30
14	ソフトバレーボール③／からだづくりの運動	<p>【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④ソフトバレーボール（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	30
15	実技のまとめ	<p>◀まとめとして実技試験を行う▶</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②レクリエーションゲーム ③実技試験 ④クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑤体育館清掃</p>	30

回	項目	授業内容	
16	第16回 オリンピックについて	オリンピックの歴史と現状 オリンピズム、オリンピック憲章について学び、スポーツの持つ魅力について学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う 30
17	第17回 生活と健康について①	《健康とは何か》 健康について考える導入として、「健康の定義」をWHO（世界保健機関）の憲章をふまえ、様々な角度から学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う 30
18	第18回 生活と健康について②	《生活習慣病の原因・対策・予防と運動》 ①生活習慣病の原因と予防、対策について理解し、運動との関係について学びます。 ②運動・休養と健康について学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う 30
19	第19回 生活と健康について③	《大学生の健康》 大学生の生活に潜む危険要因について理解し、セルフライフマネジメントについて学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う 30
20	第20回 生活とスポーツについて①	《スポーツとは何か》 スポーツの意味を理解し、スポーツの社会的価値とスポーツに期待されることについて学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う 30
21	第21回 生活とスポーツについて②	《生涯スポーツについて》 生涯スポーツに関わることが自分の健康や生涯の楽しみにどう影響するのか、①行う ②観る ③支える ④調べるの視点から学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う 30
22	第22回 生活とスポーツについて③	《大学生とスポーツ》 大学生になり高等学校まで必修で行われてきた体育の授業は著しく減少します。その中で自分の健康に興味を持ち、運動やスポーツにどう関わることができるかについて学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う 30
23	第23回 スポーツから学ぶ①	《フェアプレーについて》 スポーツは定められたルールの中で勝敗を競い合うものです。それは日常の生活や、普段の行動にも通じるものがあります。ここではスポーツの中からフェアプレーについて学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う 30
24	第24回 スポーツから学ぶ②	《メンタルトレーニング》 常に結果が求められるスポーツ選手（アスリート）のメンタルトレーニング、ポジティブシンキング、行動基準について学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う 0
25	第25回 スポーツから学ぶ③	《目標設定》 スポーツ選手（アスリート）の行動基準から自分の目標設定の方法について学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う 0
26	第26回 健康増進のための身体運動について①	《体力とは》 ①体力の概念と体力要素（身体的要素 精神的要素）について学びます。 ②運動の原理原則について理解し、効果的な運動の方法について学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う 30
27	第27回 健康増進のための身体運動について②	《エクササイズの方法について》 健康の保持増進やからだをつくるための方法（①有酸素運動 ②筋力トレーニング ③ストレッチ ④バランス 等）や実施する際のポイントについて学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う 30

回	項目	授業内容	
28	第28回 コンディショニングについて	《からだの調子を良くする・怪我の予防・対処方法》 ①コンディショニングを崩す原因を理解し予防方法について学びます。 ②怪我の予防、応急処置の基本、熱中症対策について学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う 30
29	第29回 健康的な生活について①	《ライフスタイルについて》 自分のライフスタイル（生活習慣・運動習慣）を客観的に理解し、健康的な生活を過ごすための方法について学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う 30
30	第30回 健康的な生活について②	《良い習慣について》 行動を邪魔する要因を理解し、運動習慣をつける方法について学びます。 ※『健康なからだをつくる』をテーマに自分のライフスタイルについて考えます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う 30

科目名	キャリアデザインⅡ	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 1単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 1単位 選択/家政学部 食物栄養学科 2年 1単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 1単位 選択
担当教員	森 みい		
開講期	前期		
授業概要	<p>【授業のねらい】 将来の社会生活や職業生活に向けて、自らの資質を向上させ、社会的職業的自立を図るために必要な能力を培い、幅広い人間形成を図ることを目的としています。社会人としての自覚と行動を視野に入れて、主体的にキャリア形成能力を育成します。働くことの実態、意義、面白みを体感していきます。インターンシップを推進して、学生の自己認識、社会・職業認識の深化を促し、就職意欲のある学生に対して、豊富かつ適切な就職情報を提供するとともに希望に添った就職活動が行えるよう支援します。</p> <p>【授業の概要】 インターンシップ（就業体験）を通じ、自らの専門や将来希望する職業の関連した職場での体験で、学んでいる内容と社会との関連性を認識し、今後の主体的な学修への動機付けを強め、職業を具体的に理解することで仕事の奥深さを実感していきます。働くことについて総合的に理解や仕事をする達成感、充実感、社会貢献を体得します。前期7回の講義、夏休み期間中のインターンシップ（5日間）、および、受け入れ企業のご担当者をお招きした報告会から構成されています。インターンシップ終了後報告書を作成することで成果と課題を理解します。担当者は、大学・短大の就職部長であり、キャリアコンサルタントの資格を有し、長く就職指導にあたっています。</p>		
達成目標	<p>【授業終了時の達成目標】 インターンシップを通して、社会人として必要な能力と知識を学び、今後の学生生活の中に活かしていくことで、新たな学習意欲の契機となることをことを目標とします。仕事の奥深さを実感し、働くことへの理解、充実感や社会への貢献を感じ取る事を目的とします。</p>		
受講資格	特になし	成績評価 方法	就業体験50%・授業参加30%・報告会10%・提出物10%「認」評価判定
教科書	なし		
参考書	なし		
学生への要望	インターンシップは自分の変化や成長を実感できる機会です。広い視野を持ち、各個人のキャリアを考えて、新たな挑戦で自らの可能性の枠を広げてみてはどうでしょうか。		
オフィスタイム	月曜日 9:00～12:30 水曜日 9:00～12:30 事前にご相談いただければそれ以外でも対応します。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	インターンシップの概要 4/18 (Vコマ)	インターンシップの概要説明で理解を深める、インターンシップの目的の明確化。各業界の今後の発展方向をみる。就業体験先の希望調査。「インターンシップ希望調査票」「志望理由」の提出をする。インターンシップの取り組みを動画で見て、ワークを実施しながらインターンシップの考えを深化させていく。(ムビケーションの実施)	0
2	インターンシップの心構え 5/16 (Vコマ)	身近な若き経営者の講演を実施する。社会と協働する中で、自立した個人として人生をどう生きるかを考えながら、人間力や就業観の醸成及び学習意欲を高めていく。	0
3	企業研究 (講演) 5/30 (Vコマ)	メールと封書でのお礼状の書き方を理解して実践する。また電話やメールのアポイントのとり方を学ぶ。また、就業体験先の決定をする。	0
4	事前指導 (ビジネス文書作成) 6/27 (Vコマ)	マナー講座を通して、言葉遣い、立ち居振る舞い、挨拶等、円滑な人間関係を築くための基礎を身に付ける。就業体験先の打合せをする。	0
5	事前指導 (マナー講座) 7/11 (Vコマ)	業界・企業知識やインターンシップ(就業体験)の基本知識を学び、企業研究を深める。先輩の体験からインターンシップ直前の留意点を確認する。	0
6	直前指導 (インターンシップ先の企業研究)7/25 (Vコマ)	各企業において、夏季休業中(8月中旬～下旬)に5日間のインターンシップ(就業体験)を行います。	0
7	インターンシップ I班 8/19～8/23・2班8/26～8/30	事後報告会として、グループで全員が報告会を実施する。実習日誌、その他の提出物を提出する。	0
8	インターンシップ報告会 9/5 (Iコマ)	事後報告会として、グループで全員が報告会を実施する。実習日誌、その他の提出物を提出する。	0
9	インターンシップ報告会 9/5 (Iコマ)		0

科目名	人間発達学		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 必修
担当教員	堀 琴美			
開講期	前期			
授業概要	人は生涯にわたって発達を続けます。成人後も老年期も、人間として成長し、円熟し、次の世代を育てて、いのちのバトンをつないでいきます。また、子どもの成長と発達は、様々な発見と驚きに満ちた、奥深い世界です。この授業では、発達心理学の基本的な知識を学ぶと同時に、最新の話題と情報を取り入れながら、人間の発達と成長について考えていきます。担当教員の医療・福祉分野における心理臨床の実務経験を活かし、訓練用構成事例や視聴覚教材を駆使して子どもや大人の姿が目に見え、活発な質問や意見を歓迎します。ディスカッションやグループワークも行いますので、学んだことや感じたことを多めに語り合ってください。 実務経験：臨床心理士として医療機関、福祉施設に勤務。			
達成目標	【達成目標】 ①エリクソン、ハヴィガースト、ピアジェなど、主要な発達理論を理解する。 ②子どもの成長の過程（身体、運動機能、認知、感情、知能、精神）を理解する。 ③愛着理論や母子関係の理論、子ども虐待、愛着障害など、重要な概念を理解する。			
受講資格	人間生活学科 2年生 (生活総合コースは必修)	成績評価 方法	期末試験または期末レポート (80%) 発言内容・受講態度、普段のレポート (20%)	
教科書	授業でレジュメや資料を配布する。			
参考書	テーマ別に授業で紹介する。			
学生への要望	授業では、理解を深め、身近なものとして感じることできるよう、できるだけグループ討論や・ワークやディスカッションを多く取り入れたいと思います。積極的に参加して、おおいに意見を交わしてください。			
オフィスタイム	水曜IV限、木曜I限、臨床心理学研究室。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	オリエンテーション	授業目標、授業計画、授業ポリシー、評価方法などについて。 発達心理学とは何か。	次回授業内容（発達理論）について、参考書等にあたり、キーワードを調べておく。	30
2	発達理論	代表的な理論家たち（フロイト、ハヴィガースト、エリクソン等）の発達理論を紹介します。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
3	子どもの発達 I	発達心理学のはじまり、昔の「子ども観」、発達の評価、遺伝か環境か。 赤ちゃんの力。生理的早産、視覚・聴覚・嗅覚、原始反射、新生児模倣、言葉の準備などについて。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
4	子どもの発達 I 乳児期（0～1歳）	はいはいから歩行へ。言葉の獲得。睡眠の変化。嘔吐力と離乳食など。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
5	子どもの発達 II 幼児期（2～3歳）の発達	自我のめざめと反抗期。言葉の発達。認識の広がり。「ごっこ」遊びなど。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
6	子どもの発達 III 幼児期（4～5歳）の発達	子どもの思考能力（ピアジェ）、自己中心性、子どもの描く絵、言葉と文法、ルールの学習など。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
7	子どもの発達 IV 児童期の発達	ギャングエイジ、兄弟の影響、知能検査、やる気を育てる、同調圧力、いじめなどについて	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
8	子どもの発達 IV 子どもの道徳性の発達	コールバーグ、ギリガン、バンデューラの理論、反抗期「恐怖の2歳児」、こころの理論などについて。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
9	青年期・成人期・高齢期の発達	アイデンティティの獲得、モラトリアム、青年期の心理的危機と精神疾患。 人生のパートナーを探す、次世代を育成する、人生を振り返る、などについて。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
10	愛着理論 I 愛着と基本的信頼	ボウルビイの愛着理論、エインスワースの安全基地、神経ネットワークの発達からみる愛着の形成など。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
11	愛着理論 II 愛着と共感する力	愛情ホルモンの機能と役割、物マネ神経細胞の発見、共感する力や想像力はどのように育まれるのか、など。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
12	愛着障害と虐待	反応性愛着障害、虐待された子ども、親の養育を支援する、などについて。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
13	ネグレクトの影響	ネグレクトの種類、感受期、言葉の獲得、「犬に育てられた少年」を取り上げます。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30

回	項目	授業内容		
14	発達のおまげ	発達障害とは、アスペルガー障害（事例）、支援の方法、サヴァン症候群などについて	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
15	まとめと補足	まとめ、補足説明、掘り下げ討論など。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30

科目名	消費生活論	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 2単位 選択
担当教員	長谷川 貴弘		
開講期	前期		
授業概要	<p>大きく変化する社会情勢の中、消費者を取り巻く環境は変化し続けており、消費者問題の内容も時代とともに変貌している。現代における諸問題を把握し、日常生活の中の身近な問題として捉え、学生自らが安全・安心な生活を送ることができるようになることを目指す。</p> <p>また、消費生活に関する法律、政策、行政や企業の取り組みを理解し消費者教育を実践できるようになることを目指す。</p> <p>なお、内閣府での勤務経験を活かし、授業の中で統計資料の見方・活用の仕方、法律と行政組織について採り上げていく。</p> <p>○実務経歴 内閣府政策統括官（経済財政分析担当）付参事官（海外担当）付任期付職員として従事。</p>		
達成目標	<p>1. 消費者問題の実情を知り、課題を見出し、その解決策の方向性を見出すことができる。</p> <p>2. 日常生活の中で実践することができる自立した消費者の育成のために学生自身の消費者力を高める。</p> <p>3. 政策、法律、行政や企業の取り組み等を理解し、消費者力検定にチャレンジできるだけの能力を養う。</p>		
受講資格	家政学部人間生活学科生活総合コース、建築デザインコース 3年生	成績評価 方法	①小テスト30点（15点×2回） ②課題（消費者問題に関するレポート）70点
教科書	プリントを配布する。		
参考書	ハンドブック消費者2014（消費者庁企画課）他		
学生への要望	<p>現代消費生活における課題を捉えるために、次のことを要望する。</p> <p>①新聞をよく読み、消費生活に関する記事を収集する。</p> <p>②消費者力検定に挑戦し、幅広い知識の習得を目指す。</p>		
オフィスタイム	火曜日 3コマ 水曜日4コマ 経営管理学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	ガイダンス	授業の目的および授業計画について説明（内容、評価方法について等）し、消費者を取り巻く社会経済情勢と消費者行動・意識について学修する。	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
2	消費者問題の変遷	年代ごとにどのような消費者問題が発生したか概観し、様々な消費者問題の背景にある社会の情勢を読み取る。	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
3	消費者行政の変遷	消費者問題に対応してどのような政策が行われたか概観し、消費者問題に対処するための機関～消費者庁の誕生、国民生活センター、消費生活センターの役割～について学修する。	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
4	消費者の権利と責任	消費者基本法、消費者の権利と責任、消費者保護の概念について学修する。	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
5	自立した消費者を目指して ①契約とは	契約の意味、未成年者契約、契約に関するトラブルについて学修する。	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
6	自立した消費者を目指して ②経済	消費者契約法・特定商取引法について学修する。	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
7	自立した消費者を目指して ③食	食品の安全・安心、新しい食品表示制度について学修する。	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
8	自立した消費者を目指して ④生活用品	消費生活用製品安全法について学修する。 小テスト（1回目）	これまでの学修内容をプリントとノートを用いて復習すること。	60
9	消費生活と環境～循環型社会のための法制度	持続可能な社会の構築と法律、グリーンコンシューマーの概念、持続可能な社会を形成するためのライフスタイルについて学修する。	これまでの学修内容を元に、消費者問題についてインターネット、文献、報道資料などを利用してまとめる。	30
10	企業による消費者問題への対応	お客様相談室の役割について、いくつかの実例をもとに学修する。	これまでの学修内容を元に、消費者問題についてインターネット、文献、報道資料などを利用してまとめる。	30
11	行政による消費者問題への対応	消費生活センターと消費者トラブルの現状と課題について学修する。	これまでの学修内容を元に、消費者問題についてインターネット、文献、報道資料などを利用してまとめる。	30
12	消費者教育・啓発活動①	一般消費者に向けてどのような消費者教育が行われているか学修する。	これまでの学修内容を元に、消費者問題についてインターネット、文献、報道資料などを利用してまとめる。	30

回	項目	授業内容	
13	消費者教育・啓発活動②	学校・地域においてどのような消費者教育が行われているか学修する。	消費者問題について、これまでの学修内容と自身で調べたことを元にレポートを作成する。
14	公平かつ自由な競争の促進	独占禁止法、不正競争防止法、その他各種制度について学修する。	消費者問題について、これまでの学修内容と自身で調べたことを元にレポートを作成する。
15	まとめ	消費者力検定とその内容について理解を深め、問題にチャレンジする。 小テスト（2回目）	これまでの学修内容をプリントとノートを元に復習すること。

科目名	社会調査法		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択/短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 2単位 選択
担当教員	長谷川 貴弘			
開講期	後期			
授業概要	<p>社会調査というものがあることを目的として、どのように行われるのかという基礎知識の習得に努めた上で、データや数字に対する忌避感を和らげるため、身近な例を挙げて平易な解説に努め、社会調査への理解を深めることを目標とした。</p> <p>なお、内閣府での勤務経験を活かし、授業の中で統計データの見方、活用の仕方について採り上げていく。</p> <p>○実務経歴 内閣府政策統括官（経済財政分析担当）付参事官（海外担当）付任期付職員として従事。</p>			
達成目標	社会調査におけるデータの収集、分析・加工、報告について理解を深めることを目標とする。			
受講資格	家政学部 人間生活学科 3年生 短期大学部 専攻科 1年生	成績評価 方法	①小テスト30点（15点×2回） ②課題（レポート）70点	
教科書	プリントを配布する。			
参考書	轟亮・杉野勇編「入門・社会調査法」法律文化社			
学生への要望	授業中はしっかりとノートを取り、課題に取り組むこと。			
オフィスタイム	火曜日 2コマ 水曜日4コマ 経営管理学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	ガイダンス 社会調査とは何か	授業の進め方、評価方法について。 社会調査とは何か、何を目的として行われ、どのように分類されるか学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
2	社会調査の種類①	社会調査の分類、量的調査と質的調査について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
3	社会調査の種類②	社会調査における質的調査の特徴について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
4	社会調査のプロセス	社会調査の全体像の把握と、構想・計画・実査・データの入力と点検、報告、管理について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
5	社会調査のデザイン①	社会調査の調査内容とその検証について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
6	社会調査のデザイン②	仮説の検証とより良い調査研究について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
7	実査の方法①	データ収集法選択の基準について学修する。	これまでの学修内容を確認し、小テストに備えること。	60
8	実査の方法②	様々な調査方法のうち、適切なデータ収集法の選択について学修する。小テスト（1回目）	これまでの学修内容を確認し、小テストに備えること。	60
9	調査票の作成	調査票の作成、手順、構成、質問形式、質問を作成・配置する場合の留意点について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
10	サンプリング	調査対象の選び方について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
11	調査の実施	郵送法実査、個別面接法実査等の運営・手順について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
12	データファイルの作成	データ入力とその手順について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
13	データの集計方法	情報の集約、代表値（平均）から相関係数について学修する。	これまでの学修内容を元に、レポートを作成する。	60
14	調査報告とデータの管理	調査の報告と報告後のデータの管理について学修する。	これまでの学修内容を元に、レポートを作成する。	60
15	社会調査の倫理について学修の総まとめ	社会調査協会倫理規定に基づいて社会調査の倫理について学修する。小テスト（2回目）	これまでの学修内容を確認し、小テストに備えること。	60

科目名	衣生活概論	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科 1年 2単位 選択
担当教員	武井 玲子		
開講期	前期		
授業概要	人間が生活していく上で必要不可欠な衣生活に関して、ヒトと被服、それを取り巻く環境との関連性を総合科学的な視点で幅広く学ぶことにより、衣生活に関わる諸問題への対処が可能となる。また、企業における企画開発や研究開発部門での勤務経験を活かして、被服の汚れや洗浄、家庭用品の安全性の考え方、などの講義を行う。実務経歴：衣食住生活関連の家庭用品製造販売企業において、企画開発や研究開発、安全性評価や技術広報活動を担当。		
達成目標	1. 被服の持つ機能・役割について理解できた。 2. 繊維の種類と特徴を理解できた。 3. 被服着用時における安全性上のリスクについて理解できた。		
受講資格	特になし	成績評価 方法	①課題レポート：30点 ②期末レポート：70点
教科書	配布資料		
参考書	「衣生活論」、小林茂雄他、(株)アイ・ケイ・コーポレーション(2008)他、(N02被服学研究室所蔵図書)		
学生への要望	自分および家族の衣生活実態と問題点を考えながら受講し、授業内容を実生活に反映させること。		
オフィスタイム	火曜日(Ⅱ時限)：N02被服学研究室 水曜日(全日)：N02被服学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	ガイダンス	シラバスにそって授業の概要や達成目標、進め方や成績評価方法を説明する。授業を受けるにあたっては、身近な毎日の衣生活に関心を持つことが大切であること、そうすることで、講義内容の理解が深まること、などを解説する。	30
2	被服着用の目的と機能	主要な被服着用目的は、①生理的・物理的目的、②美的・心理的目的、③社会的目的、である。これらの被服着用品の目的と具体的な被服の着用事例とを結び付けて理解を深める。	30
3	衣生活実態調査の実施	各自の衣生活実態調査の課題を課すにあたり、調査目的と実施方法の説明を行う。調査は、①所有被服枚数、②死蔵被服枚数(1年間着用しなかった被服)、③保管状況、④衣生活実態についての自己評価点とその理由、の各項目について実施する。実態調査をするにあたり、被服の保管の目的や方法を説明する。	120
4	実態調査結果の報告と問題点・課題の抽出	各自の衣生活実態調査結果を発表すると共に、他の学生の調査結果を聞き、各自の実態とを比較しながら、自分自身の問題点と課題を考える。	60
5	衣生活(被服)と環境(1)	死蔵被服を減少するという課題解決のために、被服と環境との関わりについて、ライフサイクルアセスメント(LCA)の考え方から考察する。繊維、布や被服の製造と流通、生活者の被服購入、着用、手入れ・洗濯、保管、廃棄・リサイクルという被服のライフサイクル全体における環境との関わり(資源、エネルギーの消費と炭酸ガス他廃棄物排出)について学び、現在の自分の衣生活について考察し、環境負荷低減に向けた衣生活のあり方をまとめる。	60
6	衣生活(被服)と環境(2)	前回の授業内容を更に実生活に即して学び、死蔵衣服や繊維原料の資源問題、廃棄とリサイクルなどの現状を考えながら、環境負荷低減を目指した衣生活行動を、5R(Reduce, Recycle, Reuse, Remake, Repair)の視点から考察し、具体的な実践行動を抽出する。	60

回	項目	授業内容		
7	被服の生理的・物理的機能	人体生理、被服内気候、被服圧などから被服の快適性の意味を理解する。恒温動物の人間がどのような生理機能で恒温を保つか、そこにおける被服の役割を認識する。さらに、人体の形状と運動変形における動き易い被服の条件、被服圧について理解する。また、高齢者や乳幼児、身障者の被服、スポーツ・労働用・農業・消防用、などの機能服の被服要件を学ぶ。	配布資料を参考にしながら、本日の講義内容についてまとめる。	30
8	被服着用と安全性	被服は第二の皮膚といわれるように皮膚と直接接触するために、皮膚刺激やアレルギー等の皮膚障害上の安全性問題が存在する。さらに、被服の人体に対する安全性としては、静電気障害・燃焼障害やヒモ等の付属品による事故発生リスクがあり、これらの発生原因とその対策を学ぶ。	本日の講義内容を配布資料にしたがって復習し、理解を深める。また、関心があったニュースについて自分の考えをまとめる。	30
9	被服の心理的・社会的機能	被服の心理的機能には、美しく装いたい、流行の服を着たいという装身の機能が考えられる。一方、社会的機能としては服装のシンボルとしての象徴性や風俗・習慣・道徳などの社会的規範による容儀の機能が存在する。それぞれについて意味を知り、被服着用目的を再確認する。	本日の講義内容を配布資料にしたがって復習し、理解を深める。また、関心があったニュースについて自分の考えをまとめる。	30
10	被服の素材の種類と特徴	被服を構成する素材（繊維、糸、布）の種類と機能や特徴を学ぶ。実際に映像を見たり、布サンプルを手にとりながら理解を深める。	本日の講義内容を配布資料にしたがって復習し、理解を深める。自分の所蔵衣服の素材について調査する。	30
11	被服の製造・流通・購入（市場調査）	被服・繊維の製造・流通の歴史を学び、現状を把握し問題点を考察する。特に、現在の様々な流通経路を通じての被服購入のメリットやデメリットを明らかにする。さらに、市場調査を実施し、被服に付けられている標示のわかりやすさや見やすさなどを生活者視点で評価し、問題点や課題を抽出する。	本日の講義内容を配布資料にしたがって復習し、理解を深める。市場調査結果についてまとめ、レポートを作成する。	60
12	被服の着用による汚れ付着	被服着用による被服に付着する汚れの種類や付着状態、汚れの身体や被服への影響を学ぶ。また、汚れたままにしておいた場合のニオイ発生メカニズムを学ぶ。	本日の講義内容を配布資料にしたがって復習し、理解を深める。また、関心があったニュースについて自分の考えをまとめる。	30
13	汚れ除去メカニズム	被服に付着した汚れの除去方法として、現在実施されている家庭洗濯とドライクリーニング洗濯の違いを学ぶ。より理解を深めるために実験、映像を用いる。期末レポートの課題を提示する。	本日の講義内容を配布資料にしたがって復習し、理解を深める。また、関心があったニュースについて自分の考えをまとめる。期末レポート対応。	120
14	汚れ除去と被服の快適性を付与する剤の種類と特徴（市場調査）	現在市販されている洗剤類、繊維・布・被服の機能を回復し快適性を付与する柔軟剤、糊剤、漂白剤などの種類と特徴、効果的な使い方を知る。また、市場調査で店頭に並べられている洗剤類を見ながら、理解を深める。	本日の講義内容を配布資料にしたがって復習し、理解を深める。また、自宅の洗濯機や使用洗剤・関連品について実態を把握する。期末レポート対応。	120
15	総括	ヒト（生活者）とモノ（被服）、それを取り巻く環境との関係から健康・快適、安全・安心、環境負荷低減型衣生活をデザインするための要点をまとめ、望ましい衣生活のあり方をまとめる。	本日の講義内容を配布資料にしたがって復習し、自分自身の望ましい衣生活のあり方を考え、実践していく。	30

科目名	被服管理学	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 選択
担当教員	武井 玲子		
開講期	後期		
授業概要	被服の購入から廃棄までのライフサイクル全般において、安全・安心・快適、環境保全をめざした衣生活管理を自然・社会・人文科学の総合科学の視点から幅広く専門的に学び、家庭科教員としての指導力や個人の衣生活管理の向上をめざす。また、企業における企画・研究開発部門の勤務経験を活かし、被服管理の要件(汚れと洗浄や保管方法、など)や人体・環境安全性に関して講義する。実務経歴：衣食住生活関連の家庭用品製造販売企業において、企画開発や研究開発、安全性評価や技術広報活動を担当。		
達成目標	①被服の生産段階における日本と世界の現状を理解する。 ②被服の購入及び手入れ時などの管理時において注意すべき取扱い絵表示、組成表示、その他の表示について理解している。 ③被服の保管時の問題点を理解している。		
受講資格	特になし	成績評価 方法	①課題レポート：30点 ②期末レポート：70点
教科書	配布プリント		
参考書	「被服整理学」(社)日本衣料管理協会(平成20年)、「衣服管理の科学」片山倫子編(建帛社、平成14年)、N02被服学研究室の所蔵図書		
学生への要望	日常の衣生活を問題意識をもってみつめること。		
オフィスタイム	火曜日(Ⅱ時限)：N02被服学研究室 水曜日(全日)：N02被服学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	30
1	ガイダンス	シラバスにそって、授業の概要や到達目標、進め方や評価方法などを説明する。	本日の講義内容をまとめ、問題点をピックアップする。	30
2	繊維・被服の生産・流通	世界的にみた繊維の生産状況を知る。ファストファッションの生産、流通の現状を把握し、考察する。ファストファッションの製造国での状況を映像で確認する。	本日の講義内容をまとめ、理解を深める。	30
3	被服の選択と購入	被服に関する法規制である「家庭用品品質表示法」、JISや自主規制などについて理解する。前回のファストファッションに続き、ベトナムモン族の民族衣装や日本のゆかたの着装を映像で見ることにより、スローファッションのメリット・デメリットを考える。	本日の講義内容をまとめ、理解を深める。また、自分自身の被服購入方法と失敗経験などについてまとめ、次回の講義に備える。	30
4	購入方法に関する事例研究	各個人の被服購入経験の失敗事例を発表する。これらの失敗事例を問題点別にまとめ、購入時における課題をまとめる。衣料の計画的な購入、購入時のチェックポイント、消費者の義務と権利、消費者苦情の重要性を学ぶ。	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。	30
5	着用と汚れ	着用による被服に付着する汚れの種類と成分、付着のしかたを繊維の性質との関係から学ぶ。また、汚れの人体と繊維に及ぼす影響を考える。	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。	30
6	着用とニオイ	汚れがどのようにニオイに変化するかその発生原因を学ぶ。ニオイと香りの科学を学び、最近の香りブームやスメルハラスメント等の問題点と課題に関して議論し理解する。	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。さらに、自分や家庭の中のニオイについて考えてみる。	60
7	被服の色と変化、色の基本とカラーユニバーサルデザイン	染色の歴史と科学を学ぶ。被服の色は、着用や洗濯、保管時において色落ち、色移り、色泣きなどの変退色の変化が見られる。そのメカニズムを把握し、防止・予防方法を確認する。また、色の基本やカラーユニバーサルデザインについても理解を深める。	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。	30
8	日本の染織文化(映像)	前回の講義内容をより理解し深めるために、日本の染織文化に関する映像を鑑賞し、感想を発表する。	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。	30
9	被服の手入れ 家庭洗濯とドライクリーニング	家庭洗濯とドライクリーニングによる汚れ除去メカニズムの違いを知り、それぞれのメリット・デメリットを確認する。失敗事例から失敗しない洗濯手入れ方法を学ぶ。	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。自宅の被服の手入れ実態について調査する。	30
10	洗剤の科学	洗剤の種類と成分、界面活性剤の種類と機能、汚れ除去のメカニズム、洗剤の歴史的変遷を学ぶ。	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。自宅に保管されている洗剤など被服の手入れに関する家庭用品について調査する。	60

回	項目	授業内容		
11	仕上げ剤の種類と特徴	洗濯後、繊維をおろし立ての状態に保つために様々な商品が市販されている。代表的なものは漂白剤、柔軟剤、糊剤等である。これらの製品の成分、種類、使用方法を実物を手にしながら学ぶ。 ①漂白剤：種類と特徴、漂白のメカニズム、使用方法、蛍光増白との違い、しみぬきの原理と方法 ②柔軟剤：種類と特徴、効果・機能（柔軟効果、静電気防止、香りなど）の変化、使用方法 ③洗濯糊：種類と特徴、使用方法	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。	30
12	被服の保管 (市場調査)	保管の目的、保管中の衣料の性能変化の原因、防虫・防かび、抗菌のための保管用具、防虫剤、乾燥剤などの種類と性能などを学び効果的な保管方法について理解する。さらに、市場調査により理解を深める。	配布資料を参考としながら、本日の市場調査結果についてまとめ、次回発表用とする。	60
13		日常使用しているタオルの望ましい管理について学ぶ。 タオルの製造と種類、購入時の注意点、使用時の問題点、手入れと洗濯、保管の項目について各自が調査をして結果を発表する。タオルの望ましい管理についてまとめる。期末レポートの課題を提示する。	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。また、自宅に保管されているタオルについて調査し、その種類や問題点・課題や抽出する。期末レポート対応。	120
14	被服管理の事例研究(2)	市場調査結果について報告する。履物の望ましい管理について学ぶ。履物が足に合わないための外反母趾などの足の被害状況、履物の購入時の問題点や課題、着用時・手入れ・保管時の問題点を抽出し、望ましい履物管理についてまとめる。	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。自宅の履物をチェックし、問題点を抽出する。期末レポート対応。	120
15	総括・まとめ	本講義のまとめを行う。	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。	30

科目名	建築施工	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 2単位 必修	
担当教員	堀井 勝典			
開講期	前期			
授業概要	(1) 施工法の基礎的知識の理解 (2) 実際の建物(設計図・OHP・ビデオ)の紹介 実務経歴：一級建築士として建築事務所勤務を経て、現在建設設計会社社長を務め、その経験を活かし、授業を行う。 実務経歴：一級建築士として建築事務所勤務を経て、現在建設設計会社社長を務める。			
達成目標	(1) 施工法の基礎的知識の理解 (2) 実際の建物(設計図・OHP・ビデオ)の紹介			
受講資格	人間生活学科建築デザインコース3年	成績評価 方法	出席(50%) 試験(50%)	
教科書	建築施工教科書			
参考書	特に指定しないが、資料を配付する。			
学生への要望	とにかく授業に出ること			
オフィスタイム	水曜日授業開始前(創学館2階教務部内非常勤講師室)、授業終了後			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
1	序説	建築施工のあらまし、施工法の変遷について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
2	契約と見積	建築の見積・契約等の流れについて	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
3	工事計画・管理	工事計画・管理等の説明	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
4	仮設工事	何も作らない工事としての認識	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
5	基礎工事	土工事、山留工事、基礎工事の概説	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
6	鉄筋コンクリート工事	鉄筋工事、型枠工事の概説	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
7	鉄筋コンクリート工事	コンクリートの性質、調合について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
8	鉄筋コンクリート工事	コンクリート工事の検査体制	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
9	鉄筋コンクリート工事	施工、各種コンクリート工事について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
10	鉄骨工事	工事作業、現場作業のあらまし	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
11	木工事	現場施工、各種工法の概説	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
12	内外装仕上工事	各仕上げ工事の概要と施工法について(その1)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
13	内外装仕上工事	各仕上げ工事の概要と施工法について(その2)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
14	付帯設備工事	生活に必要な設備工事について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
15	まとめ	施工法のまとめ。補足説明。	授業内容、配付資料を整理し、ノートにまとめる。	60

科目名	建築設備	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 4年 2単位 必修
担当教員	藤田 延幸		
開講期	前期		
授業概要	授業の到達目標及びテーマ 快適な住生活をおくるための建築設備（給排水、空調、電気）について理解する。 [履修カルテの評価項目] ○基本的な設備機器の種類とシステムについて。 ○新エネルギーについての知識とエネルギー問題について 授業の概要 快適な住生活をおくるために建築設備は必要不可欠なものである。近年は省エネルギー等により設備システムを効率よく使用することが求められている。本講義では基本的な建築設備の種類とそのシステムを理解するとともに、新エネルギーについての知識も学習する。 実務経験：一級建築士として建築事務所勤務を経て、現在建設設計事務所長を務め、その経験を活かし、授業を行う。 実務経歴：一級建築士として建築事務所勤務を経て、現在建設設計事務所長を務める。		
達成目標	授業の到達目標及びテーマ 快適な住生活をおくるための建築設備（給排水、空調、電気）について理解する。 [履修カルテの評価項目] ○基本的な設備機器の種類とシステムについて。 ○新エネルギーについての知識とエネルギー問題について 授業の概要 快適な住生活をおくるために建築設備は必要不可欠なものである。近年は省エネルギー等により設備システムを効率よく使用することが求められている。本講義では基本的な建築設備の種類とそのシステムを理解するとともに、新エネルギーについての知識も学習する。		
受講資格	人間生活学科建築デザインコース4年生	成績評価 方法	定期試験により評価します。
教科書	「初学者の建築講座 建築設備（第二版）」著：大塚雅之 市ヶ谷出版社		
参考書	配付資料を使用します。		
学生への要望	積極的に授業に参加すること。		
オフィスタイム	月曜日授業開始前：創学館2階教務部非常勤講師室、授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容
1	授業の概要説明	授業の概要説明	授業内容を整理する。 30
2	建築計画と設備計画の関わりを講義し、設備の役割、意義を考える。	建築計画と設備計画の関わりを講義し、設備の役割、意義を考える。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
3	給排水設備について	給排水設備について	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
4	住宅の中で最も設備が集中する台所、浴室、トイレ等の給排水設備の計画について	住宅の中で最も設備が集中する台所、浴室、トイレ等の給排水設備の計画について	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
5	事務所ビルの給排水設備の計画について	事務所ビルの給排水設備の計画について	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
6	事務所ビルの空調システムについて	事務所ビルの空調システムについて	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
7	事務所ビルの機械換気の種類と方式、全熱交換機の仕組みについて	事務所ビルの機械換気の種類と方式、全熱交換機の仕組みについて	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
8	住宅の電気設備計画について	住宅の電気設備計画について	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
9	事務所ビルの電気設備計画について	事務所ビルの電気設備計画について	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
10	ガス設備、消火設備、給湯設備、通信設備等について	ガス設備、消火設備、給湯設備、通信設備等について	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
11	防災設備について	防災設備について	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
12	建築物のライフサイクルからLCEやLCCO2について	建築物のライフサイクルからLCEやLCCO2について	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
13	新エネルギー（燃料電池、地下水、風力等）の設備への応用について	新エネルギー（燃料電池、地下水、風力等）の設備への応用について	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
14	太陽エネルギー利用について	太陽エネルギー利用について	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
15	「エネルギー使用の合理化に関する法律」について	「エネルギー使用の合理化に関する法律」について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60

科目名	建築法規Ⅰ		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 必修
担当教員	佐久間 保一			
開講期	後期			
授業概要	建築設計、施工において、建築法規を正しく理解することは、建築に携わる者の倫理上の第一歩です。本講義ではまず、めまぐるしく変わる建築法規の成り立ちを理解します。さらに単体規定、集団規定の基本的法規を学びます。 実務経験：一級建築士として建築事務所勤務を経て、現在建設設計事務所長を務め、その経験を活かし、授業を行う。 実務経歴：一級建築士として建築事務所勤務を経て、現在建設設計事務所長を務める。			
達成目標	建築設計、施工において、建築法規を正しく理解することは、建築に携わる者の倫理上の第一歩です。本講義ではまず、めまぐるしく変わる建築法規の成り立ちを理解します。さらに単体規定、集団規定の基本的法規を学びます。			
受講資格	建築デザインコース	成績評価 方法	定期試験	
教科書	「図説やさしい建築法規」学芸出版社、「建築関係法令集」井上書院			
参考書	「図説やさしい建築法規」学芸出版社、「建築関係法令集」井上書院			
学生への要望	建築士試験問題を解くこと。実生活の中で法律を意識すること。			
オフィスタイム	水曜日授業開始前（創学館2階教務部内非常勤講師室）、授業終了後			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	授業ガイダンス、建築法規の成り立ち	これからの授業の進め方及び、建築法規を学ぶことの意義について、建築に携わる者の倫理面から講義します。次に基準法、政令、条例、告示等の法の成り立ち、及び法規上の接続詞や数量の読み方について解説します。	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	30
2	建築法令集の活用法	建築関連法令集に、建築基準法、建築士法、都市計画法、建設業法、等の各法規及び各項目のインデックスを貼ります。このことにより法令集の概要及び成り立ちを理解します。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
3	用語の定義1	建築で用いる用語（居室、新築、修繕、軒の高さ等）の定義について学びます。建築法規のみならず、実務においても基礎となる用語であることから、正しい理解が求められます。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
4	用語の定義2	延焼の恐れのある部分、建築物の高さの定義、及び算出方法を学びます。このことから人間の生命を守る建築を創造することの責務について考えます。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
5	敷地面積、建築面積、延面積の計算	敷地面積について、道路との関連について学びます。地下や軒の出がある場合の建築面積、延べ面積について、定義及び算出方法を学びます。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
6	一般構造1	単体規定のあらましについて解説します。次に換気的重要性及び定義について学びます。天井の高さの定義及び算出方法について学習します。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
7	一般構造2	居室における採光の重要性について学びます。次に有効採光面積の定義、及び算出方法について居室の定義を復習しながら学習します。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
8	一般構造3	防火に関する用語（耐火構造、準耐火構造）の他、防火地域や準防火地域等のついて等について学びます。それぞれの相違をよく理解することが必要です。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
9	用途地域1	集団規定のあらましについて解説します。次に都市計画地域、市街化区域、市街化調整区域、用途地域等、さらに用途制限の考え方について説明します。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
10	用途地域2	引き続き用途地域による用途制限について学びます。法令集の用途制限に関する別表をよく理解することが求められます。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
11	建蔽率の定義及び計算	用途地域、建蔽率の定義、及び算出方法について学びます。建築設計の基礎となるものであることから確実に理解するよう講義を進めます。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
12	容積率の定義及び計算	容積率の定義及び算出方法について学びます。建築設計の基礎となるものであることから確実に理解するよう講義を進めます。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
13	高さ制限1	建築物の高さを制限する道路斜線、隣地斜線、北側斜線について説明します。なかなか理解が難しい内容ですが都市計画との関連を説明しながら確実に理解するよう、講義を進めます。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

回	項目	授業内容	
14	高さ制限2	引き続き道路斜線、隣地斜線北側斜線についての定義、及び計算方法について学びます。なかなか理解が難しい内容ですが都市計画との関連を説明しながら確実に理解するよう、講義を進めます。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
15	避難経路について	建築物における避難経路の確保のしかた及び二方向非避難等の避難経路について解説します。このことから、人間の生命を守る建築物を創造することの責務について考えます。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60

科目名	建築法規Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 2単位 必修
担当教員	佐久間 保一		
開講期	前期		
授業概要	建築法規Ⅰに引き続き、建築関連の法規を学び、設計・施工における法遵守の意義を学ぶ。建築基準法の構造強度、防火と内装制限、及び都市計画法、建築士法、建設業法等の重要ポイントを理解する。さらに建築士試験問題を解く実力を付ける。 実務経験：一級建築士として建築事務所勤務を経て、現在建設設計事務所長を務め、その経験を活かし、授業を行う。 実務経歴：一級建築士として建築事務所勤務を経て、現在建設設計事務所長を務める。		
達成目標	建築法規Ⅰに引き続き、建築関連の法規を学び、設計・施工における法遵守の意義を学ぶ。建築基準法の構造強度、防火と内装制限、及び都市計画法、建築士法、建設業法等の重要ポイントを理解する。さらに建築士試験問題を解く実力を付ける。		
受講資格	建築デザインコース	成績評価 方法	定期試験
教科書	「初めての建築法規」学芸出版社 「建築関係法令集」		
参考書	「初めての建築法規」学芸出版社 「建築関係法令集」		
学生への要望	建築士試験問題を解くこと		
オフィスタイム	授業開始前：創学館2階教務部非常勤講師室 授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	授業ガイダンス 建築法規Ⅰの復習	授業の進め方の説明。建築法規Ⅰにおいて、理解が不十分であった項目を重点的に復習する。 最近の建築法令の動き。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
2	構造強度（木造）1	木造建築の構造強度に関する基準法、及び同施行令について理解する。 柱や梁で構成された木造在来工法についても復習する。 * 建築物の高さについて復習する。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
3	構造強度（木造）2	施行令40～45条の地震や風圧に耐える木造住宅の意味を理解し、軸組み（壁量）計算方法を学ぶ。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
4	構造強度（木造）3	前授業に引き続き、施行令40～45条の地震力や風圧力に耐える木造住宅の意味を理解し軸組み（壁量）計算方法を学ぶ。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
5	構造強度（木造）4	前授業に引き続き、施行令40～45条の地震力や風圧力に耐える木造住宅の意味を理解し軸組み（壁量）計算方法を学び、告示による建築端部の壁量計算方法を学ぶ。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
6	構造強度（木造）5 組石造	壁量計算の小テストにより、理解したことを確認する。施行令54条の組石造についての関連法規を学ぶ。併せて、組石造について理解する。	教科書を読む。小テスト対策をする。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
7	構造強度 補強コンクリートブロック造 鉄筋コンクリート造	施行令62条等の補強コンクリートブロック造についての関連法規を学ぶ。併せて、補強コンクリートブロック造について理解する。また、施行令72条等鉄筋コンクリートにおける関連法規を学ぶ。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
8	構造強度 鉄筋コンクリート造	鉄筋コンクリート造における、かぶり厚さ、柱の径等についてのポイントを学ぶ。併せて、鉄筋コンクリート造の構造について学ぶ。	教科書を読む。小テスト対策をする。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
9	構造強度 荷重と外力	固定荷重、積載荷重、積雪荷重、風圧力、地震力等の荷重と外力が、法規によってどのように記載されているか、その意味を理解する（（施行令84条～）	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

回	項目	授業内容	
10	防火と内装制限	屋根や外壁、防火壁等の防火に関わる関連法規及び、室内の内装制限を受ける建物について学び、安心安全な建築設計について考える（施行令112条他）	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。
11	建築士法	建築士でなければ設計できない建築、建築士事務所の仕事について、建築士法に則りながら理解する。建築士の責務の重要性を学ぶ。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。
12	都市計画法	都市計画法における、都市計画区域、市街化区域、市街化調整区域、開発行為について学ぶ。また用途地域について復習し、建築基準法との関連を確認する。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。
13	建設業法 ハートビル法 消防法、品格法等	建設業法、ハートビル法、消防法、品格法等の関連法規の概要を学び、建築がたくさんの法律によって規制されていることを理解する。福島県条例と地域の景観条例の説明。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。
14	復習 1	建築法規に関して、これまでの授業において理解があいまいであった箇所を復習、確認する。	授業内容を整理し、ノートにまとめる。
15	復習 2	前授業に引き続き、建築法規に関して、これまでの授業において理解があいまいであった箇所を復習、確認する。	授業内容を整理し、ノートにまとめる。

科目名	構造力学Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 必修
担当教員	濱尾 博文		
開講期	後期		
授業概要	2年前期で学んだ構造力学Ⅰの基礎知識、または、これまで学んできた一般力学や物理学、数学の知識を結合して、建築デザインを行う上でこれらをどう活用していくのか、どのように応用、展開していくのか、具体的な事案、実際に直面する問題を交えながら学んでいく。 実務経験：一級建築士として建築事務所勤務を経て、現在建設設計事務所代表取締役を務め、その経験を活かし、授業を行う。 実務経歴：一級建築士として建築事務所勤務を経て、現在建設設計事務所代表取締役を務める。		
達成目標	2年前期で学んだ構造力学Ⅰの基礎知識、または、これまで学んできた一般力学や物理学、数学の知識を結合して、建築デザインを行う上でこれらをどう活用していくのか、どのように応用、展開していくのか、具体的な事案、実際に直面する問題を交えながら学んでいく。		
受講資格	人間生活学科 2年建築コースの学生	成績評価 方法	試験100%
教科書	浅野清昭「図説やさしい構造力学」		
参考書	浅野清昭「図説やさしい構造力学」		
学生への要望	予習、復習を必ず行うこと		
オフィスタイム	木曜日授業開始前、授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	イントロダクション	「建築構造設計とは」建築設計との位置づけと社会的役割	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	30
2	構造計算モデル1	応用解析に用いる解析用モデルの作り方、基礎的ルール	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
3	構造計算モデル2	実物から解析可能なまでに単純化されたモデルの作り方	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
4	荷重と変形1	単純な架構モデルに力が加わった時の変形と曲げのモーメント	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
5	荷重と変形2	単純な架構モデルの応力図における釣り合いと反力	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
6	荷重と変形3	やや複雑な架構モデルの応力の求め方	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
7	荷重の考え方	建築設計で想定される荷重の種類と考え方	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
8	応用解析1	解析モデルの入力の方法	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
9	応用解析2	モデルの応力解析と結果の検証	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
10	応用解析3	実例に近いモデルの応力解析と結果の検証	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
11	断面算定1	応力度、断面に関する数値（断面2次モーメント）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
12	断面算定2	応力度、断面に関する数値（断面係数）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
13	座屈	座屈とは、座屈を起こすしくみ	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
14	たわみ	たわみが起こる仕組み、たわみ量と荷重の関係	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
15	保有水平耐力	保有水平耐力を求める意味と、必要保有水平耐力の決め方	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

科目名	構造力学Ⅱ演習	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 必修
担当教員	濱尾 博文		
開講期	後期		
授業概要	構造力学が実際の建物でどのように利用されているのか、また建築デザインにおいて空間、構成部材の美しさを演出する上で、いかに構造デザインが重要なものか、演習を通して体感しながら学んでいく。 実務経歴：一級建築士として建築事務所勤務を経て、現在建設設計事務所代表取締役を務め、その経験を活かし、授業を行う。 実務経歴：一級建築士として建築事務所勤務を経て、現在建設設計事務所代表取締役を務める。		
達成目標	構造力学が実際の建物でどのように利用されているのか、また建築デザインにおいて空間、構成部材の美しさを演出する上で、いかに構造デザインが重要なものか、演習を通して体感しながら学んでいく。		
受講資格	人間生活学科 2年建築コースの学生	成績評価 方法	試験100%
教科書	浅野清昭「図説やさしい構造力学」		
参考書	浅野清昭「図説やさしい構造力学」		
学生への要望	予習、復習を必ず行うこと		
オフィスタイム	木曜日授業開始前、授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	イントロダクション	世界の名建築家の設計した建物の構造	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	30
2	構造計算モデル4	イスの応用解析モデルの作成	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
3	構造計算モデル5	楽器の応力解析モデルの作成	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
4	荷重と変形4	建築士過去の問題集の解答と解説	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
5	荷重と変形5	建築士過去の問題集の解答と解説	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
6	荷重と変形6	建築士過去の問題集の解答と解説	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
7	荷重の考え方	構造設計用荷重表の作成	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
8	応用解析4	解析モデルの入力と実行	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
9	応用解析5	解析モデルの入力と実行（検証）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
10	応用解析6	解析モデルの入力と実行（検証）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
11	断面算定3	断面3次モーメントの算定	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
12	断面算定4	断面係数の算定	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
13	座屈	座屈長さの算定、座屈を防ぐ方法	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
14	たわみ	たわみ量の求め方、たわみを小さくする方法	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
15	保有水平耐力	保有水平耐力を求め方、必要保有水平耐力の求め方	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

科目名	生活学的法律論	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 選択
担当教員	鈴木 康元		
開講期	後期		
授業概要	[授業の目的・ねらい] 民法のうち「家族法」という分野につき基本的な知識を身につける [授業全体の内容の理解] 家族法の基本知識を教え、成年後見制度等についても理解してもらう [授業終了時の達成課題（到達目標）] 婚姻、離婚、親子等について民法上の理解を身につけ日常生活に生かせること 実務経験：弁護士として、法律事務所長として勤務する経験を活かし、授業を行う。 実務経歴：弁護士として、法律事務所長として勤務。		
達成目標	[授業の目的・ねらい] 民法のうち「家族法」という分野につき基本的な知識を身につける [授業全体の内容の理解] 家族法の基本知識を教え、成年後見制度等についても理解してもらう [授業終了時の達成課題（到達目標）] 婚姻、離婚、親子等について民法上の理解を身につけ日常生活に生かせること		
受講資格	家政学部 1年	成績評価 方法	ペーパー試験と出席の程度を考慮する
教科書	その都度指定する		
参考書	その都度指定する		
学生への要望	法律一般につき興味をもって欲しい		
オフィスタイム	授業開始前：創学館2階教務部非常勤講師室 授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容
1	家族法とは	民法における家族法位置づけと家族の意味	授業内容を整理し、ノートにまとめる。
2	婚姻（1）	婚姻の意味と婚約等	授業内容を整理し、ノートにまとめる。
3	婚姻（2）	婚姻の効力→婚姻をすると、夫婦はどのような義務を負うのか	授業内容を整理し、ノートにまとめる。
4	離婚（1）	離婚の意味と実態等について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。
5	離婚（2）	離婚の方法と実務から見た問題点について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。
6	内縁	内縁の意味とその法的意味	授業内容を整理し、ノートにまとめる。
7	親子（1）	親子の種別（実子・養子）と法的効果について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。
8	親子（2）	親権の意味と内容について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。
9	扶養	法律上の扶養義務者と現代的変遷について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。
10	相続の基礎	相続の意味と現代的特色	授業内容を整理し、ノートにまとめる。
11	相続人	誰が相続人になるのか、相続人に相続させたくない場合は	授業内容を整理し、ノートにまとめる。
12	相続の効力（1）	遺産承継について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。
13	相続の効力（2）	相続分と遺産分割について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。
14	遺言	遺言の意義・方式等	授業内容を整理し、ノートにまとめる。
15	成年後見	成年後見制度について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。

科目名	生活学的経済論		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択
担当教員	長谷川 貴弘			
開講期	前期			
授業概要	<p>本授業の目的は、生活と密接にかかわる経済の基礎知識の習得と経済学的視点の確立である。不景気・デフレーション・円高・円安・インフレーション・消費生活・生活経済等、普段からニュースや新聞で取り上げられるが、これらの経済的事象は私達の生活と密接にかかわっている。これら経済的事象を経済学的視点で見る目を養うことを本授業の目的としたい。</p> <p>なお、在北京日本国大使館経済部での勤務経験を活かし、授業の中で経済統計の見方、マクロ経済の理論と実際について採り上げていく。</p> <p>○実務経歴 在北京日本国大使館経済部専門調査員として主に中国経済の分析に従事。</p>			
達成目標	経済的事象を経済学的視点で見る目を養うとともに、公務員試験の経済学の問題にも対応できる力を養うことを到達目標とする。			
受講資格	家政学部 人間生活学科 1年生 家政学部 食物栄養学科 1年生	成績評価 方法	①小テスト30点 (15点×2回) ②レポート70点	
教科書	プリントを配布する。			
参考書	伊藤元重「はじめての経済学(上)(下)」日経文庫、他必要に応じ授業の中で紹介する。			
学生への要望	普段からニュースや新聞で取り上げられる経済関連の問題について関心を持つようにすること。			
オフィスタイトム	火曜日 3コマ 水曜日4コマ 経営管理學研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	ガイダンス・経済学とは何か①	授業の進め方、評価方法について解説する。経済学とは何かを説明する第一の例としてインフレーションとデフレーションを取り上げ、両者が私達の生活に与える影響について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
2	経済学とは何か②	第二の例として円安と円高を取り上げ、両者が私達の生活にどのような影響を与えるのかについて学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
3	経済学とは何か③	経済学をめぐる行われてきた政策論争(自由貿易vs保護貿易)について学修することを通じて経済学への理解を深める。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
4	消費生活と経済①	消費と消費者の概念について、消費者の権利と責任について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
5	消費生活と経済②	様々な消費者問題とクーリングオフについて学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
6	消費生活と経済③	グリーンコンシューマーとフェアトレードの概念について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
7	消費生活と経済④	消費生活と経済について総まとめ。 小テスト1回目	これまでの学修内容をノート・プリントを通じて復習し、小テストに備えること。	30
8	生活と経済-エンゲルの法則と家計調査①	世界と日本の家計研究の歴史について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
9	生活と経済-エンゲルの法則と家計調査②	エンゲルの法則とエンゲル係数の概念について学修する。	これまでの学修内容をノート・プリントを通じて復習しておくこと。	30
10	生活と経済-エンゲルの法則と家計調査③	近年のエンゲル係数の動向について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
11	マクロ経済学の基本と日本経済①	マクロ経済学(Macro Economics)が分析の対象とするGDP(国内総生産)の計算方法とその意味する点について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
12	マクロ経済学の基本と日本経済②	日本と世界のGDPのデータを通じて、それが意味するものについて学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。併せてレポートを作成すること。	60
13	地域経済~郡山市の経済について①	地域経済とは何かを解説した上で、私達が住んでいる郡山市の経済とその特徴について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。併せてレポートを作成すること。	60
14	地域経済~郡山市の経済について②	郡山市の経済とその特徴について学修する(前回の続き)。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。併せてレポートを作成すること。	60
15	まとめ	これまでの学修内容を確認する。 小テスト(2回目)	これまでの学修内容をノート・プリントを通じて復習し、小テストに備えること。	60

科目名	生活学的社会論		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択
担当教員	長谷川 貴弘			
開講期	前期			
授業概要	<p>私達は社会の中で生きており、生活と社会は切り離して考えることはできない。 本授業では、私達が生活している社会が、今現在どのような構造を持ち、どのような状態にあり、どのような課題を抱えているかについて、理解を深め、考察する力を養うことを目的としている。 まず「社会」という概念について学習し、社会の構造、状態、課題について理解を深めるため、少子高齢化、雇用問題、経済格差、グローバル化等、ニュースや新聞で取り上げられる事象を通じて解説する。 なお、本講義では、内閣府での勤務経験を活かし、授業の中で統計資料の見方、活用の仕方についても採り上げていく。 ○実務経歴 内閣府政策統括官（経済財政分析担当）付参事官（海外担当）付任期付職員として従事。</p>			
達成目標	私達が生活している社会が、今現在どのような構造を持ち、どのような状態にあり、どのような課題を抱えているかについて、理解を深め、考察する力を養うことを目的とする。			
受講資格	家政学部 人間生活学科 1年生 家政学部 食物栄養学科 1年生	成績評価 方法	①小テスト30点（15点×2回） ②レポート70点	
教科書	プリントを配布する。			
参考書	浅野智彦編著「社会学のことが面白いほどわかる本」、中経出版 他			
学生への要望	普段からニュースや新聞で取り上げられる社会の問題について関心を持つようにすること。			
オフィスタイム	火曜日 3コマ 水曜日4コマ 経営管理学習研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	ガイダンス	授業の進め方、評価方法について説明する。 『社会』とは何か、今の日本『社会』はどのような状態にあるか、その一例として少子高齢化社会について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
2	少子高齢化社会と日本と世界①	少子高齢化社会を計る様々な指標について学修し、日本の人口構造と高齢化について概観する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
3	少子高齢化社会と日本と世界②	少子高齢化社会を計る様々な指標について学修し、世界各国の人口構造と高齢化について概観する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
4	少子高齢化社会と日本と世界③	平均寿命、平均余命、健康寿命などの概念、それら指標の現状について概観する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
5	社会と仕事・家族①	家族とその役割について学修する。 家庭において起こる問題—DVと児童虐待について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
6	社会と仕事・家族②	フリーターとニート、日本の雇用慣行について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
7	社会と仕事・家族③	正規雇用と非正規雇用、働くことの意義について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
8	社会と文化①	癒しと宗教について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
9	社会と文化②	癒しと宗教、社会学から見た自殺問題について学修・考察する。小テスト（1回目予定）	これまでの学修内容をノート・プリントを通じて復習し、小テストに備えること。	60
10	社会と国家①	社会学から見た国家（ルールと権力）、平等な社会と格差について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
11	社会と国家②	厚生労働省とその取り組み（1）年金制度、社会保障制度、介護保険制度について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
12	社会と国家③	厚生労働省とその取り組み（2）医療保険制度とその仕組みについて学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。併せてこれまでの学修内容を踏まえ、レポートを作成すること。	60
13	社会と国家④	厚生労働省とその取り組み（3）「健康日本21」等について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。併せてこれまでの学修内容を踏まえ、レポートを作成すること。	60
14	社会と国家⑤	「地域保健法」と保健所の役割について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。併せてこれまでの学修内容を踏まえ、レポートを作成すること。	60
15	まとめ	これまでの学修内容の確認と小テストの内容について復習する。小テスト（2回目）	これまでの学修内容をノート・プリントを通じて復習し、小テストに備えること。	60

科目名	日本国憲法	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択
担当教員	鈴木 康元		
開講期	前期		
授業概要	憲法の基本理念と人権の重要性について理解してもらいたい。 履修カルテ評価項目 ①近代的意味の憲法の意義、歴史的背景が理解できたか。 ②日本国憲法の成立における問題点が理解できたか。 ③人権の重要性と制限根拠について理解できたか。 実務経験：弁護士として、法律事務所長として勤務する経験を活かし、授業を行う。 実務経歴：弁護士として、法律事務所長として勤務。		
達成目標	憲法の基本理念と人権の重要性について理解してもらいたい。 履修カルテ評価項目 ①近代的意味の憲法の意義、歴史的背景が理解できたか。 ②日本国憲法の成立における問題点が理解できたか。 ③人権の重要性と制限根拠について理解できたか。		
受講資格	家政学部1年生	成績評価 方法	ペーパー試験(80%)と出席状況(20%)
教科書	憲法【第二版】 弘文堂		
参考書	特に指定しない		
学生への要望	憲法および法律一般につき興味をもって欲しい。		
オフィスタイム	火曜日 授業開始前：創学館2階教務部非常勤講師室 授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	憲法総論①	憲法を学ぶことの意義、重要性、近代的意味の憲法について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	30
2	憲法総論②	近代的意味の憲法の特徴、日本国憲法の歴史	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
3	憲法総論③	国民主権の意義、平和主義（憲法9条の解釈）について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
4	基本的人権①	人権の概念、およびその重要性について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
5	基本的人権②	日本国憲法の人権の内容、人権の享有主体について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
6	基本的人権③	人権の限界、私人間における人権	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
7	基本的人権④	包括的基本権（特にプライバシーの権利を中心に）法の下での平等の意義	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
8	基本的人権⑤	内心の自由（特に信教の自由を中心に）につき判例をあげながら教える	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
9	基本的人権⑥	表現の自由の意義とその優越性について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
10	基本的人権⑦	経済的自由権	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
11	基本的人権⑧	財産権	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
12	基本的人権⑨	その他の人権について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
13	統治機構①	国会	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
14	統治機構②	内閣	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
15	統治機構③	裁判所	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

科目名	運動健康論	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択
担当教員	佐藤 浩明		
開講期	通年		
授業概要	生活の基盤となる『健康なからだづくり』に欠かすことのできない運動の重要性を理解し、生涯にわたり自分の健康や体力に配慮ができ、それらを保持増進していくために必要となる知識や方法について実技、講義を通じて学びます。また久光製薬スプリングス女子プロバレーボールチーム、オランダナショナル女子バレーボールチームの監督、コーチ実務経験を活かしコミュニケーションや協調性を指導します。 ①運動と健康の関連を理解し、健康の在り方について学びます。 ②スポーツの意義を理解し、人間力について学びます。 ③運動を通して、協調性、コミュニケーション能力、フェアプレーの精神について学びます。 ④運動を通して、基礎体力の維持、向上する方法について学びます。		
達成目標	健康的な生活に欠かすことのできない運動の方法や効果、自ら健康について考え行動できる力を習得する。スポーツ種目に必要な技術を習得すると共にコミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知り人間力を身に付ける		
受講資格	家政学部 人間生活学科 生活総合コース 1年 2単位 選択 家政学部 人間生活学科 福祉コース 1年 2単位 選択 家政学部 人間生活学科 建築デザインコース 1年 2単位 選択 家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択 ※教職課程履修者は必修	成績評価 方法	平常点30点（取組姿勢） 試験・提出物70点（実技・レポート） ※本科目は実技を含むため、出席、積極的な取組みも重視します。
教科書	特になし（必要に応じて資料等を配布します）		
参考書	「健康・フィットネスと生涯スポーツ：大修館書店」「公認スポーツ指導者テキストⅠ・Ⅱ・Ⅲ：（財）日本体育協会」「スポーツトレーニング理論：日本文芸社」「ストレッチメソッド：高橋書店」「メンタルトレーニング：ベースボールマガジン社」「教養としてのスポーツ科学：大修館書店」		
学生への要望	自分の生活習慣に興味、関心を持ち、運動する習慣をつけてほしい。 【授業中】積極的に取組み、運動を楽しむこと。タオル、水分は各自で必ず持参すること。（体調管理および熱中症対策）		
オフィスタイム	火・木の9:00～16:00まで創学館N04研究室 佐藤		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	ガイダンス	①授業目的、内容、進め方、評価方法の説明 ②服装、準備物の確認（注意事項含む） ③グループ分け	30
2	縄跳び①／からだづくりの運動	【テーマ：運動習慣をつける第一歩として、コミュニケーションゲームやレクリエーションで楽しくからだを動かす】 【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②コミュニケーションゲーム・体ほぐしの運動 ③レクリエーションゲーム ④からだづくりの運動 ⑤縄跳び（個人およびグループ） ⑥クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃	30

回	項目	授業内容	
3	縄跳び②/からだづくりの運動	<p>【テーマ：楽しくからだを動かしながらコーディネーショントレーニングで、からだの調整力を養う】</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②コーディネーショントレーニング ③レクリエーションゲーム ④からだづくりの運動 ⑤縄跳び（個人およびグループ） ⑥クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	<p>ストレッチ、準備運動で体のケアをする。タオル、水分を準備してくる</p> <p>30</p>
4	縄跳び③/からだづくりの運動	<p>【テーマ：楽しくからだを動かしながらコーディネーショントレーニングで、からだの調整力を養う】</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②コーディネーショントレーニング ③レクリエーションゲーム ④からだづくりの運動 ⑤縄跳び（個人およびグループ） ⑥クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	<p>ストレッチ、準備運動で体のケアをする。タオル、水分を準備してくる</p> <p>30</p>
5	フライングディスク③/からだづくりの運動	<p>【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④フライングディスク（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	<p>ストレッチ、準備運動で体のケアをする。タオル、水分を準備してくる</p> <p>30</p>
6	フライングディスク③/からだづくりの運動	<p>【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④フライングディスク（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	<p>ストレッチ、準備運動で体のケアをする。タオル、水分を準備してくる</p> <p>30</p>

回	項目	授業内容	
7	フライングディスク③／からだづくりの運動	<p>【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】</p> <p>【到達目標】 ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④フライングディスク（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	<p>ストレッチ、準備運動で体のケアをする。タオル、水分を準備してくる</p> <p>30</p>
8	フライングディスク③／からだづくりの運動	<p>【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】</p> <p>【到達目標】 ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④フライングディスク（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	<p>ストレッチ、準備運動で体のケアをする。タオル、水分を準備してくる</p> <p>30</p>
9	フライングディスク③／からだづくりの運動	<p>【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】</p> <p>【到達目標】 ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④フライングディスク（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	<p>ストレッチ、準備運動で体のケアをする。タオル、水分を準備してくる</p> <p>30</p>
10	ソフトバレーボール③／からだづくりの運動	<p>【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーションを発揮し楽しみながらグループで行う】</p> <p>【到達目標】 ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④ソフトバレーボール（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	<p>ストレッチ、準備運動で体のケアをする。タオル、水分を準備してくる</p> <p>0</p>

回	項目	授業内容	
11	ソフトバレーボール③／からだづくりの運動	<p>【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】</p> <p>【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④ソフトバレーボール（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	0
12	ソフトバレーボール③／からだづくりの運動	<p>【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】</p> <p>【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④ソフトバレーボール（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	30
13	ソフトバレーボール③／からだづくりの運動	<p>【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】</p> <p>【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④ソフトバレーボール（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	30
14	ソフトバレーボール③／からだづくりの運動	<p>【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】</p> <p>【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④ソフトバレーボール（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	30
15	実技のまとめ	<p>◀まとめとして実技試験を行う▶</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②レクリエーションゲーム ③実技試験 ④クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑤体育館清掃</p>	30

回	項目	授業内容	
16	第16回 オリンピックについて	オリンピックの歴史と現状 オリンピズム、オリンピック憲章について学び、スポーツの持つ魅力について学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う 30
17	第17回 生活と健康について①	《健康とは何か》 健康について考える導入として、「健康の定義」をWHO（世界保健機関）の憲章をふまえ、様々な角度から学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う 30
18	第18回 生活と健康について②	《生活習慣病の原因・対策・予防と運動》 ①生活習慣病の原因と予防、対策について理解し、運動との関係について学びます。 ②運動・休養と健康について学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う 30
19	第19回 生活と健康について③	《大学生の健康》 大学生の生活に潜む危険要因について理解し、セルフライフマネジメントについて学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う 30
20	第20回 生活とスポーツについて①	《スポーツとは何か》 スポーツの意味を理解し、スポーツの社会的価値とスポーツに期待されることについて学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う 30
21	第21回 生活とスポーツについて②	《生涯スポーツについて》 生涯スポーツに関わることが自分の健康や生涯の楽しみにどう影響するのか、①行う ②観る ③支える ④調べるの視点から学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う 30
22	第22回 生活とスポーツについて③	《大学生とスポーツ》 大学生になり高等学校まで必修で行われてきた体育の授業は著しく減少します。その中で自分の健康に興味を持ち、運動やスポーツにどう関わることができるかについて学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う 30
23	第23回 スポーツから学ぶ①	《フェアプレーについて》 スポーツは定められたルールの中で勝敗を競い合うものです。それは日常生活や、普段の行動にも通じるものがあります。ここではスポーツの中からフェアプレーについて学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う 30
24	第24回 スポーツから学ぶ②	《メンタルトレーニング》 常に結果が求められるスポーツ選手（アスリート）のメンタルトレーニング、ポジティブシンキング、行動基準について学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う 0
25	第25回 スポーツから学ぶ③	《目標設定》 スポーツ選手（アスリート）の行動基準から自分の目標設定の方法について学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う 0
26	第26回 健康増進のための身体運動について①	《体力とは》 ①体力の概念と体力要素（身体的要素 精神的要素）について学びます。 ②運動の原理原則について理解し、効果的な運動の方法について学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う 30
27	第27回 健康増進のための身体運動について②	《エクササイズの方法について》 健康の保持増進やからだをつくるための方法（①有酸素運動 ②筋力トレーニング ③ストレッチ ④バランス 等）や実施する際のポイントについて学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う 30

回	項目	授業内容	
28	第28回 コンディショニングについて	<p>《からだの調子を良くする・怪我の予防・対処方法》</p> <p>①コンディショニングを崩す原因を理解し予防方法について学びます。 ②怪我の予防、応急処置の基本、熱中症対策について学びます。</p>	<p>脈拍130前後の運動を30分以上行う</p> <p>30</p>
29	第29回 健康的な生活について①	<p>《ライフスタイルについて》</p> <p>自分のライフスタイル（生活習慣・運動習慣）を客観的に理解し、健康的な生活を過ごすための方法について学びます。</p>	<p>脈拍130前後の運動を30分以上行う</p> <p>30</p>
30	第30回 健康的な生活について②	<p>《良い習慣について》</p> <p>行動を邪魔する要因を理解し、運動習慣をつける方法について学びます。 ※『健康なからだをつくる』をテーマに自分のライフスタイルについて考えます。</p>	<p>脈拍130前後の運動を30分以上行う</p> <p>30</p>

科目名	キャリアデザインⅡ	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 1単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 1単位 選択/家政学部 食物栄養学科 2年 1単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 1単位 選択
担当教員	森 みい		
開講期	前期		
授業概要	<p>【授業のねらい】 将来の社会生活や職業生活に向けて、自らの資質を向上させ、社会的職業的自立を図るために必要な能力を培い、幅広い人間形成を図ることを目的としています。社会人としての自覚と行動を視野に入れて、主体的にキャリア形成能力を育成します。働くことの実態、意義、面白みを体感していきます。インターンシップを推進して、学生の自己認識、社会・職業認識の深化を促し、就職意欲のある学生に対して、豊富かつ適切な就職情報を提供するとともに希望に添った就職活動が行えるよう支援します。</p> <p>【授業の概要】 インターンシップ（就業体験）を通じ、自らの専門や将来希望する職業の関連した職場での体験で、学んでいる内容と社会との関連性を認識し、今後の主体的な学修への動機付けを強め、職業を具体的に理解することで仕事の奥深さを実感していきます。働くことについて総合的に理解や仕事をする達成感、充実感、社会貢献を体得します。前期7回の講義、夏休み期間中のインターンシップ（5日間）、および、受け入れ企業のご担当者をお招きした報告会から構成されています。インターンシップ終了後報告書を作成することで成果と課題を理解します。担当者は、大学・短大の就職部長であり、キャリアコンサルタントの資格を有し、長く就職指導にあたっています。</p>		
達成目標	<p>【授業終了時の達成目標】 インターンシップを通して、社会人として必要な能力と知識を学び、今後の学生生活の中に活かしていくことで、新たな学習意欲の契機となることをことを目標とします。仕事の奥深さを実感し、働くことへの理解、充実感や社会への貢献を感じ取る事を目的とします。</p>		
受講資格	特になし	成績評価 方法	就業体験50%・授業参加30%・報告会10%・提出物10%「認」評価判定
教科書	なし		
参考書	なし		
学生への要望	インターンシップは自分の変化や成長を実感できる機会です。広い視野を持ち、各個人のキャリアを考えて、新たな挑戦で自らの可能性の枠を広げてみてはどうでしょうか。		
オフィスタイム	月曜日 9:00～12:30 水曜日 9:00～12:30 事前にご相談いただければそれ以外でも対応します。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	インターンシップの概要 4/18 (Vコマ)	インターンシップの概要説明で理解を深める、インターンシップの目的の明確化。各業界の今後の発展方向をみる。就業体験先の希望調査。「インターンシップ希望調査票」「志望理由」の提出をする。インターンシップの取り組みを動画で見て、ワークを実施しながらインターンシップの考えを深化させていく。(ムビケーションの実施)	0
2	インターンシップの心構え 5/16 (Vコマ)	身近な若き経営者の講演を実施する。社会と協働する中で、自立した個人として人生をどう生きるかを考えながら、人間力や就業観の醸成及び学習意欲を高めていく。	0
3	企業研究 (講演) 5/30 (Vコマ)	メールと封書でのお礼状の書き方を理解して実践する。また電話やメールのアポイントのとり方を学ぶ。また、就業体験先の決定をする。	0
4	事前指導 (ビジネス文書作成) 6/27 (Vコマ)	マナー講座を通して、言葉遣い、立ち居振る舞い、挨拶等、円滑な人間関係を築くための基礎を身に付ける。就業体験先の打合せをする。	0
5	事前指導 (マナー講座) 7/11 (Vコマ)	業界・企業知識やインターンシップ(就業体験)の基本知識を学び、企業研究を深める。先輩の体験からインターンシップ直前の留意点を確認する。	0
6	直前指導 (インターンシップ先の企業研究)7/25 (Vコマ)	各企業において、夏季休業中(8月中旬～下旬)に5日間のインターンシップ(就業体験)を行います。	0
7	インターンシップ I班 8/19～8/23・2班8/26～8/30	事後報告会として、グループで全員が報告会を実施する。実習日誌、その他の提出物を提出する。	0
8	インターンシップ報告会 9/5 (Iコマ)	事後報告会として、グループで全員が報告会を実施する。実習日誌、その他の提出物を提出する。	0
9	インターンシップ報告会 9/5 (Iコマ)		0

科目名	情報処理演習	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択
担当教員	山口 猛		
開講期	前期		
授業概要	パソコンの普及及びネットワーク化の急激な進展を踏まえ、今後必要となる情報処理技術であるコンピュータ、ネットワーク及びオフィスソフトの基礎技術を学ぶ。とくに本演習ではオペレーティング・システム(OS)の基本操作・メールやウェブの利用方法・文書作成について学習する。また、IT企業でのシステムエンジニア勤務経験を活かし、実務的なパソコン活用力について考慮した授業を行う。 実務経歴：システムエンジニアとして株式会社エフコムに勤務		
達成目標	本演習における達成目標は次の通りとする。 1. オペレーティング・システム(OS)の基本的な操作ができること。 2. ウェブとメールを利用した情報収集および情報伝達ができること。 3. 文書作成・表計算ソフトウェアを利用し、必要な情報を盛り込んだ文書を作成することができること。		
受講資格	なし。	成績評価 方法	達成目標の到達度合いは課題により評価する。内容の区切りで課題を提示し演習と確認を行う。評価の比率は課題1を20%、課題2を40%、課題3を40%とする。
教科書	イチからしっかり学ぶ！ Office基礎と情報モラル、noa出版（2016）		
参考書	なし。		
学生への要望	授業内容を反復して練習すること。		
オフィスタイム	月曜日 2・4限 芸術館2階 No.2生芸科研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	イントロダクション	この演習の目的・内容・単位数・教科書・成績評価について説明する。また演習を始めるにあたり、オリエンテーション時の内容を復習し、Webメールを利用、Windowsの基本操作ができるようにする。	復習として次のことを行うこと。 ・Webメールから携帯電話へメールを送信する(正しく着信することを確認する)。 ・携帯電話からWebメールのアドレスへメールを送信する。メールが転送されることを確認する。	45
2	ブラウザと検索	World Wide Web (WWW) を利用するために、ブラウザ・文字コード・Uniform Resource Locator・プロトコルなどのネットワークを利用する上での基礎事項を学習する。またインターネットの普及を踏まえた上で、インターネットを利用する上での注意事項について触れる。	復習として、次の点についてまとめること。 ・URLの構造 ・インターネットを利用する際に注意すべきポイント	45
3	Email	Email のアドレスの構造やメール転送の仕組みを学ぶ。メールアドレスの管理やメールのフィルタリング、TO, CC (Carbon Copy), BCC (Blind Carbon Copy) 違いなどメールの基本について学ぶ。また、安全に Email を利用する方法やまたローカルコンピュータ上のメーラーだけでなく、Gmail を用いて Web 上のメールの用法も理解する。	復習として、Emailアドレスの構造とTO, CC, BCC の違いをまとめること。	30
4	課題1	インターネット(ブラウザ・メールなど)の用法について、正しく利用できるか確認をする。また次回以降の教材の準備を行う。 教材のダウンロード http://www.noa-prolab.co.jp/download/	課題でできなかった点について、教科書等を用いて復習しておくこと。	30
5	Wordによる文書作成1	Word を用いた文章作成について学ぶ。Word の画面構成と名称を学び、書式の意味とその設定を行う。また文章中での表の作成・挿入などの方法を学ぶ。	復習として、eLearning Systemを用いてWord STEP2 確認テスト1を実施すること。	20
6	Wordによる文書作成2	表作成の操作として、列幅や行幅の変更・セルの結合・スタイルの設定等について学ぶ。さらにワードアートを始めとした図の挿入方法とその際の各種設定方法について学ぶ。	復習として、eLearning Systemを用いてWord STEP2 確認テスト2を実施すること。	20
7	Wordによるレポート作成	レポート作成時に必要となる基本的な設定方法について学ぶ。また文章内に表やグラフを挿入する際に必要となる Excel の基礎知識、脚注や引用などについても学ぶ。	復習として、eLearning Systemを用いてWord STEP2 確認テスト3, 確認テスト4を実施すること。	40

回	項目	授業内容	
8	課題2	これまでの学習内容を踏まえ、提示された課題について一定時間での文章作成を行う。作成した文章については Web を通じて指定箇所に提出することで、一連の学習状況の確認を行う。	課題でできなかった点について、教科書等を用いて復習しておくこと。
9	表の作成	Excel を用いて表計算ソフトを学ぶ。表計算ソフトの基本画面構成・文字と数値の扱い・データ削除方法などの基本操作のほか、オートフィルや書式の設定などについて学ぶ。	復習として、授業内でオートフィルの機能を用いて作成した連続データを、再度作成してみる。
10	計算とアドレス	数式を用いた計算方法を学ぶ。特に表計算を行う上で重要な相対アドレス・絶対アドレス・混合アドレスの差異を学ぶ。	予習として教科書のp.132からp.140までを読んでおくこと。
11	関数	コンピュータ上での関数について学ぶ。基本的な関数である SUM 関数および AVERAGE 関数を用い、表計算ソフト上での関数の扱いについて学ぶ。	予習として教科書のp.132からp.152までを読んでおくこと。
12	論理	実用的な計算を行う上で重要な論理計算を行う関数について学ぶ。具体的には IF 関数や COUNTIF 関数などの用法などについて学ぶ。	復習として、eLearning Systemを用いてExcel STEP2 確認テスト5, 確認テスト6を実施すること。
13	表とグラフ	表計算ソフトでの表の書式設定を学び、作成した表からグラフを作成する方法について学ぶ。またグラフに関する基本的な設定を行う。	復習として、eLearning Systemを用いてExcel STEP3 確認テスト1, 確認テスト2を実施すること。
14	課題3	これまでの学習内容を踏まえ、提示された課題について一定時間での Excel で処理を行う。処理したファイルは Web を通じて指定箇所に提出する。これにより学習状況の確認を行う。	課題でできなかった点について、教科書等を用いて復習しておくこと。
15	プレゼンテーション	プレゼンテーションソフトを用いたプレゼンテーションの基本やスライド作成の注意点、スライド作成の基本機能について学ぶ	予習として、パワーポイントに関する章を読んでおくこと。

科目名	臨床医学 I	対象 単位数 必選	家政学部 食物栄養学科 2年 2単位 必修
担当教員	大西 弘太郎		
開講期	前期		
授業概要	主な疾患の成因・病態・治療ならびに予防について、その概要を解説する。 実務経歴：医療法人・南労会、社会医療法人・西陣健康会、医療法人・郡山病院などでの実務経験をもとに講義を行う。実務経験：医師として医療機関に勤務している。		
達成目標	主な疾患の成因・病態・治療ならびに予防について、基本的知識が習得されている。		
受講資格	家政学部 食物栄養学科 2年 同 編入生 3年	成績評価 方法	小テスト (20%) 筆記試験 (80%)
教科書	疾病の成因・病態・診断・治療—人体の構造と機能および疾病の成り立ち。 竹中 優 (編集)、第2版、医歯薬出版株式会社		
参考書	なし		
学生への要望	臨床医学の範囲は膨大である。教官が強調したポイントはその場で習得すること。理解の一助として動画を用いるが、その内容を逐一、記憶する必要はない。学生の理解度などによりスケジュールの変更もあり得る。理解し難いところは質問すること。		
オフィスタイトム	臨床医学研究室 木曜日 08:30~12:00、15:00~17:00。 金曜日 08:30~12:00。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	120
1	糖尿病とは	糖尿病とは 糖尿病の症状と兆候 糖尿病発症の危険因子 *1型糖尿病と2型糖尿病 * 糖尿病診断基準	糖尿病の分類・症状・検査・診断などについて予習・復習をしましょう。
2	糖尿病の合併症・治療・予防	糖尿病急性合併症 糖尿病慢性合併症 *糖尿病細小血管障害 *糖尿病大血管障害 糖尿病の治療 糖尿病の予防	糖尿病の合併症・治療・予防などについて予習・復習をしましょう。
3	妊娠糖尿病	妊娠糖尿病の定義と診断基準	妊娠糖尿病と糖尿病合併妊娠について予習・復習をしましょう。
4	脂質異常症、高尿酸血症、通風	脂質異常症 高尿酸血症 通風	脂質異常症、高尿酸血症について予習・復習をしましょう。
5	胃と食道の主な疾患	胃食道逆流症 胃・十二指腸潰瘍 *ピロリ菌感染の臨床的意義 *胃切除後の合併症	食道と胃の主な疾患について予習・復習をしましょう。
6	小腸、大腸の主な疾患	炎症性腸疾患(クローン病と潰瘍性大腸炎) 過敏性腸症候群 腸結核 大腸がん 腸閉塞	小腸、大腸の主な疾患について予習・復習をしましょう。
7	肝炎	*各種ウイルス肝炎の臨床特長 *感染様式と予防 慢性肝炎の自然経過	肝炎について予習・復習をしましょう。
8	肝硬変 1	肝硬変とは 背景疾患 *肝硬変の各種症状・身体所見	肝硬変について予習・復習をしましょう。
9	肝硬変 2、脂肪肝、肝細胞がん	肝硬変の治療と管理 *脂肪肝 * N A S H の臨床的意義 肝細胞がん	肝硬変、脂肪肝、肝細胞がんなどについて予習・復習をしましょう。
10	胆道系、膵臓の主な疾患	胆石症、胆のう炎 急性膵炎 慢性膵炎の臨床特長と経過 膵臓がん	胆道系、膵臓の主な疾患について予習・復習をしましょう。

回	項目	授業内容	
11	循環器疾患総論	循環器総論 血栓防止機構 動脈血栓症 静脈血栓症 *エコノミークラス症候群	うっ血、充血、血栓、塞栓、梗塞などについて予習・復習をしましょう。 120
12	高血圧、動脈硬化	高血圧とは *高血圧はなぜ危険か 高血圧の診断基準 動脈硬化 動脈硬化の分類 動脈硬化の予防 粥状動脈硬化の臨床的意義	高血圧、動脈硬化などについて予習・復習をしましょう。 120
13	虚血性心疾患	狭心症とは 不安定狭心症 心筋梗塞 *急性冠症候群	虚血性心疾患について予習・復習をしましょう。 120
14	心不全	心不全とは 心不全と背景疾患 *右心不全と左心不全	心不全について予習・復習をしましょう。 120
15	不整脈	刺激伝達系の解剖と生理 不整脈をきたす機序 不整脈の分類 *心臓突然死	不整脈について予習・復習をしましょう。 120

科目名	臨床医学Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 食物栄養学科 2年 2単位 必修
担当教員	大西 弘太郎		
開講期	後期		
授業概要	主な疾患の成因・病態・治療ならびに予防について、その概要を解説する。 実務経歴：医療法人・南労会、社会医療法人・西陣健康会、医療法人・郡山病院などでの実務経験をもとに講義を行う。実務経験：医師として医療機関に勤務している。		
達成目標	主な疾患の成因・病態・治療ならびに予防について、基礎的知識が習得されている。		
受講資格	家政学部食物栄養学科 2年 同 編入生 3年	成績評価 方法	小テスト (20%) 筆記試験 (80%)
教科書	疾病の成因・病態・診断・治療—人体の構造と機能および疾病の成り立ち。 竹中 優(編集)、第2版、医歯薬出版株式会社		
参考書	なし		
学生への要望	臨床医学の範囲は膨大である。教員が強調したポイントはその場で習得すること。 理解の一助として動画を用いるが、その内容を逐一、記憶する必要はない。学生の理解度などによりスケジュールの変更もあり得る。理解し難いところは質問すること。		
オフィスタイム	臨床医学研究室。 木曜日 08:30~14:00、16:00~17:00。 金曜日 08:30~17:00。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	腎臓 その1	尿生成のメカニズムと腎臓の機能 糸球体濾過率(GFR)の臨床的意義 急性糸球体腎炎 ネフローゼ症候群	腎臓の構造・機能、糸球体腎炎、ネフローゼ症候群などについて予習・復習をしましょう。
2	腎臓 その2	急性腎不全の定義 急性腎不全の分類と病因 急性腎不全の治療	急性腎不全について予習・復習をしましょう。
3	腎臓 その3 尿路 前立腺 透析	慢性腎不全の定義 慢性腎不全の病因・病態 糖尿病性腎症の病因・病態 糖尿病性腎症の病期分類 慢性腎臓病の概念 慢性腎臓病のステージ分類 尿路系の主な疾患 前立腺の主な疾患 透析	慢性腎不全、糖尿病性腎障害、慢性腎臓病、透析などについて予習・復習をしましょう。
4	ホルモン その1	内分泌疾患の概要 内分泌疾患のフィードバック機構 下垂体ホルモンの生産過剰と欠乏 成長ホルモン分泌不全性低身長症 巨人症と先端肥大症	視床下部—下垂体系の内分泌疾患について予習・復習をしましょう。
5	ホルモン その2	甲状腺機能低下症・亢進症 甲状腺ホルモンの生理作用 バセドウ病 橋本病 副甲状腺機能低下症・亢進症	主な甲状腺疾患、副甲状腺疾患について予習・復習をしましょう。
6	ホルモン その3	原発性アルドステロン症 二次性高血圧の臨床的重要性 クッシング症候群 副腎皮質機能低下症	主な副腎疾患について予習・復習をしましょう。
7	認知症	認知症とは 認知症と物忘れとの異同 認知症の中核症状と辺縁症状 アルツハイマー病 血管性認知症 パーキンソン病 パーキンソン症候群	認知症、パーキンソン病などについて予習・復習をしましょう。

回	項目	授業内容	
8	精神疾患	摂食障害とは 神経性やせ症 過食症 摂食障害の治療と管理	神経性無食欲症などについて予習・復習をしましょう。 120
9	呼吸器	慢性閉塞性肺疾患(COPD)とは *病理的特徴 *危険因子 *徴候と病態生理 *治療の概要 気管支喘息 気管支炎、肺炎 肺結核	主な呼吸器疾患について予習・復習をしましょう。 120
10	血液 その1	鉄欠乏性貧血 巨赤芽球性貧血 葉酸欠乏と催奇形性 再生不良性貧血 溶血性貧血 黄疸の分類	貧血、黄疸などについて予習・復習をしましょう。 120
11	血液 その2	白血病の分類 白血病の治療 成人T細胞白血病の成因 成人T細胞白血病的予防 主な垂直感染とその予防	血液系の悪性腫瘍、母子間垂直感染・経胎盤感染などについて予習・復習をしましょう。 120
12	運動器	骨粗鬆症 変形性関節症 サルコペニア フレイルティ ロコモティブシンドローム	主な運動器疾患について予習・復習をしましょう。 120
13	感染症	新興感染症 再興感染症 狂牛病 日和見感染症 院内感染症 性感染症	主な感染症について予習・復習をしましょう。 120
14	免疫アレルギー その1	自然免疫と獲得免疫 液性免疫と細胞性免疫 アレルギーとは アレルギーの4つのタイプ(クームス分類) 食物アレルギー アナフィラキシーとその対処	免疫学総論、アレルギーなどについて予習・復習をしましょう。 120
15	免疫アレルギーその2	膠原病、膠原病類似疾患 自己免疫疾患 後天性免疫不全症候群(AIDS)	主な膠原病、自己免疫疾患、免疫不全症などについて予習・復習をしましょう。 120

科目名	病理学		対象 単位数 必選	家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択
担当教員	大西 弘太郎			
開講期	後期			
授業概要	病理学の総論では、病因、退行性・進行性病変、代謝異常、免疫異常、感染、老化、放射線障害、腫瘍、先天性異常などを学ぶ。各論では、各系統や器官の主要な疾患の病態を学ぶ。 実務経歴：医療法人・南労会、社会医療法人・西陣健康会、医療法人・郡山病院などでの実務経験をもとに講義を行う。実務経験：医師として医療機関に勤務している。			
達成目標	主要な疾患、特に食事や栄養に関連する病態を概説できる。			
受講資格	本学に在籍して、高等教育を積極的に学修する意欲があること。	成績評価 方法	小テスト (20%) 筆記試験 (80%)	
教科書	シンプル病理学 (笹野公伸、岡田保典、安井弥：南江堂)			
参考書	NEWエッセンシャル病理学			
学生への要望	病気の原因と病態について日常的に興味を持つようにすること。			
オフィスタイム	臨床医学研究室。 木曜日 08:30~14:00、16:00~17:00。 金曜日 08:30~17:00。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	120
1	病理学総論、病因	病因とは病気の原因や成立ちをいい、外因と内因とがある。外因には生物・物理・化学的因子、栄養学的因子など、内因には代謝・遺伝子・免疫の異常、年齢などがある。	病理学総論、病因などについて予習・復習をしましょう。
2	細胞障害と細胞増殖	細胞の正常な形態や機能、増殖、細胞死を基本知識として、細胞障害による変性、遺伝子障害による疾病の成因と遺伝子修復について学ぶ。	細胞障害、細胞死、細胞増殖などについて予習・復習をしましょう。
3	組織、細胞の修復と再生	組織と細胞の再生とその機序を学び、再生の過剰、化生、治癒の様式、異物処理、器質化などを理解する。	再生、化生、過形成、肥大などについて予習・復習をしましょう。
4	循環障害	局所循環障害のうっ血、虚血、血栓、出血、梗塞などを学び、心不全、ショック、浮腫などの全身性循環障害の病態生理を理解する。	循環障害について予習・復習をしましょう。
5	炎症	炎症の定義と徴候を学び、その原因や炎症細胞、組織変化、組織修復機構を理解する。	炎症について予習・復習をしましょう。
6	感染症	病気の原因となる病原体の種類を学び、代表的な感染症の特徴を知る。病原体の感染形態に対する生体防御反応を学び、感染防御対策を考える。	感染症について予習・復習をしましょう。
7	免疫機構の異常	生体防御機構の主役である免疫機構を学び、その異常である免疫疾患を理解する。	主な免疫不全、アレルギー、膠原病などについて予習・復習をしましょう。
8	腫瘍	腫瘍の概念と病理形態学的特徴を学び、腫瘍の発生と進展、良性と悪性の鑑別、病理診断、疫学などを学ぶ。	腫瘍について予習・復習をしましょう。
9	遺伝と先天異常	染色体・遺伝子の構造を学び、その異常による発症の原理を理解する。代表的な染色体異常症や遺伝性疾患について学ぶ。	主な染色体異常、遺伝性疾患などについて予習・復習をしましょう。
10	代謝異常	代謝異常が主たる病因ではその病態変化を学ぶ。主要な代謝異常症について説明できるようにする。	主な代謝異常について予習・復習をしましょう。
11	老化	生命の終末に向けて老化が進む。この老化の特徴とメカニズムを学び、細胞・組織・器官の変化を理解する。	老化について予習・復習をしましょう。
12	循環器・造血系・運動器の病理	心臓、血管、骨、筋、骨髄、関節などの主要な病気の病態を学ぶ。	循環器、造血系、運動器などの主要な疾患について予習・復習をしましょう。
13	消化器の病理	口腔、消化管、唾液腺、肝臓、胆道系、膵臓などの主要な病気の病態を学ぶ。	消化器の主要な疾患について予習・復習をしましょう。
14	呼吸器・泌尿器・生殖器の病理	気道や肺、腎臓や膀胱、性腺や子宮などの主要な病気の病態を学ぶ。	呼吸器、泌尿器、生殖器の主要な疾患について予習・復習をしましょう。
15	神経系・内分泌系・感覚器の病理	脳、脊髄、神経、下垂体、甲状腺、副腎、膵臓、眼、皮膚等の主要な病気の病態を学ぶ。	神経系、内分泌、感覚器などの主要な疾患について予習・復習をしましょう。

科目名	微生物学	対象 単位数 必選	家政学部 食物栄養学科 4年 2単位 必修/家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 必修
担当教員	澤渡 優喜		
開講期	前期		
授業概要	<p>〔授業の目的・ねらい〕 管理栄養士を目指す皆さんは、微生物学を理解する必要があります。なぜなら、食品に微生物が関係しているからです。また、微生物が関係する病気である感染症を理解するためにも、微生物学の知識が必要になります。本講義では、微生物学の基礎に加え、食品微生物学の分野及び病原微生物学の分野についても解説し、微生物学と関連分野の知識を修得してもらいます。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕 微生物学の基礎では、微生物の種類・増殖条件・代謝などについて解説します。食品微生物学の分野では、食品の腐敗・保存、発酵・醸造食品などについて解説します。病原微生物学分野では、免疫学・病原微生物などについて解説します。</p> <p>〔その他〕 食品企業で乳酸菌を利用した商品の研究開発を行っていました。特に、微生物の基礎、食品微生物学については企業での研究開発の経験をもとに講義します。</p>		
達成目標	<p>〔達成目標（授業終了時の達成課題）〕 微生物の基本的な性質と微生物の有用性と有害性を理解することを本講義の達成目標とします。</p>		
受講資格	家政学部 食物栄養学科 4年	成績評価 方法	レポートなど；20点、期末試験；80点とし、60点以上で単位を認定します。
教科書	エキスパート管理栄養士養成シリーズ6 微生物学（第3版）（㈱化学同人）（本体2,500円＋税）		
参考書	<p>IF0微生物学概論（㈱培風館）（本体4,700円＋税） ブラック微生物学 第3版（丸善出版㈱）（本体8,500円＋税） 応用微生物学 改訂版（㈱培風館）（本体2,900円＋税） 応用微生物学 第3版（文永堂出版㈱）（本体5,000円＋税） その他、授業中に紹介します。</p>		
学生への要望	生物学や他の関連科目を理解しておくことと微生物学を理解しやすくなるので、「生活生物学」、「食品衛生学（食中毒菌）」、「食品学（発酵・醸造食品分野）」、「臨床医学Ⅰ・Ⅱ（感染症・免疫）」を復習しておいて下さい。微生物はとても身近な生物なので興味を持って受講して下さい。		
オフィスタイム	水曜日 16:10～17:05 No.2 食品衛生学研究室 金曜日 16:10～17:05 No.2 食品衛生学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	微生物学の歴史	<p>微生物学の歴史について以下の項目を中心に説明します。</p> <p>【項目】 微生物の発見、パスツール、コッホ、北里柴三郎、志賀 潔、ウイルスの発見、化学療法、新興感染症、再興感染症 *教科書該当箇所；p1～7</p>	<p>教科書の該当箇所を読んでおいて下さい。授業終了後、復習をして下さい。次回の授業で質問をします。</p> <p>60</p>
2	微生物学の基礎（1）	<p>微生物について概説した後に、細菌の特徴について説明します。</p> <p>【項目】 ○微生物の特徴；微生物の種類、原核生物と真核生物、微生物の大きさ、微生物の分類、微生物の命名 *教科書該当箇所；p11～14 ○細菌；細菌の大きさ、代表的な染色方法、細菌の形、細菌の構造 *教科書の該当箇所；p15～19</p>	<p>教科書の該当箇所を読んでおいて下さい。授業終了後、復習をして下さい。次回の授業で質問をします。</p> <p>60</p>
3	微生物学の基礎（2）	<p>細菌の生理について説明します。</p> <p>【項目】 細菌の栄養要求性、細菌の増殖、細菌の増殖条件、細菌の代謝 *教科書の該当箇所；p21～33</p>	<p>教科書の該当箇所を読んでおいて下さい。授業終了後、復習をして下さい。次回の授業で質問をします。</p> <p>60</p>
4	微生物学の基礎（3）	<p>真菌の特徴と生理について説明します。</p> <p>【項目】 真菌の種類と分類、真菌の形、真菌の大きさ、真菌の構造、真菌の増殖、真菌の胞子、真菌の栄養要求性、真菌の代謝 *教科書の該当箇所；p100～106、p33</p>	<p>授業終了後、復習をして下さい。次回の授業で質問をします。</p> <p>60</p>

回	項目	授業内容		
5	微生物学の基礎(4)	ウイルスの特徴と増殖方法、プリオン、原虫及び寄生虫の特徴について説明します。 【項目】 ○ウイルス：ウイルスの構造、種類、増殖方法 *教科書の該当箇所：p19～20、p34 ○プリオン：プリオンの特徴 *教科書の該当箇所：p20～21 ○原虫・寄生虫：原虫・寄生虫の特徴 *教科書の該当箇所：p13～14	教科書の該当箇所を読んでおいて下さい。授業終了後、復習をして下さい。次回の授業で質問をします。	60
6	食品微生物学(1)	自然環境に存在する微生物と食品に存在する微生物の種類を説明します。 【項目】 自然界に存在する微生物の種類と特徴、食品に存在する微生物の種類と特徴、食品の化学的・物理的条件と微生物の増殖 *教科書の該当箇所：p37～47	教科書の該当箇所を読んでおいて下さい。授業終了後、復習をして下さい。次回の授業で質問をします。	60
7	食品微生物学(2)	微生物の腐敗・変敗と食品の保存法について説明します。 【項目】 食品の腐敗・変敗、食品の保存法 *教科書の該当箇所：p47～54	教科書の該当箇所を読んでおいて下さい。授業終了後、復習をして下さい。次回の授業で質問をします。	60
8	食品微生物学(3)	代表的な醸造、発酵食品の種類と製造方法について説明します。 【項目】 アルコール飲料、調味料、豆の発酵食品、乳の発酵食品、その他 *教科書の該当箇所：p54～67	教科書の該当箇所を読んでおいて下さい。授業終了後、復習をして下さい。次回の授業で質問をします。	60
9	免疫学(1)	免疫の概要について説明します。 【項目】 抗体と抗原、免疫応答、免疫の種類 *教科書の該当箇所：p147～159	教科書の該当箇所を読んでおいて下さい。授業終了後、復習をして下さい。次回の授業で質問をします。	60
10	免疫学(2)	予防接種やアレルギーなど免疫に関連する項目について説明します。 【項目】 予防接種、血清療法と免疫グロブリン療法、免疫不全症候群、アレルギー、自己免疫疾患 *教科書の該当箇所：p159～166	教科書の該当箇所を読んでおいて下さい。授業終了後、復習をして下さい。次回の授業で質問をします。	60
11	病原微生物学(1)	感染について概説した後に、病原性を示す代表的な細菌について説明します。 【項目】 ○感染：感染機構、感染の種類、病原因子、感染経路、感染症の診断 *教科書の該当箇所：p71～75 ○病原性細菌：病原性細菌の概要、消化器系感染病原菌 *教科書の該当箇所：p75～89	教科書の該当箇所を読んでおいて下さい。授業終了後、復習をして下さい。次回の授業で質問をします。	60
12	病原微生物学(2)	病原性を示す代表的な細菌について説明します。 【項目】 呼吸器系感染病原菌、皮膚・泌尿器・生殖器系感染病原菌、血液・神経系又は全身感染性病原菌、人獣共通感染症、日和見感染、輸入感染症、衛生指標細菌・環境細菌・人体常在細菌 *教科書の該当箇所：p89～100	教科書の該当箇所を読んでおいて下さい。授業終了後、復習をして下さい。次回の授業で質問をします。	60
13	病原微生物学(3)	真菌、ウイルス、タンパク質、原虫が原因となる感染症について説明します。 【項目】 真菌症、ウイルス感染症、プリオン、原虫感染 *教科書の該当箇所：p105～115	教科書の該当箇所を読んでおいて下さい。授業終了後、復習をして下さい。次回の授業で質問をします。	60
14	病原微生物学(4)	新興感染症・再興感染症と抗生物質について説明します。 【項目】 新興感染症、再興感染症、抗生物質 *教科書の該当箇所：p118～137	教科書の該当箇所を読んでおいて下さい。授業終了後、復習をして下さい。次回の授業で質問をします。	60

回	項目	授業内容	
15	消毒・滅菌	殺菌、滅菌、消毒とこれらの手段について説明します。 【項目】 殺菌、滅菌、消毒、手段 * 141～146	教科書の該当箇所を読んでおいて下さい。授業終了後、復習をして下さい。 60

科目名	臨床栄養学Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 食物栄養学科 3年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 2年 2単位 選択
担当教員	黒澤 廣子		
開講期	後期		
授業概要	医療・介護・福祉における栄養管理について学ぶ。特に傷病者の栄養管理について、疾患・病態ごとに客観的栄養評価ができるようにする。また、チーム医療において管理栄養士の役割について学ぶ。医療機関、介護保険施設に勤務した経験をもとに、それぞれの病態に応じた食事療法について授業を行う。実務経歴：管理栄養士として医療機関、介護保険施設に勤務。		
達成目標	各疾患・病態時の体内代謝・生理学的・病理学的所見に基づいて、栄養管理の必要性が説明でき、各疾患の栄養アセスメントや疾患の病態をふまえた栄養ケアプラン・栄養教育を立案できる。計画に沿って栄養管理実施・モニタリング・評価ができるようにする。[授業修了時の到達課題]各疾患の病態や、体内代謝・生理学的・病理学的所見についてしっかり学び、疾患別の栄養管理を実際の場面で活用できるようにする。		
受講資格	家政学部 食物栄養学科 2年 2単位 選択 後期	成績評価 方法	試験80点 提出物10点 ノート課題10点
教科書	臨床栄養学 疾患別編 改訂第2版 本田佳子 羊土社 その他プリント配布		
参考書	特になし		
学生への要望	常に受け身の姿勢ではなく、主体的、積極的な姿勢で授業に臨むこと。毎回電卓、教科書は持参すること。		
オフィスタイム	月曜日 16:20~17:05 木曜日 8:30~10:20 金曜日 16:20~17:05 食生活・栄養研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	履修の手引き(平成30年度入学生) シラバス説明		授業内容	
1	ガイダンス 代謝系疾患・栄養障害	第1章 代謝系疾患・栄養障害(低栄養、ビタミン異常症)	教科書29ページ	臨床栄養学Ⅰで学んだ、栄養障害について予習する。栄養障害の穴埋め問題	120
2	代謝系疾患・栄養障害	第1章 代謝系疾患・栄養障害(教科書15ページから)	1. 糖尿病	第1回授業の復習とノート整理と教科書を参考に第2回授業の予習	120
3	代謝系疾患・栄養障害	第1章 代謝系疾患・栄養障害(教科書15ページから)	1. 糖尿病	第2回授業の復習とノート整理と教科書を参考に第3回授業の予習 食事記録のエネルギー計算	120
4	代謝系疾患・栄養障害	第1章 代謝系疾患・栄養障害(教科書20ページから)	2. 脂質異常症	第3回授業の復習とノート整理と教科書を参考に第4回授業の予習	120
5	代謝系疾患・栄養障害	第1章 代謝系疾患・栄養障害(教科書23ページから)	3. 肥満症	第4回授業の復習とノート整理と教科書を参考に第5回授業の予習 肥満・メタボリックシンドロームの穴埋め問題	120
6	消化管疾患	第3章 消化管疾患 1. 口腔・歯科疾患 2. 上部消化管疾患 3. 下部消化管疾患(教科書54ページから)		第5回授業の復習とノート整理と教科書を参考に第6回授業の予習 胃食道逆流症の穴埋め問題	120
7	嚥下障害 高齢期疾患	第16章 嚥下障害 第20章 高齢期疾患 1. 嚥下障害(教科書234ページから) 1. 高齢期疾患(教科書291ページから) 2. 褥瘡(教科書293ページから)		第6回授業の復習とノート整理と教科書を参考に第7回授業の予習	120
8	肝臓・胆嚢・膵臓疾患	第4章 肝・胆・膵疾患(教科書68ページから)		第7回授業の復習とノート整理と教科書を参考に第8回授業の予習	120
9	循環器系疾患	第5章 循環器系疾患(教科書85ページから)		第8回授業の復習とノート整理と教科書を参考に第9回授業の予習	120
10	腎臓疾患	第6章 腎・尿路系疾患(教科書98ページから) 1. 慢性腎臓病 2. 糸球体腎炎 3. ネフローゼ症候群 4. 腎不全 5. 糖尿病腎症 6. 透析療法		第9回授業の復習とノート整理と教科書を参考に第10回授業の予習	120
11	内分泌系疾患 呼吸器系疾患	第2章 内分泌系疾患(教科書39ページから) 第8章 呼吸器系疾患(教科書141ページから)		第10回授業の復習とノート整理と教科書を参考に第11回授業の予習	120
12	血液・造血系疾患障害 運動器(骨格)系疾患障害	第9章 血液・造血系疾患(教科書149ページから) 第10章 運動器(骨格)系疾患(教科書160ページから)		第11回授業の復習とノート整理と教科書を参考に第12回授業の予習 貧血の穴埋め問題	120
13	免疫・アレルギー系疾患感染症	第11章 免疫・アレルギー系疾患(教科書172ページから) 第12章 感染症(教科書189ページから)		第12回授業の復習とノート整理と教科書を参考に第13回授業の予習	120

回	項目	授業内容	
14	がんとターミナルケア周術期の管理クリティカルケア	第13章 がんとターミナルケア（教科書199ページから）第14章 周術期の管理（教科書212ページから）第15章 クリティカルケア（教科書222ページから）	第13回授業の復習とノート整理と教科書を参考に第14回授業の予習 120
15	妊産婦疾患	第19章 妊産婦疾患（教科書275ページから） 1. 肥満、やせ 2. 貧血 3. 妊娠高血圧症 4. 妊娠糖尿病	第14回授業の復習とノート整理と教科書を参考に第15回授業の予習 妊産婦・授乳婦の疾患（肥満・貧血・糖尿病・高血圧）の穴埋め問題 120

科目名	栄養管理学 I	対象 単位数 必選	家政学部 食物栄養学科 3年 2単位 必修
担当教員	黒澤 廣子		
開講期	後期		
授業概要	[目的]①臨床栄養学で学習したことを基に、患者の的確な栄養評価・判定を行い効果的な栄養補給を行い栄養状態を維持していくための能力を身につける。②チーム医療が治療効果に大きく影響することから、社会人基礎力（チームワーク、状況把握、課題発見力）の向上 [授業の内容の概要]疾患別の栄養管理の重要事項を理解し、実践力向上のため症例を通して、栄養評価、栄養量算出、栄養補給法及び栄養教育について、POSに基づいた栄養記録を実施する。 医療機関、介護保険施設に勤務した経験をもとに、それぞれの病態毎の症例を通して栄養管理についての授業を行う。実務経歴：管理栄養士として医療機関、介護保険施設に勤務。		
達成目標	疾患別の栄養管理を検査データや患者の客観的指標を基にマネジメントができる。		
受講資格	家政学部 食物栄養学科 3年 2単位 必修 前期	成績評価 方法	試験 80点 提出物 10点 ノート課題 10点
教科書	新しい臨床栄養管理学 第3版 渡邊早苗 寺本房子 笠原賀子 松崎政三編医歯薬出版 その他プリント配布		
参考書	特になし		
学生への要望	常に受け身の姿勢ではなく、主体的、積極的な姿勢で授業に臨むこと。		
オフィスタイム	月曜日 16:20~17:05 木曜日 8:30~10:20 金曜日 16:20~17:05 食生活・栄養研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	120
1	ガイダンス	授業の進め方や評価方法を理解する。 授業を受けるにあたっての必要となる事前学習や授業後の事後学習の必要性を認識する。	120
2	栄養管理計画書について	医療施設、介護福祉施設の栄養管理システム 教科書 38ページ	120
3	栄養管理計画書作成	症例に基づき計画書を作成する	120
4	栄養アセスメントについて	栄養パラメーター 身体計測・血液・尿検査等 教科書 47ページ	120
5	必要栄養量の算出	エネルギー、たんぱく質、脂質、炭水化物、ビタミン、ミネラルについて 教科書 50ページ	120
6	チーム医療	チーム医療の意義と役割 教科書 53ページ	120
7	栄養記録について	POS・POMRの記録方法 教科書 57ページ	120
8	栄養記録の実際	症例による記録の実際	120
9	ベットサイドの栄養管理 ①栄養障害	①低栄養、褥瘡症例について 教科書 66ページ 栄養アセスメント 必要栄養量の算出	120
10	ベットサイドの栄養管理 ②肥満症	②代謝疾患（肥満症） 教科書 68ページ 栄養アセスメント 必要栄養量の算出 栄養・食事療法	120
11	ベットサイドの栄養管理 ③メタボリックシンドローム	③メタボリックシンドローム 教科書 70ページ 栄養アセスメント 必要栄養量の算出 栄養・食事療法	120
12	ベットサイドの栄養管理 ④糖尿病	④糖尿病 教科書 72ページ 栄養アセスメント 必要栄養量の算出 栄養・食事療法	120
13	ベットサイドの栄養管理 ⑤脂質異常症	⑤脂質異常症 教科書 76ページ 栄養アセスメント 必要栄養量の算出 栄養・食事療法	120

回	項目	授業内容	
14	ベットの栄養管理 ⑥高尿酸血症	⑥高尿酸血症 教科書 80ページ 栄養アセスメント 必要栄養量の算出 栄養・食事療法	高尿酸血症の食事療法のポイントについて復習する。 120
15	ベットの栄養管理 ⑦消化器疾患	⑦消化器疾患 教科書 82ページ 栄養アセスメント 必要栄養量の算出 栄養・食事療法	炎症性腸疾患のクローン病と潰瘍性大腸炎の違いについて復習する。 120

科目名	栄養管理学Ⅱ		対象 単位数 必選	家政学部 食物栄養学科 4年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 3年 2単位 選択
担当教員	黒澤 廣子			
開講期	前期			
授業概要	<p>〔目的〕①臨床栄養学で学習したことを基に、管理栄養士として臨床現場で対応できる栄養ケア・マネジメントを疾病別に実践するために必要な知識や技術を習得する。②チーム医療が治療効果に大きく影響することから、社会人基礎力（チームワーク、状況把握、課題発見力）の向上を目的とする。</p> <p>〔授業の内容の概要〕各疾患ごとに必要な各種データ（臨床検査）を抽出し活用し、疾患別の栄養管理の重要事項を理解し、実践力向上のため症例を通して、栄養評価、栄養量算出、栄養補給法及び栄養教育について、POSに基づいた栄養記録を実施する。必要に応じてスライドを使用し、資料や文献・疾病ごとの最新の診断基準ガイドラインなども適宜紹介する。また、栄養に関連深い疾患の病態や治療法を学修するため症例検討等の演習を取り入れていく。医療機関、介護保険施設に勤務した経験をもとに、症例を通して栄養管理の実際の授業を行う。実務経歴：管理栄養士として医療機関、介護保険施設に勤務。</p>			
達成目標	病院、診療所、その他の医療施設や福祉施設において治療中の入院患者、外来患者や入所者の栄養管理を実際の場面で展開できる技術を得る。			
受講資格	家政学部 食物栄養学科 4年 2単位 選択	成績評価 方法	試験80点 提出物10点 ノート課題10点	
教科書	新しい臨床栄養管理 第3版（栄養管理学Ⅰで使用したもの）渡邊早苗 寺本房子 笠原賀子 松崎政三編 医歯薬出版 その他プリント配布			
参考書	特になし			
学生への要望	常に受け身の姿勢ではなく、主体的、積極的な姿勢で授業に臨むこと。			
オフィスタイム	火曜日 10:30~12:00 木曜日 12:50~14:20 食生活・栄養研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	20
1	ガイダンス	栄養管理学Ⅰを振り返る 授業の進め方や評価方法を理解する。 授業を受けるにあたっての必要となる事前学習や授業後の事後学習の必要性を認識する。	必要エネルギー量を算出するための活動係数、ストレス係数について復習する。
2	胃・十二指腸潰瘍	胃・十二指腸潰瘍の栄養管理 臨床データを読み取り 適正な栄養必要量の算出と 栄養管理 栄養アセスメント 教科書 86ページ	胃・十二指腸潰瘍の栄養指導について復習する。
3	肺炎	肺炎の栄養管理 臨床データを読み取り 適正な栄養必要量の算出と 栄養管理 栄養アセスメント 教科書 88・89ページ	肺炎の臨床診断基準について復習する。
4	肝硬変	肝硬変の栄養管理 臨床データを読み取り 適正な栄養必要量の算出と 栄養管理 栄養アセスメント 教科書 92・93ページ	肝硬変の食事療法で重要なフィッシャー比について復習する。
5	高血圧	高血圧症の栄養管理 臨床データを読み取り 適正な栄養必要量の算出と 栄養管理 栄養アセスメント 教科書 96・97ページ	高血圧の薬物療法についてまとめる。
6	心疾患・動脈硬化	心疾患の栄養管理 臨床データを読み取り 適正な栄養必要量の算出と 栄養管理 栄養アセスメント 教科書 98~101ページ	脂質異常症の臨床検査値の見方についてまとめる。
7	慢性腎臓病（透析）	慢性腎臓病の栄養管理 臨床データを読み取り 適正な栄養必要量の算出と 栄養管理 栄養アセスメント 教科書 104~107ページ	症例より透析患者の栄養管理の中でも水分管理（水分出納）についてまとめる。
8	糖尿病腎症	糖尿病腎症の栄養管理 臨床データを読み取り 適正な栄養必要量の算出と 栄養管理 栄養アセスメント 教科書 108・109ページ	慢性腎臓病と糖尿病腎症の食事療法の違いについて、患者の視点からまとめる。

回	項目	授業内容	
9	甲状腺	甲状腺機能亢進症の栄養管理 臨床データを読み取り 適正な栄養必要量の算出と 栄養管理 栄養アセスメント 教科書 113ページ	内分泌疾患のホルモンの作用について まとめる。 20
10	脳梗塞	脳梗塞の栄養管理 臨床データを読み取り 適正な栄養必要量の算出と 栄養管理 栄養アセスメント 教科書 114ページ	脳梗塞の後遺症の嚥下障害の食形態に ついてまとめる。 20
11	貧血	貧血の栄養管理 臨床データを読み取り 適正な栄養必要量の算出と 栄養管理 栄養アセスメント 教科書 115ページ	貧血の分類と食事療法についてまとめる。 20
12	骨粗鬆症	骨粗鬆症の栄養管理 臨床データを読み取り 適正な栄養必要量の算出と 栄養管理 栄養アセスメント 教科書 116・117ページ	骨粗鬆症における骨の新陳代謝につい て理解できるようまとめる。 20
13	胃がん	胃がんの栄養管理 臨床データを読み取り 適正な栄養必要量の算出と 栄養管理 栄養アセスメント 教科書 118・119ページ	胃がんによる胃切除術の後遺症につい てまとめる。 20
14	外傷・熱傷	外傷・熱傷の栄養管理 臨床データを読み取り 適正な栄養必要量の算出と 栄養管理 栄養アセスメント 教科書 122・123ページ	熱傷患者の栄養管理についてまとめる。 20
15	妊娠糖尿病	妊娠糖尿病の栄養管理 臨床データを読み取り 適正な栄養必要量の算出と 栄養管理 栄養アセスメント 教科書 140ページ	妊娠糖尿病の栄養管理についてまとめる。 20

科目名	臨床栄養学実習 I		対象 単位数 必選	家政学部 食物栄養学科 3年 1単位 必修/家政学部 食物栄養学科 2年 1単位 必修
担当教員	黒澤 廣子			
開講期	後期			
授業概要	臨床栄養学の学習と疾患別の献立作成と調理実習を行い、更に実践的にするための模擬集団栄養指導とグループワークを実施する。医療機関、介護保険施設に勤務した経験をもとに、それぞれの病態に応じた献立作成とそれを基に調理実習を行い評価、講評する。 実務経歴：管理栄養士として医療機関、介護保険施設に勤務。			
達成目標	入院時食事療養における献立作成や栄養相談の基本となることについて実習を行い、管理栄養士として臨床の場面で実践できるようにする。[授業終了時の到達課題]疾患別の献立作成と調理技術を習得する。			
受講資格	家政学部 食物栄養学科 2年 1単位 必修	成績評価 方法	筆記試験70点、提出物10点、課題（自宅での調理）20点	
教科書	食事療法実務入門（学建書院）栄養食事療法の実習（医歯薬出版）糖尿病の食品交換表 腎臓病の食品交換表			
参考書	特になし			
学生への要望	常に受け身の姿勢ではなく、主体的、積極的な姿勢で授業に臨むこと。 解らないことをそのままにしない。			
オフィスタイム	月曜日 16:20~17:05 木曜日 8:30~10:20 金曜日 16:20~17:05 食生活・栄養研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	30
1	ガイダンス 病院給食 演習問題	病院における入院時食事療養費、DPC、約束食事箋について ①入院時食事療養費の適温給食、栄養指導と採算性 ②入院患者の栄養量と摂取量	「食事療養実務入門」教科書の148ページからの入院時食事制度概説を復習する。
2	ガイダンス 病院給食 演習問題	病院における入院時食事療養費、DPC、約束食事箋について ①入院時食事療養費の適温給食、栄養指導と採算性 ②入院患者の栄養量と摂取量	「食事療養実務入門」教科書の148ページからの入院時食事制度概説を復習する。
3	一般食 演習問題	治療食の種類 一般治療食 ①症例による栄養量の計算と濃厚流動食選定 一般食患者の年齢構成及び荷重平均計算 ③常食から全がゆ食へ展開食	② 常食から全がゆ食の展開食の課題の取り組み
4	一般食 演習問題	治療食の種類 一般治療食 ①症例による栄養量の計算と濃厚流動食選定 一般食患者の年齢構成及び荷重平均計算 ③常食から全がゆ食へ展開食	② 常食から全がゆ食の展開食の課題の取り組み
5	治療食	糖尿病食の食品交換表の使い方について 胃・十二指腸潰瘍について	糖尿病食品交換表についての復習
6	治療食	糖尿病食の食品交換表の使い方について 胃・十二指腸潰瘍について	糖尿病食品交換表についての復習
7	糖尿病食品交換表を用いた調理実習（1食分）と単位計算	献立作成上の注意点等 調理実習（1食分）と単位計算	食品交換表の単位数の計算
8	糖尿病食品交換表を用いた調理実習（1食分）と単位計算	献立作成上の注意点等 調理実習（1食分）と単位計算	集団栄養指導の管理栄養士担当の学生は資料作成 それ以外の学生は食品交換表の見方について復習
9	演習（糖尿病の集団指導）グループワーク	①グループ毎に指導者と患者を設定し集団栄養指導を実施（40分）②症例によるグループワーク 発表	自宅での調理の課題の取り組み
10	演習（糖尿病の集団指導）グループワーク	①グループ毎に指導者と患者を設定し集団栄養指導を実施（40分）②症例によるグループワーク 発表	自宅での調理の課題の取り組み
11	糖尿病食品交換表を用いた献立作成	食品交換表を用いた献立作成（1日 1,600kcal）教科書「栄養食事療法の実習」71ページ参照	食品交換表の単位数の計算

回	項目	授業内容	
12	糖尿病食品交換表を用いた献立作成	食品交換表を用いた献立作成 (1日 1,600kcal) 教科書「栄養食事療法の実習」71ページ参照	食品交換表の単位数の計算 30
13	糖尿病1600kcal常食の試作	グループの中で1日分の試作 (1,600kcal食) レポート作成 (写真を入れて、PFCと材料費、動物タンパク比、コメント、感想)	調理実習のレポート作成 (PFC・動物性たんぱく質比、食材料費の算出) 30
14	糖尿病1600kcal常食の試作	グループの中で1日分の試作 (1,600kcal食) レポート作成 (写真を入れて、PFCと材料費、動物タンパク比、コメント、感想)	調理実習のレポート作成 (PFC・動物性たんぱく質比、食材料費の算出) 30
15	演習 (胃潰瘍、十二指腸潰瘍の集団栄養指導)	①グループ毎に指導者と患者を設定し集団栄養指導を実施 (40分) ②症例によるグループワーク 発表	自宅での調理の課題の取り組み 30
16	演習 (胃潰瘍、十二指腸潰瘍の集団栄養指導)	①グループ毎に指導者と患者を設定し集団栄養指導を実施 (40分) ②症例によるグループワーク 発表	自宅での調理の課題の取り組み 30
17	胃・十二指腸潰瘍1600kcal全粥献立作成	献立作成 「食事療養実務入門」の教科書136ページの食品構成を参考にする。 エネルギー 1,600kcal たんぱく質 70g	胃・十二指腸潰瘍に適した食品の選択について教科書78ページを確認しておくこと。 30
18	胃・十二指腸潰瘍1600kcal全粥献立作成	献立作成 「食事療養実務入門」の教科書136ページの食品構成を参考にする。 エネルギー 1,600kcal たんぱく質 70g	胃・十二指腸潰瘍に適した食品の選択について教科書78ページを確認しておくこと。 30
19	胃・十二指腸潰瘍1600kcal全粥試作	グループの中で1日分の試作 (胃・十二指腸潰瘍食 1,600kcal食) レポート作成 (写真を入れて、PFCと材料費、動物タンパク比、コメント、感想)	調理実習のレポート作成 (PFC・動物性たんぱく質比、食材料費の算出) 30
20	胃・十二指腸潰瘍1600kcal全粥試作	グループの中で1日分の試作 (胃・十二指腸潰瘍食 1,600kcal食) レポート作成 (写真を入れて、PFCと材料費、動物タンパク比、コメント、感想)	調理実習のレポート作成 (PFC・動物性たんぱく質比、食材料費の算出) 30
21	高齢者食	①ビデオ (CVD) 学習 ②トロミ調整食品を牛乳に薄いとろみ、中間のとろみ、濃いとおろみの3種類のとろみを実習 【とろみ測定版 (ライセンスブレッドテスト) の実施】 ③あーと試食	リハビリテーション学会嚥下調整食分類2013について教科書228ページを復習する 30
22	高齢者食	①ビデオ (CVD) 学習 ②トロミ調整食品を牛乳に薄いとろみ、中間のとろみ、濃いとおろみの3種類のとろみを実習 【とろみ測定版 (ライセンスブレッドテスト) の実施】 ③あーと試食	リハビリテーション学会嚥下調整食分類2013について教科書228ページを復習する 30
23	介護食	①高齢者の献立作成 (献立用紙はA4サイズ縦) 常食⇒全がゆ食⇒嚥下調整食3の展開食	学会分類の嚥下調整食3について食形態を確認する。 30
24	介護食	①高齢者の献立作成 (献立用紙はA4サイズ縦) 常食⇒全がゆ食⇒嚥下調整食3の展開食	学会分類の嚥下調整食3について食形態を確認する。 30
25	介護食の調理実習 介助方法実技	①スルーパートナーを使用し嚥下調整食3 (ソフト食) の作成 ②①の調理したものを介護実習室にて介助と被介護者と体験	摂食・嚥下のしくみについて復習する 30
26	介護食の調理実習 介助方法実技	①スルーパートナーを使用し嚥下調整食3 (ソフト食) の作成 ②①の調理したものを介護実習室にて介助と被介護者と体験	摂食・嚥下のしくみについて復習する 30
27	褥瘡	症例による栄養量算出と経腸栄養剤の選定と提供栄養量について	褥瘡のステージ分類について復習する 30
28	褥瘡	症例による栄養量算出と経腸栄養剤の選定と提供栄養量について	褥瘡のステージ分類について復習する 30
29	静脈栄養法・経管栄養法	病態別栄養剤について (腎不全用、肝不全用、呼吸器不全用、がん患者用、免疫調整栄養) ①輸液のNPC/N比について演習 ②症例検討栄養剤の選定	経腸栄養剤の種類について教科書262～267ページの付録で復習する 30

回	項目	授業内容	
30	静脈栄養・経管栄養	病態別栄養剤について（腎不全用、肝不全用、呼吸器不全用、がん患者用、免疫調整栄養） ①輸液のNPC/N比について演習 ②症例検討栄養剤の選定	経腸栄養剤の種類について教科書262～267ページの付録で復習する 30

科目名	臨床栄養学実習Ⅱ		対象 単位数 必選	家政学部 食物栄養学科 3年 1単位 必修
担当教員	黒澤 廣子, 本間 杏菜			
開講期	前期			
授業概要	[目的]入院時食事療養における献立作成や栄養相談の基本となることについて実習を行い、管理栄養士として臨床の場面で実践できるようにする。 [授業の内容の概要]臨床栄養学の学習と疾患別の献立作成と調理実習を行い、更に実践的にするための模擬集団栄養指導とグループワークを実施する。 医療機関、介護保険施設に勤務した経験をもとに、それぞれの病態に応じた献立作成とそれを基に調理実習を行い評価、講評する。 実務経歴：管理栄養士として医療機関、介護保険施設に勤務。			
達成目標	疾患毎の病態を理解したうえで献立作成及び調理技術を身に付ける。			
受講資格	家政学部 食物栄養学科 3年1単位 必修	成績評価 方法	筆記試験70点、提出物10点、課題（自宅での調理）20点	
教科書	食事療法実務入門（学建書院）栄養食事療法の実習（医歯薬出版）糖尿病の食品交換表 腎臓病の食品交換表 臨床栄養学実習Ⅰ			
参考書	特になし			
学生への要望	常に受け身の姿勢ではなく、主体的、積極的な姿勢で授業に臨むこと。			
オフィスタイム	火曜日 10:30~12:00 木曜日 12:50~14:20 食生活・栄養研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	高血圧・心臓病・脂質異常症食	高血圧が長期間持続すると、脳疾患、高血圧性心疾患、動脈硬化を招く。食塩制限は6g未満である。心不全で浮腫のある場合は、食塩制限と水分制限を行う。脂質異常症においてはコレステロール、中性脂肪の高い場合の食品の組み合わせを考える。	調理における塩分濃度をもとに、調味料の使用量が計算できるように復習する。
2	高血圧・心臓病・脂質異常症食	高血圧が長期間持続すると、脳疾患、高血圧性心疾患、動脈硬化を招く。食塩制限は6g未満である。心不全で浮腫のある場合は、食塩制限と水分制限を行う。脂質異常症においてはコレステロール、中性脂肪の高い場合の食品の組み合わせを考える。	調理における塩分濃度をもとに、調味料の使用量が計算できるように復習する。
3	脂質異常症の模擬集団栄養指導③とグループワーク	1コマ グループ毎に1人が代表で模擬集団指導の実施 2コマ 症例に対するグループワーク	集団栄養指導の管理栄養士担当の学生は資料作成をする。その他の学生は脂質異常の臨床検査値の見方を復習する。
4	脂質異常症の模擬集団栄養指導③とグループワーク	1コマ グループ毎に1人が代表で模擬集団指導の実施 2コマ 症例に対するグループワーク	集団栄養指導の管理栄養士担当の学生は資料作成をする。その他の学生は脂質異常の臨床検査値の見方を復習する。
5	脂質異常症食の献立作成	脂質異常症 1600kcal たんぱく質70g、脂質40g 食塩6g未満 コレステロール200mgの献立作成	コレステロールの多い食品や食物繊維の多い食品選択ができるよう復習する。
6	脂質異常症食の献立作成	脂質異常症 1600kcal たんぱく質70g、脂質40g 食塩6g未満 コレステロール200mgの献立作成	コレステロールの多い食品や食物繊維の多い食品選択ができるよう復習する。
7	脂質異常症食 1600kcal たんぱく質70g、脂質40g 食塩6g コレステロール200mgの調理実習	グループの代表者の献立を3食分を作成し試食する。料理の手順、材料の割合、彩り、盛り付け、季節感など試食後の感想を提出する。	調理実習のレポート作成。(PFC、動物性たんぱく質比、食材料費の算出)
8	脂質異常症食 1600kcal たんぱく質70g、脂質40g 食塩6g コレステロール200mgの調理実習	グループの代表者の献立を3食分を作成し試食する。料理の手順、材料の割合、彩り、盛り付け、季節感など試食後の感想を提出する。	調理実習のレポート作成。(PFC、動物性たんぱく質比、食材料費の算出)

回	項目	授業内容	
9	肝臓病食 膵臓病食	肝臓病は急性期と慢性期に分けられる。急性期は病態により脂肪やたんぱく質を抑えた食事となる。慢性期には代償期と非代償期に分けられ、非代償期は高アンモニア血症や肝性脳症、腹水などの症状がある。高アンモニア血症の場合は、たんぱく質制限、フィッシュアミノ酸の多い消化態栄養剤を選択する。膵炎は急性膵炎・慢性膵炎に分けられる。膵臓病の特徴と使用食品について学び、膵炎回復期・寛解期の献立を作成する。非代償期になると糖尿病の治療も必要となるので、食事の配分の仕方、食事時間についても考慮する。	肝臓病、膵臓病の臨床検査値の見方を復習する。 20
10	肝臓病食 膵臓病食	肝臓病は急性期と慢性期に分けられる。急性期は病態により脂肪やたんぱく質を抑えた食事となる。慢性期には代償期と非代償期に分けられ、非代償期は高アンモニア血症や肝性脳症、腹水などの症状がある。高アンモニア血症の場合は、たんぱく質制限、フィッシュアミノ酸の多い消化態栄養剤を選択する。膵炎は急性膵炎・慢性膵炎に分けられる。膵臓病の特徴と使用食品について学び、膵炎回復期・寛解期の献立を作成する。非代償期になると糖尿病の治療も必要となるので、食事の配分の仕方、食事時間についても考慮する。	肝臓病、膵臓病の臨床検査値の見方を復習する。 20
11	肝臓病食（肝硬変）の献立作成	肝臓食 1200kcal たんぱく質 40g 脂質 25g 食塩 5gの献立作成 アミノレバンEN2袋（エネルギー420kcal たんぱく質27g）肝不全用経口栄養剤	肝硬変の非代償期の食事療法について復習する。 20
12	肝臓病食（肝硬変）の献立作成	肝臓食 1200kcal たんぱく質 40g 脂質 25g 食塩 5gの献立作成 アミノレバンEN2袋（エネルギー420kcal たんぱく質27g）肝不全用経口栄養剤	肝硬変の非代償期の食事療法について復習する。 20
13	膵臓病食の模擬集団栄養指導④とグループワーク	1コマ グループ毎に1人が代表で模擬集団指導の実施 2コマ 症例に対するグループワーク	集団栄養指導の管理栄養士担当の学生は資料作成をする。その他の学生は膵臓病の食事療法を復習する。 20
14	膵臓病食の模擬集団栄養指導④とグループワーク	1コマ グループ毎に1人が代表で模擬集団指導の実施 2コマ 症例に対するグループワーク	集団栄養指導の管理栄養士担当の学生は資料作成をする。その他の学生は膵臓病の食事療法を復習する。 20
15	膵臓病食安定期の献立作成	1700kcal たんぱく質 70g 脂質 30g以下 食塩 8g未満 常食の献立作成（MCTの使用）	自宅での調理の課題の取り組み 20
16	膵臓病食安定期の献立作成	1700kcal たんぱく質 70g 脂質 30g以下 食塩 8g未満 常食の献立作成（MCTの使用）	自宅での調理の課題の取り組み 20
17	膵臓病食調理実習	グループの代表者の献立を1日3食分を作製し試食する。調理の手順、材料の割合、彩り、盛り付け、季節感など 試食後の感想を提出する。	調理実習のレポート作成。（PFC、動物性たんぱく質比、食材料費の算出） 20
18	膵臓病食調理実習	グループの代表者の献立を1日3食分を作製し試食する。調理の手順、材料の割合、彩り、盛り付け、季節感など 試食後の感想を提出する。	調理実習のレポート作成。（PFC、動物性たんぱく質比、食材料費の算出） 20
19	腎臓病食 治療用特殊食品を活用した調理実習	急性・慢性腎炎、ネフローゼ症候群、保存期慢性腎不全、血液透析、腹膜透析があります。保存期慢性腎不全、血液透析、腹膜透析の食事療法では治療用食品が開発されています。腎臓病治療用食品が開発されている。エネルギー調整食品、たんぱく調整食品、食塩調整食品、低リン食品がある。	自宅での調理の課題の取り組み 20
20	腎臓病食 治療用特殊食品を活用した調理実習	急性・慢性腎炎、ネフローゼ症候群、保存期慢性腎不全、血液透析、腹膜透析があります。保存期慢性腎不全、血液透析、腹膜透析の食事療法では治療用食品が開発されています。腎臓病治療用食品が開発されている。エネルギー調整食品、たんぱく調整食品、食塩調整食品、低リン食品がある。	自宅での調理の課題の取り組み 20

回	項目	授業内容		
21	腎臓病食の模擬集団栄養指導⑤とグループワーク	1コマ グループ毎に1人が代表で模擬集団指導の実施 2コマ 症例に対するグループワーク	集団栄養指導の管理栄養士担当の学生は資料作成をする。その他の学生は慢性腎臓病の臨床検査値の見方を復習する。	20
22	腎臓病食の模擬集団栄養指導⑤とグループワーク	1コマ グループ毎に1人が代表で模擬集団指導の実施 2コマ 症例に対するグループワーク	集団栄養指導の管理栄養士担当の学生は資料作成をする。その他の学生は慢性腎臓病の臨床検査値の見方を復習する。	20
23	腎臓病食の献立作成	保存期慢性腎不全食 1800kcal たんぱく質 40g 食塩 5g 献立作成	腎臓病食品交換表の使い方を復習する。	20
24	腎臓病食の献立作成	保存期慢性腎不全食 1800kcal たんぱく質 40g 食塩 5g 献立作成	腎臓病食品交換表の使い方を復習する。	20
25	腎臓病食調理実習	グループの代表者の献立を1日3食分を作製し試食する。調理の手順、材料の割合、彩り、盛り付け、季節感など 試食後の感想を提出する	調理実習のレポート作成。(PFC、動物性たんぱく質比、食材料費の算出)	20
26	腎臓病食調理実習	グループの代表者の献立を1日3食分を作製し試食する。調理の手順、材料の割合、彩り、盛り付け、季節感など 試食後の感想を提出する	調理実習のレポート作成。(PFC、動物性たんぱく質比、食材料費の算出)	20
27	入院時食事療養における食事摂取基準の取り扱い	①食事摂取基準基準の運用と「食事基準」 ②食品構成と食品類別荷重平均成分表について ③食類別荷重平均成分表の作成	食品類別荷重平均成分表の作成	20
28	入院時食事療養における食事摂取基準の取り扱い	①食事摂取基準基準の運用と「食事基準」 ②食品構成と食品類別荷重平均成分表について ③食類別荷重平均成分表の作成	食品類別荷重平均成分表の作成	20
29	検査食・食事アレルギーまとめ	糖原病、治療乳、甲状腺ホルモンと疾患、妊娠糖尿病、妊娠高血圧症候群、骨粗鬆症、食物アレルギーなど	特別治療食について「食事療法実務入門」教科書148ページからを復習して、治療乳などについて理解を深める。	20
30	検査食・食事アレルギーまとめ	糖原病、治療乳、甲状腺ホルモンと疾患、妊娠糖尿病、妊娠高血圧症候群、骨粗鬆症、食物アレルギーなど	特別治療食について「食事療法実務入門」教科書148ページからを復習して、治療乳などについて理解を深める。	20

科目名	公衆栄養学 I	対象 単位数 必選	家政学部 食物栄養学科 2年 2単位 必修
担当教員	星 千歳		
開講期	後期		
授業概要	<p>[授業の目的・ねらい] 地域社会や集団生活など広い範囲で国民の健康を図るための栄養活動・栄養疫学などについて学習し、実際の現場でのとらえ方や課題について把握できるようにする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 公衆栄養学の概念、健康・栄養問題の現状と課題、栄養疫学、公衆栄養マネジメント、公衆栄養プログラムの展開を解説する。また、保健所に勤務した経験をもとに実際の現場での活動内容や課題について講義する。</p> <p>実務経験：福島県の職員(管理栄養士)として保健所と病院に勤務</p>		
達成目標	地域社会や集団生活など広い範囲で国民の健康を図るための栄養活動・栄養施策などの公衆栄養について理解できる。		
受講資格	食物栄養学科 2年	成績評価 方法	小テスト 20点 提出物(ノート) 10点 定期試験 70点
教科書	サクセス管理栄養士講座・公衆栄養学 第一出版 井上浩一、草間かおる、村山伸子		
参考書	公衆衛生がみえる 2018-2019 メディックメディア		
学生への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・受け身の姿勢ではなく、主体的・積極的に授業に臨むこと。 ・授業中はしっかりとノートを取ることを。ノートまとめ方で成績評価を行うので、A4ノート(ルーズリーフは不可)を各自準備して他の人が見てわかりやすいように自分なりにまとめること。 ・地域活動、集団健康管理、行政など「公衆栄養」の視点から地域や集団を対象とした公衆栄養活動に関心を持つこと。 		
オフィスタイム	木曜日16:10~17:00 金曜日16:10~17:00 研究室:62年館2階「食生活・栄養研究室」		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	30
1	公衆栄養学の概念	公衆栄養学の定義を理解し、公衆栄養学の意義・目的を認識する。 また、公衆栄養学の意義は、健康の保持・増進、QOL向上にあることを学ぶ。	30
2	公衆栄養学の概念	公衆栄養活動は、生態系保全、地域づくり、ヘルスプロモーション、疾病予防などと密接なかわりについて基本的な事項を学ぶ。	30
3	健康・栄養問題の現状と課題	公衆栄養活動を行うにあたり、その背景となる社会環境の問題について理解する。 ・人口問題 ・少子化 ・長寿社会 ・食糧問題	30
4	健康・栄養問題の現状と課題	疾病構造から健康状態の変化を理解し、現状とその対策について学ぶ。 ・死因別統計 ・平均寿命、健康寿命 ・生活習慣病の有病率	30
5	健康・栄養問題の現状と課題	食事の変化について理解し、栄養上の現状と課題を学ぶ。 ・エネルギー、栄養摂取量 ・食品群別摂取量 ・料理、食事パターン	30
6	健康・栄養問題の現状と課題	食生活の変化など、それぞれの変遷から健康栄養上の課題を整理し、今後の対策を検討するための基礎を学ぶ。 ・食行動 ・食知識、食態度、食スキル	30
7	健康・栄養問題の現状と課題	食環境の変化は、人々のおかれている自然、社会、経済など、様々な因子によって左右されるため各省庁が発表している統計について理解する。 ・食品生産・流通 ・フードバランスシート(食料需給表) ・食料自給率	30

回	項目	授業内容	
8	健康・栄養問題の現状と課題	諸外国の健康・栄養問題の現状と課題について学ぶ。 ・先進諸国・発展途上国の現状と課題 ・先進国と開発途上国の地域格差	当日の授業内容を教科書で確認する。 終了後、ノートまとめを行い授業内容の復習をする。
9	栄養疫学	栄養疫学の役割と公衆栄養活動への応用について解説する。	当日の授業内容を教科書で確認する。 終了後、ノートまとめを行い授業内容の復習をする。
10	栄養疫学	食事摂取量の測定方法について解説する。 ・食事記録法と24時間思い出し法 ・食物頻度調査法 ・食事摂取量を反映する身体測定値、生化学的指標	当日の授業内容を教科書で確認する。 終了後、ノートまとめを行い授業内容の復習をする。
11	栄養疫学	食事調査の種類と特徴について解説し、食事摂取量の評価方法としての食事摂取基準による評価について学ぶ。	当日の授業内容を教科書で確認する。 終了後、ノートまとめを行い授業内容の復習をする。
12	栄養疫学	総エネルギー調整栄養摂取量の必要性について解説し、残差法、栄養素密度法について学ぶ。	当日の授業内容を教科書で確認する。 終了後、ノートまとめを行い授業内容の復習をする。
13	公衆栄養マネジメント	公衆栄養マネジメントの基本的な考え方やその必要性を学ぶとともに、適切な展開とするために求められる公衆栄養アセスメントの目的や方法について理解する。	当日の授業内容を教科書で確認する。 終了後、ノートまとめを行い授業内容の復習をする。
14	公衆栄養マネジメント	公衆栄養プログラムにおける目標設定の方法を理解し、取り組みの計画・実施・評価の各段階に応じた望ましい対応について学ぶ。	当日の授業内容を教科書で確認する。 終了後、ノートまとめを行い授業内容の復習をする。
15	公衆栄養プログラムの展開	公衆栄養活動を実際に展開するうえでの考え方や背景について知識を養う。 具体的な公衆栄養活動の事例をとおして、地域特性、食環境づくり、集団特性を視野にいれたプログラムの展開について学ぶ。	当日の授業内容を教科書で確認する。 終了後、ノートまとめを行い授業内容の復習をする。

科目名	公衆栄養学Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 食物栄養学科 3年 2単位 選択	
担当教員	星 千歳			
開講期	前期			
授業概要	[授業の目的・ねらい] 地域社会や集団生活など広い範囲で国民の健康を増進するための栄養活動・栄養施策について学習し、公衆栄養活動の実際の展開等を理解する。 [授業全体の概要] 公衆栄養関連法規・国の健康増進基本方針・諸外国の健康・栄養政策等について解説する。また、保健所に勤務した経験をもとに実際の現場での活動内容や課題について講義する。 実務経歴：福島県の職員（管理栄養士）として保健所と病院に勤務			
達成目標	[達成目標] 地域社会や集団生活など広い範囲で国民の健康を増進するための栄養活動・栄養施策が理解できる。			
受講資格	食物栄養学科 3年	成績評価 方法	小テスト 20点 提出物(ノート) 10点 定期試験 70点	
教科書	サクセス管理栄養士講座・公衆栄養学 第一出版 井上浩一、草間かおる、村山伸子			
参考書	公衆衛生がみえる 2018-2019 メディックメディア			
学生への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・受け身の姿勢ではなく、主体的・積極的に授業に臨むこと ・授業中はしっかりとノートを取る。ノートのまとめ方で成績評価を行うので、A4ノート(ルーズリーフは不可)を各自準備して他の人が見てわかりやすいように自分なりにまとめること。 ・地域活動の視点から地域や集団を対象とした公衆栄養活動に関心を持つこと。 			
オフィスタイム	木曜日16:10~17:00 金曜日16:10~17:00 研究室:62年館2階「食生活・栄養研究室」			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	30
1	わが国の公衆栄養活動	公衆栄養活動の役割、公衆行政の組織と人材育成について理解する。	当日の授業内容を教科書で確認する。終了後、ノートまとめを行い授業内容を復習する。
2	公衆栄養関連法規	公衆栄養関係法規と制定の経緯・意義について学び、わが国の健康づくり対策を理解する。 ・地域保健法 ・保健所、市町村保健センターの役割	当日の授業内容を教科書で確認する。終了後、ノートまとめを行い授業内容を復習する。
3	公衆栄養関連法規	公衆栄養関係法規と制定の経緯・意義について学び、わが国の健康づくり対策を理解する。 ・健康増進法	当日の授業内容を教科書で確認する。終了後、ノートまとめを行い授業内容を復習する。
4	公衆栄養関連法規	公衆栄養関係法規と制定の経緯・意義について学び、わが国の健康づくり対策を理解する。 ・食育基本法	当日の授業内容を教科書で確認する。終了後、ノートまとめを行い授業内容を復習する。
5	公衆栄養関連法規	公衆栄養関係法規と制定の経緯・意義について学び、わが国の健康づくり対策を理解する。 ・母子保健法 ・高齢者の医療確保に関する法律 ・介護保険法 ・食品表示法	当日の授業内容を教科書で確認する。終了後、ノートまとめを行い授業内容を復習する。
6	わが国の管理栄養士・栄養士制度	管理栄養士制度・栄養士制度の沿革や管理栄養士養成制度の変遷について理解する。	当日の授業内容を教科書で確認する。終了後、ノートまとめを行い授業内容を復習する。
7	健康づくり施策の経緯と意義	第1次国民健康づくり対策、第2次国民健康づくり対策(アクティブ80ヘルスプラン)	当日の授業内容を教科書で確認する。終了後、ノートまとめを行い授業内容を復習する。
8	健康増進基本方針と地方計画	健康づくり施策の歴史的変換を踏まえ、現行の施策の目的、対象、概要について解説する。 第1次国民健康づくり対策、健康フロンティア戦略等について理解する。	当日の授業内容を教科書で確認する。終了後、ノートまとめを行い授業内容を復習する。
9	健康日本21	健康づくり対策では、「健康日本21」における栄養・食生活分野以外の身体活動・運動、たばこ、アルコール、歯の健康について対策の概要について解説する。	当日の授業内容を教科書で確認する。終了後、ノートまとめを行い授業内容を復習する。
10	国民健康・栄養調査	わが国の健康づくり施策の基礎資料の一つである国民健康・栄養調査について、意義、目的、内容、方法について解説する。	当日の授業内容を教科書で確認する。終了後、ノートまとめを行い授業内容を復習する。

回	項目	授業内容		
11	国民健康・栄養調査	国民健康・栄養調査の結果に基づいて施策立案や評価の活用について解説する。	当日の授業内容を教科書で確認する。終了後、ノートまとめを行い授業内容を復習する。	30
12	実施に関連する指針、ツール	食生活指針や食事バランスガイド、運動指針の内容について解説する。	当日の授業内容を教科書で確認する。終了後、ノートまとめを行い授業内容を復習する。	30
13	諸外国の健康栄養政策	国際的な健康・栄養問題と開発途上国に対する国連の施策、先進国の政策について理解する。	当日の授業内容を教科書で確認する。終了後、ノートまとめを行い授業内容を復習する。	30
14	食事摂取基準	食事調査と食事摂取基準について解説し、評価方法を学ぶ。	当日の授業内容を教科書で確認する。終了後、ノートまとめを行い授業内容を復習する。	30
15	まとめ	まとめ	小テストの内容を教科書で確認する。終了後、ノートまとめを行い授業内容を復習する。	30

科目名	公衆栄養学実習		対象 単位数 必選	家政学部 食物栄養学科 3年 1単位 必修
担当教員	星 千歳, 根本 絢香			
開講期	前期			
授業概要	公衆栄養マネジメントの考え方・方法について解説し、地域特性に対応した公衆栄養プログラムの展開について学び、公衆栄養活動で求められる知識や技術を実習する。また、保健所に勤務した経験をもとに実際の現場での活動内容や課題について講義する。 実務経歴：福島県の職員（管理栄養士）として保健所と病院に勤務			
達成目標	国民の健康を推進するための栄養施策をもとに公衆栄養活動の健康事業を展開できる。			
受講資格	家政学部 食物栄養学科 3年	成績評価 方法	小テスト	40点
			提出物（ノート）	30点
			プレゼンテーション	30点
教科書	公衆栄養学実習～事例から学ぶ公衆栄養プログラムの展開～ 同文書院 手嶋哲子、田中久子			
参考書	サクセス管理栄養士講座・公衆栄養学 第一出版 井上浩一、草間かおる、村山伸子			
学生への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・受け身の姿勢ではなく、主体的・積極的に授業に臨むこと。 ・グループワークに積極的に参加すること。 ・授業中はしっかりとノートを取ること。ノートのまとめ方で成績評価を行うので、A4ノート（ルーズリーフは不可）を各自準備して他の人が見てわかりやすいように自分なりにまとめること。 ・食、栄養、公衆栄養の分野に関わる新聞記事を読み、収集すること。 			
オフィスタイム	木曜日16:10～17:00 金曜日16:10～17:00 研究室：62年館2階「食生活・栄養研究室」			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	30
1	公衆栄養学実習の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・公衆栄養学実習の目指すところを説明する。 ・公衆栄養学実習の意義について示し、本授業の15回の解説と評価方法について説明する。 ・グループ編成 	ノートまとめを行い授業内容の復習をする。
2	公衆栄養マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ・公衆栄養活動(PDCAサイクルに基づいた展開)について解説する。 	ノートまとめを行い授業内容の復習をする。
3	公衆栄養アセスメント	<ul style="list-style-type: none"> ・公衆栄養アセスメントのための情報源と情報収集について解説する。 ・テーマをきめて情報収集する。 	ノートまとめを行い授業内容の復習をする。
4	公衆栄養プログラムの目標設定	<ul style="list-style-type: none"> ・公衆栄養プログラムの目標設定について解説する。 ・地域診断を行い、目標設定をする。 	ノートまとめを行い授業内容の復習をする。
5	公衆栄養プログラムの計画、実施、評価	<ul style="list-style-type: none"> ・公衆栄養プログラムの計画、実施、評価について解説する。 ・事業評価ワークシートを作成する。 	ノートまとめを行い授業内容の復習をする。
6	公衆栄養に関わる社会情勢	<ul style="list-style-type: none"> ・食、栄養、公衆栄養の分野について新聞記事の収集 ・集めた記事から考えること、感想を記述し、新聞内容を要約し感想を発表する 	新聞記事の収集をする。ノートまとめを行い授業内容の復習をする。
7	公衆栄養の現状と問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・各ライフステージ（学童期・思春期・成人期・妊婦授乳期・高齢期）の「食と健康に関わる問題点」について理解し、改善点を考える。 	新聞記事の収集をする。ノートまとめを行い授業内容の復習をする。
8	公衆栄養の現状と問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・各ライフステージ（学童期・思春期・成人期・妊婦授乳期・高齢期）の「食と健康に関わる問題点」について理解し、改善点を考える。 	新聞記事の収集をする。ノートまとめを行い授業内容の復習をする。
9	公衆栄養の現状と問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣病ハイリスク集団の「食と健康に関わる問題点」について理解し、改善点を考える。 ・特定健康診査、特定保健指導について解説する。 ・実践演習を行う。 	新聞記事の収集をする。ノートまとめを行い授業内容の復習をする。
10	公衆栄養の現状と問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣病ハイリスク集団の「食と健康に関わる問題点」について理解し、改善点を考える。 ・特定健康診査、特定保健指導について解説する。 ・実践演習を行う。 	新聞記事の収集をする。ノートまとめを行い授業内容の復習をする。
11	公衆栄養プログラムの展開	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の方を対象に事業計画(PDCAサイクルの流れで行う)を作成する。 	新聞記事の収集をする。ノートまとめを行い授業内容の復習をする。

回	項目	授業内容	
12	公衆栄養プログラムの展開	・各自の事業計画をもとにグループで話し合い、題材を一つ選びパンフレットを作成する。	新聞記事の収集をする。ノートまとめを行い授業内容の復習をする。
13	公衆栄養プログラムの展開	・グループでパンフレットを作成する。 ・パンフレットを完成させる。	新聞記事の収集をする。ノートまとめを行い授業内容の復習をする。
14	公衆栄養プログラムの展開	・グループでパンフレットを作成する。 ・パンフレットを完成させる。	新聞記事の収集をする。ノートまとめを行い授業内容の復習をする。
15	公衆栄養プログラムの展開	・グループでパンフレットと同じ題材をもとにポスターを作成する。	新聞記事の収集をする。ノートまとめを行い授業内容の復習をする。
16	公衆栄養プログラムの展開	・グループでパンフレットと同じ題材をもとにポスターを作成する。	新聞記事の収集をする。ノートまとめを行い授業内容の復習をする。
17	公衆栄養プログラムの展開	・プレゼンテーションについて説明する。 ・グループでポスターを完成させる。 ・発表の準備とレジメの作成をする。	新聞記事の収集をする。ノートまとめを行い授業内容の復習をする。
18	公衆栄養プログラムの展開	・プレゼンテーションについて説明する。 ・グループでポスターを完成させる。 ・発表の準備とレジメの作成をする。	新聞記事の収集をする。ノートまとめを行い授業内容の復習をする。
19	発表会	・地域住民の方々を対象とした媒体作成の発表会(ポスター、パンフレット) ・各グループのテーマ、内容(見易さ・わかりやすさ)、発表時間などを総合し、各グループの感想をまとめる。	新聞記事の収集をする。ノートまとめを行い授業内容の復習をする。
20	発表会	・地域住民の方々を対象とした媒体作成の発表会(ポスター、パンフレット) ・各グループのテーマ、内容(見易さ・わかりやすさ)、発表時間などを総合し、各グループの感想をまとめる。	新聞記事の収集をする。ノートまとめを行い授業内容の復習をする。
21	国の栄養施策	・「健康日本21」の概要、項目、数値について解説する。 ・健康日本21報告からわかることをまとめる。 ・各都道府県の「健康日本21計画」について調べる(各自の出身地)	新聞記事の収集をする。ノートまとめを行い授業内容の復習をする。
22	国の栄養施策	・「健康日本21」の概要、項目、数値について解説する。 ・健康日本21報告からわかることをまとめる。 ・各都道府県の「健康日本21計画」について調べる(各自の出身地)	新聞記事の収集をする。ノートまとめを行い授業内容の復習をする。
23	国民健康・栄養調査	・国民健康・栄養調査の概要、要点について解説する。 ・国民健康・栄養調査結果から問題点を把握し改善点について考え、ノートにまとめる。	新聞記事の収集をする。ノートまとめを行い授業内容の復習をする。
24	国民健康・栄養調査	・国民健康・栄養調査の概要、要点について解説する。 ・国民健康・栄養調査結果から問題点を把握し改善点について考え、ノートにまとめる。	新聞記事の収集をする。ノートまとめを行い授業内容の復習をする。
25	栄養・食生活支援と食を通じた社会環境の整備(食環境)	・施策と食環境整備、食を通じた社会環境の整備の促進について解説する。 ・食環境整備に関する取り組みを調べ、ノートにまとめる。	新聞記事の収集をする。ノートまとめを行い授業内容の復習をする。
26	栄養・食生活支援と食を通じた社会環境の整備(食環境)	・施策と食環境整備、食を通じた社会環境の整備の促進について解説する。 ・食環境整備に関する取り組みを調べ、ノートにまとめる。	新聞記事の収集をする。ノートまとめを行い授業内容の復習をする。
27	栄養・食生活支援と食を通じた社会環境の整備(健康危機管理)	・災害時における栄養・食生活と管理栄養士の活動について解説する。 ・災害時における食生活支援について考え、ノートにまとめる。	新聞記事の収集をする。ノートまとめを行い授業内容の復習をする。
28	栄養・食生活支援と食を通じた社会環境の整備(健康危機管理)	・災害時における栄養・食生活と管理栄養士の活動について解説する。 ・災害時における食生活支援について考え、ノートにまとめる。	新聞記事の収集をする。ノートまとめを行い授業内容の復習をする。

回	項目	授業内容		
29	講義・総括	保健所・保健センター実習について説明する。 総括(公衆栄養学実習のまとめ)	新聞記事の収集をする。ノートまとめ を行い授業内容の復習をする。	30
30	講義・総括	保健所・保健センター実習について説明する。 総括(公衆栄養学実習のまとめ)	新聞記事の収集をする。ノートまとめ を行い授業内容の復習をする。	30

科目名	日本国憲法	対象 単位数 必選	短期大学部 健康栄養学科 1年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択
担当教員	鈴木 康元		
開講期	I		
授業概要	憲法の基本理念と人権の重要性について理解してもらいたい。 履修カルテ評価項目 ①近代的意味の憲法の意義、歴史的背景が理解できたか。 ②日本国憲法の成立における問題点が理解できたか。 ③人権の重要性と制限根拠について理解できたか。 実務経験：弁護士として、法律事務所長として勤務する経験を活かし、授業を行う。 実務経歴：弁護士として、法律事務所長として勤務。		
達成目標	憲法の基本理念と人権の重要性について理解してもらいたい。 履修カルテ評価項目 ①近代的意味の憲法の意義、歴史的背景が理解できたか。 ②日本国憲法の成立における問題点が理解できたか。 ③人権の重要性と制限根拠について理解できたか。		
受講資格	短大1年生	成績評価 方法	ペーパー試験(80%)と出席状況(20%)
教科書	憲法【第二版】 弘文堂		
参考書	特に指定しない		
学生への要望	憲法および法律一般につき興味をもって欲しい。		
オフィスタイム	水曜日 授業開始前：創学館2階教務部非常勤講師室 授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	憲法総論①	憲法を学ぶことの意義、重要性、近代的意味の憲法について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	30
2	憲法総論②	近代的意味の憲法の特徴、日本国憲法の歴史	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
3	憲法総論③	国民主権の意義、平和主義（憲法9条の解釈）について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
4	基本的人権①	人権の概念、およびその重要性について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
5	基本的人権②	日本国憲法の人権の内容、人権の享有主体について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
6	基本的人権③	人権の限界、私人間における人権	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
7	基本的人権④	包括的基本権（特にプライバシーの権利を中心に）法の下での平等の意義	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
8	基本的人権⑤	内心の自由（特に信教の自由を中心に）につき判例をあげながら教える	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
9	基本的人権⑥	表現の自由の意義とその優越性について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
10	基本的人権⑦	経済的自由権	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
11	基本的人権⑧	財産権	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
12	基本的人権⑨	その他の人権について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
13	統治機構①	国会	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
14	統治機構②	内閣	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
15	統治機構③	裁判所	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

科目名	社会科学（経済）		対象 単位数 必選	短期大学部 健康栄養学科 1年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択
担当教員	長谷川 貴弘			
開講期	Ⅱ			
授業概要	<p>本授業の目的は、生活と密接にかかわる経済の基礎知識の習得と経済学的視点の確立である。不景気・デフレーション・円高・円安・インフレーション・消費生活・生活経済等、普段からニュースや新聞で取り上げられるが、これらの経済的事象は私達の生活と密接にかかわっている。これら経済的事象を経済学的視点で見る目を養うことを本授業の目的としたい。</p> <p>なお、在北京日本国大使館経済部での勤務経験を活かし、授業の中で経済統計の見方、マクロ経済の理論と実際について採り上げていく。</p> <p>○実務経歴 在北京日本国大使館経済部専門調査員として主に中国経済の分析に従事。</p>			
達成目標	経済的事象を経済学的視点で見る目を養うとともに、公務員試験の経済学の問題にも対応できる力を養うことを到達目標とする。			
受講資格	短期大学部 健康栄養学科、幼児教育学科、音楽科 1年生	成績評価 方法	①小テスト30点（15点×2回） ②課題（レポート）70点	
教科書	プリントを配布する。			
参考書	伊藤元重「はじめての経済学（上）（下）」日経文庫、他必要に応じ授業の中で紹介する。			
学生への要望	普段からニュースや新聞で取り上げられる経済関連の問題について関心を持つようにすること。			
オフィスタイト	火曜日 2コマ 水曜日4コマ 経営管理学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	ガイダンス・経済学とは何か①	授業の進め方、評価方法について解説する。 経済学とは何かを説明する第一の例としてインフレーションとデフレーションを取り上げ、両者が私達の生活に与える影響について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
2	経済学とは何か②	第二の例として円安と円高を取り上げ、両者が私達の生活にどのような影響を与えるのかについて学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
3	経済学とは何か③	経済学をめぐる行われてきた政策論争（自由貿易vs保護貿易）について学修することを通じて経済学への理解を深める。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
4	消費生活と経済①	消費と消費者の概念について、消費者の権利と責任について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
5	消費生活と経済②	様々な消費者問題とクーリングオフについて学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
6	消費生活と経済③	グリーンコンシューマーとフェアトレードの概念について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
7	消費生活と経済④	消費生活と経済について総まとめ。 小テスト1回目	これまでの学修内容をノート・プリントを通じて復習し、小テストに備えること。	30
8	生活と経済－エンゲルの法則と家計調査①	世界と日本の家計研究の歴史について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
9	生活と経済－エンゲルの法則と家計調査②	エンゲルの法則とエンゲル係数の概念について学修する。	これまでの学修内容をノート・プリントを通じて復習しておくこと。	30
10	生活と経済－エンゲルの法則と家計調査③	近年のエンゲル係数の動向について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
11	マクロ経済学の基本と日本経済①	マクロ経済学（Macro Economics）が分析の対象とするGDP（国内総生産）の計算方法とその意味する点について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
12	マクロ経済学の基本と日本経済②	日本と世界のGDPのデータを通じて、それが意味するものについて学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。併せてレポートを作成すること。	60
13	地域経済～郡山市の経済について①	地域経済とは何かを解説した上で、私達が住んでいる郡山市の経済とその特徴について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。併せてレポートを作成すること。	60
14	地域経済～郡山市の経済について②	郡山市の経済とその特徴について学修する（前回の続き）。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。併せてレポートを作成すること。	60
15	まとめ	これまでの学修内容を確認する。 小テスト（2回目）	これまでの学修内容をノート・プリントを通じて復習し、小テストに備えること。	60

科目名	スポーツ実技	対象 単位数 必選	短期大学部 健康栄養学科 1年 1単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 1単位 選択
担当教員	佐藤 浩明		
開講期	I		
授業概要	<p>生活の基盤となる『健康なからだづくり』に欠かすことのできない運動の重要性や楽しさを理解し、生涯にわたって自分の健康や体力について配慮ができ、それらを保持増進していくために必要となる知識や方法について実技を通して学びます。また久光製菓スプリングス女子プロバレーボールチーム、オランダナショナル女子バレーボールチームの監督、コーチ実務経験を活かしコミュニケーションや協調性を指導します。</p> <p>①運動の重要性を理解し、健康との関連について学びます。 ②運動を通して、協調性、コミュニケーション能力、フェアプレーの精神について学びます。 ③運動を通して基礎体力の維持、向上する方法について学びます。 ≪第1回～10回、佐藤担当≫≪第11～15回 富本、高橋担当≫</p>		
達成目標	健康的な生活に欠かすことのできない運動の方法や効果、自ら健康について考え行動できる力を習得する。スポーツ種目に必要な技術を習得すると共にコミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知り人間力を身に付ける		
受講資格	健康栄養学科 1年生	成績評価 方法	取組姿勢40点 実技試験60点 ※本科目は実技科目のため出席、積極的な取組みを重視します)
教科書	特になし（必要に応じて資料等配布します）		
参考書	「健康・フィットネスと生涯スポーツ：大修館書店」「公認スポーツ指導者養成テキストⅠ・Ⅱ・Ⅲ：(財)日本体育協会」「スポーツトレーニング理論：日本文芸社」「ストレッチメソッド：高橋書店」		
学生への要望	自分の生活習慣に興味、関心を持ち、運動する習慣をつけてほしい。 【授業中】積極的に取組み、運動を楽しむこと。タオル、水分は各自で必ず持参すること。（体調管理および熱中症対策）		
オフィスタイム	火、水、木の9:00～16:00まで 創学館N04研究室 佐藤		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	ガイダンス	①授業目的、内容、進め方、評価方法の説明 ②服装、準備物の確認（注意事項含む） ③グループ分け	30
2	縄跳び①/からだづくりの運動	<p>【テーマ：運動習慣をつける第一歩として、コミュニケーションゲームやレクリエーションで楽しくからだを動かす】</p> <p>【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②コミュニケーションゲーム・体ほぐしの運動 ③レクリエーションゲーム ④からだづくりの運動 ⑤縄跳び（個人およびグループ） ⑥クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	30
3	縄跳び②/からだづくりの運動	<p>【テーマ：楽しくからだを動かしながらコーディネーショントレーニングで、からだの調整力を養う】</p> <p>【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②コーディネーショントレーニング ③レクリエーションゲーム ④からだづくりの運動 ⑤縄跳び（個人およびグループ） ⑥クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	30

回	項目	授業内容	
4	縄跳び③/からだづくりの運動	<p>【テーマ：楽しくからだを動かしながらコーディネーショントレーニングで、からだの調整力を養う】</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②コーディネーショントレーニング ③レクリエーションゲーム ④からだづくりの運動 ⑤縄跳び（個人およびグループ） ⑥クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	<p>ストレッチ、準備運動を行う。タオル、水分を準備する</p> <p>30</p>
5	フライングディスク④/からだづくりの運動	<p>【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④フライングディスク（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	<p>ストレッチ、準備運動を行う。タオル、水分を準備する</p> <p>30</p>
6	フライングディスク④/からだづくりの運動	<p>【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④フライングディスク（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	<p>ストレッチ、準備運動を行う。タオル、水分を準備する</p> <p>30</p>
7	フライングディスク④/からだづくりの運動	<p>【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④フライングディスク（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	<p>ストレッチ、準備運動を行う。タオル、水分を準備する</p> <p>30</p>

回	項目	授業内容	
8	フライングディスク④／からだづくりの運動	<p>【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】</p> <p>【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④フライングディスク（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	<p>ストレッチ、準備運動を行う。タオル、水分を準備する</p> <p>30</p>
9	フライングディスク④／からだづくりの運動	<p>【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】</p> <p>【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④フライングディスク（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	<p>ストレッチ、準備運動を行う。タオル、水分を準備する</p> <p>30</p>
10	ソフトバレーボール⑤／からだづくりの運動	<p>【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーションを発揮し楽しみながらグループで行う】</p> <p>【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④ソフトバレーボール（パス・レーシーブ・アタック・ミニゲーム） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	<p>ストレッチ、準備運動を行う。タオル、水分を準備する</p> <p>30</p>
11	ソフトバレーボール⑤／からだづくりの運動	<p>【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーションを発揮し楽しみながらグループで行う】</p> <p>【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④ソフトバレーボール（パス・レーシーブ・アタック・ミニゲーム） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	<p>ストレッチ、準備運動を行う。タオル、水分を準備する</p> <p>30</p>

回	項目	授業内容	
12	ソフトバレーボール⑤／からだづくりの運動	<p>【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】</p> <p>【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④ソフトバレーボール（パス・レーシーブ・アタック・ミニゲーム） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	<p>ストレッチ、準備運動を行う。タオル、水分を準備する</p> <p>30</p>
13	ソフトバレーボール⑤／からだづくりの運動	<p>【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】</p> <p>【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④ソフトバレーボール（パス・レーシーブ・アタック・ミニゲーム） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	<p>ストレッチ、準備運動を行う。タオル、水分を準備する</p> <p>30</p>
14	ソフトバレーボール⑤／からだづくりの運動	<p>【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】</p> <p>【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④ソフトバレーボール（パス・レーシーブ・アタック・ミニゲーム） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	<p>ストレッチ、準備運動を行う。タオル、水分を準備する</p> <p>30</p>
15	実技のまとめ	<p>≪まとめとして実技試験を行う≫</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②レクリエーションゲーム ③実技試験 ④クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑤体育館清掃</p>	<p>ストレッチ、準備運動を行う。タオル、水分を準備する</p> <p>30</p>

科目名	健康スポーツ論	対象 単位数 必選	短期大学部 健康栄養学科 1年 1単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 1単位 選択	
担当教員	佐藤 浩明			
開講期	Ⅱ			
授業概要	健康的な生活に欠かすことのできない運動の方法や効果、スポーツの意義、特性を理解し、生涯にわたって自ら健康について考え行動できる力を習得する。また久光製薬スプリングス女子プロバレーボールチーム、オランダナショナル女子バレーボールチームの監督、コーチ実務経験を活かしコミュニケーションや協調性を指導します。 ①運動と健康の関連を理解し、エクササイズの方法や身体についての基礎知識を学びます。 ②スポーツの意義を理解し、自分の健康や行動のありかたについて学びます。			
達成目標	健康的な生活に欠かすことのできない運動の方法や効果、自ら健康について考え行動できる力を習得する。スポーツ種目に必要な技術を習得すると共にコミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知り人間力を身に付ける			
受講資格	幼児教育学科 1年生 ※教職課程履修者は必修	成績評価 方法	レポート60点 平常点 40点（取組姿勢・提出物）	
教科書	特になし（必要に応じて資料、課題を配布します）			
参考書	「健康・フィットネスと生涯スポーツ：大修館書店」「スポーツトレーニング理論：日本文芸社」「メンタルトレーニング：ベースボールマガジン社」「教養としてのスポーツ科学：大修館書店」			
学生への要望	自分の生活習慣に興味、関心を持ち、運動する習慣をつけてほしい。			
オフィスタイム	火・水・木の9:00～16:00まで創学館N04研究室（佐藤）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
1	オリンピックについて	オリンピックの歴史と現状やオリンピズム、オリンピック憲章について学び、スポーツが持つ魅力について学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
2	生活と健康について①	《健康とは何か》 健康について考える導入として「健康の定義」をWHO（世界保健機関）の憲章をふまえた様々な角度から学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
3	生活と健康について②	《生活習慣病の原因・対策・予防と運動》 ①生活習慣病の原因と予防、対策について理解し運動との関係について学びます。 ②運動・休養と健康の関係について学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
4	生活と健康について③	《大学生の健康》 大学生の生活に潜む健康を害する危険について理解し、セルフライフマネジメントについて学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
5	生活とスポーツについて①	《スポーツとは何か》 スポーツの意味を理解し、スポーツの社会的価値とスポーツに期待されることについて学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
6	生活とスポーツについて②	《生涯スポーツについて》 生涯スポーツに関わることが自分の健康や生涯の楽しみにどう影響するのか、①行う ②観る ③支える ④調べるの視点から学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
7	生活とスポーツについて③	《大学生とスポーツ》 大学生になり、高等学校まで必修で行われてきた体育の授業は著しく減少します。その中で自分の健康について興味を持ち、運動やスポーツについてどう関わることができるかについて学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
8	スポーツから学ぶ①	《フェアプレーについて》 スポーツは定められたルールの中で勝敗を競い合うものです。それは日常生活や普段の行動にも通じるものがあります。ここではスポーツの中からフェアプレーについて学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30

科目名	キャリアデザインⅡ	対象 単位数 必選	短期大学部 健康栄養学科 1年 1単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 1単位 選択
担当教員	森 みい		
開講期	I		
授業概要	<p>【授業のねらい】 将来の社会生活や職業生活に向けて、自らの資質を向上させ、社会的職業的自立を図るために必要な能力を培い、幅広い人間形成を図ることを目的としています。社会人としての自覚と行動を視野に入れて、主体的にキャリア形成能力を育成します。働くことの実態、意義、面白みを体感していきます。インターンシップを推進して、学生の自己認識、社会・職業認識の深化を促し、就職意欲のある学生に対して、豊富かつ適切な就職情報を提供するとともに希望に添った就職活動が行えるよう支援します。</p> <p>【授業の概要】 インターンシップ（就業体験）を通じ、自らの専門や将来希望する職業の関連した職場での体験で、学んでいる内容と社会との関連性を認識し、今後の主体的な学修への動機付けを強め、職業を具体的に理解することで仕事の奥深さを実感していきます。働くことについて総合的に理解や仕事をする達成感、充実感、社会貢献を体得します。前期7回の講義、夏休み期間中のインターンシップ（5日間）、および、受け入れ企業のご担当者を招いた報告会から構成されています。インターンシップ終了後報告書を作成することで成果と課題を理解します。担当者は、大学・短大の就職部長であり、キャリアコンサルタントの資格を有し、長く就職指導にあたっています。</p>		
達成目標	<p>【授業終了時の達成目標】 インターンシップを通して、社会人として必要な能力と知識を学び、今後の学生生活の中に活かしていくことで、新たな学習意欲の契機となることを目標とします。仕事の奥深さを実感し、働くことへの理解、責任の重さや成し遂げる充実感や社会への貢献を感じ取る事を目的とします。担当者は、大学・短大の就職部長であり、キャリアコンサルタントの資格を有し、長く就職指導にあたっています。</p>		
受講資格	特になし	成績評価 方法	就業体験50%・授業参加30%・報告会10%・提出物10% 「認」評価判定
教科書	なし		
参考書	なし		
学生への要望	インターンシップは自分の変化や成長を実感できる機会です。広い視野を持ち、各個人のキャリアを考えて、新たな挑戦で自らの可能性の枠を広げてみてはどうでしょう。		
オフィスタイム	月曜日 9:00～12:30 水曜日 9:00～12:30 事前にご相談いただければそれ以外でも対応します。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	インターンシップの概要 4/18 (Vコマ)	インターンシップの概要説明で理解を深める、インターンシップの目的の明確化。各業界の今後の発展方向をみる。就業体験先の希望調査。「インターンシップ希望調査票」「志望理由」の提出をする。インター	0
2	インターンシップの心構え 5/16 (Vコマ)	インターンシップの取り組みを動画を見て、ワークを実施しながらインターンシップの考えを深化させていく。(ムビケーションの実施)	0
3	企業研究 (講演) 5/30 (Vコマ)	身近な若き経営者の講演を実施する。社会と協働する中で、自立した個人として人生をどういきるかを考えながら、人間力や就業観の醸成及び学習意欲を高めていく。	0
4	事前指導 (ビジネス文書作成) 6/27 (Vコマ)	メールと封書でのお礼状の書き方を理解して実践する。また電話やメールのアポイントのとり方を学ぶ。また、就業体験先の決定をする。	0
5	事前指導 (マナー講座) 7/11 (Vコマ)	マナー講座実施を通して、言葉遣い、立ち居振る舞い、挨拶等、円滑な人間関係を築くための基礎を身に付ける。 就業体験先の打合せをする。	0
6	直前指導 (インターンシップ先の企業研究)7/25 (Vコマ)	業界・企業知識やインターンシップ(就業体験)の基本知識を学び、企業研究を深める。先輩の体験からインターンシップ直前の留意点を確認する。	0
7	インターンシップ(就業体験) 1班 8/19～8/23・2班8/26～8/30	各企業において、夏季休業中(8月中旬～下旬)に5日間のインターンシップ(就業体験)を行います。	0
8	インターンシップ報告会 9/5 (Iコマ)	事後報告会として、企業の方をお招きして報告会を実施する。	0
9	インターンシップ報告会 9/5 (IIコマ)	事後報告会として、企業の方をお招きして報告会を実施する。実習日誌を提出する。	0

科目名	病理学		対象 単位数 必選	短期大学部 健康栄養学科 2年 2単位 必修
担当教員	大西 弘太郎			
開講期	Ⅲ			
授業概要	<p>[講義のねらい] 疾患の原因と病態について理解をする。疾患の本質についての科学的根拠を蓄積し、今後の医療に活かす。</p> <p>[講義全体の内容の概要] 病理学の総論では、病因、退行性・進行性病変、代謝異常、免疫異常、感染、老化、放射線障害、腫瘍、先天性異常などを学ぶ。各論では、各系統や器官の主要な疾患の病態を学ぶ。</p> <p>実務経歴：医療法人・南労会、社会医療法人・西陣健康会、医療法人・郡山病院などでの実務経験をもとに講義を行う。実務経験：医師として医療機関に勤務している。</p>			
達成目標	主要な疾患、特に食事や栄養に関連する病態を概説できる。			
受講資格	本学に在籍して、高等教育を積極的に学修する意欲があること。	成績評価 方法	小テスト (20%) 筆記試験 (80%)	
教科書	シンプル病理学 (笹野公伸、岡田保典、安井弥：南江堂)			
参考書	NEWエッセンシャル病理学			
学生への要望	病気の原因と病態について日常的に興味を持つようにすること。			
オフィスタイム	臨床医学研究室 木曜日 08:30~12:00、15:00~17:00。 金曜日 08:30~12:00。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	120
1	病理学総論、病因	病因とは病気の原因や成立ちをいい、外因と内因とがある。外因には生物・物理・化学的因子、栄養学的因子など、内因には代謝・遺伝子・免疫の異常、年齢などがある。	病理学総論、病因などについて予習・復習をしましょう。
2	細胞障害と細胞増殖	細胞の正常な形態や機能、増殖、細胞死を基本知識として、細胞障害による変性、遺伝子障害による疾病の成因と遺伝子修復について学ぶ。	細胞障害、細胞死、細胞増殖などについて予習・復習をしましょう。
3	組織、細胞の修復と再生	組織と細胞の再生とその機序を学び、再生の過剰、化生、治癒の様式、異物処理、器質化などを理解する。	再生、化生、過形成、肥大などについて予習・復習をしましょう。
4	循環障害	局所循環障害のうっ血、虚血、血栓、出血、梗塞などを学び、心不全、ショック、浮腫などの全身性循環障害の病態生理を理解する。	循環障害について予習・復習をしましょう。
5	炎症	炎症の定義と徴候を学び、その原因や炎症細胞、組織変化、組織修復機構を理解する。	炎症について予習・復習をしましょう。
6	感染症	病気の原因となる病原体の種類を学び、代表的な感染症の特徴を知る。病原体の感染形態に対する生体防御反応を学び、感染防御対策を考える。	感染症について予習・復習をしましょう。
7	免疫機構の異常	生体防御機構の主役である免疫機構を学び、その異常である免疫疾患を理解する。	主な免疫不全、アレルギー、膠原病などについて予習・復習をしましょう。
8	腫瘍	腫瘍の概念と病理形態学的特徴を学び、腫瘍の発生と進展、良性と悪性の鑑別、病理診断、疫学などを学ぶ。	腫瘍について予習・復習をしましょう。
9	遺伝と先天異常	染色体・遺伝子の構造を学び、その異常による発症の原理を理解する。代表的な染色体異常症や遺伝性疾患について学ぶ。	主な染色体異常、遺伝性疾患などについて予習・復習をしましょう。
10	代謝異常	代謝異常が主たる病因ではその病態変化を学ぶ。主要な代謝異常症について説明できるようにする。	主な代謝異常について予習・復習をしましょう。
11	老化	生命の終末に向けて老化が進む。この老化の特徴とメカニズムを学び、細胞・組織・器官の変化を理解する。	老化について予習・復習をしましょう。
12	循環器・造血系・運動器の病理	心臓、血管、骨、筋、骨髄、関節などの主要な病気の病態を学ぶ。	循環器、造血系、運動器などの主要な疾患について予習・復習をしましょう。
13	消化器の病理	口腔、消化管、唾液腺、肝臓、胆道系、膵臓などの主要な病気の病態を学ぶ。	消化器の主要な疾患について予習・復習をしましょう。
14	呼吸器・泌尿器・生殖器の病理	気道や肺、腎臓や膀胱、性腺や子宮などの主要な病気の病態を学ぶ。	呼吸器、泌尿器、生殖器の主要な疾患について予習・復習をしましょう。
15	神経系・内分泌系・感覚器の病理	脳、脊髄、神経、下垂体、甲状腺、副腎、膵臓、眼、皮膚等の主要な病気の病態を学ぶ。	神経系、内分泌、感覚器などの主要な疾患について予習・復習をしましょう。

科目名	食品学 I	対象 単位数 必選	短期大学部 健康栄養学科 1年 2単位 必修
担当教員	澤渡 優喜		
開講期	II		
授業概要	<p>〔授業の目的・ねらい〕 栄養士又はフードスペシャリストとして、食品成分、食品の物性、官能評価、健康食品の制度・表示及び食品成分表を理解してもらうことを本授業の目的としています。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕 食品学 I では食品関連科目の基礎となる内容を学んでいきます。まず、食品の概要について学んだ後に、食品の水分、炭水化物、脂質、タンパク質、ビタミン、無機質及び核酸について学んでいきます。また、食品の味、香り、色成分及び食品成分間の相互作用について、さらに、食品の物性、官能評価、健康食品の制度・表示及び食品成分表について学んでいきます。</p> <p>〔実務経験に関連する内容〕 食品企業で乳酸菌を利用した商品の研究開発を行っていました。食品企業での経験をもとに、食品成分などについて講義をします。</p>		
達成目標	<p>〔達成目標（授業終了時の達成課題）〕 食品成分、食品の物性、官能評価、健康食品の制度・表示及び食品成分表について理解をしているだけでなく、他者に説明でき、さらには課題解決に応用できる状態になっていることを本授業の達成目標とします。</p>		
受講資格	特になし。	成績評価 方法	確認問題：40点、期末試験：60点とし、60点以上の得点で単位を認定します。
教科書	〈はじめて学ぶ〉健康・栄養系教科書シリーズ③ 食べ物と健康 I 第2版 食品成分を理解するための基礎（本体2,000円＋税）		
参考書	なし		
学生への要望	身近な食品についての授業です。興味をもって受講して下さい。また、食事を摂るときやスーパーマーケットなどに行ったときには、ぜひ、食品学 I の内容を思い出して下さい。普段何気なく見ている食品の見え方が変わります。		
オフィスタイム	火曜日 16:10～17:05 No.2 食品衛生学研究室 木曜日 16:10～17:05 No.2 食品衛生学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	人と食べ物	食品とは何かを理解した後に、食に関する歴史、食品の成分、食に関する問題及び食品の分類について学んでいきます。	p1～14をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。
2	食品成分を理解するための化学	次回以降の授業で学ぶ食品の成分や化学的な食品の性質を理解するために、必要不可欠な化学について学んでいきます。	p17～25をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。
3	食品成分① 水分	食品中の水分は食品の保存性、調理加工及び食味などに関与しています。この水の特性を学んだ後に、水分活性や低温保存について学んでいきます。	p27～33をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。
4	食品成分② 炭水化物 (1)	炭水化物の役割として、エネルギー源、味の成分、物性・保水性への影響及び生理作用についてを学んでいきます。また、炭水化物の種類として単糖、誘導糖及びオリゴ糖について学んでいきます。	p33～41をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。
5	食品成分② 炭水化物 (2)	炭水化物の種類として多糖について学んでいきます。また、食物繊維やその他の炭水化物、デンプンの食品化学的特徴及び炭水化物の栄養について学んでいきます。	p41～50をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。
6	食品成分③ 脂質	脂質の構成成分である脂肪酸について学んだ後に、脂質の種類として単脂質、複合脂質及びステロールについて学んでいきます。また、油脂の性質の指標、油脂の酸化及び油脂の栄養について学んでいきます。	p50～64をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。
7	食品成分④ タンパク質	タンパク質の構成成分であるアミノ酸について学んだ後に、タンパク質の構造、分類、変性などの変化、栄養及び酵素について学んでいきます。等電点沈殿、塩析、アミノ酸スコア	p64～74をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。
8	食品成分⑤ ビタミン、無機質、核酸	ビタミンについては種類、機能及び安定性を、無機質については種類及び機能を、核酸については構造、うま味との関係及び魚類の鮮度判定について学んでいきます。	p75～89をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。
9	食品の味と香り成分	食品のおいしさに関係する味と香りの成分について学んでいきます。	p93～102をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。
10	食品の色成分	食品のおいしさに関係する色の成分について学んでいきます。	p102～109をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。

回	項目	授業内容	
11	食品成分間の相互作用	食品成分間の相互作用として、炭水化物と脂質の相互作用、脂質とタンパク質の相互作用、褐変及び酵素による成分変化について学んでいきます。	p111~118をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。
12	食品の物性とおいしさ	食品の物性に関連する項目としてコロイドの科学、レオロジー及びテクスチャーについて学んでいきます。	p119~129をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。
13	食品の官能評価	食品のおいしさを評価する方法である官能評価について学んでいきます。	p131~138をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。
14	食品の機能性と健康食品	食品の三つの機能を学んでいきます。また、健康食品に関する制度や表示について学んでいきます。	p139~149をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。
15	食品成分表	食品成分表の使用目的、数値・表記の意味、成分値の算出方法について学んでいきます。	p153~163をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。

科目名	食品学Ⅱ	対象 単位数 必選	短期大学部 健康栄養学科 2年 2単位 必修
担当教員	澤渡 優喜		
開講期	Ⅲ		
授業概要	<p>〔授業の目的・ねらい〕 調理や食品加工をするためには食品の特性を知る必要があります。本講義では食品の特性やその加工品について解説します。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕 植物性食品、動物性食品についてそれらの特性や代表的な加工品について解説します。更に、食品の保存方法と規格基準についても解説します。</p> <p>〔実務経験に関する内容〕 食品企業で乳酸菌を利用した商品の研究開発を行っていました。特に食品の加工については、食品企業での経験をもとに講義します。</p>		
達成目標	<p>〔達成目標（授業終了時の達成課題）〕 代表的な食品の特性や加工食品の加工方法について専門的な知識が身につくこと、調理に応用したり他者に説明をしたりできるようになっていることを本授業の達成目標とします。</p>		
受講資格	短期大学部 健康栄養学科 2年	成績評価 方法	確認問題40点、定期試験60点とし、計60点以上で単位を認定します。
教科書	<初めて学ぶ>健康・栄養系教科書シリーズ④ 食べ物と健康Ⅱ 第2版 知っておきたい食品素材と加工の基礎（㈱化学同人）（本体2,100円＋税）		
参考書	なし。		
学生への要望	食品学Ⅰで習った食品成分名を復習しておいて下さい。食品学Ⅱでも食品成分名は頻繁に出てきます。食品学Ⅱでは私たちが普段食べている食品の勉強をします。この食品はどのように製造されているのかなど、食品に興味を持って受講して下さい。		
オフィスタイム	水曜日 16:10～17:05 No.2 食品衛生学研究室 金曜日 16:10～17:05 No.2 食品衛生学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	穀類とその加工品	米、小麦、大麦、トウモロコシ、ソバ及びその他の穀類について解説します。穀類の種類、特性及び加工品について理解をして下さい。	p1～14をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。
2	イモ類及び種実類とそれらの加工品	ジャガイモ、サツマイモ、サトイモ、ヤマイモ及びその他のイモ類、クリ、ギンナン、アーモンド、落花生、ゴマ及びその他の種実類について解説します。イモ類と種実類の種類、特性及び加工品について理解をして下さい。	p15～23をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。
3	豆類とその加工品	大豆、小豆、インゲンマメ、エンドウ及びその他の豆類について解説します。豆類の種類、特性及び加工品について理解をして下さい。	p24～34をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。
4	野菜類とその加工品	葉菜類、茎菜類、根菜類、果菜類、花菜類、未熟豆及び山菜類について解説します。野菜類の種類、特性及び加工品について理解をして下さい。	p35～48をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。
5	果実類とその加工品	仁果類、核果類、準仁果類、しょう果類、堅果類及びその他の果実類について解説します。果実類の種類、特性及び加工品について理解をして下さい。	p49～57をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。
6	キノコ類とその加工品	シイタケ、エノキタケ、シメジ、マッシュルーム、ナメコ、マイタケ、エリンギ、マツタケ、キクラゲ、トリュフ及びその他のキノコ類について解説します。キノコ類の種類、特性及び加工品について理解をして下さい。	p58～61をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。
7	藻類とその加工品	緑藻類、褐藻類及び紅藻類について解説します。藻類の種類、特性及び加工品について理解をして下さい。	p62～65をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。
8	魚介類とその加工品	魚類、甲殻類及び軟体動物、魚介類の成分、筋肉構造、死後硬直、鮮度判定及び魚介類の加工品について解説します。魚介類の種類、特性及び加工品について理解をして下さい。	p66～86をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。
9	肉類とその加工品	食肉の種類、成分、筋肉構造、死後硬直及び加工品について解説します。食肉の種類、特性及び加工品について理解をして下さい。	p87～98をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。
10	卵類とその加工品	卵の種類、構造、成分及び加工品について解説します。卵類の種類、特性及び加工品について理解をして下さい。	p99～109をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。
11	乳類とその加工品	乳の成分及び加工品について解説します。乳の特性及び乳製品について理解をして下さい。	p110～121をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。

回	項目	授業内容	
12	食用油脂、調味料	植物油脂、動物油脂、食用加工油脂、食塩、甘味料、発酵調味料、うま味調味料及び風味調味料について解説します。食用油脂と調味料の種類、特性及び加工方法について理解をして下さい。	p123~138をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。
13	香辛料、嗜好品	香辛料及び嗜好品について解説します。香辛料と嗜好品の種類及び特徴について理解をして下さい。	p138~150をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。
14	食品の保存	食品の保存性に関わる、水分活性、pH、温度及び殺菌について解説します。食品の保存性を高める方法について理解をして下さい。	p151~153をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。
15	食品の規格	食品の規格・表示、保健機能食品、特定用途食品及び機能性表示食品について解説します。食品の規格・表示について理解をして下さい。	p153~168をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。

科目名	食品衛生学	対象 単位数 必選	短期大学部 健康栄養学科 1年 2単位 必修
担当教員	澤渡 優喜		
開講期	II		
授業概要	<p>〔授業の目的・ねらい〕 栄養士又はフードスペシャリストとして、安全な食品とはどのようなものか？どのように食の安全性が担保されているのかを理解してもらうことを本授業の目的としています。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕 食品衛生と法規、食品の変質、食中毒、経口感染症・寄生虫、食品中の汚染・有害物質、食品添加物、食品の衛生管理及び食品の安全性問題、食品の容器包装について解説します。</p> <p>〔実務経験に関する内容〕 食品企業で乳酸菌を利用した商品の研究開発を行っていました。食品企業での経験をもとに、安全な食品について講義をします。</p>		
達成目標	<p>〔達成目標（授業終了時の達成課題）〕 栄養士又はフードスペシャリストとして、普段食べている食品の安全性がどのように担保されているのかを理解しており、また、自ら調理をする場合、食中毒を防ぐためにはどのような点に注意すべきかを理解していることを本授業の達成目標とします。</p>		
受講資格	短期大学部 健康栄養学科 1年	成績評価 方法	確認問題：40点、期末試験：60点とし、60点以上の得点で単位を認定します。
教科書	<はじめて学ぶ>健康・栄養系教科書シリーズ⑪ 食品衛生学 食の安全性を理解するために（本体2,000円＋税）		
参考書	なし。		
学生への要望	食の安全は私たちにとってとても身近な事柄です。ニュースなどで報道される食の安全に関する問題に興味を持ち、積極的に授業に参加して下さい。		
オフィスタイム	火曜日 16:10～17:05 No.2 食品衛生学研究室 木曜日 16:10～17:05 No.2 食品衛生学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
1	食品衛生と法規	食品衛生とは何か？について述べた後に食品衛生行政について概説します。食品衛生に関わる体制や法律などを理解して下さい。	p1～14をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60
2	食品と微生物	私たちの肉眼では見えないほど小さな生物を微生物と言います。この微生物は私たちの周囲に存在し有用な微生物もいれば有害な微生物もいます。多くの場合、私たちが食べる食品にも微生物が存在します。本講義では食品に関係する微生物の特徴について解説します。各微生物の特徴や微生物の増殖条件などを理解して下さい。	事前に配布するプリントを読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60
3	食品の変質	食品の変質には微生物学的な変質（腐敗など）と化学的な変質があります。本講義では食品の変質、鮮度判定、変質の防止方法について解説します。変質の種類、判定方法及び防止方法を理解して下さい。	p17～28をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60
4	食中毒の概要	食中毒の定義、分類及び発生状況について解説します。食中毒の種類や発生状況の特徴を理解して下さい。	p29～38をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60
5	微生物性食中毒①	サルモネラやノロウイルス等の微生物が原因となる食中毒について、原因微生物の特徴、主な原因食品、症状及び予防策などについて解説します。原因微生物の種類、原因食品、症状及び予防策を理解して下さい。	p38～47をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60
6	微生物性食中毒②	同上。	p47～58をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60
7	化学性食中毒と自然毒食中毒	化学物質の混入や食品の変質で発生する化学物質が原因となる化学性食中毒及びフグ毒や毒キノコ等の自然毒食中毒について解説します。食中毒の原因物質名や食中毒の発生原因を理解して下さい。	p58～71をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60
8	食中毒の予防と消毒・殺菌・滅菌 経口感染症・人畜共通感染症	食中毒予防の基本的な考え方及び微生物の消毒・殺菌・滅菌方法について解説します。食中毒予防法と消毒・殺菌・滅菌の実際の手段を理解して下さい。 主な経口感染症と人畜共通感染症について解説します。原因微生物の種類、感染源及び症状を理解して下さい。	p71～74をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。 p77～80、p87～88をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60

回	項目	授業内容	
9	寄生虫症	食品の種類によっては、寄生虫に注意をしなければいけません。魚介類、畜肉類、野菜・果実類・水などから感染の恐れのある寄生虫について解説します。特に、寄生虫の種類と原因食品を理解して下さい。	p80～87をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。
10	食品中の汚染・有害物質	食品に関連する有害物質として、カビ毒、化学物質、内分泌攪乱物質、有害金属、放射性物質、加熱調理で生成する有害成分及び食物アレルギーについて解説します。各有害物質の名前と特徴を理解して下さい。	p91～105をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。
11	食品添加物（1）（総論）	食品添加物の役割、安全性、使用基準及び表示について解説します。食品添加物の使用基準の決定方法の理解は必須ですが、表示のルールも複雑なので正しく理解をするようにして下さい。	p107～111、p119～124をよく読んで授業に参加して下さい。確認問題を使って復習をして下さい。
12	食品添加物（2）（各論）	食品添加物（1）に続き、各食品添加物の機能や特徴などについて解説します。食品添加物の使用目的を理解して下さい。	p111～118、p124～125をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。
13	食品衛生管理	食中毒を発生させないためには、どのようなことに注意をして調理や食品加工をすべきか？本講義では、食品取扱施設や家庭等での一般的な衛生管理の考え方について解説します。更に、HACCPについても解説します。食中毒を防止するための考え方を理解して下さい。	p127～135をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。
14	食品の安全性問題	遺伝子組換え食品、放射線と食品、農業と食品及びリスク分析と国際化について解説します。それぞれの安全性問題について理解して下さい。	p137～154をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。
15	その他	その他として、食品に使用する包装資材の種類と用途、食品による窒息事故リスクについて説明します。	事前に配布するプリントをよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。

科目名	食品学実験	対象 単位数 必選	短期大学部 健康栄養学科 1年 1単位 選択	
担当教員	澤渡 優喜			
開講期	II			
授業概要	<p>[授業の目的・ねらい] 本実験では代表的な食品成分の分析方法の習得を目指します。更に、食品加工の原理を実験を通して学びます。 [授業全体の内容の概要] 食品成分の分析、食品加工実験。 [実務経験に関連する内容] 食品企業で乳酸菌を利用した商品の研究開発を行っていました。食品企業での経験をもとに実験方法を解説します。</p>			
達成目標	<p>[達成目標（授業終了時の達成課題）] 食品成分の基本的な分析方法を習得し、食品加工の原理を理解することを本実験の達成目標とします。</p>			
受講資格	短期大学部 健康栄養学科 1年	成績評価 方法	レポート；50点、期末試験；50点とし、計60点以上で単位を認定します。	
教科書	資料を配布します。			
参考書	授業の中で紹介します。			
学生への要望	実験室内でのルールを厳守して下さい。ルールを守らないと、大きな事故が起きてしまう恐れがあります。特に、実験室での飲食は厳禁です。実験は目的が大事です。授業の最初に実験の目的を明確にしますので、良く説明を聞いて実験に取り組んで下さい。実験授業は個人ではなく2~5人程度のグループで行います。グループのメンバーと協力しながら進めて下さい。			
オフィスタイム	<p>澤渡 火曜日 16:10~17:05 No.2 食品衛生学研究室 木曜日 16:10~17:05 No.2 食品衛生学研究室 佐藤 水曜日 14:30~16:00 臨床栄養学研究室 木曜日 16:10~17:05 臨床栄養学研究室</p>			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
1	ガイダンス、安全教育	○ガイダンス 食品学実験の予定と評価方法を説明します。 ○安全教育 安全に実験を行うための一般的なルールについて説明します。	シラバスをよく読んでおいて下さい。	30
2	実験器具	○実験器具 適切に実験を進めるために実験器具の特徴、使い方及び洗浄方法について説明します。	授業終了後、復習をして下さい。	30
3	実験の基本操作（1）	[概要] 試料の採取法、秤量、ろ過、洗浄等の食品学実験の基本操作を学びます。 [達成目標] 基本的な実験操作ができる。	シラバスで実験内容を確認し、どんな実験かを必要に応じてインターネットなどで下調べをして下さい。	15
4	実験の基本操作（2）	実験の基本操作（1）と同じ。	レポートを作成して下さい。	60
5	水分定量（1）	[概要] 食品の水分定量方法を学びます。 [達成目標] 食品の水分を定量できる。 [進め方] 実験はグループで協力して進めます。実験結果をグループに聞きますので、グループでまとめておいて下さい。	シラバスで実験内容を確認し、どんな実験かを必要に応じてインターネットなどで下調べをして下さい。	15
6	水分定量（2）	水分の定量（1）と同じ。	レポートを作成して下さい。	60
7	中和滴定（1）	[概要] 中和滴定に使用する水酸化ナトリウム水溶液の力価をコハク酸水溶液を用いて決定します。 [達成目標] 中和滴定の定量原理を理解し、滴定操作ができる。 [進め方] 実験はグループで協力して進めます。	シラバスで実験内容を確認し、どんな実験かを必要に応じてインターネットなどで下調べをして下さい。	15
8	中和滴定（2）	中和滴定（1）と同じ。	授業終了後、酸度が高い食品を調べておいて下さい。次回の授業で質問します。	30
9	食品の酸度分析（1）	[概要] 力価が明らかになった0.25 N水酸化ナトリウムを使用して各食品の酸度を分析します。 [達成目標] 各食品の酸度の違いを理解する。 [進め方] 実験はグループで協力して進めます。実験結果をグループに聞きますので、グループでまとめておいて下さい。	シラバスで実験内容を確認し、どんな実験かを必要に応じてインターネットなどで下調べをして下さい。	15
10	食品の酸度分析（2）	食品の酸度分析（1）と同じ。	レポートを作成して下さい。	60

回	項目	授業内容	
11	タンパク質の定量（１）	[概要]ビウレット法で食品に含まれるタンパク質量を定量するため、タンパク質濃度が既知のサンプルを用いて検量線を作成します。 [達成目標]ビウレット法の分析で検量線を作成することができる。 [進め方]実験はグループで協力して進めます。	シラバスで実験内容を確認し、どんな実験かを必要に応じてインターネットなどで下調べをして下さい。 15
12	タンパク質の定量（２）	タンパク質の定量（１）と同じ。	授業終了後、検量線を作成する意味を復習しておいて下さい。次回の授業で質問します。 60
13	タンパク質の定量（３）	[概要]ビウレット法で食品に含まれるタンパク質の量を定量します。 [達成目標]ビウレット法で食品中のタンパク質を定量することができる。 [進め方]実験はグループで協力して進めます。実験結果をグループに聞きますので、グループでまとめておいて下さい。	シラバスで実験内容を確認し、どんな実験かを必要に応じてインターネットなどで下調べをして下さい。 15
14	タンパク質の定量（４）	タンパク質の定量（３）と同じ。	レポートを作成して下さい。 60
15	糖の分析（１）	[概要]食品中の還元糖をソモギーの変法で定量します。 [達成目標]ソモギーの変法で還元糖を定量することができる。 [進め方]実験はグループで協力して進めます。実験結果をグループに聞きますので、グループでまとめておいて下さい。	シラバスで実験内容を確認し、どんな実験かを必要に応じてインターネットなどで下調べをして下さい。 15
16	糖の分析（２）	糖の分析（１）と同じ。	レポートを作成して下さい。 60
17	食塩の定量（１）	[概要]各食品の塩化ナトリウム量を塩分計を使用して定量します。 [達成目標]塩分計の正しく使用することができる。 [進め方]実験はグループで協力して進めます。実験結果をグループに聞きますので、グループでまとめておいて下さい。	シラバスで実験内容を確認し、どんな実験かを必要に応じてインターネットなどで下調べをして下さい。 15
18	食塩の定量（２）	食塩の定量（１）と同じ。	レポートを作成して下さい。 60
19	食品の非酵素的褐変（１）	[概要]アミノ・カルボニル反応のモデル実験を行い、pH、時間、糖の種類が食品の褐変現象に及ぼす影響を確認します。 [達成目標]食品の非酵素的褐変の原理を理解できている。 [進め方]実験はグループで協力して進めます。実験結果をグループに聞きますので、グループでまとめておいて下さい。	シラバスで実験内容を確認し、どんな実験かを必要に応じてインターネットなどで下調べをして下さい。 15
20	食品の非酵素的褐変（２）	食品の非酵素的褐変（１）と同じ。	レポートを作成して下さい。 60
21	デンプン粒の観察（１）	[概要]様々な植物性食品に含まれるデンプン粒を顕微鏡で観察しその形状をスケッチします。 [達成目標]植物性食品の違いでデンプン粒の形状が異なることを理解できている。 [進め方]観察はグループで協力して進めます。	シラバスで実験内容を確認し、どんな実験かを必要に応じてインターネットなどで下調べをして下さい。 15
22	デンプン粒の観察（２）	デンプン粒の観察（１）と同じ。	レポートを作成して下さい。 60
23	パン生地発酵試験（１）	[概要]パン生地にパン酵母を添加してパン生地の膨化の程度を調べる。 [達成目標]パン生地の発酵原理を理解できている。 [進め方]実験はグループで協力して進めます。実験結果をグループに聞きますので、グループでまとめておいて下さい。	シラバスで実験内容を確認し、どんな実験かを必要に応じてインターネットなどで下調べをして下さい。 15
24	パン生地発酵試験（２）	パン生地発酵試験（１）と同じ。	レポートを作成して下さい。 60
25	植物性食品の加工（１）	[概要]豆乳を使って豆腐を製造します。 [達成目標]豆乳が凝固する原理を理解できている。 [進め方]実験はグループで協力して進めます。	シラバスで実験内容を確認し、どんな実験かを必要に応じてインターネットなどで下調べをして下さい。 15
26	植物性食品の加工（２）	植物性食品の加工（２）と同じ。	豆腐の製造原理を復習して下さい。 30

回	項目	授業内容		
27	動物性食品の加工（１）	[概要]牛乳を使ってカッテージチーズを製造します。 [達成目標]牛乳が凝固する原理を理解できている。 [進め方]実験はグループで協力して進めます。	シラバスで実験内容を確認し、どんな実験かを必要に応じてインターネットなどで下調べをして下さい。	15
28	動物性食品の加工（２）	動物性食品の加工（１）と同じ。	カッテージチーズの製造原理を復習して下さい。	30
29	まとめ（１）	食品学実験では実験を行いました、知識として覚えておく必要があることも沢山あります。解説をしながら皆さんにも質問をします、知識の定着を目指して下さい。	今までの授業の内容を復習しておいて下さい。	60
30	まとめ（２）	まとめ（２）	まとめの内容を復習して下さい。	60

科目名	食品衛生学実験		対象 単位数 必選	短期大学部 健康栄養学科 2年 1単位 選択
担当教員	澤渡 優喜, 加藤 雅子			
開講期	Ⅲ			
授業概要	<p>[授業の目的・ねらい] 本実験では初歩的な食品微生物の実験方法習得します。また、微生物の特性を実験を進めながら理解し、腐敗や食中毒を防止するためにはどのようなことに気を付ける必要があるのかについて学びます。更に、食品添加物の分析、食品の鮮度判定試験、水道水の検査を行い、食品の安全を保証するための多数ある分析・判定方法の一部を理解します。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 微生物実験、食品添加物の分析、食品の鮮度判定試験及び水道水の検査を行います。</p> <p>[実務経験に関する内容] 食品企業で乳酸菌を利用した商品の研究開発を行っていました。食品企業での経験をもとに実験方法を解説します。</p>			
達成目標	<p>[達成目標（授業終了時の達成課題）] 初歩的な食品微生物の実験ができる。微生物の特性を理解し、微生物による腐敗や食中毒を防止するための方法を自ら考えることができる。さらに、食品の安全性を保証する分析方法を理解する。以上のことを達成目標とします。</p>			
受講資格	短期大学部 健康栄養学科 2年	成績評価 方法	レポート：50点、期末試験：50点とし、計60点以上で単位を認定します。	
教科書	資料を配布します。			
参考書	授業の中で紹介します。			
学生への要望	実験室内でのルールを厳守して下さい。ルールを守らないと、大きな事故が起きってしまう恐れがあります。特に、実験室での飲食は厳禁です。実験は目的が大事です。授業の最初に実験の目的を明確にしますので、良く説明を聞いて実験に取り組んで下さい。実験授業は個人ではなく2～5人程度のグループで行います。グループのメンバーと協力しながら進めて下さい。			
オフィスタイム	<p>澤渡 水曜日 16:10～17:05 No.2 食品衛生学研究室 金曜日 16:10～17:05 No.2 食品衛生学研究室</p> <p>加藤 火曜日 16:00～17:00 No.1 給食管理研究室 金曜日 16:00～17:00 No.1 給食管理研究室</p>			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	30
1	ガイダンス、安全教育①、微生物概論	<p>○ガイダンス 食品衛生学実験の予定と評価方法を説明します。</p> <p>○安全教育① 安全に実験を行うための一般的なルールについて説明します。</p> <p>○微生物学概論 微生物学実験を行うために必要な微生物学を概説します。</p>	シラバスを読んでおいて下さい。
2	安全教育②、確認試験	<p>○安全教育② 安全に微生物学実験を行うためのルールについて説明します。</p> <p>○確認試験 本日説明した内容についての確認試験を行います。理解不足が無いようにして下さい。また、確認試験の解説も行います。</p>	確認試験の復習をして下さい。
3	身近な食品微生物の観察 (1)	<p>[概要] 微生物は肉眼では見えないほど小さな生物ですが、顕微鏡を使って微生物を観察すると、その形や特徴を捉えることができます。本日は、顕微鏡を使って酵母、カビ、細菌を観察し、これらの微生物の特徴をスケッチし、また、大きさも測定してもらいます。</p> <p>[達成目標] 顕微鏡が使える。微生物の大きさを測定できる。酵母、カビ、細菌の形態と大きさの違いを理解できる。</p> <p>[進め方] 実験はグループで協力して進めます。</p>	シラバスで内容を確認しておいて下さい。
4	身近な食品微生物の観察 (2)	身近な食品微生物の観察 (1) と同じ。	レポートを作成して下さい。

回	項目	授業内容	
5	グラム染色（1）	[概要]細菌は、細胞壁の構造の違いによってグラム陽性菌とグラム陰性菌に区別することができます。この区別は「グラム染色」という方法で行い、細菌の染まり方の違いによって判断することができます。本実験では、グラム染色液を用いて2種類の細菌を染色し、染まり方の違いからグラム陽性菌又はグラム陰性菌を判断します。 [達成目標]グラム染色ができる。 [進め方]実験はグループで協力して進めます。	シラバスで実験内容を確認し、どんな実験かを必要に応じてインターネットなどで下調べをして下さい。
6	グラム染色（2）	グラム染色（1）と同じ。	レポートを作成して下さい。
7	微生物実験の基本操作（1）	[概要]微生物実験の基本である、培地調製、無菌操作、培養を行います。5回の授業を通して実験を進めます。今回は微生物実験の操作について解説します。 [達成目標]微生物実験の基本操作ができる。 [進め方]培地の調製はグループで協力して進めますが、微生物操作は個人で進めます。	シラバスで実験内容を確認し、どんな実験かを必要に応じてインターネットなどで下調べをして下さい。
8	微生物実験の基本操作（2）	[概要]5回の授業を通して実験を進めます。今回は培地を調製します。	微生物実験の操作法を復習して下さい。
9	微生物実験の基本操作（3）	[概要]5回の授業を通して実験を進めます。今回は無菌操作を行い、培養します。	シラバスで実験内容を確認し、どんな実験かを必要に応じてインターネットなどで下調べをして下さい。
10	微生物実験の基本操作	微生物実験の基本操作（3）と同じ。	無菌操作の手順を復習して下さい。
11	微生物実験の基本操作（5） 細菌の生菌数測定（1）	○微生物実験の基本操作（5） [概要]5回の授業を通して実験を進めます。今回は培養結果を確認します。 ○細菌の生菌数測定（1） [概要]生きた乳酸菌（細菌）を摂るためにヨーグルトを食べますが、ヨーグルト等の食品に含まれる乳酸菌の数は、「乳及び乳製品の成分規格等に関する省令（乳等省令）」で決まっています。本実験では、乳酸菌数（規格）が異なる2種類の市販品をサンプルとし、乳酸菌数を測定するための培養を行います。5回の授業を通して実験を進めます。今回は微生物の量を測定する方法について説明します。 [達成目標]細菌（乳酸菌）の生菌数を測定できる。 [進め方]実験はグループで協力して進めます。実験結果をグループに聞きますので、グループでまとめておいて下さい。	シラバスで実験内容を確認し、どんな実験かを必要に応じてインターネットなどで下調べをして下さい。
12	細菌の生菌数測定（2）	5回の授業を通して実験を進めます。今回は細菌の生菌数の測定方法を説明し、測定に用いる0.85%（w/v）塩化ナトリウム水溶液を調製します。	微生物の量を測定する方法を復習して下さい。
13	細菌の生菌数測定（3）	5回の授業を通して実験を進めます。今回は乳酸菌の生菌数測定に使用するBCP加プレートカウント寒天培地を調製します。	シラバスで実験内容を確認し、どんな実験かを必要に応じてインターネットなどで下調べをして下さい。
14	細菌の生菌数測定（4）	5回の授業を通して実験を進めます。今回は段階希釈法でサンプルを希釈し、希釈液中に含まれる乳酸菌を混釈培養法で培養します。	生菌数の測定方法を復習して下さい。
15	細菌の生菌数測定（5）	5回の授業を通して実験を進めます。今回は培養した寒天培地に出現したコロニー数を計測し、サンプル1.0g（又はml）中の乳酸菌数を算出します。授業の後半では、各食品サンプルごとの乳酸菌数を比較します。	レポートを作成して下さい。

回	項目	授業内容	
16	微生物の増殖抑制試験 (1)	[概要] 微生物の増殖は、栄養素、pH、水分活性、温度、酸素の影響を受けます。この中で、pH低下、水分活性の低下、低温は食品を扱う場合で有効な微生物の増殖抑制方法です。本実験では、酸性培地、低水分活性培地及び低温条件下で微生物を培養し、増殖の抑制の程度を調べます。今回は、酸性培地及び低水分活性培地を調製します。 [達成目標] 酸性、低水分活性及び低温条件下で微生物の増殖が抑制されることを理解する。 [進め方] 実験はグループで協力して進めます。実験結果をグループに聞きますので、グループでまとめておいて下さい。	シラバスで実験内容を確認し、どんな実験かを必要に応じてインターネットなどで下調べをして下さい。
17	微生物の増殖抑制試験 (2)	今回は、予め調製した培地に微生物を接種してその後の増殖量を培養液の濁度を測定して調べます。	シラバスで実験内容を確認し、どんな実験かを必要に応じてインターネットなどで下調べをして下さい。
18	微生物の増殖抑制試験 (3)	微生物の増殖抑制試験 (2) と同じ。	代表的な微生物の増殖抑制方法を復習して下さい。
19	微生物の増殖抑制試験 (4)	各培地で培養した微生物の増殖量を比較し、どの区分が最も微生物の増殖を抑制できたのかを判断します。	レポートを作成して下さい。
20	保存料の定量試験 (1)	[概要] ソルビン酸を使用している市販食品からソルビン酸を抽出し使用量を定量し、使用基準内であることを確認します。今回は、食品からのソルビン酸の抽出を行います。 [達成目標] 抽出によってソルビン酸の定量ができる。 [進め方] 実験はグループで協力して進めます。実験結果をグループに聞きますので、グループでまとめておいて下さい。	シラバスで実験内容を確認し、どんな実験かを必要に応じてインターネットなどで下調べをして下さい。
21	保存料の定量試験 (2)	今回は、食品から抽出したソルビン酸を定量するため、既知濃度のソルビン酸を用いて検量線を作成します。	ソルビン酸の抽出方法を復習して下さい。
22	保存料の定量試験 (3)	今回は、食品から抽出したソルビン酸の定量を行い、まとめます。	レポートを作成して下さい。
23	着色料の定性試験 (1)	[概要] 合成着色料を使用した食品と天然着色料を使用した食品、それぞれから色素を抽出し、定性します。今回は、各食品から色素を抽出し、合成着色料なのか、天然着色料なのかを判断します。 [達成目標] 着色料の定性試験ができる。 [進め方] 実験はグループで協力して進めます。実験結果をグループに聞きますので、グループでまとめておいて下さい。	シラバスで実験内容を確認し、どんな実験かを必要に応じてインターネットなどで下調べをして下さい。
24	着色料の定性試験 (2)	着色料の定性試験 (1) と同じ。	着色料の定性方法を復習して下さい。
25	着色料の定性試験 (3)	今回は、抽出した合成着色料の種類をペーパークロマトグラフィーで調べます。	シラバスで実験内容を確認し、どんな実験かを必要に応じてインターネットなどで下調べをして下さい。
26	着色料の定性試験 (4)	着色料の定性試験 (3) と同じ。	レポートを作成して下さい。
27	食品の鮮度判定試験	[概要] 牛乳と米の鮮度判定を行います。 [達成目標] 牛乳と米の鮮度判定ができる。 [進め方] 実験はグループで協力して進めます。実験結果をグループに聞きますので、グループでまとめておいて下さい。	鮮度判定の方法を復習して下さい。
28	水道水の分析	[概要] 飲んだり、調理に使用したりする水道水は安全であることが必要です。本実験では、水道水について説明した後に、水道水に含まれる残留塩素濃度を測定します。 [達成目標] 水道水の残留塩素を測定できる。 [進め方] 実験はグループで協力して進めます。	水道水の基準について復習して下さい。
29	演習①	食品衛生学実験では主に実験を行いました。知識として覚えておく必要があることも沢山あります。まず、覚えておく必要のある内容を解説しますので、その後、演習問題を解いて下さい。	今までの授業の内容を復習しておいて下さい。

回	項目	授業内容	
30	演習②	演習①で実施した演習問題の解説を行います。演習問題の内容を確実に解けるようになって下さい。	演習問題の内容を復習して下さい。 60

科目名	公衆栄養学	対象 単位数 必選	短期大学部 健康栄養学科 2年 2単位 必修	
担当教員	星 千歳			
開講期	IV			
授業概要	<p>[授業の目的・ねらい] 地域社会や集団生活など広い範囲で国民の健康を図るための栄養活動・栄養施策などについて学習し、実際の現場でのとらえ方や課題について把握できるようにする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 公衆栄養学の概念、健康・栄養問題の現状と課題、栄養政策、栄養疫学、公衆栄養マネジメント、公衆栄養プログラムの展開を解説する。また、保健所に勤務した経験をもとに実際の現場での活動内容や課題について講義する。 実務経歴：福島県の職員（管理栄養士）として保健所と病院に勤務</p>			
達成目標	[達成目標] 地域社会や集団生活など広い範囲で国民の健康を図るための栄養活動・栄養施策が理解できる。			
受講資格	健康栄養学科 2年	成績評価 方法	小テスト 20点 提出物（ノート） 15点 定期試験 65点	
教科書	サクセス管理栄養士講座・公衆栄養学 第一出版 井上浩一、草間かおる、村山伸子、			
参考書	特になし			
学生への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・受け身の姿勢ではなく、主体的・積極的に授業に臨むこと。 ・授業中はしっかりとノートを取る。ノートのまとめ方で成績評価を行うので、A4ノート（ルーズリーフは不可）を各自準備して他の人が見てわかりやすいように自分なりにまとめること。 ・地域活動、集団健康管理、行政など「公衆栄養学」の視点から地域や集団を対象とした公衆栄養活動に関心を持つこと。 			
オフィスタイム	木曜日16:10~17:00 金曜日16:10~17:00 研究室：62年館2階「食生活・栄養研究室」			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	30
1	公衆栄養の概念	公衆栄養学の定義や歴史を理解し、栄養士・管理栄養士として栄養学における実践活動への発展を目指すための説明を行う。	30
2	健康・栄養問題の現状と課題	わが国における人口構造、疾病構造、食事・食生活について、それぞれの変遷から健康栄養上の現状課題を理解し、今後の対策を検討するための基礎を学ぶ。	30
3	健康・栄養問題の現状と課題	わが国の食環境の変化について学び、現状とその対策について理解する。 諸外国の健康・栄養問題の現状と課題について学ぶ。	30
4	栄養政策	わが国の栄養行政組織と公衆栄養活動の役割について学ぶ。 とくに、保健所と市町村保健センターの役割がどのように異なるか、また、それぞれの機関で働く行政栄養士の業務内容と役割を理解する。	30
5	栄養政策	公衆栄養関連法規とわが国の管理栄養士・栄養士制度の内容を理解する。	30
6	栄養政策	わが国の健康づくり対策や栄養政策の内容を理解する。	30
7	栄養政策	食生活指針や食事バランスガイド、運動指針などのツールの内容を理解する。	30
8	栄養政策	国民栄養・健康調査の内容とわが国の健康づくり対策への活用について理解する。	30
9	栄養疫学	栄養疫学は人の集団を対象として、健康や疾病とその栄養との関係を明らかにすることを目的としていることを学び、公衆栄養活動における疫学の重要性を理解する。 食事調査の方法と種類、活用場面に応じた適切な方法の選択について理解する。	30

回	項目	授業内容	
10	栄養疫学	食事摂取量の評価方法は、食事調査の結果から栄養素摂取量を計算し、食事摂取基準を用いて摂取量の評価を行うことを学ぶ。	30
11	公衆栄養マネジメント	公衆栄養マネジメントの考え方と、地域住民などのコミュニティのニーズや栄養状態など総合的なアセスメントをすることが重要であることを理解する。食事摂取基準の活用や面接法・質問法による調査方法について学ぶ。	30
12	公衆栄養マネジメント	公衆栄養プログラムの目標設定では、アセスメントの結果の評価をし、改善課題に基づいて目標の設定と計画のポイントについて学ぶ。	30
13	公衆栄養マネジメント	公衆栄養プログラムの計画、実施は、地域住民などのコミュニティを対象としており、成果を得るには、具体的な目標の設定と住民参加が大切であることを学ぶ。	30
14	公衆栄養プログラムの展開	地域特性に対応したプログラムの展開と食環境づくりのためのプログラムの展開を学ぶ。	30
15	公衆栄養プログラムの展開	地域集団の特性別に対応したプログラムとして、ライフステージ別プログラムと生活習慣病ハイリスク集団のプログラムを学ぶ。	30

科目名	食商品学	対象 単位数 必選	短期大学部 健康栄養学科 2年 2単位 必修
担当教員	長谷川 貴弘		
開講期	Ⅳ		
授業概要	<p>【授業の目的・ねらい】 本授業では、現代社会の食品の消費と流通の現状を理解し、よりよい食品選択を行う知識を獲得することを目的とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 フードスペシャリストは、「食」に関する総合的・体系的な知識・技術を身につけることが期待されている。その中でも私達が毎日食卓で目にする食品・食材が、生産から消費されるまで、どのような流通ルートを経てきているかを知ることは非常に重要なこととなる。本授業では、食市場の変化、食品の流通、フードマーケティング、食品消費の理論と現状について採り上げる。</p> <p>なお、在日本北京大使館経済部での勤務経験を活かし、授業の中で統計資料の見方、経済理論についても採り上げていく。 ○実務経歴 在北京日本国大使館経済部専門調査員としてとして従事。</p>		
達成目標	<p>【達成目標（授業修了時の達成課題）】 フードスペシャリスト資格認定試験の食品流通・消費に関する科目の問題に答えることのできる知識・見識を身につけることを到達目標とする。</p>		
受講資格	家政科 食物栄養専攻 2年生	成績評価 方法	①小テスト20点（20点×1回） ②期末試験80点
教科書	「食品の消費と流通」（日本フードスペシャリスト協会編）		
参考書	「フードスペシャリスト論」（日本フードスペシャリスト協会編）他		
学生への要望	テキストをきちんと読み込んで、授業に積極的に取り組むこと。		
オフィスタイム	火曜日 2コマ 水曜日4コマ 経営管理学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	60
1	ガイダンス・食市場の変化①	授業の進め方、評価方法について説明する。 食市場とその変化、消費者の食品消費の変化について学習する。	60
2	食市場の変化②	少子・高齢化が変える食市場について学習する。	60
3	食市場の変化③	消費者の食品消費の変化について、並びに需要の価格弾力性と所得弾力性について学習する。	60
4	食品の流通①	食品流通の役割、流通の社会的使命について学習する。	60
5	食品の流通②	卸売市場流通と加工食品の卸売業者流通について学習する。	60
6	食品の流通③	食品の小売り流通について学習する。	60
7	フードマーケティング①	マーケティングの要素である4Pと4Cについて学習する。	60
8	フードマーケティング②	商品のライフサイクルの理論と実際及び各種マーケティング戦略について学習する。	60

回	項目	授業内容		
9	食品消費の課題①	食料消費と環境問題、3R（リデュース、リユース、リサイクル）、食品のリサイクル・食品廃棄物問題について学習する。	テキスト第6章「食料消費の課題」の部分に目を通しておく。 プリントを読み返して復習をすること。	60
10	食品消費の課題②	食品の安全性及び関連項目について学習する。	テキスト第6章「食料消費の課題」の部分に目を通しておく。 プリントを読み返して復習をすること。	60
11	食品の分類と流通	食品の分類及び温度帯別食品流通について学習する。	テキスト第4章「主要食品の流通」の部分に目を通しておく。 プリントを読み返して復習をすること。	60
12	これまでの学習内容まとめ①	「フードスペシャリスト認定試験」の「食品の流通と消費」に関連する問題を解くことを通じて、これまでの授業内容を復習する。	これまで配布したプリントを読み返して復習し、認定試験に備えること。	90
13	これまでの学習内容のまとめ②	「フードスペシャリスト認定試験」の「食品の流通と消費」に関連する問題を解くことを通じて、これまでの授業内容を復習する。	これまで配布したプリントを読み返して復習し、認定試験に備えること。	90
14	主要食品の流通①	各種食商品の流通について学習する。	テキスト第4章「主要食品の流通」の部分に目を通しておく。 プリントを読み返して復習をすること。	60
15	主要食品の流通②	各種食商品の流通について学習する（前回の続き）。小テスト実施。	テキスト第4章「主要食品の流通」の部分に目を通しておく。 これまで配布したプリントを読み返して復習し、小テストの備えること。	90

科目名	日本国憲法	対象 単位数 必選	短期大学部 健康栄養学科 1年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択
担当教員	鈴木 康元		
開講期	I		
授業概要	憲法の基本理念と人権の重要性について理解してもらいたい。 履修カルテ評価項目 ①近代的意味の憲法の意義、歴史的背景が理解できたか。 ②日本国憲法の成立における問題点が理解できたか。 ③人権の重要性と制限根拠について理解できたか。 実務経験：弁護士として、法律事務所長として勤務する経験を活かし、授業を行う。 実務経歴：弁護士として、法律事務所長として勤務。		
達成目標	憲法の基本理念と人権の重要性について理解してもらいたい。 履修カルテ評価項目 ①近代的意味の憲法の意義、歴史的背景が理解できたか。 ②日本国憲法の成立における問題点が理解できたか。 ③人権の重要性と制限根拠について理解できたか。		
受講資格	短大1年生	成績評価 方法	ペーパー試験(80%)と出席状況(20%)
教科書	憲法【第二版】 弘文堂		
参考書	特に指定しない		
学生への要望	憲法および法律一般につき興味をもって欲しい。		
オフィスタイム	水曜日 授業開始前：創学館2階教務部非常勤講師室 授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	憲法総論①	憲法を学ぶことの意義、重要性、近代的意味の憲法について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	30
2	憲法総論②	近代的意味の憲法の特徴、日本国憲法の歴史	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
3	憲法総論③	国民主権の意義、平和主義（憲法9条の解釈）について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
4	基本的人権①	人権の概念、およびその重要性について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
5	基本的人権②	日本国憲法の人権の内容、人権の享有主体について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
6	基本的人権③	人権の限界、私人間における人権	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
7	基本的人権④	包括的基本権（特にプライバシーの権利を中心に）法の下での平等の意義	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
8	基本的人権⑤	内心の自由（特に信教の自由を中心に）につき判例をあげながら教える	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
9	基本的人権⑥	表現の自由の意義とその優越性について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
10	基本的人権⑦	経済的自由権	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
11	基本的人権⑧	財産権	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
12	基本的人権⑨	その他の人権について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
13	統治機構①	国会	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
14	統治機構②	内閣	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
15	統治機構③	裁判所	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

科目名	社会科学（経済）		対象 単位数 必選	短期大学部 健康栄養学科 1年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択
担当教員	長谷川 貴弘			
開講期	Ⅱ			
授業概要	<p>本授業の目的は、生活と密接にかかわる経済の基礎知識の習得と経済学的視点の確立である。不景気・デフレーション・円高・円安・インフレーション・消費生活・生活経済等、普段からニュースや新聞で取り上げられるが、これらの経済的事象は私達の生活と密接にかかわっている。これら経済的事象を経済学的視点で見る目を養うことを本授業の目的としたい。</p> <p>なお、在北京日本国大使館経済部での勤務経験を活かし、授業の中で経済統計の見方、マクロ経済の理論と実際について採り上げていく。</p> <p>○実務経歴 在北京日本国大使館経済部専門調査員として主に中国経済の分析に従事。</p>			
達成目標	経済的事象を経済学的視点で見る目を養うとともに、公務員試験の経済学の問題にも対応できる力を養うことを到達目標とする。			
受講資格	短期大学部 健康栄養学科、幼児教育学科、音楽科 1年生	成績評価 方法	①小テスト30点（15点×2回） ②課題（レポート）70点	
教科書	プリントを配布する。			
参考書	伊藤元重「はじめての経済学（上）（下）」日経文庫、他必要に応じ授業の中で紹介する。			
学生への要望	普段からニュースや新聞で取り上げられる経済関連の問題について関心を持つようにすること。			
オフィスタイト	火曜日 2コマ 水曜日4コマ 経営管理学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	ガイダンス・経済学とは何か①	授業の進め方、評価方法について解説する。 経済学とは何かを説明する第一の例としてインフレーションとデフレーションを取り上げ、両者が私達の生活に与える影響について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
2	経済学とは何か②	第二の例として円安と円高を取り上げ、両者が私達の生活にどのような影響を与えるのかについて学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
3	経済学とは何か③	経済学をめぐる行われてきた政策論争（自由貿易vs保護貿易）について学修することを通じて経済学への理解を深める。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
4	消費生活と経済①	消費と消費者の概念について、消費者の権利と責任について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
5	消費生活と経済②	様々な消費者問題とクーリングオフについて学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
6	消費生活と経済③	グリーンコンシューマーとフェアトレードの概念について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
7	消費生活と経済④	消費生活と経済について総まとめ。 小テスト1回目	これまでの学修内容をノート・プリントを通じて復習し、小テストに備えること。	30
8	生活と経済－エンゲルの法則と家計調査①	世界と日本の家計研究の歴史について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
9	生活と経済－エンゲルの法則と家計調査②	エンゲルの法則とエンゲル係数の概念について学修する。	これまでの学修内容をノート・プリントを通じて復習しておくこと。	30
10	生活と経済－エンゲルの法則と家計調査③	近年のエンゲル係数の動向について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
11	マクロ経済学の基本と日本経済①	マクロ経済学（Macro Economics）が分析の対象とするGDP（国内総生産）の計算方法とその意味する点について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
12	マクロ経済学の基本と日本経済②	日本と世界のGDPのデータを通じて、それが意味するものについて学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。併せてレポートを作成すること。	60
13	地域経済～郡山市の経済について①	地域経済とは何かを解説した上で、私達が住んでいる郡山市の経済とその特徴について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。併せてレポートを作成すること。	60
14	地域経済～郡山市の経済について②	郡山市の経済とその特徴について学修する（前回の続き）。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。併せてレポートを作成すること。	60
15	まとめ	これまでの学修内容を確認する。 小テスト（2回目）	これまでの学修内容をノート・プリントを通じて復習し、小テストに備えること。	60

科目名	キャリアデザインⅡ	対象 単位数 必選	短期大学部 健康栄養学科 1年 1単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 1単位 選択
担当教員	森 みい		
開講期	I		
授業概要	<p>【授業のねらい】 将来の社会生活や職業生活に向けて、自らの資質を向上させ、社会的職業的自立を図るために必要な能力を培い、幅広い人間形成を図ることを目的としています。社会人としての自覚と行動を視野に入れて、主体的にキャリア形成能力を育成します。働くことの実態、意義、面白みを体感していきます。インターンシップを推進して、学生の自己認識、社会・職業認識の深化を促し、就職意欲のある学生に対して、豊富かつ適切な就職情報を提供するとともに希望に添った就職活動が行えるよう支援します。</p> <p>【授業の概要】 インターンシップ（就業体験）を通じ、自らの専門や将来希望する職業の関連した職場での体験で、学んでいる内容と社会との関連性を認識し、今後の主体的な学修への動機付けを強め、職業を具体的に理解することで仕事の奥深さを実感していきます。働くことについて総合的に理解や仕事をする達成感、充実感、社会貢献を体得します。前期7回の講義、夏休み期間中のインターンシップ（5日間）、および、受け入れ企業のご担当者を招いた報告会から構成されています。インターンシップ終了後報告書を作成することで成果と課題を理解します。担当者は、大学・短大の就職部長であり、キャリアコンサルタントの資格を有し、長く就職指導にあたっています。</p>		
達成目標	<p>【授業終了時の達成目標】 インターンシップを通して、社会人として必要な能力と知識を学び、今後の学生生活の中に活かしていくことで、新たな学習意欲の契機となることを目標とします。仕事の奥深さを実感し、働くことへの理解、責任の重さや成し遂げる充実感や社会への貢献を感じ取る事を目的とします。担当者は、大学・短大の就職部長であり、キャリアコンサルタントの資格を有し、長く就職指導にあたっています。</p>		
受講資格	特になし	成績評価 方法	就業体験50%・授業参加30%・報告会10%・提出物10% 「認」評価判定
教科書	なし		
参考書	なし		
学生への要望	インターンシップは自分の変化や成長を実感できる機会です。広い視野を持ち、各個人のキャリアを考えて、新たな挑戦で自らの可能性の枠を広げてみてはどうでしょう。		
オフィスタイム	月曜日 9:00～12:30 水曜日 9:00～12:30 事前にご相談いただければそれ以外でも対応します。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	インターンシップの概要 4/18 (Vコマ)	インターンシップの概要説明で理解を深める、インターンシップの目的の明確化。各業界の今後の発展方向をみる。就業体験先の希望調査。「インターンシップ希望調査票」「志望理由」の提出をする。インター	0
2	インターンシップの心構え 5/16 (Vコマ)	インターンシップの取り組みを動画を見て、ワークを実施しながらインターンシップの考えを深化させていく。(ムビケーションの実施)	0
3	企業研究 (講演) 5/30 (Vコマ)	身近な若き経営者の講演を実施する。社会と協働する中で、自立した個人として人生をどう生きるかを考えながら、人間力や就業観の醸成及び学習意欲を高めていく。	0
4	事前指導 (ビジネス文書作成) 6/27 (Vコマ)	メールと封書でのお礼状の書き方を理解して実践する。また電話やメールのアポイントのとり方を学ぶ。また、就業体験先の決定をする。	0
5	事前指導 (マナー講座) 7/11 (Vコマ)	マナー講座実施を通して、言葉遣い、立ち居振る舞い、挨拶等、円滑な人間関係を築くための基礎を身に付ける。 就業体験先の打合せをする。	0
6	直前指導 (インターンシップ先の企業研究)7/25 (Vコマ)	業界・企業知識やインターンシップ(就業体験)の基本知識を学び、企業研究を深める。先輩の体験からインターンシップ直前の留意点を確認する。	0
7	インターンシップ(就業体験) 1班 8/19～8/23・2班8/26～8/30	各企業において、夏季休業中(8月中旬～下旬)に5日間のインターンシップ(就業体験)を行います。	0
8	インターンシップ報告会 9/5 (Iコマ)	事後報告会として、企業の方をお招きして報告会を実施する。	0
9	インターンシップ報告会 9/5 (IIコマ)	事後報告会として、企業の方をお招きして報告会を実施する。実習日誌を提出する。	0

科目名	教育・保育課程論		対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択
担当教員	山上 裕子 賀門 康博			
開講期	II			
授業概要	生涯にわたる人格形成の基礎を培う幼児教育において、幼児期にふさわしい教育・保育課程はどのようなものか。「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を基準にした計画を立てられるために必要な基礎を講義する。具体的には、教育・保育課程の役割や意義、編成の方法、指導案の作成、カリキュラム・マネジメントなどを取りあげる。また附属幼稚園での勤務をもとに、実際の保育現場での子どもの姿等や保育者の関わりの様子をスライドやビデオなどで示しつつ、具体的な子どもの姿や保育についての現代的な課題についての話題を提供し、指導計画作成のイメージがつくように活動グループ・ワークを行いつつ、現場に直結する力を身につけていく。 実務経験：幼稚園教諭（現在は園長）として郡山女子大学附属幼稚園に勤務			
達成目標	①教育・保育課程の役割と意義を理解できたか。 ②教育・保育課程の編成と指導計画の作成方法について理解できたか。 ③教育・保育課程のマネジメントの必要性を理解できたか。			
受講資格	原則として、幼稚園教諭二種、保育士資格取得希望者	成績評価 方法	授業参加度30% レポート70%	
教科書	・幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省） ・保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省） ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府） ・岩崎順子・及川留美・粕谷亘正『教育・保育課程論～書いて学べる指導計画～』萌文書林、2015年。			
参考書	・その他、授業中に適宜プリントを配布する。			
学生への要望	授業用のノートを用意すること。 欠席、遅刻はしないようにすること。 指導計画の作成にはイメージの豊かさが大事である。授業内容に沿った気づきや発想を、積極的に発言すること。			
オフィスタイム	山上 木曜日：14：30～16：00 833研究室 金曜日：12：50～14：20 833研究室 賀門 月～金曜日 10：00～11：30 附属幼稚園応接室 15：00～17：00 附属幼稚園応接室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	60
1	オリエンテーション (担当：山上 裕子)	・講義内容について説明を受け、到達目標や評価方法を確認する。保育活動がどのように行われているのか、気づいたことを共有する。	事前にシラバスを確認し、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の記載を概観する。
2	教育・保育課程とは何か (担当：山上 裕子)	・カリキュラムの発生を知ることとおして、経験カリキュラムについて学ぶ。また、我が国日本で告示された教育要領等の学校教育における位置づけや性格を学び、教育課程等を作成する必要性について考える。	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の内容を確認する。
3	教育要領の変遷 (担当：山上 裕子)	・戦後「保育要領」として生まれ、「幼稚園教育要領」として今日まで改訂されてきた変遷を知る。その際、社会からの要請が関連していたことを理解する。また、同時に「保育所保育指針」の変遷についても学ぶ。これまで学んだことをまとめる。	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の変遷をまとめる。
4	教育課程・指導計画の種類 (担当：賀門 康博)	・保育三法令(幼稚園教育要領・保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育要領)について、29年度の改訂版をもとに、それぞれの内容と関連性を話しつつ、「3つの視点(0歳)」「5領域(1～5歳)」「10の姿」などのキーワードを学び、保育の置けるその位置づけを理解する。	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」で要となる「3つの視点(0歳)」「5領域(1～5歳)」「10の姿」について、語彙等を理解する。
5	子どもの多面的な理解(5領域・10の姿等から) (担当：賀門 康博)	・5領域や10の姿等の内容を照らし合わせながら、子どもの姿や日々の生活・体験が子ども達の成長にとってどういった意味を持つのかについて、ビデオなどの視聴をつつ、理解を深める。	「5領域」及び「10の姿」といった観点の存在について理解する。
6	指導計画の構成について① (担当：賀門 康博)	・指導計画はどういった構成になっており、それぞれがどういった関係であるのかについて、全体像を理解する。また、構成要素のうち、「子どもの姿」「ねらい」「内容」について掘り下げ、その意味を理解する。	指導計画における「子どもの姿」「ねらい」「内容」についてそれぞれの意味と違いを理解する。
7	指導計画の構成について② (担当：賀門 康博)	・前回に続き、指導計画の構成について学ぶ。全体の構成を考えつつ、構成要素のうち「環境の構成」「予想される子どもの姿」「保育者の援助・配慮」について掘り下げ、その意味を理解する。	指導計画における「環境の構成」「予想される子どもの姿」「保育者の援助・配慮」についてそれぞれの意味と違いを理解する。

回	項目	授業内容	
8	指導計画作成の実際①（子どもの姿①） （担当：賀門 康博）	・前回までに学んだ指導計画の全体像の理解を踏まえ、以後4回にわたり各論的にワークを行い、実際の記述の仕方などを学ぶ。この回では指導計画の基礎となる「子どもの姿」について、「個の理解」と「全体の理解」の重要性について学ぶ。また、ビデオなどを用いながら行動観察などでのポイントやその意味を理解する。	子どもの定型的な発達の姿を理解しつつ、各年齢において重要とされる関わりについてポイントを理解する。
9	指導計画作成の実際①（子どもの姿②） （担当：賀門 康博）	・前回から引き続き、子どもの姿についてのワークを行う。実際に実習でクラス担当になり、部分実習などで全体への指導を行う際に、クラス全体の状態をどのように指導計画に反映させるかについて、幾つかの視点を提示しつつ、指導計画への記述について理解する。	個の発達の姿を理解しつつ、集団保育の中で重要とされる関わりについてポイントを理解する。
10	指導計画作成の実際②（ねらい・内容） （担当：賀門 康博）	・前回に引き続きワークを行う。この回では、子どもの姿を踏まえた上で、どのように「ねらい」や「内容」を立てていくかについてそのポイントを学び、指導計画への記述の手順などを理解する。	子どもの姿をもとにした「ねらい」の立て方について、5領域等の視点を持った考え方のポイントを理解する。
11	指導計画作成の実際③（環境設定・予想される子どもの姿） （担当：賀門 康博）	・前回に引き続きワークを行う。この回では、前回理解したねらいや内容に準じて、どういった形で「環境構成」をし、「子どもの姿を予想する」かについてそのポイントを学び、指導計画への記述の手順などを理解する。	「ねらい」を実現するために必要な「環境構成」と「子どもの予想される姿」について、記載の項目とポイントを理解する。
12	指導計画作成の実際④（保育者の援助・配慮） （担当：賀門 康博）	・前回に引き続きワークを行う。この回では、活動の内容や予想される子どもの姿に対して、ねらいを達成するための「保育者の援助や配慮」についてそのポイントを学び、指導計画への記述の手順などを理解する。	「予想される子どもの姿」に対して保育者としての関わり方（援助・配慮）の重要性について理解する。
13	カリキュラム・マネジメントについて① （担当：賀門 康博）	・これまでに学んだ指導計画（部分指導・一日指導）が、子どもたちの日々の成長の中でどういった見通しをもって作成されるべきであるかについて、より長期的な教育課程との関連や、小学校との連携（指導要録の作成）の意味と関連させながら学ぶ。	保育における現代的な課題について概観する。
14	カリキュラム・マネジメントについて② （担当：賀門 康博）	・カリキュラムの評価や発達や環境の違いに応じて、柔軟に対応（マネジメント）していくことの大切さを知る。	PDCAサイクルについて理解し、現代的な課題に対して指導計画を体操させていく重要性を理解する。
15	まとめ （担当：山上 裕子）	・これまで授業で学んできたことを、実習で経験したことをとおして振り返り、教育・保育課程の役割や意義等を再確認する。	ノートやプリントを整理し、幼稚園実習及び保育実習に向けて基礎となる視点を再確認する。

科目名	子どもの保健	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択
担当教員	永瀬 悦子		
開講期	Ⅱ		
授業概要	人間の一生の中における小児期は絶えず発育・発達をしている。助産師・看護師として医療機関勤務および乳幼児健診等をしてきた経験を活かして、子どもの保健の意義や目的、子どもの心身の成長発達、生理機能の発達、精神運動機能の発達を踏まえた上で、子どもに多い疾患と症状に対する対処法、予防接種等について講義を行う。 現代社会における子どもを取り巻く健康問題と課題について認識した上で、その対応策についても学ぶ。更に、家庭と地域の連携を通じた保健活動及び、その関係機関との連携についても学ぶ。 [授業の目的・ねらい] 健康の保持・増進と精神の安定を図る保育において、子どもの保健の基礎的な知識を理解し、保育実践現場における保健活動の必要性を理解するとともに予防・事故に対する対応を理解する。		
達成目標	1)子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。 2)子どもの身体的発育・発達と保健について理解する。 3)子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。 4)子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。		
受講資格	保育士資格取得希望学生	成績評価 方法	筆記試験80点・レポート20点
教科書	松田博雄・金森三枝編集『子どもの保健』中央法規 2019年 ※資料を毎回配付		
参考書	『保育所保育指針』フレーベル館 2017年		
学生への要望	子どもの成長・発達の基礎的な知識をもとに、その健康を逸脱した過程における対応、健康課題に関する知識を学ぶ。講義は積極的に臨むことを期待する。		
オフィスタイム	火曜日 V時限 (16:10~17:40) 832研究室 木曜日 I時限 (8:50~10:20) 832研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	子どもの心身の健康と保健の意義 1	1)生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的 2)目的健康の概念と健康指標 3)現代社会における保健活動と子どもの健康に関する現状と課題 ※保育所における保健活動が、生命の保持と情緒の安定にどのようにつながっているのかを考え養護と教育を一体的に行う意味や「健康」「人間関係」「環境」「表現」における目標や保育の重要性を学ぶ。	0
2	子どもの心身の健康と保健の意義 2	1)地域における保健活動と子どもの虐待防止 2)虐待に関する法律と保健活動学ぶ ※虐待に関わる諸統計からみる現状を理解する。更に、これらに対する母子保健の施策や体系、支援を開設する。そして保育者について求められる知識や取組みを考える。	0
3	子どもの身体的発育・発達と保健 1	1)子どもの身体発育の評価と成長に影響を及ぼす因子 2)発達の順序と原始反射 ※発育・発達の目安となる指標を理解し、その発育状態の評価方法をその意義を学ぶ。	0
4	子どもの身体的発育・発達と保健 2	1)子どもの生理機能の発達と保健 ※各器官の生理的機能とその成長過程について理解を深める。	0
5	子どもの身体的発育・発達と保健 3	1)新生児の特徴 2)母と子の心と身体つながり ※新生児の特徴を理解し、母子相互作用等についても学ぶ。	0
6	子どもの心身の健康状態とその把握 1	1)子どもの健康状態の観察 2)心身の不調時の早期発見 3)発育・発達の把握と健康診断 4)保護者との情報共有 ※子どもの健康状態を観察し、表情や行動、しぐさ等も大切な観察点であることを学ぶ。体調不良時に早急に対応をして受診か否かの判断を求められることを理解する。また、保護者との情報共有する大切さを学ぶ。	0

回	項目	授業内容	
7	感染経路と保健活動	1)感染症と要因 2)感染経路と対策、 3)学校保健安全法施行規則19条について 4)感染症の疑いのある時と発生時の対応 ※感染症の要因と感染経路・対策の基礎的知識を理解し、感染症の疑いのある子どもに対する対応を学ぶ。学校保健安全法にある感染症の種類と登園停止期間を学ぶ。	「2018年改訂版 保育所における感染症対策ガイドライン」(平成30年3月厚生労働省)1～30頁をよく読む。
8	子どもの疾病の予防及び適切な対応 1	1)子どもの代表的な感染症①	課題レポートをまとめる
9	子どもの疾病の予防及び適切な対応 2	1)子どもの主な病気の特徴(呼吸器系、循環器系、消化器系、血液系)	教科書をよく読み学びを深める
10	子どもの疾病の予防及び適切な対応 3	1)子どもの主な病気の特徴(泌尿器系、生殖器系、内分泌系)	教科書をよく読み学びを深める
11	子どもの疾病の予防及び適切な対応 4	1)子どもの主な病気の特徴(皮膚、神経系、骨・関節・筋肉系、感覚器系)	教科書をよく読み学びを深める
12	子どもの疾病の予防及び適切な対応 5	1)子どもの主な病気の特徴(アレルギー・免疫系)	教科書をよく読み学びを深める
13	子どもの疾病の予防及び適切な対応 6	1)発熱、脱水、咳嗽、喘鳴の症状観察と適切な対応 ※子どもの健康状態の観察の方法及び主な症状(発熱・脱水咳嗽・喘鳴)の見方と対処法について学ぶ。	「2018年改訂版 保育所における感染症対策ガイドライン」(平成30年3月厚生労働省)72頁、75頁をよく読む。
14	子どもの疾病の予防及び適切な対応 7	1)腹痛、下痢、嘔吐、便秘の症状観察と適切な対応 ※子どもの健康状態の観察の方法及び主な症状(腹痛、下痢、嘔吐、便秘)の見方と対処法について学ぶ。	「2018年改訂版 保育所における感染症対策ガイドライン」(平成30年3月厚生労働省)73～74頁をよく読む。
15	子どもの疾病の予防及び適切な対応 8	けいれん、熱中症、鼻出血、耳の異物、虫刺され、発疹の症状観察と適切な対応 ※子どもの健康状態の観察の方法及び主な症状(けいれん、熱中症、鼻出血、耳の異物、虫刺され、発疹)の見方と対処法について学ぶ。	「2018年改訂版 保育所における感染症対策ガイドライン」(平成30年3月厚生労働省)76頁、関係法規84～93頁をよく読む。

科目名	社会福祉		対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 必修
担当教員	近内 直美			
開講期	Ⅱ			
授業概要	社会福祉学とは何かを考え、人権について知り、権利を守るための法律や制度、行政の仕組みを知り、活用できる知識を持つレポートや発表を通して、意見を述べるができるようになる 地域包括支援センターでの勤務経験を活かし、事例などを交えながら実践に結び付く授業を行う。 実務経験：地域包括支援センター所長（兼務・社会福祉士・主任介護支援専門員）として勤務			
達成目標	①社会福祉の歴史や現状から考え方を学ぶ ②社会福祉の対象者を知る ③社会福祉の法律や制度、行政機関の仕組みを学ぶ			
受講資格	幼児教育学科	成績評価 方法	定期試験70%、課題30%	
教科書	山田美津子・稲葉光彦編「社会福祉を学ぶ」（第4版）（株）みらい 2019年			
参考書	適宜紹介する。			
学生への要望	・社会福祉の授業を通して、人と関わることの意味、意義を考えてほしい。 ・社会福祉の制度を活用できるよう意識して学んでほしい。			
オフィスタイム	月曜日 Ⅱ時限・Ⅲ時限（10：30～12：00、12：50～14：20） 創学館4F 研究室No.6			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	30
1	オリエンテーション	福祉ってなんだろうかを考える。 福祉制度について学んだことを発表するなど、双方向型の授業を2回目以降も行っていく。	・社会福祉とは何かを復習する
2	社会福祉へのみちびき	私たちの生活と社会福祉について理解する。	・テキストで予習を行う ・授業内容のポイントをまとめる
3	社会福祉のあゆみ	日本の社会福祉のあゆみについて理解する。	・テキストで予習を行う ・授業内容のポイントをまとめる
4	改革期の社会福祉	少子高齢化社会の進展と社会福祉基礎構造改革について理解する。	・テキストで予習を行う ・授業内容のポイントをまとめる
5	社会福祉のしくみ	社会福祉の法体系と行財政について理解する。	・テキストで予習を行う ・授業内容のポイントをまとめる
6	生活保護	生活保護制度の仕組みについて理解する。	・テキストで予習を行う ・課題を行う（社会福祉の制度について）
7	子どもと家庭の福祉	子ども家庭福祉サービスと仕組みについて理解する。	・テキストで予習を行う ・授業内容のポイントをまとめる
8	高齢者の福祉1	高齢者を取り巻く状況について理解する。	・テキストで予習を行う ・授業内容のポイントをまとめる
9	高齢者の福祉2	介護保険と地域包括ケアシステムについて理解する。	・テキストで予習を行う ・授業内容のポイントをまとめる
10	障がいのある人の福祉1	障がいについての理解を深める。	・テキストで予習を行う ・授業内容のポイントをまとめる
11	障がいのある人の福祉2	障がいのある人の福祉の基本理念について	・テキストで予習を行う ・授業内容のポイントをまとめる
12	地域の福祉	地域福祉について理解する。	・テキストで予習を行う ・授業内容のポイントをまとめる
13	社会福祉の担い手	社会福祉専門職の倫理と資格制度について理解する。	・テキストで予習を行う ・課題を行う（保育士の倫理について）
14	社会福祉とソーシャルワーク	ソーシャルワークについて理解する。	・テキストで予習を行う ・授業内容のポイントをまとめる
15	現代社会と社会保障 まとめ	私たちの暮らしと社会保障について理解する。まとめ	・テキストで予習を行う ・授業内容のポイントをまとめる

科目名	特別支援教育基礎論	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修
担当教員	小林 徹		
開講期	Ⅱ		
授業概要	<p>中学校特別支援学級担任教諭としての指導経験や市町村教育支援委員としての幼稚園・保育所等との連携の経験に基づき、研究成果も踏まえて以下の内容を講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 特別支援教育を支える理念や歴史の変遷について理解する。 2. 特別支援教育の場（機関）と制度の現状をとらえる。 3. さまざまな障がいと障がい児、特別な配慮を要する子どもの理解の視点と方法について理解する。 4. 障がい児等の個別支援計画の作成、評価について理解する。 5. 特別支援教育の実際について理解を深める。 		
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 特別支援教育の理念や制度、その歴史や支援機関の現状をどの程度理解できたか。 2. 障がい児や特別な配慮を要する子どもの個別指導（支援）計画の作成、評価についてどの程度理解できたか。 3. さまざまな障がいと障がい児や特別な配慮を要する子どもを支援するための視点と方法について理解できたか。 		
受講資格	幼児教育学科の学生を中心とする	成績評価 方法	平常点50点（小テスト、提出物、遅刻や授業態度による減点） 期末試験50点
教科書	小林徹・栗山宣夫編著『ライフステージを見通した障害児の保育・教育』みらい, 2016 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館, 2018 厚生労働省編『保育所保育指針解説』フレーベル館, 2018 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館, 2018		
参考書	七木田敦編著『保育そこが知りたい！気になる子Q&A』チャイルド本社, 2008		
学生への要望	障がいや障がい児について関心を持ち、学習を深めてほしい。		
オフィスタイム	毎週火曜・木曜16:10~17:05、822研究室。それ以外は個別相談（cobalt@koryama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	30
1	特別支援教育の考え方	障がい児、特別な配慮を要する子ども、特別支援教育の基礎概念について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
2	特別支援教育の歴史	特別支援教育と障がい児保育の歴史の変遷について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
3	特別支援教育の制度と仕組み	特別支援教育と障がい児福祉の制度とその仕組みについて学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
4	発達障がいの理解と支援①	さまざまな発達理論の基礎概念と障がいとの関連について映像を通して学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
5	発達障がいの理解と支援②	障がいの基礎概念とその発見、支援の流れについて映像を通して学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
6	発達障がいへのアプローチ	映像を通して発達障がいに関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
7	障がい児の子育て	障がいのある子どもの子育ての考え方と療育の実際を映像を通して学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
8	知的障がい	映像を通して知的障がいに関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
9	自閉症	映像を通して自閉症に関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。

回	項目	授業内容		
10	その他の障がい	映像を通してその他の障がいに関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
11	障がい児支援の工夫	障がい児支援に関わるさまざまな工夫について紹介し、理解を深める。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
12	他機関との連携	ゲストスピーカーを招いて、特別支援教育に関するさまざまな機関との連携について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
13	子ども理解と保育方法①	子どもとその特別な教育的ニーズをどのように見出し、理解するかを個別の指導計画の作成を通して学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
14	子ども理解と保育方法②	子どもとその特別な教育的ニーズから、個別の指導計画を作成し、適切で具体的な保育方法を考える。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
15	まとめ	学習内容を振り返り、保育者として特別支援教育にどう取り組むかを考察する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30

科目名	日本国憲法	対象 単位数 必選	短期大学部 健康栄養学科 1年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択
担当教員	鈴木 康元		
開講期	I		
授業概要	憲法の基本理念と人権の重要性について理解してもらいたい。 履修カルテ評価項目 ①近代的意味の憲法の意義、歴史的背景が理解できたか。 ②日本国憲法の成立における問題点が理解できたか。 ③人権の重要性と制限根拠について理解できたか。 実務経験：弁護士として、法律事務所長として勤務する経験を活かし、授業を行う。 実務経歴：弁護士として、法律事務所長として勤務。		
達成目標	憲法の基本理念と人権の重要性について理解してもらいたい。 履修カルテ評価項目 ①近代的意味の憲法の意義、歴史的背景が理解できたか。 ②日本国憲法の成立における問題点が理解できたか。 ③人権の重要性と制限根拠について理解できたか。		
受講資格	短大1年生	成績評価 方法	ペーパー試験(80%)と出席状況(20%)
教科書	憲法【第二版】 弘文堂		
参考書	特に指定しない		
学生への要望	憲法および法律一般につき興味をもって欲しい。		
オフィスタイム	水曜日 授業開始前：創学館2階教務部非常勤講師室 授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	憲法総論①	憲法を学ぶことの意義、重要性、近代的意味の憲法について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	30
2	憲法総論②	近代的意味の憲法の特徴、日本国憲法の歴史	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
3	憲法総論③	国民主権の意義、平和主義（憲法9条の解釈）について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
4	基本的人権①	人権の概念、およびその重要性について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
5	基本的人権②	日本国憲法の人権の内容、人権の享有主体について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
6	基本的人権③	人権の限界、私人間における人権	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
7	基本的人権④	包括的基本権（特にプライバシーの権利を中心に）法の下での平等の意義	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
8	基本的人権⑤	内心の自由（特に信教の自由を中心に）につき判例をあげながら教える	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
9	基本的人権⑥	表現の自由の意義とその優越性について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
10	基本的人権⑦	経済的自由権	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
11	基本的人権⑧	財産権	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
12	基本的人権⑨	その他の人権について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
13	統治機構①	国会	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
14	統治機構②	内閣	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
15	統治機構③	裁判所	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

科目名	社会科学（経済）		対象 単位数 必選	短期大学部 健康栄養学科 1年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択
担当教員	長谷川 貴弘			
開講期	Ⅱ			
授業概要	<p>本授業の目的は、生活と密接にかかわる経済の基礎知識の習得と経済学的視点の確立である。不景気・デフレーション・円高・円安・インフレーション・消費生活・生活経済等、普段からニュースや新聞で取り上げられるが、これらの経済的事象は私達の生活と密接にかかわっている。これら経済的事象を経済学的視点で見る目を養うことを本授業の目的としたい。</p> <p>なお、在北京日本国大使館経済部での勤務経験を活かし、授業の中で経済統計の見方、マクロ経済の理論と実際について採り上げていく。</p> <p>○実務経歴 在北京日本国大使館経済部専門調査員として主に中国経済の分析に従事。</p>			
達成目標	経済的事象を経済学的視点で見る目を養うとともに、公務員試験の経済学の問題にも対応できる力を養うことを到達目標とする。			
受講資格	短期大学部 健康栄養学科、幼児教育学科、音楽科 1年生	成績評価 方法	①小テスト30点（15点×2回） ②課題（レポート）70点	
教科書	プリントを配布する。			
参考書	伊藤元重「はじめての経済学（上）（下）」日経文庫、他必要に応じ授業の中で紹介する。			
学生への要望	普段からニュースや新聞で取り上げられる経済関連の問題について関心を持つようにすること。			
オフィスタイム	火曜日 2コマ 水曜日4コマ 経営管理学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	ガイダンス・経済学とは何か①	授業の進め方、評価方法について解説する。経済学とは何かを説明する第一の例としてインフレーションとデフレーションを取り上げ、両者が私達の生活に与える影響について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
2	経済学とは何か②	第二の例として円安と円高を取り上げ、両者が私達の生活にどのような影響を与えるのかについて学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
3	経済学とは何か③	経済学をめぐる行われてきた政策論争（自由貿易vs保護貿易）について学修することを通じて経済学への理解を深める。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
4	消費生活と経済①	消費と消費者の概念について、消費者の権利と責任について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
5	消費生活と経済②	様々な消費者問題とクーリングオフについて学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
6	消費生活と経済③	グリーンコンシューマーとフェアトレードの概念について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
7	消費生活と経済④	消費生活と経済について総まとめ。 小テスト1回目	これまでの学修内容をノート・プリントを通じて復習し、小テストに備えること。	30
8	生活と経済-エンゲルの法則と家計調査①	世界と日本の家計研究の歴史について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
9	生活と経済-エンゲルの法則と家計調査②	エンゲルの法則とエンゲル係数の概念について学修する。	これまでの学修内容をノート・プリントを通じて復習しておくこと。	30
10	生活と経済-エンゲルの法則と家計調査③	近年のエンゲル係数の動向について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
11	マクロ経済学の基本と日本経済①	マクロ経済学（Macro Economics）が分析の対象とするGDP（国内総生産）の計算方法とその意味する点について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
12	マクロ経済学の基本と日本経済②	日本と世界のGDPのデータを通じて、それが意味するものについて学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。併せてレポートを作成すること。	60
13	地域経済～郡山市の経済について①	地域経済とは何かを解説した上で、私達が住んでいる郡山市の経済とその特徴について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。併せてレポートを作成すること。	60
14	地域経済～郡山市の経済について②	郡山市の経済とその特徴について学修する（前回の続き）。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。併せてレポートを作成すること。	60
15	まとめ	これまでの学修内容を確認する。 小テスト（2回目）	これまでの学修内容をノート・プリントを通じて復習し、小テストに備えること。	60

科目名	スポーツ実技	対象 単位数 必選	短期大学部 健康栄養学科 1年 1単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 1単位 選択
担当教員	佐藤 浩明		
開講期	I		
授業概要	<p>生活の基盤となる『健康なからだづくり』に欠かすことのできない運動の重要性や楽しさを理解し、生涯にわたって自分の健康や体力について配慮ができ、それらを保持増進していくために必要となる知識や方法について実技を通して学びます。また久光製菓スプリングス女子プロバレーボールチーム、オランダナショナル女子バレーボールチームの監督、コーチ実務経験を活かしコミュニケーションや協調性を指導します。</p> <p>①運動の重要性を理解し、健康との関連について学びます。 ②運動を通して、協調性、コミュニケーション能力、フェアプレーの精神について学びます。 ③運動を通して基礎体力の維持、向上する方法について学びます。 ≪第1回～10回、佐藤担当≫≪第11～15回 富本、高橋担当≫</p>		
達成目標	健康的な生活に欠かすことのできない運動の方法や効果、自ら健康について考え行動できる力を習得する。スポーツ種目に必要な技術を習得すると共にコミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知り人間力を身に付ける		
受講資格	健康栄養学科 1年生	成績評価 方法	取組姿勢40点 実技試験60点 ※本科目は実技科目のため出席、積極的な取組みを重視します)
教科書	特になし（必要に応じて資料等配布します）		
参考書	「健康・フィットネスと生涯スポーツ：大修館書店」「公認スポーツ指導者養成テキストⅠ・Ⅱ・Ⅲ：(財)日本体育協会」「スポーツトレーニング理論：日本文芸社」「ストレッチメソッド：高橋書店」		
学生への要望	自分の生活習慣に興味、関心を持ち、運動する習慣をつけてほしい。 【授業中】積極的に取組み、運動を楽しむこと。タオル、水分は各自で必ず持参すること。（体調管理および熱中症対策）		
オフィスタイム	火、水、木の9:00～16:00まで 創学館N04研究室 佐藤		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	ガイダンス	①授業目的、内容、進め方、評価方法の説明 ②服装、準備物の確認（注意事項含む） ③グループ分け	30
2	縄跳び①/からだづくりの運動	<p>【テーマ：運動習慣をつける第一歩として、コミュニケーションゲームやレクリエーションで楽しくからだを動かす】</p> <p>【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②コミュニケーションゲーム・体ほぐしの運動 ③レクリエーションゲーム ④からだづくりの運動 ⑤縄跳び（個人およびグループ） ⑥クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	30
3	縄跳び②/からだづくりの運動	<p>【テーマ：楽しくからだを動かしながらコーディネーショントレーニングで、からだの調整力を養う】</p> <p>【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②コーディネーショントレーニング ③レクリエーションゲーム ④からだづくりの運動 ⑤縄跳び（個人およびグループ） ⑥クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	30

回	項目	授業内容	
4	縄跳び③/からだづくりの運動	<p>【テーマ：楽しくからだを動かしながらコーディネーショントレーニングで、からだの調整力を養う】</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②コーディネーショントレーニング ③レクリエーションゲーム ④からだづくりの運動 ⑤縄跳び（個人およびグループ） ⑥クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	<p>ストレッチ、準備運動を行う。タオル、水分を準備する</p> <p>30</p>
5	フライングディスク④/からだづくりの運動	<p>【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④フライングディスク（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	<p>ストレッチ、準備運動を行う。タオル、水分を準備する</p> <p>30</p>
6	フライングディスク④/からだづくりの運動	<p>【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④フライングディスク（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	<p>ストレッチ、準備運動を行う。タオル、水分を準備する</p> <p>30</p>
7	フライングディスク④/からだづくりの運動	<p>【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④フライングディスク（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	<p>ストレッチ、準備運動を行う。タオル、水分を準備する</p> <p>30</p>

回	項目	授業内容	
8	フライングディスク④／からだづくりの運動	<p>【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④フライングディスク（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	<p>ストレッチ、準備運動を行う。タオル、水分を準備する</p> <p>30</p>
9	フライングディスク④／からだづくりの運動	<p>【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④フライングディスク（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	<p>ストレッチ、準備運動を行う。タオル、水分を準備する</p> <p>30</p>
10	ソフトバレーボール⑤／からだづくりの運動	<p>【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーションを発揮し楽しみながらグループで行う】</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④ソフトバレーボール（パス・レーシーブ・アタック・ミニゲーム） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	<p>ストレッチ、準備運動を行う。タオル、水分を準備する</p> <p>30</p>
11	ソフトバレーボール⑤／からだづくりの運動	<p>【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーションを発揮し楽しみながらグループで行う】</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④ソフトバレーボール（パス・レーシーブ・アタック・ミニゲーム） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	<p>ストレッチ、準備運動を行う。タオル、水分を準備する</p> <p>30</p>

回	項目	授業内容	
12	ソフトバレーボール⑤／からだづくりの運動	<p>【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】</p> <p>【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④ソフトバレーボール（パス・レーシーブ・アタック・ミニゲーム） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	<p>ストレッチ、準備運動を行う。タオル、水分を準備する</p> <p>30</p>
13	ソフトバレーボール⑤／からだづくりの運動	<p>【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】</p> <p>【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④ソフトバレーボール（パス・レーシーブ・アタック・ミニゲーム） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	<p>ストレッチ、準備運動を行う。タオル、水分を準備する</p> <p>30</p>
14	ソフトバレーボール⑤／からだづくりの運動	<p>【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】</p> <p>【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④ソフトバレーボール（パス・レーシーブ・アタック・ミニゲーム） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	<p>ストレッチ、準備運動を行う。タオル、水分を準備する</p> <p>30</p>
15	実技のまとめ	<p>≪まとめとして実技試験を行う≫</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②レクリエーションゲーム ③実技試験 ④クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑤体育館清掃</p>	<p>ストレッチ、準備運動を行う。タオル、水分を準備する</p> <p>30</p>

科目名	健康スポーツ論	対象 単位数 必選	短期大学部 健康栄養学科 1年 1単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 1単位 選択
担当教員	佐藤 浩明		
開講期	II		
授業概要	健康的な生活に欠かすことのできない運動の方法や効果、スポーツの意義、特性を理解し、生涯にわたって自ら健康について考え行動できる力を習得する。また久光製薬スプリングス女子プロバレーボールチーム、オランダナショナル女子バレーボールチームの監督、コーチ実務経験を活かしコミュニケーションや協調性を指導します。 ①運動と健康の関連を理解し、エクササイズの方法や身体についての基礎知識を学びます。 ②スポーツの意義を理解し、自分の健康や行動のありかたについて学びます。		
達成目標	健康的な生活に欠かすことのできない運動の方法や効果、自ら健康について考え行動できる力を習得する。スポーツ種目に必要な技術を習得すると共にコミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知り人間力を身に付ける		
受講資格	幼児教育学科 1年生 ※教職課程履修者は必修	成績評価 方法	レポート60点 平常点 40点（取組姿勢・提出物）
教科書	特になし（必要に応じて資料、課題を配布します）		
参考書	「健康・フィットネスと生涯スポーツ：大修館書店」「スポーツトレーニング理論：日本文芸社」「メンタルトレーニング：ベースボールマガジン社」「教養としてのスポーツ科学：大修館書店」		
学生への要望	自分の生活習慣に興味、関心を持ち、運動する習慣をつけてほしい。		
オフィスタイム	火・水・木の9:00～16:00まで創学館N04研究室（佐藤）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	オリンピックについて	オリンピックの歴史と現状やオリンピズム、オリンピック憲章について学び、スポーツが持つ魅力について学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う 30
2	生活と健康について①	《健康とは何か》 健康について考える導入として「健康の定義」をWHO（世界保健機関）の憲章をふまえた様々な角度から学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う 30
3	生活と健康について②	《生活習慣病の原因・対策・予防と運動》 ①生活習慣病の原因と予防、対策について理解し運動との関係について学びます。 ②運動・休養と健康の関係について学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う 30
4	生活と健康について③	《大学生の健康》 大学生の生活に潜む健康を害する危険について理解し、セルフライフマネジメントについて学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う 30
5	生活とスポーツについて①	《スポーツとは何か》 スポーツの意味を理解し、スポーツの社会的価値とスポーツに期待されることについて学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う 30
6	生活とスポーツについて②	《生涯スポーツについて》 生涯スポーツに関わることが自分の健康や生涯の楽しみにどう影響するのか、①行う ②観る ③支える ④調べるの視点から学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う 30
7	生活とスポーツについて③	《大学生とスポーツ》 大学生になり、高等学校まで必修で行われてきた体育の授業は著しく減少します。その中で自分の健康について興味を持ち、運動やスポーツについてどう関わることができるかについて学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う 30
8	スポーツから学ぶ①	《フェアプレーについて》 スポーツは定められたルールの中で勝敗を競い合うものです。それは日常生活や普段の行動にも通じるものがあります。ここではスポーツの中からフェアプレーについて学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う 30

科目名	キャリアデザインⅡ	対象 単位数 必選	短期大学部 健康栄養学科 1年 1単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 1単位 選択
担当教員	森 みい		
開講期	I		
授業概要	<p>【授業のねらい】 将来の社会生活や職業生活に向けて、自らの資質を向上させ、社会的職業的自立を図るために必要な能力を培い、幅広い人間形成を図ることを目的としています。社会人としての自覚と行動を視野に入れて、主体的にキャリア形成能力を育成します。働くことの実態、意義、面白みを体感していきます。インターンシップを推進して、学生の自己認識、社会・職業認識の深化を促し、就職意欲のある学生に対して、豊富かつ適切な就職情報を提供するとともに希望に添った就職活動が行えるよう支援します。</p> <p>【授業の概要】 インターンシップ（就業体験）を通じ、自らの専門や将来希望する職業の関連した職場での体験で、学んでいる内容と社会との関連性を認識し、今後の主体的な学修への動機付けを強め、職業を具体的に理解することで仕事の奥深さを実感していきます。働くことについて総合的に理解や仕事をする達成感、充実感、社会貢献を体得します。前期7回の講義、夏休み期間中のインターンシップ（5日間）、および、受け入れ企業のご担当者を招いた報告会から構成されています。インターンシップ終了後報告書を作成することで成果と課題を理解します。担当者は、大学・短大の就職部長であり、キャリアコンサルタントの資格を有し、長く就職指導にあたっています。</p>		
達成目標	<p>【授業終了時の達成目標】 インターンシップを通して、社会人として必要な能力と知識を学び、今後の学生生活の中に活かしていくことで、新たな学習意欲の契機となることを目標とします。仕事の奥深さを実感し、働くことへの理解、責任の重さや成し遂げる充実感や社会への貢献を感じ取る事を目的とします。担当者は、大学・短大の就職部長であり、キャリアコンサルタントの資格を有し、長く就職指導にあたっています。</p>		
受講資格	特になし	成績評価 方法	就業体験50%・授業参加30%・報告会10%・提出物10% 「認」評価判定
教科書	なし		
参考書	なし		
学生への要望	インターンシップは自分の変化や成長を実感できる機会です。広い視野を持ち、各個人のキャリアを考えて、新たな挑戦で自らの可能性の枠を広げてみてはどうでしょう。		
オフィスタイム	月曜日 9:00～12:30 水曜日 9:00～12:30 事前にご相談いただければそれ以外でも対応します。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	インターンシップの概要 4/18 (Vコマ)	インターンシップの概要説明で理解を深める、インターンシップの目的の明確化。各業界の今後の発展方向をみる。就業体験先の希望調査。「インターンシップ希望調査票」「志望理由」の提出をする。インター	0
2	インターンシップの心構え 5/16 (Vコマ)	インターンシップの取り組みを動画で見て、ワークを実施しながらインターンシップの考えを深化させていく。(ムビケーションの実施)	0
3	企業研究 (講演) 5/30 (Vコマ)	身近な若き経営者の講演を実施する。社会と協働する中で、自立した個人として人生をどう生きるかを考えながら、人間力や就業観の醸成及び学習意欲を高めていく。	0
4	事前指導 (ビジネス文書作成) 6/27 (Vコマ)	メールと封書でのお礼状の書き方を理解して実践する。また電話やメールのアポイントのとり方を学ぶ。また、就業体験先の決定をする。	0
5	事前指導 (マナー講座) 7/11 (Vコマ)	マナー講座実施を通して、言葉遣い、立ち居振る舞い、挨拶等、円滑な人間関係を築くための基礎を身に付ける。 就業体験先の打合せをする。	0
6	直前指導 (インターンシップ先の企業研究)7/25 (Vコマ)	業界・企業知識やインターンシップ(就業体験)の基本知識を学び、企業研究を深める。先輩の体験からインターンシップ直前の留意点を確認する。	0
7	インターンシップ(就業体験) 1班 8/19～8/23・2班8/26～8/30	各企業において、夏季休業中(8月中旬～下旬)に5日間のインターンシップ(就業体験)を行います。	0
8	インターンシップ報告会 9/5 (Iコマ)	事後報告会として、企業の方をお招きして報告会を実施する。	0
9	インターンシップ報告会 9/5 (IIコマ)	事後報告会として、企業の方をお招きして報告会を実施する。実習日誌を提出する。	0

科目名	情報処理 I	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員	山口 猛・米本 順子		
開講期	I		
授業概要	パソコンの普及及びネットワーク化の急激な進展を踏まえ、今後必要となる情報処理技術であるコンピュータ、ネットワーク及びオフィスソフトの基礎技術を学ぶ。とくに本演習ではオペレーティング・システム(OS)の基本操作・メールやウェブの利用方法・文書作成について学習する。また、IT企業でのシステムエンジニア勤務経験を活かし、実務的なパソコン活用力について考慮した授業を行う。 実務経歴：システムエンジニアとして株式会社エフコムに勤務		
達成目標	本演習における達成目標は次の通りとする。 1. オペレーティング・システム(OS)の基本的な操作ができること。 2. ウェブとメールを利用した情報収集および情報伝達ができること。 3. 文書作成・表計算ソフトウェアを利用し、必要な情報を盛り込んだ文書を作成することができること。		
受講資格	なし。	成績評価 方法	達成目標の到達度合いは課題により評価する。内容の区切りで課題を提示し演習と確認を行う。評価の比率は課題1を20%、課題2を40%、課題3を40%とする。
教科書	イチからしっかり学ぶ！ Office基礎と情報モラル、noa出版（2016）		
参考書	なし。		
学生への要望	授業内容を反復して練習すること。		
オフィスタイム	月曜日2・4限 芸術館2階 No.2生芸科研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	45
1	イントロダクション	この演習の目的・内容・単位数・教科書・成績評価について説明する。また演習を始めるにあたり、オリエンテーション時の内容を復習し、Webメールを利用、Windowsの基本操作ができるようにする。	45
2	ブラウザと検索	World Wide Web (WWW) を利用するために、ブラウザ・文字コード・Uniform Resource Locator・プロトコルなどのネットワークを利用する上での基礎事項を学習する。またインターネットの普及を踏まえた上で、インターネットを利用する上での注意事項について触れる。	45
3	Email	Email のアドレスの構造やメール転送の仕組みを学ぶ。メールアドレスの管理やメールのフィルタリング、TO, CC (Carbon Copy), BCC (Blind Carbon Copy) 違いなどメールの基本について学ぶ。また、安全に Email を利用する方法やまたローカルコンピュータ上のメーラーだけでなく、Gmail を用いて Web 上のメールの用法も理解する。	30
4	課題1	インターネット（ブラウザ・メールなど）の用法について、正しく利用できるか確認をする。また次回以降の教材の準備を行う。 教材のダウンロード http://www.noa-prolab.co.jp/download/	30
5	Wordによる文書作成1	Word を用いた文章作成について学ぶ。Word の画面構成と名称を学び、書式の意味とその設定を行う。また文章中での表の作成・挿入などの方法を学ぶ。	20
6	Wordによる文書作成2	表作成の操作として、列幅や行幅の変更・セルの結合・スタイルの設定等について学ぶ。さらにワードアートを始めとした図の挿入方法とその際の各種設定方法について学ぶ。	20
7	Wordによるレポート作成	レポート作成時に必要となる基本的な設定方法について学ぶ。また文章内に表やグラフを挿入する際に必要となる Excel の基礎知識、脚注や引用などについても学ぶ。	40

科目名	キャリアデザインⅡ	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 1単位 選択
担当教員	森 みい		
開講期	I		
授業概要	<p>【授業のねらい】 将来の社会生活や職業生活に向けて、自らの資質を向上させ、社会的職業的自立を図るために必要な能力を培い、幅広い人間形成を図ることを目的としています。社会人としての自覚と行動を視野に入れて、主体的にキャリア形成能力を育成します。働くことの実態、意義、面白みを体感していきます。インターンシップを推進して、学生の自己認識、社会・職業認識の深化を促し、就職意欲のある学生に対して、豊富かつ適切な就職情報を提供するとともに希望に添った就職活動が行えるよう支援します。</p> <p>【授業の概要】 インターンシップ（就業体験）を通じ、自らの専門や将来希望する職業の関連した職場での体験で、学んでいる内容と社会との関連性を認識し、今後の主体的な学修への動機付けを強め、職業を具体的に理解することで仕事の奥深さを実感していきます。働くことについて総合的に理解や仕事をやる達成感、充実感、社会貢献を体得します。前期7回の講義、夏休み期間中のインターンシップ（5日間）、および、受け入れ企業のご担当者を招いた報告会から構成されています。インターンシップ終了後報告書を作成することで成果と課題を理解します。担当者は、大学・短大の就職部長であり、キャリアコンサルタントの資格を有し、長く就職指導にあたっています。</p>		
達成目標	<p>【授業終了時の達成目標】 インターンシップを通して、社会人として必要な能力と知識を学び、今後の学生生活の中に活かしていくことで、新たな学習意欲の契機となることをことを目標とします。仕事の奥深さを実感し、働くことへの理解、責任の重さや成し遂げる充実感や社会への貢献を感じ取る事を目的とします。</p>		
受講資格	特になし	成績評価 方法	就業体験50%・授業参加30%・報告会10%・提出物10%「認」評価判定
教科書	なし		
参考書	なし		
学生への要望	インターンシップは自分の変化や成長を実感できる機会です。広い視野を持ち、各個人のキャリアを考えて、新たな挑戦で自らの可能性の枠を広げてみてはどうでしょう。		
オフィスタイム	月曜日 9:00～12:30 水曜日 9:00～12:30 事前にご相談いただければそれ以外でも対応します。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	インターンシップの概要 4/18 (Vコマ)	インターンシップの概要説明で理解を深める、インターンシップの目的の明確化。各業界の今後の発展方向をみる。就業体験先の希望調査。「インターンシップ希望調査票」「志望理由」の提出をする。インター	0
2	インターンシップの心構え 5/16 (Vコマ)	インターンシップの取り組みを動画を見て、ワークを実施しながらインターンシップの考えを深化させていく。(ムビケーションの実施)	0
3	企業研究 (講演) 5/30 (Vコマ)	身近な若き経営者の講演を実施する。社会と協働する中で、自立した個人として人生をどう生きるかを考えながら、人間力や就業観の醸成及び学習意欲を高めていく。	0
4	事前指導 (ビジネス文書作成) 6/27 (Vコマ)	メールと封書でのお礼状の書き方を理解して実践する。また電話やメールのアポイントのとり方を学ぶ。また、就業体験先の決定をする。	0
5	事前指導 (マナー講座) 7/11 (Vコマ)	マナー講座実施を通して、言葉遣い、立ち居振る舞い、挨拶等、円滑な人間関係を築くための基礎を身に付ける。 就業体験先の打合せをする。	0
6	直前指導 (インターンシップ先の企業研究)7/25 (Vコマ)	業界・企業知識やインターンシップ(就業体験)の基本知識を学び、企業研究を深める。先輩の体験からインターンシップ直前の留意点を確認する。	0
7	インターンシップ(就業体験) 1 班 8/19～8/23 ・ 2 班 8/26～8/30	各企業において、夏季休業中(8月中旬～下旬)に5日間のインターンシップ(就業体験)を行う。	0
8	インターンシップ報告会 9/5 (Iコマ)	事後報告会として、企業の方をお招きして報告会を実施する。	0
9	インターンシップ報告会 9/5 (IIコマ)	事後報告会として、企業の方をお招きして報告会を実施する。実習日誌を提出する。	0

科目名	図書館概論	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員	和知 剛		
開講期	I		
授業概要	「図書館」とは何か、その意義と役割を、その理念・歴史・教養の3つの面からそれぞれ説き起こす。		
達成目標	市井においては公共図書館のよき理解者であり利用者、大学においては大学図書館のよき利用者たることを目指す。担当教員はこれまで大学図書館に勤務してきた実務経験から得た、専門的な知識および専門的なスキルを活用して、図書館の過去と現在、そして図書館情報を図書館の現場に活用した未来（これからの図書館）について講義解説していく。		
受講資格	知識創成学科1年次に在籍する学生（司書課程受講者に限定しない）	成績評価 方法	レポート4割、期末試験6割で評価する
教科書	『図書館情報学基礎資料』樹村房		
参考書	大学図書館のNDC010-019に排架されている書籍はすべて参考書		
学生への要望	知識を学修する講義です。受講生の無断欠席は講義を受講する意志がないものとみなすことがある。		
オフィスタイム	月曜－木曜 8:30-17:05		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	イントロダクション	「読む」という行為について	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。
2	「図書館」とは何か	多様な「図書館」の定義と公共図書館vs公立図書館	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。
3	図書館施設・図書館建築	図書館建築に求められる機能と役割	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。
4	図書館資料	図書館資料の種類と求められる役割	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。
5	図書館員	図書館員に求められる役割	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。
6	図書館利用者	「図書館利用者」とは誰のことか	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。
7	図書館史(1)	図書館の起源・イギリスの公共図書館・アメリカの公共図書館	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。
8	図書館史(2)	日本の公共図書館史(1) 明治・大正時代まで	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。
9	図書館史(3)	日本の公共図書館史(2) 昭和戦前期	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。

回	項目	授業内容		
10	図書館史 (4)	日本の公共図書館史 (3) 戦後復興から『市民の図書館』の時代へ	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
11	図書館史 (5)	日本の公共図書館史 (4) ポスト『市民の図書館』の動き	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
12	「社会的共通資本」としての図書館	「図書館」に期待されている役割・場所としての図書館	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
13	図書館を支える基盤 (1)	著作権法制度について	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
14	図書館を支える基盤 (2)	出版流通 (出版者・取次・書店) と再販制度について	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
15	「図書館」とは何か・再び	これまでの講義のまとめとこれからの展望	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

科目名	情報処理Ⅱ	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員	山口 猛		
開講期	Ⅱ		
授業概要	いかなる職業においても必要なパソコン活用能力の習得に向けて、情報処理士の資格取得が目指せることは、ご承知の通りです。昨今の就職活動や就業後のキャリアアップにおいて注目されている、Microsoft Office Specialist Word2016の受験に相当する内容を学びます。また、IT企業でのシステムエンジニア勤務経験を活かし、実務的なパソコン活用力について考慮した授業を行います。 実務経歴：システムエンジニアとして株式会社エフコムに勤務		
達成目標	本演習における達成目標は次の通りとする。 1. Microsoft Office Specialist Word2016スペシャリストレベルの合格に必要なスキルを身につける 2. Word2016の応用的な利用方法を身につける 3. Word2016において、操作時の不明点を自分で調べ、解決することができる		
受講資格	なし。	成績評価 方法	達成目標の到達度合いは課題により評価する。内容の区切りで課題を提示し演習と確認を行う。評価の比率は課題1を20%、課題2を40%、課題3を40%とする。
教科書	Microsoft Word 2016 対策テキスト& 問題集		
参考書	なし。		
学生への要望	授業内容を反復して練習すること。		
オフィスタイム	月曜2・4限 芸術館2階 No.2生芸科研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容
1	イントロダクション	この演習の目的・内容・単位数・教科書・成績評価について説明する。また演習を始めるにあたり、パソコンのセットアップを行う。	パソコンのセットアップ後の、操作方法を復習する。 30
2	文書の作成と管理（1）	テンプレート、PDF作成、外部データインポート、検索、ハイパーリンク、ページ設定、ヘッダー・フッター、頁番号、プロパティ設定、クイックアクセストールバー設定、アクセシビリティ検査、下位バージョン互換性検査	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。 60
3	文書の作成と管理（2）	2回目と同じ。（テンプレート、PDF作成、外部データインポート、検索、ハイパーリンク、ページ設定、ヘッダー・フッター、頁番号、プロパティ設定、クイックアクセストールバー設定、アクセシビリティ検査、下位バージョン互換性検査）	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。 60
4	文字、段落、セクションの書式設定（1）	置換、オートコレクト、特殊文字、フォント変更、行の間隔、段落の間隔、配置、インデント、書式コピー、強調表示、ワードアート、組み込みスタイル、ページ区切り、段組み、セクション区切り	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。 60
5	文字、段落、セクションの書式設定（2）	4回目と同じ。（置換、オートコレクト、特殊文字、フォント変更、行の間隔、段落の間隔、配置、インデント、書式コピー、強調表示、ワードアート、組み込みスタイル、ページ区切り、段組み、セクション区切り）	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。 60
6	表やリストの作成（1）	表作成、文字列→表変換、表→文字列変換、テーブルスタイル、データ並び替え、セルの予約、セル結合・分割、サイズ調整、タイトル行繰り返し、箇条書き、段落番号、行頭文字、リストレベル変更	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。 60
7	表やリストの作成（2）	6回目と同じ。（表作成、文字列→表変換、表→文字列変換、テーブルスタイル、データ並び替え、セルの予約、セル結合・分割、サイズ調整、タイトル行繰り返し、箇条書き、段落番号、行頭文字、リストレベル変更）	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。 60
8	参考資料の作成と管理（1）	脚注、文末脚注、資料文献、引用文献、図表番号、目次、表紙	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。 60
9	参考資料の作成と管理（2）	8回目と同じ。（脚注、文末脚注、資料文献、引用文献、図表番号、目次、表紙）	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。 60
10	グラフィック要素の挿入と書式設定（1）	図形挿入、スクリーンショット挿入、テキストボックス挿入、アート効果、図の背景削除、図の効果、図のスタイル、オブジェクト書式設定、SmartArt	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。 60
11	グラフィック要素の挿入と書式設定（2）	10回目と同じ（図形挿入、スクリーンショット挿入、テキストボックス挿入、アート効果、図の背景削除、図の効果、図のスタイル、オブジェクト書式設定、SmartArt）	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。 60

回	項目	授業内容		
12	模擬試験（1）	模擬試験の実施と解説。	模擬試験プログラムの実施結果から、不正解箇所の解説動画を閲覧する。	60
13	模擬試験（2）	模擬試験の実施と解説。	模擬試験プログラムの実施結果から、不正解箇所の解説動画を閲覧する。	60
14	模擬試験（3）	模擬試験の実施と解説。	模擬試験プログラムの実施結果から、不正解箇所の解説動画を閲覧する。	60
15	まとめ	総合確認と、Microsoft Office Specialist Word2016 スペシャリストレベル 受験計画	授業内で指定する模擬試験について、 100%中80%程度の正解率を目指し、実施する。	60

科目名	情報処理Ⅲ	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択
担当教員	山口 猛		
開講期	Ⅲ		
授業概要	いかなる職業においても必要なパソコン活用能力の習得に向けて、情報処理士の資格取得が目指せることは、ご承知の通りです。昨今の就職活動や就業後のキャリアアップにおいて注目されている、Microsoft Office Specialist Excel2016の受験に相当する内容を学びます。また、IT企業でのシステムエンジニア勤務経験を活かし、実務的なパソコン活用能力について考慮した授業を行います。 実務経歴：システムエンジニアとして株式会社エフコムに勤務		
達成目標	本演習における達成目標は次の通りとする。 1. Microsoft Office Specialist Excel2016スペシャリストレベルの合格に必要なスキルを身につける 2. Excel2016の応用的な利用方法を身につける 3. Excel2016において、操作時の不明点を自分で調べ、解決することができる		
受講資格	なし。	成績評価 方法	達成目標の到達度合いは課題により評価する。内容の区切りで課題を提示し演習と確認を行う。評価の比率は課題1を20%、課題2を40%、課題3を40%とする。
教科書	Microsoft Excel 2016 対策テキスト& 問題集		
参考書	なし。		
学生への要望	授業内容を反復して練習すること。		
オフィスタイム	月曜2・4限 芸術館2階 No.2生芸科研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容
1	イントロダクション	この演習の目的・内容・単位数・教科書・成績評価について説明する。また演習を始めるにあたり、パソコンのセットアップを行う。	パソコンのセットアップ後の、操作方法を復習する。 30
2	ワークシートやブックの作成と管理 (1)	1-1 ワークシートやブックを作成する 1-2 ワークシートやブック内を移動する 1-3 ワークシートやブックの書式を設定する	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。 60
3	ワークシートやブックの作成と管理 (2)	1-4 ワークシートやブックのオプションと表示をカスタマイズする 1-5 配布するためにワークシートやブックを設定する 確認問題	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。 60
4	セルやセル範囲のデータの管理 (1)	2-1 セルやセル範囲にデータを挿入する 2-2 セルやセル範囲の書式を設定する 2-3 データをまとめる、整理する 確認問題	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。 60
5	テーブルの作成	3-1 テーブルを作成する、管理する 3-2 テーブルのスタイルと設定オプションを管理する 3-3 テーブルのレコードを抽出する、並べ替える 確認問題	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。 60
6	数式や関数を使用した演算の実行	4-1 関数を使用してデータを集計する 4-2 関数を使用して条件付きの計算を実行する 4-3 関数を使用して書式を設定する、文字列を変更する 確認問題	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。 60
7	表やリストの作成	6回目と同じ。(表作成、文字列→表変換、表→文字列変換、テーブルスタイル、データ並び替え、セルの予約、セル結合・分割、サイズ調整、タイトル行繰り返し、箇条書き、段落番号、行頭文字、リストレベル変更)	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。 60
8	参考資料の作成と管理 (1)	脚注、文末脚注、資料文献、引用文献、図表番号、目次、表紙	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。 60
9	参考資料の作成と管理 (2)	8回目と同じ。(脚注、文末脚注、資料文献、引用文献、図表番号、目次、表紙)	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。 60
10	グラフィック要素の挿入と書式設定 (1)	図形挿入、スクリーンショット挿入、テキストボックス挿入、アート効果、図の背景削除、図の効果、図のスタイル、オブジェクト書式設定、SmartArt	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。 60
11	グラフィック要素の挿入と書式設定 (2)	10回目と同じ(図形挿入、スクリーンショット挿入、テキストボックス挿入、アート効果、図の背景削除、図の効果、図のスタイル、オブジェクト書式設定、SmartArt)	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。 60

回	項目	授業内容		
12	模擬試験（1）	模擬試験の実施と解説。	模擬試験プログラムの実施結果から、不正解箇所の解説動画を閲覧する。	60
13	模擬試験（2）	模擬試験の実施と解説。	模擬試験プログラムの実施結果から、不正解箇所の解説動画を閲覧する。	60
14	模擬試験（3）	模擬試験の実施と解説。	模擬試験プログラムの実施結果から、不正解箇所の解説動画を閲覧する。	60
15	まとめ	総合確認と、Microsoft Office Specialist Excel2016スペシャリストレベル 受験計画	授業内で指定する模擬試験について、100%中80%程度の正解率を目指し、実施する。	60

科目名	考古学	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員	會田 容弘		
開講期	Ⅱ		
授業概要	東北大学文学部考古学研究室助手として考古学教育の補助、奥松島縄文村歴史資料館学芸員として博物館経営・文化財保護行政を担ってきた。考古学は物から人類の過去を明らかにする学問である。考古資料というモノからどのようにして人類の過去を明らかにするのか、考古学の基本的な考え方、方法について講義を行う。		
達成目標	<到達目標>考古学の基本概念、用語を理解し、考古学論文を読解するの十分な知識を得ること。		
受講資格	地域創成学科学生	成績評価 方法	試験結果と授業への積極的な参加度を評価し、100点を満点とする。60点以上を合格とする。考古学で卒業論文を作成する学生は、講義内容の8割以上の理解が望ましい。
教科書	浜田耕作『通論考古学』、泉拓良『考古学—その方法と現状』		
参考書	授業の中で紹介する。		
学生への要望	予習復習を行うこと。シラバスを参考にして、事前学習を行うこと講義で用いたパワーポイントは講義後、公開するので、復習で授業内容を確認すること。		
オフィスタイム	火曜日3時限目、水曜日2・4時限目。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	考古学とは何か	考古学的な思考の成立と簡単な研究史を述べた上で、考古学の定義と範囲について述べる。考古学のめざすものについて、考古学の現代的諸問題を説明する。	授業内容を整理し、パワーポイント資料を閲覧する。	30
2	考古資料論（1）	考古資料については浜田耕作の定義を紹介し、遺物、遺構、遺跡について説明し、それらを分類し、その特質を説明する。考古資料の特質、考古資料の資料的価値、考古学の限界について説明する。	授業内容を整理し、パワーポイント資料を閲覧する。	30
3	考古資料論（2）	考古資料の分類を説明し、実際の遺物を実例を示しながら説明する。	授業内容を整理し、パワーポイント資料を閲覧する。	30
4	発掘調査の方法	分布調査、測量調査、予備調査、本調査の方法について説明し、さらに文化財保護法にある発掘調査の法的手続きについて説明する。	授業内容を整理する。	30
5	発掘調査の実例	郡山女子大学短期大学部文化学科考古学研究室で2001年から継続して行っている笹山原遺跡No.16の調査の積み重ねとその成果について、記録画像を見ながら説明する。宮城県東松島市里浜貝塚の発掘調査について調査の記録画像を見ながら説明する。	授業内容を整理し、パワーポイント資料を閲覧する。	30
6	文化財保護法	日本では考古学と文化財は不可分の関係にある。戦後日本の考古学は埋蔵文化財保護のために莫大な予算を投入した。その法的背景にある文化財保護法について説明する。	授業で取り上げた文化財保護法を指定HPからダウンロードし、熟読すること。	30
7	層位的研究法	特殊的研究法のひとつである層位的研究法を概説する。 層位的編年の例 1) 洞窟堆積層によるフランス旧石器の編年 2) 火山灰編年学を用いた広域編年 3) 貝塚堆積層を用いた縄文土器編年	授業内容を整理する。	30
8	層位的研究法の実例	松本彦七郎博士の里浜貝塚の層位的発掘調査について、東北大学理学部に保管されていた松本資料を用いて再検討を行った。その結果松本博士は正しく層位的発掘を行っていたことが明らかになった。	授業内容を整理し、パワーポイント資料を閲覧する。	30
9	型式学的研究法	古典的型式学。浜田耕作の型式学を説明し、O. モンテリウスや田中琢の例示した型式の組列を説明する。	授業内容を整理し、パワーポイント資料を閲覧する。	30
10	型式学的研究法の実例	型式の考古学的意味について考える。J. デーツとデスレフスの「ドクロ、智天使、柳と骨壺」の論文を説明し、型式の意味を考える。型式の認定方法について様々な議論がある。ホッドソンが4人の考古学者と1人の解剖学者に留め針を分類させた結果とコンピュータを用いた分析について説明する。	授業内容を整理する。	30

回	項目	授業内容	
11	暦年代決定の方法	暦は年代決定の物差しである。キリスト紀元をいかにさかのぼらせることができるか。エジプト王名表をもとに、民衆暦とソティス暦を繋ぎ合わせたマイヤーの研究を紹介する。	授業内容を整理し、パワーポイント資料を閲覧する。
12	暦年代決定の実例	日本の先史時代の暦年代は中国の暦に頼らざるを得ない。中国と直接交渉のない時代は朝鮮半島を経由して暦年代を決定している。暦年代を決定する資料を紹介しながら、日本の暦年代について説明する。日本国内においても、暦年代を決定するためには大きな困難を伴う。文献と考古資料の間がそこにはある。文献や文字資料を用いて考古資料の相対編年に暦年代を与える問題点を検討する。	授業内容を整理する。
13	理化学的年代決定法（1）	理化学的年代決定法は暦とはまったく別の原理に基づいて年代を決定する方法である。地球の周期的な変化に基づく年代推定法と不安定な原子が崩壊する速度を時間の単位する方法がある。まず、地球の周期的な変化から説明する。年輪年代決定法の原理と実際の応用例について説明する。	授業内容を整理し、パワーポイント資料を閲覧する。
14	理化学的年代決定法（2）	放射性炭素年代測定法の原理を説明し、その実際の測定方法、測定資料、測定例を紹介する。放射性炭素年代測定法の登場によって考古学界に起こった短期編年・長期編年論争について説明する。放射性炭素年代決定法によって明らかになった年代の実例。放射性炭素年代測定法の補正によって暦年代に置きなおされた年代とその問題点を検討する。	授業内容を整理し、パワーポイント資料を閲覧する。
15	考古学と現代社会	考古学と現代社会の関係を述べ、考古学の将来を考える。	授業内容を整理する。

科目名	介護概論		対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択
担当教員	廣野 正子			
開講期	IV			
授業概要	介護の社会化の背景を理解し介護の意義について演習を通して考える。介護は対人援助であることから、人の理解としてからだのメカニズムを基に学生自身のからだを使うということを意識化して介護が必要な方の理解につなげる。 実務経験：社会福祉法人での介護職と相談援助の実務経験をもとに介護について授業を行う。 実務経歴：社会福祉法人にて介護福祉士として介護業務と生活相談員として勤務。			
達成目標	1. 介護の社会化による介護保険制度を理解する。 2. 地域における高齢者を把握し、介護を必要とするひとを理解する。 3. からだのメカニズムを理解し、自身の体調管理につなげることができる。			
受講資格	地域創成学科 2年生	成績評価 方法	リアクションペーパー15回分 (75点) レポート課題 (25点)	
教科書	ありません。授業毎に必要な資料等を配布します。			
参考書	授業の中で随時紹介します。			
学生への要望	介護は身近な課題であることを理解し、主体的に学んでください。			
オフィスタイム	時間：水曜日2限、木曜日2限 場所：創学館4階No.1研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	ガイダンス	1. 授業の目的とシラバスについて説明 2. 介護保険から介護の社会化を考える	出身地の地域の人口構造について調べてくる。詳細の項目は授業の中で指示します。	60
2	介護の理解	1. 要介護状態の理解 2. 地域における介護事情を考える	出身の地域について、特徴になるような項目について調べ発表できるようにしてくる。	60
3	介護の理解	1. 地域における介護事情のまとめ 2. 家族における介護と専門職の介護の違い	からだのしくみの資料を参照してわからない点を明らかにする。	30
4	からだのしくみ	1. 介護に関するからだのしくみの基礎的理解 2. ボディメカニクスの理解と活用	からだのしくみの資料を参照してわからない用語などについて調べておく。	60
5	老化の理解	1. 老年期に伴う心身機能の低下 2. 老年期に要介護に至る原因	身近な高齢者を観察して動作などの特徴について、気がついたことをまとめる。	60
6	高齢者の理解 (演習)	1. 高齢者疑似体験	本日の体験から、日常生活での不便なところを具体的にあげる。	60
7	高齢者の理解	1. 高齢者疑似体験から高齢者に必要な介護を考える	ボディメカニクスの資料を読み、日常生活動作で意識して実践してみる。	60
8	介護技術 (演習)	1. ボディメカニクスを活用した移動介助(W/C操作)	本日の体験から、日常生活での移動動作の頻度を確認する。	60
9	介護技術 (演習)	1. ボディメカニクスを活用した移動介助から考察	認知症の資料を参照してわからない用語などについて調べておく。	60
10	認知症の理解	1. 認知症の定義と症状 2. 認知症の原因疾患とその病態	認知症の方が日常生活で抱える課題はなにか、考え等をまとめる。	60
11	認知症の理解	1. 寺本ハルさん (DVD) の事例から本人、家族の葛藤を考察する。	自律神経系に関する資料を読んで、わからない用語を調べておく。	60
12	アロマセラピー	1. 自律神経と内部気管に関する基礎知識 2. アロマセラピーの定義	日常生活の中にどのような香りがあるか意識して記録する	60
13	アロマセラピー	1. 高齢者とアロマセラピー 2. 介護者とアロマセラピー	日常生活でアロマセラピーを取り入れたい場面や状況をまとめる。	60
14	アロマセラピー (演習)	1. 女性のからだのリズム 2. アロマセラピーの取り入れ方	演習で作成したアロマグッズを使い、使用後の変化を記録する。	30
15	介護概論のまとめ	1. これまでの授業の総括	授業になかで指示されたことをレポートにまとめる。	120

科目名	写真基礎	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 1単位 選択
担当教員	山口 郁生		
開講期	Ⅱ期		
授業概要	写真の基本的な教養を身につけるとともに、実習をとおして撮影、画像調整の技術を学習します。		
達成目標	1. 写真の基本的な教養を身につける。 2. 学生各自の研究領域に生かせる写真を思い通りに撮影できるようになる。 ※実務経験：カメラマンとして株式会社企画室・コアに勤務。		
受講資格	地域創成学科1年	成績評価 方法	①レポート提出 40% ②課題ノート提出 30% ③学習態度 30%
教科書	特に指定しない。		
参考書	特に指定しない。		
学生への要望	1. デジタルカメラ（スマートフォン以外、コンパクトデジタルカメラ可）と、8～16GBのコンパクトメモリーフラッシュを準備すること。 2. 限られた時間内でできるだけ写真を撮影、出力することを目的に、毎週課題ノートを提出してもらいます。ノートの提出は毎週欠かさないこと。		
オフィスタイム	木曜Ⅳ・Ⅴ限（No.1生芸研究室・No.1工芸室）		
自学自習	課題ノートの作成などで学んだことを自分のものできるように、事後学習を2時間程度おこなってください。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	①現代写真家列伝	(1) 梅佳代、(2) 森山大道、(3) 「人形の都」以上を参考に自分にとっての写真表現とは何かについて考える	自主撮影・印刷	30
2	写真の歴史	写真の発明から現在までを欧州から日本に分けて学習	自主撮影・印刷	30
3	写真機の構造と種類	カメラの構造を知ることにより何故、画像を定着できるかを学習	自主撮影・印刷	30
4	デジタルカメラについて	現在主流のデジタルカメラについて、撮影方法について構造を学習	自主撮影・印刷	30
5	画像編集ソフトについて	GINPを用いて撮影画像のパソコンへの取り込み、画像調整を学習	自主撮影・印刷	30
6	人物撮影学習	デジタルカメラによる人物撮影	自主撮影・印刷	30
7	画像編集実習	画像のパソコンへの取り込み→画像調整の実習	自主撮影・印刷	30
8	①画像編集実習→写真出力→仕上げ	画像調整の終わった写真をプリントして仕上げの実習	自主撮影・印刷	30
9	②画像編集実習→写真出力→仕上げ	画像調整の終わった写真をプリントして仕上げの実習	自主撮影・印刷	30
10	②現代写真家列伝	(4) 川内倫子、(5) 藤原新也 以上を参考に自分にとっての写真表現とは何かについて考える	自主撮影・印刷	30
11	①静物撮影実習	写真スタジオでスティルライフの撮影実習	自主撮影・印刷	30
12	②静物撮影実習	写真スタジオでスティルライフの撮影実習	自主撮影・印刷	30
13	①画像編集実習→写真出力→仕上げ	撮影画像のパソコンへの取り込み→画像調整→出力→仕上げ	自主撮影・印刷	30
14	②画像編集実習→写真出力→仕上げ	撮影画像のパソコンへの取り込み→画像調整→出力→仕上げ	自主撮影・印刷	30
15	まとめ	撮影作品、課題提出ノートの合評会	自主撮影・印刷	30

科目名	考古学実習	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択
担当教員	會田 容弘		
開講期	通年		
授業概要	東北大学文学部考古学研究室助手として考古学教育の補助、奥松島縄文村歴史資料館学芸員として博物館経営・文化財保護行政を担ってきた。史跡整備、埋蔵文化財の範囲確認・試掘・記録保存、学術調査などのさまざまな目的の発掘調査の実務経験を活かし、遺跡の発掘調査準備、調査、整理作業の実習を行う。5月に実施する実習発掘調査に向けて、様々な発掘調査の方法、実際について講義と実習を行ないながら学んでゆく。本年は5月11日から21日まで笹山原遺跡No. 16の実習発掘を実施する。受講者は発掘調査に参加しなくてはならない。発掘調査終了後は、発掘調査で出土した遺物の整理を行う。		
達成目標	<到達目標>発掘調査の全過程を理解し、実際の発掘調査を行う場合、作業、資料整理の流れを理解できるレベルに到達できること。発掘調査・報告書製作補助ができること。		
受講資格	1年次において考古学を履修しているか、考古学の基本知識を有していること。	成績評価 方法	レポート及び実習課題と授業への積極的な貢献状況を100点を満点として評価する。60点以上で合格とするが卒業論文を考古学で作成する学生は80%以上の理解が必要である。
教科書	『発掘調査のてびき』		
参考書	文化学科（資格課程）報告集第4～21集		
学生への要望	考古学実習を受講する学生は5月に実施する笹山原遺跡No. 16の発掘調査に参加しなくてはなりません。何らかの事情で、全期間発掘調査に参加できない学生は會田に相談してください。		
オフィスタイム	火曜日3時限目・水曜日2・4時限目。メールの質問も可。レポート作成に関する質問を行う場合は事前にメールで質問内容を示してアポをとること。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	猪苗代湖の自然史	笹山原遺跡群の位置する猪苗代湖の自然史について、福島大学を中心とした研究成果を紹介する。磐梯山の火山学的研究と湿原のボーリング調査によって得られた植生史から、人類が生活できる環境の変遷を述べる。	過去の発掘調査の理解。 30
2	笹山原遺跡群の調査史	郡山女子大学短期大学部考古学研究室によって実施された、笹山原A遺跡、No. 8遺跡、No. 16遺跡の発掘調査の調査成果を紹介する。	過去の発掘調査の理解。 30
3	発掘調査の方法	遺跡発掘調査方法について笹山原遺跡No. 16の調査を示しながら講義を行う。	過去の発掘調査の理解。 30
4	発掘調査の実際（1）	発掘調査で用いる機材の名称、使い方について講義を行い、それを用いた実習を行なう。	過去の発掘調査の理解。 30
5	発掘調査の実際（2）	発掘調査における記録方法を説明する。出土位置の記録方法、レベルの使い方、平面図の描き方、層序断面図の描き方を説明する。発掘現場で用いる野帳の使い方、毎日記録する調査日誌の書き方を説明する。	過去の発掘調査の理解。 30
6	発掘調査の実際（3）	教室内に発掘調査区を模擬的に作り、遺物の出土記録の取り方の実習を行なう。	過去の発掘調査の理解。 30
7	発掘調査実習（1）	笹山原遺跡No. 16の発掘調査。II a層上面の精査及び掘り下げ。	発掘調査の記録の整理。 30
8	発掘調査実習（2）	笹山原遺跡No. 16の発掘調査。II a層上面の精査及び掘り下げ。	発掘調査の記録の整理。 30
9	発掘調査実習（3）	笹山原遺跡No. 16の発掘調査。II a層上面の精査及び掘り下げ。	発掘調査の記録の整理。 30
10	発掘調査実習（4）	笹山原遺跡No. 16の発掘調査。II b層の掘り下げ。縄文時代前期出土資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録の整理。 30
11	発掘調査実習（5）	笹山原遺跡No. 16の発掘調査。II b層の掘り下げ。縄文時代前期出土資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録の整理。 30
12	発掘調査実習（6）	笹山原遺跡No. 16の発掘調査。II b層の掘り下げ。縄文時代前期出土資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録の整理。 30
13	発掘調査実習（7）	笹山原遺跡No. 16の発掘調査。III層の掘り下げ。旧石器資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録の整理。 30
14	発掘調査実習（8）	笹山原遺跡No. 16の発掘調査。III層の掘り下げ。旧石器資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録の整理。 30
15	発掘調査実習（9）	笹山原遺跡No. 16の発掘調査。III層の掘り下げ。旧石器資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録の整理。 30
16	発掘調査実習（10）	笹山原遺跡No. 16の発掘調査。IV層aの掘り下げ。旧石器資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録の整理。 30

回	項目	授業内容	
17	発掘調査実習（11）	笹山原遺跡NO.16の発掘調査。IV層aの掘り下げ。旧石器資料の出土位置の記録及び取り上げ	発掘調査の記録の整理。 30
18	発掘調査実習（12）	笹山原遺跡NO.16の発掘調査。IV層aの掘り下げ。旧石器資料の出土位置の記録及び取り上げ	発掘調査の記録の整理。 30
19	発掘調査のまとめ	発掘調査経過、調査内容、最終的な調査成果について説明する。	授業で行った作業の復習として作業を行う。 30
20	資料整理実習（1）	発掘調査で得られた資料の水洗い、ネーミング、石器接合、石器母岩分類、図面整理の実習。	授業で行った作業の復習として作業を行う。 30
21	資料整理実習（2）	発掘調査で得られた資料の水洗い、ネーミング、石器接合、石器母岩分類、図面整理の実習。	授業で行った作業の復習として作業を行う。 30
22	資料整理実習（3）	発掘調査で得られた資料の水洗い、ネーミング、石器接合、石器母岩分類、図面整理の実習。	授業で行った作業の復習として作業を行う。 30
23	資料整理実習（4）	発掘調査で得られた資料の水洗い、ネーミング、石器接合、石器母岩分類、図面整理の実習。	授業で行った作業の復習として作業を行う。 30
24	資料整理実習（5）	縄文土器整理法。縄文土器の製作技術、型式、機能について観察方法を説明し、実習を行う。	授業で行った作業の復習として作業を行う。 30
25	資料整理実習（6）	縄文土器の記録方法としての拓本、実測について説明し、実習を行う。	授業で行った作業の復習として作業を行う。 30
26	資料整理実習（7）	石器の実測法。石器製作技術の説明を行い、石器実測図の描き方を説明する。	授業で行った作業の復習として作業を行う。 30
27	資料整理実習（8）	石器実測実習。石器の実測図を描く実習を行なう。	授業で行った作業の復習として作業を行う。 30
28	資料整理実習（9）	石器・縄文土器の写真撮影方法を説明し、実習を行う。	授業で行った作業の復習として作業を行う。 30
29	資料整理実習（10）	報告書作成のための図版作成方法を説明し、実習を行う。	授業で行った作業の復習として作業を行う。 30
30	発掘調査・整理の成果	考古学実習の総まとめを行う。	授業で行った作業の復習として作業を行う。 30

科目名	図書館サービス概論	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択	
担当教員	和知 剛			
開講期	Ⅱ			
授業概要	公共図書館をはじめとする各館種で行われている「図書館サービス」の種類とそのあらしを学びます			
達成目標	図書館サービスの内容を覚え、図書館で働く際はもとより、図書館を利用する側になったときも、的確なサービスを選択し図書館を効率的に利用できる社会人になる。担当教員はこれまで大学図書館に勤務してきた実務経験から得た、専門的な知識および専門的なスキルを活用して、図書館の過去と現在、そして図書館情報学を図書館の現場に活用した未来（これからの図書館）について講義解説していく。			
受講資格	地域創成学科に所属し、図書館司書課程を選択している学生	成績評価 方法	レポート5割、期末試験5割	
教科書	講義ではその都度プリントを配布します			
参考書	参考書よりも、自ら図書館利用者となって足繁く通い、実際に様々なサービスを享受することが講義の参考になります			
学生への要望	知識を学修する講義です。受講生の無断欠席は講義を受講する意志がないものとみなすことがあります。			
オフィスタイム	月曜－木曜 8:30-17:05			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	イントロダクション	「図書館サービス」のあらし：意義と理念	0
2	館種によるサービスの違い	公共、大学、学校、専門の各館種それぞれの図書館	0
3	貸出サービス	『市民の図書館』に由来する「貸出し」と貸出至上主義	0
4	読書相談サービス	資料選択のお手伝い	0
5	レファレンスサービス	課題解決型サービス、ビジネス支援サービス	0
6	イベントの提供	ビブリオバトル、TRPG、ぬいぐるみお泊まり会ほか	0
7	主題別サービス	法情報、医療情報（闘病記文庫など）、地域資料（郷土資料）ほか	0
8	利用者支援サービス	以前は「利用者教育」と称した、図書館利用者への図書館利用上情報提供の要得を主とした図書館活	0
9	アウトリーチサービス	図書館に来館せずに利用できるデリバリーサービスや	0
10	図書館による情報発信	図書館サービスに関する情報発信（図書館からのお知らせ）に留まらない情報発信の重要性	0
11	多文化サービス	民族的、言語的、文化的少数者（マイノリティ）への	0
12	高齢者へのサービス	認知症のひととその家族へのサービス、ほか	0
13	子供向けのサービス	児童サービス、ヤングアダルト（YA）サービスほか	0
14	障害のあるひとへのサービス	視覚、聴覚、身体、精神にそれぞれ障害のあるひとへの図書館のアクセシビリティ	0
15	講義のまとめ	「図書館サービス」の今後の展望を考える	0

科目名	図書館情報資源概論		対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員	和知 剛			
開講期	II			
授業概要	図書館で扱う様々な情報資源について学ぶとともに、情報資源が図書館に届くまでにどのような仕事が行われているのか、また実際に図書館で情報資源を扱う際に必須の知識である著作権法制度についても学ぶ。 担当教員はこれまで大学図書館に勤務してきた実務経験から得た、専門的な知識および専門的なスキルを活用して、図書館の過去と現在、そして図書館情報学を図書館の現場に活用した未来（これからの図書館）について講義解説していく。			
達成目標	図書館で扱う情報資源が書籍・雑誌以外にも様々なものがあること、また図書館の情報資源は図書館のみによって賄われているものではないこと、情報資源の利用には著作権法制度の知識が不可欠であることを覚える。			
受講資格	地域創成学科に在籍し司書課程を受講している学生	成績評価 方法	レポート4割、期末試験6割で評価します。	
教科書	その都度プリントを配布。			
参考書	NDC014, 021, 023に分類される書籍			
学生への要望	知識を習得する講義です。受講生の無断欠席は受講を継続する意志がないものとみなすことがあります。			
オフィスタイム	月曜－木曜 8:30-17:05			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	イントロダクション	アナログからデジタルへ	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。
2	図書館が扱う様々な情報資源	日本目録規則1987年版の目次に基づき概観する	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。
3	印刷資料 (1)	書籍について、その形状と種類	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。
4	印刷資料 (2)	継続資料 (雑誌、白書、年鑑類)	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。
5	印刷資料 (3)	新聞・地図・絵画・その他	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。
6	点字資料・音声資料など	主に、読むことに難のあるひとへの情報資源	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。
7	ネットワーク情報資源	インターネット上にある資料	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。
8	電子書籍	電子書籍の現状と課題 (音楽配信サービスを含む)	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。
9	電子ジャーナル	電子ジャーナルの歴史と現状	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。

回	項目	授業内容		
10	灰色文献	一般に流通しない資料・政府刊行物など	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
11	出版流通（1）	出版者の仕事（編集）	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
12	出版流通（2）	出版者・取次・書店間の書籍の流通の現状と課題	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
13	著作権法制度（1）	現在の著作権法制度	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
14	著作権法制度（2）	現在の著作権法制度（続）とその課題	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
15	まとめ	これまでのおさらいと、情報資源の展望	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

科目名	情報資源組織論	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択	
担当教員	和知 剛			
開講期	I			
授業概要	図書館業務において「混沌（カオス）」から「秩序（コスモス）」を作り出し、利用者に必要な情報資源を提供しやすくしておくことの手段のひとつが「情報資源の組織化」であることを学ぶ。担当教員はこれまで大学図書館に勤務してきた実務経験から得た、専門的な知識および専門的なスキルを活用して、図書館の過去と現在、そして図書館情報学を図書館の現場に活用した未来（これからの図書館）について講義解説していく。			
達成目標	情報資源および情報資源の組織化に関する基礎的な知識を修得することを目標とする			
受講資格	地域創成学科に在籍し図書館司書課程を受講している学生	成績評価 方法	レポート4割、期末試験6割で評価します。	
教科書	プリントをその都度配布します			
参考書	『知識資源のメタデータ』（谷口・緑川）、『情報資源の組織化と提供』（根本・岸和田）など			
学生への要望	知識を習得する講義です。受講生の無断欠席は受講を継続する意志がないものとみなすことがあります。			
オフィスタイム	月曜～木曜 8:30-17:05			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
1	イントロダクション	自己紹介と講義の目的		0
2	「情報資源」とは何か（1）	情報(information)、情報資源(information resource)についてそれぞれ考える		0
3	「情報資源」とは何か（2）	「データ→情報→知識→知恵」という定説を疑い、「Information→分析→Intelligence」という流れを併せて考える		0
4	メタデータとは何か（1）	「情報資源」の組織化とは、情報資源が図書館業務においてどのような状態になることか		0
5	メタデータとは何か（2）	所蔵/所有を超えた情報資源の「目録化」		0
6	図書館と「目録化」	混沌から秩序を生み出し、図書館利用者が必要としている情報資源を必要なときに提供するための仕事としての目録作成について		0
7	図書館目録の簡単な歴史	FRBR/RDAに至る目録規則の話		0
8	書誌コントロールとMARC	書誌コントロールの歴史と標準化		0
9	書誌ユーティリティとコピーカタログ	書誌ユーティリティの構築とコピーカタログの導入に伴う目録作成の合理化と目録作成業務の地位低下		0
10	インターミッション	ここまでのおさらい		0
11	日本目録規則のはなし	日本における「目録法」の歴史と現在		0
12	日本十進分類法のはなし	日本における「分類法」の歴史と現在		0
13	OPACの簡単な歴史	OPAC (Online Public Access Catalog) の歴史と現在		0
14	OPACの未来	リンクリゾルバ/ディスカバリーサービス/OPACのGoogle化		0
15	まとめ	図書館目録の「未来への展望」はありやなしや		0

科目名	図書館情報技術論		対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択
担当教員	和知 剛			
開講期	Ⅲ			
授業概要	現在の図書館の現場において使われている情報技術（ICT）にどのようなものがあるかを学ぶとともに、これまでの歴史を踏まえ、技術を支える法制度の現状を見て、単なる知識の習得に終わらない、情報技術の「困難さ」をめぐる思考を深めていく。 担当教員はこれまで大学図書館に勤務してきた実務経験から得た、専門的な知識および専門的なスキルを活用して、図書館の過去と現在、そして図書館情報学を図書館の現場に活用した未来（これからの図書館）について講義解説していく。			
達成目標	図書館サービスに有効に活用されている情報技術にどのようなものがあるかを学修し、エンドユーザーとして使いこなすことが可能になることを目指す。			
受講資格	地域創成学科に在籍し図書館司書課程を受講している学生	成績評価 方法	レポート5割、期末試験5割で評価します。	
教科書	プリントをその都度配布します			
参考書	『ITパスポート試験』『基本情報技術者試験』の教科書、参考書の類を読んでおくことで役に立ちます。 『電子書籍と電子ジャーナル』（日本図書館情報学会研究委員会編/勉誠出版） 『メタデータとウェブサービス』（日本図書館情報学会研究委員会編/勉誠出版）			
学生への要望	知識を学修する講義です。受講生の無断欠席は講義を受講する意志がないものとみなすことがあります。			
オフィスタイム	月曜-木曜 8:30-17:05			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	60
1	イントロダクション	図書館に限定せず、アナログからデジタルへのテクノロジーの歴史について。	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。
2	コンピュータ（電子計算機）の簡単な歴史	機械式計算機からノイマン型コンピュータまで。	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。
3	コンピュータの構成要素	コンピュータの構成要素とその機能、種類と役割について。	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。
4	ソフトウェアとハードウェア	オペレーションズシステム（OS）、アプリケーションソフトウェア（アプリ）、ファイルシステムなどについて。	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。
5	システムの構成要素	現在の主要なコンピュータシステムの構成要素について。	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。
6	データベースのしくみと現在	データベースの役割と種類、主にリレーショナル・データベースについて。	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。
7	デジタルアーカイブの現在	デジタルアーカイブとは何を目的としているのか、使われている技術はどのようなものか。	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。
8	インターネットの簡単な歴史	インターネット黎明期から現在に至る歴史を解説。	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。
9	情報セキュリティ対策	「情報セキュリティ」が図書館においても重視されるのはなぜか。ポリシーとマネジメントを組織として確立し、適切なリスク管理を実施することが必要。	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。

回	項目	授業内容	
10	情報技術をめぐる法制度	知的財産権、セキュリティ、プライバシーに関する法制度	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。
11	図書館システムの歴史としくみ	図書館システムのはじまりから最近の動向について	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。
12	電子書籍と電子ジャーナル	その基礎知識とこれまでの動向について	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。
13	図書館とウェブサービス	RSS、WebAPI、SNSをそれぞれ図書館サービスに活用する	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。
14	テクノロジーを用いた障害のあるひとへの図書館サービス	マルチメディアデザインほか	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。
15	講義のまとめ	図書館はこれから、どこへ向かうのか	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。

科目名	図書館制度・経営論	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択
担当教員	和知 剛		
開講期	Ⅲ		
授業概要	公共図書館の経営に関して必要な法制度および代表的な公共図書館経営論について学ぶ。担当教員はこれまで大学図書館に勤務してきた実務経験から得た、専門的な知識および専門的なスキルを活用して、図書館の過去と現在、そして図書館情報学を図書館の現場に活用した未来（これからの図書館）について講義解説していく。		
達成目標	図書館をとりまく環境（法律・政策・社会）やニーズ（社会的需要・利用者の要求）を考えながら、どのように経営されるのかについて理解を深める。		
受講資格	地域創成学科に在籍し司書課程を受講している学生	成績評価 方法	レポート4割、期末試験6割
教科書	その都度プリントを配布		
参考書	NDC013に排架されている書籍を中心に		
学生への要望	知識を学修する講義です。受講生の無断欠席は講義を受講する意志がないものとみなすことがある。		
オフィスタイム	月曜－木曜 8：30－17：05		

-授業内容とスケジュール-

回	項目		授業内容	
1	図書館運営から図書館経営へ	「図書館制度・経営論」において何が問題になってきたのか	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
2	地方自治・地方行政における公共図書館（1）	その組織	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
3	地方自治・地方行政における公共図書館（2）	その法制度	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
4	出版流通と公共図書館	書籍はどこから図書館にやってくるのか。現状に問題はありますか。	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
5	『市民の図書館』の時代（1）	『中小レポート』と『市民の図書館』	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
6	『市民の図書館』の時代（2）	日野市立図書館の成功	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
7	『市民の図書館』の時代（3）	その精神の硬直化と貸出至上主義	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
8	時代の転換点	図書館業務の機械化・電子化と「場所としての図書館」	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
9	司書・専門職制	司書資格のこれまでとこれから	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

回	項目	授業内容	
10	指定管理者制度を巡る問題	委託・PFI・指定管理者・CCC図書館	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。
11	図書館の危機管理	自然災害と人災	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。
12	本の廃棄を巡る問題	福島市立図書館、船橋市立船橋西図書館、京都市立図書館、高知県立大学永国寺キャンパス図書館	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。
13	大学図書館を巡る問題	「知識の加藍」を維持するために	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。
14	学校図書館を巡る問題	「こどもの読書」を後押しするために	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。
15	これまでのまとめ	「理想の図書館経営」とは	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。

科目名	情報サービス論	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択
担当教員	和知 剛		
開講期	IV		
授業概要	まず各自の情報リテラシーを高め、その上で図書館における情報サービス（主にレファレンス）業務に関する知識を学ぶ。担当教員はこれまで大学図書館に勤務してきた実務経験から得た、専門的な知識および専門的なスキルを活用して、図書館の過去と現在、そして図書館情報学を図書館の現場に活用した未来（これからの図書館）について講義解説していく。		
達成目標	図書館におけるレファレンス業務を学修し、情報を選択するための多様な手段を習得する。		
受講資格	地域創成学科に所属し、図書館司書課程を選択している学生	成績評価 方法	レポート4割、期末試験6割で評価します。
教科書	その都度プリントを配布。		
参考書	NDC015に分類される書籍		
学生への要望	知識を学修する講義です。受講生の無断欠席は講義を受講する意志がないものとみなすことがあります。		
オフィスタイム	月曜－木曜 8:30-17:05		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	イントロダクション	情報リテラシー概説	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。
2	しらべる力を身につける	「しらべる」ために必要な能力について	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。
3	その情報はどこから	主にインターネット上で拡散するフェイクニュース/オルタナティブ・ファクトを注意深く選択から外すために	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。
4	情報収集	情報に対する「感度」を上げるために各々がなすべきことについて	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。
5	情報の分析	informationとintelligenceの違い	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。
6	図書館のレファレンスサービス	図書館が調査・分析能力を持つことの必要性	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。
7	レファレンスとその情報源 (1)	印刷媒体と電子媒体（Web、非Web）	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。
8	レファレンスとその情報源 (2)	索引と検索	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。
9	レファレンスとその情報源 (3)	図書館で作成する情報源	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。

回	項目	授業内容		
10	レファレンスとその情報源 (4)	情報源を評価する	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
11	レファレンスとその情報源 (5)	人文・社会科学系の情報源	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
12	レファレンスとその情報源 (6)	自然科学系の情報源	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
13	レファレンス事例の蓄積	「レファレンス協同データベース」ほか	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
14	図書館の広報	図書館による情報提供/情報発信	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
15	まとめ	これまでのおさらい	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

科目名	情報サービス演習	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択	
担当教員	和知 剛			
開講期	通年			
授業概要	PDCAサイクルに倣って、情報サービスの各種の業務における設計から評価までを考える能力、利用者の質問に対する適切かつ柔軟なレファレンスサービスと情報検索サービスの適用が可能な能力、そして積極的な発信型情報サービスの演習を通して、実践的な能力を養成する。 また図書館における種々の情報サービスについて設計・展開・評価を、それぞれ実際の業務に近い形で実習し、学生が相互にそのプロセスと結果に評価を加える。担当教員はこれまで大学図書館に勤務してきた実務経験から得た、専門的な知識および専門的なスキルを活用して、図書館の過去と現在、そして図書館情報学を図書館の現場に活用した未来（これからの図書館）について、演習を通して解説していく。			
達成目標	この演習を学ぶことにより、図書館業務において情報サービスを行うことが可能な知識と能力を身につけることを目標とする。			
受講資格	地域創成学科に在籍し図書館司書課程を受講している学生	成績評価 方法	レポート6割、期末試験4割で評価します。	
教科書	プリントをその都度配布します			
参考書	あらかじめ レファレンス協同データベース http://crd.ndl.go.jp/reference/ 等を見ておくように。			
学生への要望	技術と能力を習得する演習です。受講生の無断欠席は演習を受講する意志がないものとみなすことがあります。			
オフィスタイム	月曜－木曜 8:30-17:05			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
1	情報サービス演習の目的と概要	当演習の目的と概要を説明する。	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
2	情報サービスの設計	図書館経営の中で「情報サービス」はどのように位置づけられ、どのような利用が考えられるのか。	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
3	情報サービスの設計を評価する	実際に活用されている「情報サービス」の活用を考える。	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
4	情報検索の技法（1）	実際に利用されている情報検索法を検証する。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
5	情報検索の技法（2）	実際に利用されている情報検索法を検証する。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
6	情報検索の結果を評価する（1）	情報検索の結果、得られた内容を利用者は、何を以って評価しているのかを考える。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
7	情報検索の結果を評価する（2）	情報検索の結果、得られた内容を利用者は、何を以って評価しているのかを考える。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
8	演習担当にインタビューする(1)	第2回から第7回の演習を踏まえて、実際に「情報サービス」まつわるテーマを学生ごとに設定し、演習担当へのインタビューを実施する。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
9	演習担当にインタビューする(2)	第2回から第7回の演習を踏まえて、実際に「情報サービス」まつわるテーマを学生ごとに設定し、演習担当へのインタビューを実施する。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
10	演習担当にインタビューする(3)	第2回から第7回の演習を踏まえて、実際に「情報サービス」まつわるテーマを学生ごとに設定し、演習担当へのインタビューを実施する。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60

回	項目	授業内容		
11	演習担当にインタビューする(4)	第2回から第7回の演習を踏まえて、実際に「情報サービス」まつわるテーマを学生ごとに設定し、演習担当へのインタビューを実施する。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
12	演習担当にインタビューする(5)	第2回から第7回の演習を踏まえて、実際に「情報サービス」まつわるテーマを学生ごとに設定し、演習担当へのインタビューを実施する。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
13	演習担当にインタビューする(6)	第2回から第7回の演習を踏まえて、実際に「情報サービス」まつわるテーマを学生ごとに設定し、演習担当へのインタビューを実施する。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
14	演習担当にインタビューする(7)	第2回から第7回の演習を踏まえて、実際に「情報サービス」まつわるテーマを学生ごとに設定し、演習担当へのインタビューを実施する。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
15	ビブリオバトル(1)	知的書評合戦「ビブリオバトル」を開催する。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
16	レファレンスコレクションの構築を考える	これからの図書館経営にふさわしいレファレンスコレクションの内容を考える。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
17	構築されたレファレンスコレクションを評価する	これからの図書館経営にふさわしいレファレンスコレクションの評価を考える。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
18	レファレンスサービスの展開(1)	レファレンス課題の解法を考える。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
19	レファレンスサービスの展開(2)	レファレンス課題の解法を考える。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
20	レファレンスサービスの展開(3)	レファレンス課題の解法を考える。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
21	レファレンスサービスの展開(4)	レファレンス課題の解法を考える。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
22	レファレンスサービスの展開(5)	レファレンス課題の解法を考える。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
23	レファレンスサービスの展開(6)	レファレンス課題の解法を考える。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
24	レファレンスサービスの展開(7)	レファレンス課題の解法を考える。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
25	レファレンスサービスの展開(8)	レファレンス課題の解法を考える。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
26	レファレンスサービスの展開(9)	レファレンス課題の解法を考える。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60

回	項目	授業内容		
27	ビブリオバトル(2)	知的書評合戦「ビブリオバトル」を開催する。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
28	レファレンスサービスの評価(1)	図書館における「情報サービス」の一環としてのレファレンスサービスを、これから図書館経営の中でどのように評価し、活用していき、図書館経営のアピールポイントとしていくことが可能なかを考えていく。	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
29	レファレンスサービスの評価(2)	図書館における「情報サービス」の一環としてのレファレンスサービスを、これから図書館経営の中でどのように評価し、活用していき、図書館経営のアピールポイントとしていくことが可能なかを考えていく。	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
30	レファレンスサービスの評価(3)	図書館における「情報サービス」の一環としてのレファレンスサービスを、これから図書館経営の中でどのように評価し、活用していき、図書館経営のアピールポイントとしていくことが可能なかを考えていく。	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

科目名	情報資源組織演習	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択	
担当教員	和知 剛			
開講期	通年			
授業概要	日本でもっとも利用されている、情報資源を組織化するためのツールである『日本十進分類法』、『日本目録規則』、『基本件名標目表』を中心に、国立情報学研究所のNACSIS-CATや国立国会図書館件名標目表、基本的なメタデータの記述規則であるDublin Core等も交えつつ、情報資源の組織化の実際を学び、受講生がこれらのツールを用いて図書館目録の整理を行うに必要な知識と技術を習得する。 担当教員はこれまで大学図書館に勤務してきた実務経験から得た、専門的な知識および専門的なスキルを活用して、図書館の過去と現在、そして図書館情報学を図書館の現場に活用した未来（これからの図書館）について、演習を通じて解説していく。			
達成目標	図書館利用者がその検索結果を以って、十分な図書館利用を可能にする目録の提供が可能な技術の習得を目標とする。			
受講資格	地域創成学科に在籍し図書館司書課程を受講している学生	成績評価 方法	レポート6割、期末試験4割で評価します。	
教科書	プリントをその都度配布します			
参考書	『日本十進分類法』新訂9版・新訂10版 『日本目録規則』1987年版改訂3版、2018年版 他			
学生への要望	技術を習得する演習です。受講生の無断欠席は演習を受講する意志がないものとみなすことがあります。			
オフィスタイム	月曜～木曜 8:30-17:05			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
1	情報資源組織論演習の目的と概要について	自己紹介。演習の目的と1年間の概要を説明する。	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
2	「情報資源」とは何か(1)	図書館が何を以って「情報資源」と捉えるのかを考える。	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
3	「情報資源」とは何か(2)	図書館が何を以って「情報資源」と捉えるのかを考える。	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
4	「情報資源」とは何か(3)	図書館が何を以って「情報資源」と捉えるのかを考える。	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
5	情報資源を「組織化」するとは(1)	情報資源の「組織化」とはどのような作業を指し、組織化することによって何を達成することが可能になるのかを考える。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
6	情報資源を「組織化」するとは(3)	情報資源の「組織化」とはどのような作業を指し、組織化することによって何を達成することが可能になるのかを考える。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
7	情報資源を「組織化」するとは(3)	情報資源の「組織化」とはどのような作業を指し、組織化することによって何を達成することが可能になるのかを考える。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
8	情報資源組織化の技法(1)	図書館における情報資源組織化のツールであるところの『日本十進分類法(NDC)』および『日本目録規則(NCR)』、『基本件名標目表(BSH)』の使い方を学ぶ。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
9	情報資源組織化の技法(2)	図書館における情報資源組織化のツールであるところの『日本十進分類法(NDC)』および『日本目録規則(NCR)』、『基本件名標目表(BSH)』の使い方を学ぶ。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
10	情報資源組織化の技法(3)	図書館における情報資源組織化のツールであるところの『日本十進分類法(NDC)』および『日本目録規則(NCR)』、『基本件名標目表(BSH)』の使い方を学ぶ。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60

回	項目	授業内容		
11	情報資源組織化の技法(4)	図書館における情報資源組織化のツールであるところの『日本十進分類法(NDC)』および『日本目録規則(NCR)』、『基本件名標目表(BSH)』の使い方を学ぶ。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
12	情報資源組織化の技法(5)	図書館における情報資源組織化のツールであるところの『日本十進分類法(NDC)』および『日本目録規則(NCR)』、『基本件名標目表(BSH)』の使い方を学ぶ。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
13	情報資源組織化の技法(6)	図書館における情報資源組織化のツールであるところの『日本十進分類法(NDC)』および『日本目録規則(NCR)』、『基本件名標目表(BSH)』の使い方を学ぶ。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
14	情報資源組織化の技法(7)	図書館における情報資源組織化のツールであるところの『日本十進分類法(NDC)』および『日本目録規則(NCR)』、『基本件名標目表(BSH)』の使い方を学ぶ。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
15	情報資源組織化の技法(8)	図書館における情報資源組織化のツールであるところの『日本十進分類法(NDC)』および『日本目録規則(NCR)』、『基本件名標目表(BSH)』の使い方を学ぶ。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
16	著作権ワークショップ(1)	情報資源の組織化のみならず、図書館業務に必須の知識である「著作権」「著作権法」について、ワークショップを交えながら、その考え方と内容を身につける。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
17	著作権ワークショップ(2)	情報資源の組織化のみならず、図書館業務に必須の知識である「著作権」「著作権法」について、ワークショップを交えながら、その考え方と内容を身につける。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
18	著作権ワークショップ(3)	情報資源の組織化のみならず、図書館業務に必須の知識である「著作権」「著作権法」について、ワークショップを交えながら、その考え方と内容を身につける。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
19	著作権ワークショップ(4)	情報資源の組織化のみならず、図書館業務に必須の知識である「著作権」「著作権法」について、ワークショップを交えながら、その考え方と内容を身につける。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
20	情報資源組織化の実際(1)	情報資源組織化のツールを駆使して、実際に情報資源の組織化を企図する。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
21	情報資源組織化の実際(2)	情報資源組織化のツールを駆使して、実際に情報資源の組織化を企図する。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
22	情報資源組織化の実際(3)	情報資源組織化のツールを駆使して、実際に情報資源の組織化を企図する。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
23	情報資源組織化の実際(4)	情報資源組織化のツールを駆使して、実際に情報資源の組織化を企図する。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
24	情報資源組織化の実際(5)	情報資源組織化のツールを駆使して、実際に情報資源の組織化を企図する。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
25	情報資源組織化の実際(6)	情報資源組織化のツールを駆使して、実際に情報資源の組織化を企図する。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
26	情報資源組織化の実際(7)	情報資源組織化のツールを駆使して、実際に情報資源の組織化を企図する。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60

回	項目	授業内容	
27	情報資源組織化の実際(8)	情報資源組織化のツールを駆使して、実際に情報資源の組織化を企図する。	60
28	情報資源組織化の実際(9)	情報資源組織化のツールを駆使して、実際に情報資源の組織化を企図する。	60
29	情報資源組織化のまとめ(1)	情報資源の組織化とは何を意図し、何を達成すべきものなのか、改めて考える。	60
30	情報資源組織化のまとめ(2)	情報資源の組織化とは何を意図し、何を達成すべきものなのか、改めて考える。	60

科目名	図書館基礎特論	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 1単位 選択
担当教員	和知 剛		
開講期	IV		
授業概要	図書館業務の上で必要不可欠な知識である「図書館の自由に関する宣言」「図書館員の倫理綱領」について学び、ライブラリアンシップの醸成に努める。担当教員はこれまで大学図書館に勤務してきた実務経験から得た、専門的な知識および専門的なスキルを活用して、図書館の過去と現在、そして図書館情報学を図書館の現場に活用した未来（これからの図書館）について講義解説していく。		
達成目標	「図書館の自由に関する宣言」「図書館員の倫理綱領」を学び、その現実的な運用精神を習得する。		
受講資格	地域創成学科に所属し、図書館司書課程を選択している学生	成績評価 方法	レポートの成績による
教科書	その都度プリントを配布。		
参考書	「図書館の自由に関する宣言」「図書館員の倫理綱領」に関連する書籍		
学生への要望	知識を学修する講義です。受講生の無断欠席は講義を受講する意志がないものとみなすことがあります。		
オフィスタイム	月曜－木曜 8:30-17:05		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	イントロダクション	「図書館の自由に関する宣言」「図書館員の倫理綱領」の歴史	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。
2	図書館の自由に関する宣言(1)	知る権利の保障	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。
3	図書館の自由に関する宣言(2)	利用者の秘密	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。
4	図書館の自由に関する宣言(3)	「図書館の自由に関する宣言」における「自由」を巡る諸問題	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。
5	図書館員の倫理綱領(1)	利用者に対する責任	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。
6	図書館員の倫理綱領(2)	資料に対する責任	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。
7	図書館員の倫理綱領(3)	研修に努める責任	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。
8	まとめ	「図書館の自由に関する宣言」「図書館員の倫理綱領」のこれから	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。

科目名	図書館情報資源特論	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 1単位 選択	
担当教員	和知 剛			
開講期	IV			
授業概要	オープンアクセスとデジタルアーカイブについて、その概要を学ぶ。担当教員はこれまで大学図書館に勤務してきた実務経験から得た、専門的な知識および専門的なスキルを活用して、図書館の過去と現在、そして図書館情報学を図書館の現場に活用した未来（これからの図書館）について講義解説していく。			
達成目標	オープンアクセスとデジタルアーカイブについて知り、その適切な利用法を習得する			
受講資格	地域創成学科に所属し、図書館司書課程を選択している学生	成績評価 方法	レポートの成績による	
教科書	その都度プリントを配布します。			
参考書	雑誌「情報の科学と技術」の特集号ほか			
学生への要望	知識を学修する講義です。受講生の無断欠席は講義を受講する意志がないものとみなすことがあります。			
オフィスタイム	月曜－木曜 8:30-17:05			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
1	イントロダクション	オープンアクセス運動の起りとその背景	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
2	オープンアクセス(1)	ゴールドロードとグリーンロード	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
3	オープンアクセス(2)	オープンアクセスと大学図書館	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
4	オープンアクセス(3)	オープンアクセスジャーナルとハゲタカジャーナル	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
5	デジタルアーカイブ(1)	デジタルアーカイブとは何か	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
6	デジタルアーカイブ(2)	デジタルアーカイブとオープンデータ	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
7	デジタルアーカイブ(3)	図書館とデジタルアーカイブ	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
8	まとめ	今後の展望	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

科目名	博物館実習		対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 3単位 選択
担当教員	會田 容弘, 仲田 佐和子, 佐藤 愛未			
開講期	通年			
授業概要	<p>奥松島縄文村歴史資料館学芸員として博物館経営・文化財保護行政を担ってきた。博物館の建設、運営、常設展示、企画展時、教育の実践を行ってきた経験をもとに、授業を行う。【授業の目標・ねらい】学芸員資格取得を目指す学生が、1年次の博物館学概論・博物館学資料論の知識を基に、博物館施設における多様な学芸員の仕事を実践的に学習することを目的とする。</p> <p>【授業内容の概要】学内実習では、会津若松市歴史資料センターまなべこで企画展を行う。11月に実施する企画展示の展示計画、展示準備、展示、展示解説、展示撤収を実習の授業として行う。また学外実習では、博物館等施設5館見学と1週間程度の施設実習を実施する。施設実習に伴い、事前事後指導を授業の中で行う。</p>			
達成目標	<p>【達成目標】</p> <p>主体的にコミュニケーションをとってグループ全体の作業を実現していけるように努力できる姿勢を育てること。</p>			
受講資格	学芸員課程履修学生（要「博物館概論」・「博物館資料論」履修済） 1年終了時のGPAが2.0以上であること。	成績評価 方法	授業態度（出席状況重視）と展示計画と展示品及びポスター（50%）・5館見学レポート（20%）・学外実習（30%）を総合的に評価する。	
教科書	特に使用しない。			
参考書	授業時に適宜提示する。『文化学科資格課程報告集』バックナンバー			
学生への要望	主体的に学ぶ姿勢と共に、博物館施設で実際に働くことを各自がイメージしながら実習に取り組んでほしい。 学内実習での学習態度・出席状況の悪い学生の学外実習参加は許可しない場合がある点、要注意！			
オフィスタイム	各教員の週間スケジュールを確認した上で、随時。展示実習の打ち合わせをする場合は事前に質問内容と面会希望時間をメールで教員に打診し、予定を合わせて面会すること。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	60
1	全体ガイダンス	学芸員課程全体の中の博物館実習の位置づけを確認し、今年の展示実習の概要を説明する。また博物館施設5館見学レポートについて解説し、「博物館で働く側の視点」を学生が意識できるように準備を行う。1年次の文化学科研修旅行博物館見学レポート提出日。	60
2	学外施設実習ガイダンス	6月から始まる学外施設実習を有効に実施するために諸注意や確認事項の事前指導を行う。実習施設への提出書類の作成も行うため、欠席しないこと！	60
3	展示施設見学①	会津若松市歴史資料センターまなべこの施設見学を行う。	60
4	施設見学②	会津若松市歴史資料センターまなべこの施設見学を行う。	60
5	施設見学③	会津若松市歴史資料センターまなべこの施設見学を行う。	60

回	項目	授業内容	
6	展示計画	会津若松市歴史資料センターまなべこの展示施設に合わせた、笹山原遺跡の展示を計画する。	60
7	展示計画	会津若松市歴史資料センターまなべこの展示施設に合わせた、笹山原遺跡の展示を計画する。	60
8	展示計画	会津若松市歴史資料センターまなべこの展示施設に合わせた、笹山原遺跡の展示を計画する。	60
9	展示準備	会津若松市歴史資料センターまなべこに展示する展示物、パネル、キャプション、ポスター、リーフレットなどを作成する。	60
10	展示準備	会津若松市歴史資料センターまなべこに展示する展示物、パネル、キャプション、ポスター、リーフレットなどを作成する。	60
11	展示準備	会津若松市歴史資料センターまなべこに展示する展示物、パネル、キャプション、ポスター、リーフレットなどを作成する。	60
12	展示準備	会津若松市歴史資料センターまなべこに展示する展示物、パネル、キャプション、ポスター、リーフレットなどを作成する。	60
13	展示準備	会津若松市歴史資料センターまなべこに展示する展示物、パネル、キャプション、ポスター、リーフレットなどを作成する。	60
14	展示発表	会津若松市歴史資料センターまなべこに展示するために作成したパネル、キャプション、ポスター、リーフレットなどを提示し、発表を行う。その結果に基づき修正を行う。	60

回	項目	授業内容	
15	展示修正	展示品の指摘点を修正する。	60
16	模擬展示	作成した展示品を展示してみる。	60
17	模擬展示修正	展示品を修正する。	60
18	展示品作成	展示品を作成し、搬入できるように準備する。	60
19	展示準備	展示内容を広報宣伝するためのポスター制作を行う。	60
20	展示準備	展示原案に基づいて展示資料を制作する。	60
21	展示実習	会津若松市歴史資料センターまなべこにおいて実際に展示を行う（10月29日）	60
22	展示実習	会津若松市歴史資料センターまなべこにおいて実際に展示を行う（10月29日）	60
23	展示実習	会津若松市歴史資料センターまなべこにおいて実際に展示を行う（10月29日）	60

回	項目	授業内容	
24	展示実習	会津若松市歴史資料センターまなべこにおいて実際に展示を行う(10月29日)	60
25	展示解説実習	会津若松市歴史資料センターまなべこの展示初日、及び土曜日に展示解説を実施する。	60
26	展示撤収	会津若松市歴史資料センターまなべこの展示撤収作業を行う(12月3日)	60
27	展示撤収	会津若松市歴史資料センターまなべこの展示撤収作業を行う(12月3日)	60
28	展示撤収	会津若松市歴史資料センターまなべこの展示撤収作業を行う(12月3日)	60
29	後期まとめ	展示の反省について討論会を開催する。	60
30	総まとめ	一年を通しての博物館実習、学内・学外実習の振り返りを行う。	60

回	項目	授業内容		
8	課題2	これまでの学習内容を踏まえ、提示された課題について一定時間での文章作成を行う。作成した文章については Web を通じて指定箇所に提出することで、一連の学習状況の確認を行う。	課題でできなかった点について、教科書等を用いて復習しておくこと。	60
9	表の作成	Excel を用いて表計算ソフトを学ぶ。表計算ソフトの基本画面構成・文字と数値の扱い・データ削除方法などの基本操作のほか、オートフィルや書式の設定などについて学ぶ。	復習として、授業内でオートフィルの機能を用いて作成した連続データを、再度作成してみる。	30
10	計算とアドレス	数式を用いた計算方法を学ぶ。特に表計算を行う上で重要な相対アドレス・絶対アドレス・混合アドレスの差異を学ぶ。	予習として教科書のp.132からp.140までを読んでおくこと。	30
11	関数	コンピュータ上での関数について学ぶ。基本的な関数である SUM 関数および AVERAGE 関数を用い、表計算ソフト上での関数の扱いについて学ぶ。	予習として教科書のp.132からp.152までを読んでおくこと。	30
12	論理	実用的な計算を行う上で重要な論理計算を行う関数について学ぶ。具体的には IF 関数や COUNTIF 関数などの用法などについて学ぶ。	復習として、eLearning Systemを用いてExcel STEP2 確認テスト5, 確認テスト6を実施すること。	30
13	表とグラフ	表計算ソフトでの表の書式設定を学び、作成した表からグラフを作成する方法について学ぶ。またグラフに関する基本的な設定を行う。	復習として、eLearning Systemを用いてExcel STEP3 確認テスト1, 確認テスト2を実施すること。	30
14	課題3	これまでの学習内容を踏まえ、提示された課題について一定時間での Excel で処理を行う。処理したファイルは Web を通じて指定箇所に提出する。これにより学習状況の確認を行う。	課題でできなかった点について、教科書等を用いて復習しておくこと。	60
15	プレゼンテーション	プレゼンテーションソフトを用いたプレゼンテーションの基本やスライド作成の注意点、スライド作成の基本機能について学ぶ	予習として、パワーポイントに関する章を読んでおくこと。	30

科目名	考古学特論	対象 単位数 必選	短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 4単位 選択
担当教員	會田 容弘		
開講期	通年		
授業概要	東北大学文学部考古学研究室助手として考古学教育の補助、奥松島縄文村歴史資料館学芸員として博物館経営・文化財保護行政を担ってきた。東北大学では中沢目貝塚の発掘と報告、奥松島縄文村歴史資料館では里浜貝塚の発掘調査と報告書作成をおこなってきた。その経験と研究成果を用いて、先史時代における考古資料を用いた人間行動の復元研究の方法を提示する。具体的な研究例として宮城県東松島市里浜貝塚の調査成果を用いる。		
達成目標	<到達目標>貝塚出土資料分析の過程を理解し、実践的な調査を行うに十分な知識をもつレベルに到達すること。		
受講資格	考古学の基本理解があること	成績評価 方法	レポートと授業への主体的参加度合を加味して評価する。100点を満点とし、60点以上で合格とするが、考古学で論文を作成する学生には80%以上の授業理解を求める。
教科書	授業中に紹介する		
参考書	里浜貝塚Ⅰ～Ⅲ 東北歴史博物館 里浜貝塚一平成9～12年度発掘調査概報『松島湾の縄文カレンダー 里浜貝塚』		
学生への要望	参考書を読み、予習・復習を行い授業に参加すること。ノートをまとめておくこと。授業で用いたパワーポイントは「めばえ」で公開するので、復習に用いること。		
オフィスタイム	火曜日3時限目、水曜日2・4時限目。 時間がある限り対応するが、論文に関する質問については事前にメールでアポをとり、質問内容を知らせること。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	60
1	里浜貝塚の位置と環境	里浜貝塚の位置と環境、周辺遺跡について。	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある、¥。
2	里浜貝塚研究史	里浜貝塚の研究の歴史。	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある、¥。
3	里浜貝塚の発掘(1)	里浜貝塚里・西畑・寺下囲地点の調査結果	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある、¥。
4	里浜貝塚の発掘(2)	里浜貝塚台囲地点の発掘調査。	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある、¥。
5	里浜貝塚の発掘(3)	里浜貝塚畑中・梨木地点の発掘調査。	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある、¥。
6	里浜環境史	泥炭層の植物遺体、花粉化石の分析による周辺環境の変遷史。	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある、¥。
7	縄文時代の前期・中期の里浜	縄文時代の前期・中期の里浜の集落、墓城、貝塚のありかた。	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある、¥。
8	縄文時代後期の里浜	縄文時代後期の里浜の集落、墓城、貝塚のありかた。	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある、¥。
9	縄文時代晩期、弥生時代の里浜貝塚	縄文時代晩期、弥生時代初等の集落、墓城、貝塚、製塩炉、浜辺の利用のありかた。	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある、¥。
10	縄文時代中期から晩期の里浜人の生業(1)	漁労活動。猟具と対象魚。採集対象魚。	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある、¥。
11	縄文時代中期から晩期の里浜人の生業(2)	狩猟対象鳥獣と狩猟具。	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある、¥。
12	縄文時代中期から晩期の里浜人の生業(3)	採集対象植物と植物加工具	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある、¥。
13	縄文時代中期から晩期の里浜人の生業(4)	漁労具の素材調達と製作技術	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある、¥。
14	縄文時代中期から晩期の里浜人の生業(5)	狩猟具の素材調達と製作技術	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある、¥。
15	縄文時代中期から晩期の里浜人の生業(6)	植物加工具の素材調達と製作技術	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある、¥。

科目名	日本の考古学		対象 単位数 必選	短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 4単位 選択
担当教員	會田 容弘			
開講期	通年			
授業概要	東北大学文学部考古学研究室助手として考古学教育の補助、奥松島縄文村歴史資料館学芸員として博物館経営・文化財保護行政を担ってきた。史跡整備、埋蔵文化財の範囲確認・試掘・記録保存、学術調査などのさまざまな目的の発掘調査の実務経験を活かし、遺跡の発掘調査準備、調査、整理作業の実際を学ぶ。考古資料の基本的な操作方法を理解することが目標である。会津若松市笹山原遺跡16の発掘調査実習を通して発掘方法を理解する。次に出土資料の資料化の過程を理解する。			
達成目標	<到達目標>発掘調査で出土した資料を考古学研究の資料として利用できるまで整理できる能力を身に着けるレベルまで到達すること。			
受講資格	考古学の基本理解があること	成績評価 方法	レポートと授業への主体的参加度を評価する。100点を満点とし、60点以上で合格とする。考古学論文を作成する学生は80%以上の理解を求める。	
教科書	『発掘調査のてびき』			
参考書	文化学科（資格課程）報告集第4～21集			
学生への要望	考古学実習発掘に参加すること。この授業は実習作業が中心になる。資料を配布するので事前にそれを読み、確認しておくことが予想である。授業後、授業内容をノートに作成し復習すること。特に実測図の作成は授業時間で完成できない場合はあき時間に完成させること。			
オフィスタイム	火曜日3時限目、水曜日2・4時限目。 時間があいている限り、対応するが論文作成に関する質問は事前にアポをとり、質問内容を知らせること。メールの質問も可。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	60
1	笹山原遺跡16の調査経過	会津若松市笹山原遺跡16のこれまでの発掘調査の経過を説明する。	過去の発掘調査の理解。
2	笹山原遺跡16の調査方法	笹山原遺跡16の発掘調査方法について説明を行い、実際に調査を行う準備を行う。	過去の発掘調査の理解。
3	笹山原遺跡群の研究成果	これまでの笹山原遺跡群の調査成果をまとめ、その意義と今後の課題について検討する。	過去の発掘調査の理解。
4	発掘調査実習(1)	笹山原遺跡NO.16の発掘調査。II a層上面の精査及び掘り下げ。	発掘調査の記録の整理。
5	発掘調査実習(2)	笹山原遺跡NO.16の発掘調査。II a層上面の精査及び掘り下げ。	発掘調査の記録の整理。
6	発掘調査実習(3)	笹山原遺跡NO.16の発掘調査。II a層上面の精査及び掘り下げ。	発掘調査の記録の整理。
7	発掘調査実習(4)	笹山原遺跡NO.16の発掘調査。II b層の掘り下げ。縄文時代前期出土資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録の整理。
8	発掘調査実習(5)	笹山原遺跡NO.16の発掘調査。II b層の掘り下げ。縄文時代前期出土資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録の整理。
9	発掘調査実習(6)	笹山原遺跡NO.16の発掘調査。II b層の掘り下げ。縄文時代前期出土資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録の整理。
10	発掘調査実習(7)	笹山原遺跡NO.16の発掘調査。III層の掘り下げ。旧石器資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録の整理。
11	発掘調査実習(8)	笹山原遺跡NO.16の発掘調査。III層の掘り下げ。旧石器資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録の整理。
12	発掘調査実習(9)	笹山原遺跡NO.16の発掘調査。III層の掘り下げ。旧石器資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録の整理。
13	発掘調査実習(10)	笹山原遺跡NO.16の発掘調査。IV層aの掘り下げ。旧石器資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録の整理。
14	発掘調査実習(11)	笹山原遺跡NO.16の発掘調査。IV層aの掘り下げ。旧石器資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録の整理。
15	発掘調査実習(12)	笹山原遺跡NO.16の発掘調査。IV層aの掘り下げ。旧石器資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録の整理。
16	石器実測の方法	石の割れの原理を説明し、石器の実測方法について説明を行う。	授業で行った作業の復習として作業を行う。
17	石器実測(1)	実験で製作した剥片の実測を行う。	授業で行った作業の復習として作業を行う。
18	石器実測(2)	笹山原No.16遺跡から出土した後期旧石器を資料として実測を行う。	授業で行った作業の復習として作業を行う。
19	石器実測(3)	笹山原No.16遺跡から出土した石核を用いて実測を行う。	授業で行った作業の復習として作業を行う。
20	石器実測(4)	笹山原No.16遺跡から出土した石器を用いて、実測を行う。	授業で行った作業の復習として作業を行う。

回	項目	授業内容	
21	接合資料の理解	笹山原No16遺跡から出土した石器の中に、接合資料が含まれている。この接合資料を用いて、笹山原No.16遺跡で行われた、石器製作技術理解の方法を述べる。	授業で行った作業の復習として作業を行う。60
22	石器属性分析の方法	石器を記述するために属性を抽出し、記述する。その方法を学ぶ。	授業で行った作業の復習として作業を行う。60
23	石器属性計測実習	石器の属性を実際に計測し、抽出する。	授業で行った作業の復習として作業を行う。60
24	石器属性分析の実際	抽出した属性をEXCELに入力し、属性分析を行う。	授業で行った作業の復習として作業を行う。60
25	石器写真撮影	笹山原No. 16遺跡出土の石器の写真撮影実習。	授業で行った作業の復習として作業を行う。60
26	報告書製作 1	実測図のトレース、分布図の作成、属性表、調査内容の記述などの説明を行う。	授業で行った作業の復習として作業を行う。60
27	報告書製作 2	実測した石器のトレースを行い、版下のレイアウトを行う。	授業で行った作業の復習として作業を行う。60
28	報告書製作 3	分布図を作成し、石器の出土位置を合成する。母岩別分布図を作成する。それらをトレースし、版下を作成する。	授業で行った作業の復習として作業を行う。60
29	報告書製作 4	遺構実測図の合成し、トレースを行い、遺構図面の版下を作成する。	授業で行った作業の復習として作業を行う。60
30	報告書製作 5	報告書の体裁及び章立てなどの説明を行い、文章を実際に書いてみる。	授業で行った作業の復習として作業を行う。60

科目名	考古学演習	対象 単位数 必選	短期大学部 専攻科文化学専攻 2年 4単位 選択
担当教員	會田 容弘		
開講期	通年		
授業概要	東北大学文学部考古学研究室助手として考古学教育の補助、奥松島縄文村歴史資料館学芸員として博物館経営・文化財保護行政を担ってきた。考古資料を用いた実際的な研究を行ってきた経験を授業に生かし、指導する。発掘調査に参加し、出土した資料整理を通し、実際の考古資料を扱いきる観察方法、記述方法を学び、実践する。さらに、実物資料認識の方法、その資料の関連研究を中心にまとめ、発表をおこない、学生同士の討論を行い、学習を深めて行くのが目標である。本学では2001年以来会津若松市湊町大字赤井字笹山原に位置する笹山原遺跡No. 16の発掘調査を継続して行っている。笹山原遺跡No. 16は平安時代、縄文時代前期、後期旧石器時代の複合遺跡でそこから出土した資料を用いて、実践的な演習を行う。発掘資料の整理、データ整理、記録法、写真撮影などの実践を踏まえて、資料に対する認識力を深め、論文読解を経て、学術的議論ができるような訓練を行う。		
達成目標	<到達目標>考古資料の理解を経て、考古資料の考古学的基礎に基づいた記述が可能なレベルにまで到達できること。考古学の学術論文を読み、批判的に検討できるレベルに到達すること。		
受講資格	考古学の十分な理解があること	成績評価 方法	レポート及び発表内容(レポート70%、発表30%)で60点以上の理解度で、合とする。考古学で論文を作成する学生は80点以上の理解度を求める。
教科書	イニザン他『石器研究入門』 山中一郎「考古学における方法の問題」		
参考書	文化学科(資格課程)報告集第4～21集		
学生への要望	考古学実習発掘に参加すること。発表と議論が中心になるので事前の準備を十分行うこと。事前準備が予習にあたる。発表内容への指摘点、修正指導点は復習としておこなってほしい。		
オフィスタイム	水曜日2・4時限目。緊急の場合はそれ以外でも可。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	60
1	考古学演習の説明	演習の進め方についての説明。	過去の発掘調査の理解。
2	発掘調査準備(1)	笹山原遺跡No. 16の発掘調査を行うにあたっての基本的な準備を行う。機材の確認、機材の操作方法の確認、発掘調査過程の確認を行う。	過去の発掘調査の理解。
3	発掘調査準備(2)	発掘調査に用いる図面、遺物カード、手引きなどの製作を行う。	過去の発掘調査の理解。
4	発掘調査実習(1)	笹山原遺跡No. 16の発掘調査。II a層上面の精査及び掘り下げ。	発掘調査の記録の整理。
5	発掘調査実習(2)	笹山原遺跡No. 16の発掘調査。II a層上面の精査及び掘り下げ。	発掘調査の記録の整理。
6	発掘調査実習(3)	笹山原遺跡No. 16の発掘調査。II a層上面の精査及び掘り下げ。	発掘調査の記録の整理。
7	発掘調査実習(4)	笹山原遺跡No. 16の発掘調査。II b層の掘り下げ。縄文時代前期出土資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録の整理。
8	発掘調査実習(5)	笹山原遺跡No. 16の発掘調査。II b層の掘り下げ。縄文時代前期出土資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録の整理。
9	発掘調査実習(6)	笹山原遺跡No. 16の発掘調査。II b層の掘り下げ。縄文時代前期出土資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録の整理。
10	発掘調査実習(7)	笹山原遺跡No. 16の発掘調査。III層の掘り下げ。旧石器資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録の整理。
11	発掘調査実習(8)	笹山原遺跡No. 16の発掘調査。III層の掘り下げ。旧石器資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録の整理。
12	発掘調査実習(9)	笹山原遺跡No. 16の発掘調査。III層の掘り下げ。旧石器資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録の整理。
13	発掘調査実習(10)	笹山原遺跡No. 16の発掘調査。IV層aの掘り下げ。旧石器資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録の整理。
14	発掘調査実習(11)	笹山原遺跡No. 16の発掘調査。IV層aの掘り下げ。旧石器資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録の整理。
15	笹山原遺跡No. 16の石器遺物観察(1)	実際に出土した笹山原遺跡No. 16の石器遺物の全体を観察する。	授業で行った作業の復習として作業を行う。
16	笹山原遺跡No. 16の石器遺物観察(2)	石材分類。笹山原遺跡No. 16から出土する石器遺物は様々な石材が用いられている。石材を理解し、その石材別の分類を行う。	授業で行った作業の復習として作業を行う。

回	項目	授業内容		
17	笹山原遺跡No. 16の石器遺物観察(3)	母岩分類。同一の石材であっても、異なる母岩から製作されている。中には同一母岩から剥離された石器が存在することがある。それらを認識し分類する。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60
18	笹山原遺跡No. 16の石器遺物観察(4)	同一母岩に分類したものの中で、遺跡の中で剥片剥離行為がなされた場合、まれに接合する場合がある。それを捜し求める作業を行う。全部のピースがそろっていない立体ジグソーパズルである。接合する資料が確認された場合、それはその石器が持ち運ばれたか、石器製作中に飛び散ったかなどという具体的に石器時代人の行為を実証することができる。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60
19	笹山原遺跡No. 16の石器遺物観察(5)	石器接合作業。石材、同一母岩データのデータベースへの入力。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60
20	笹山原遺跡No. 16の石器遺物観察(6)	石器接合作業。石材、同一母岩データのデータベースへの入力。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60
21	石器の記録(1)	石器の記録方法として実測と写真撮影がある。その基本を説明する。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60
22	石器の記録(2)	写真撮影と実測を実際に行う。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60
23	土師器の写真撮影	土師器の記録方法として写真撮影を行う。デジタルカメラを用いて、ライティングを調節しながら行う。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60
24	土師器の観察(1)	土師器の破片資料の観察を行う。観察表の作成を行う。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60
25	土師器の観察(2)	土師器の観察表を作成し、集計を行う。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60
26	土師器の実験考古学	粘土を用いて土師器を実験的に製作する。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60
27	縄文土器の理解	笹山原遺跡No. 16から出土した縄文土器破片を観察し、との特徴を調べる。胎土、文様、器形、調整などの要素の見かたについて説明し、実際の遺物解説の発表を行う。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60
28	縄文土器の記録	縄文土器の記録方法として、拓本をとる。拓本の技術は既に修得しているため、実際に笹山原No. 16遺跡出土の縄文土器を採拓し、前回の観察内容を記述し、発表する。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60
29	縄文時代の石器理解	縄文時代の石器を検討する。笹山原No. 16遺跡から出土した縄文時代の石器を取り上げ、その石材、製作技術の特徴についてそれぞれ発表する。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60
30	縄文時代の石器の記録	石器を理解したうえで、写真撮影、実測を行う。撮影方法、実測方法については、博物館実習、日本の考古学で修得していることを前提に行う。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60

回	項目	授業内容	
16	里浜貝塚の発掘（５）	里浜貝塚の平成８年度の発掘調査の成果と課題。	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある、¥。
17	里浜貝塚の発掘（６）	里浜貝塚平成９年の発掘調査の成果と課題。	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある、¥。
18	里浜貝塚の発掘（７）	里浜貝塚の平成１０年発掘調査の成果と課題。	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある、¥。
19	里浜貝塚の発掘（８）	里浜貝塚の平成１１年発掘調査の成果と課題。	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある、¥。
20	里浜の集落構成（１）	縄文前期里浜集落の遺跡構成と生業	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある、¥。
21	里浜の集落構成（２）	縄文中期前半の里浜集落の遺跡構成と生業	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある、¥。
22	里浜の集落構成（３）	縄文中期後半の里浜集落の遺跡構成と生業と遺物	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある、¥。
23	里浜の集落構成（４）	縄文後期前半の里浜集落の遺跡構成と生業と遺物	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある、¥。
24	里浜の集落構成（５）	縄文後期後半の里浜集落の遺跡構成と生業と遺物（１）	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある、¥。
25	里浜の集落構成（６）	縄文後期後半の里浜集落の遺跡構成と生業と遺物（２）	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある、¥。
26	里浜の集落構成（７）	縄文後期後半の里浜集落の遺跡構成と生業と遺物（３）	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある、¥。
27	里浜の集落構成（８）	縄文晩期前半の里浜集落の遺跡構成と生業と遺物（１）	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある、¥。
28	里浜の集落構成（９）	縄文晩期前半の里浜集落の遺跡構成と生業と遺物（２）	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある、¥。
29	里浜の集落構成（１０）	縄文晩期後半の里浜集落の遺跡構成と生業と遺物	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある、¥。
30	里浜の集落構成（１１）	弥生時代前期の里浜集落の遺跡構成と生業と遺物（１）	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある、¥。